

中央社会保険医療協議会 総会（第545回） 議事次第

令和5年5月17日(水) 10:00～

議題

- 医薬品の新規薬価収載等について
- DPCにおける高額な新規の医薬品等への対応について
- 在宅自己注射について
- 歯科用貴金属価格の随時改定について
- 医療計画について

新医薬品一覧表(令和5年5月24日収載予定)

No.	銘柄名	規格単位	会社名	成分名	承認区分	算定薬価	算定方式	補正加算等	薬効分類	ページ
1	ドブテレット錠20mg	20mg1錠	Swedish Orphan Biovitrum Japan株式会社	アバトロンボパグマレイン酸塩	新有効成分含有医薬品	7,106.60円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	—	内339 その他の血液・体液用薬(待機的な親血的手技を予定している慢性肝疾患者における血小板減少症の改善)	3
2	オファコルカプセル50mg	50mg1カプセル	株式会社レクメド	コール酸	新有効成分含有医薬品	12,596.00円	原価計算方式	有用性加算(Ⅱ)A=5% 市場性加算(Ⅰ)A=10% 新薬創出等加算 加算係数 0.6	内399 他に分類されない代謝性医薬品(先天性胆汁酸代謝異常症)	5
3	ヴィアレブ配合持続皮下注	10mL1瓶	アッヴィ合同会社	ホスレボドバ・ホスカルビド パ水和物	新有効成分含有医薬品 新医療用配合剤	13,277円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	有用性加算(Ⅱ)A=10% 新薬創出等加算	注116 抗パーキンソン剤(レボドバ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動(wearing-off現象)の改善)	7
4	エンタビオ皮下注108mgペン エンタビオ皮下注108mgシリンジ	108mg0.68mL1キット 108mg0.68mL1筒	武田薬品工業株式会社	ベドリズマブ(遺伝子組換え)	新投与経路医薬品	69,888円 69,888円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	新薬創出等加算	注239 その他の消化器官用薬(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る))	9
5	オンボ一点点静注300mg	300mg15mL1瓶	日本イーライリリー株式会社	ミリキズマブ(遺伝子組換え)	新有効成分含有医薬品	192,332円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	—	注239 その他の消化器官用薬(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の対応導入療法(既存治療で効果不十分な場合に限る))	11
6	オンボー皮下注100mgオートインジェクター オンボー皮下注100mgシリンジ	100mg1mL1キット 100mg1mL1筒	日本イーライリリー株式会社	ミリキズマブ(遺伝子組換え)	新有効成分含有医薬品	126,798円 126,798円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	—	注239 その他の消化器官用薬(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る))	13
7	パリンジック皮下注2.5mg パリンジック皮下注10mg パリンジック皮下注20mg	2.5mg0.5mL1筒 10mg0.5mL1筒 20mg1mL1筒	BioMarin Pharmaceutical Japan株式会社	ペグバリアーゼ(遺伝子組換え)	新有効成分含有医薬品	61,606円 64,155円 65,468円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	有用性加算(Ⅱ)A=5% 市場性加算(Ⅰ)A=10% 新薬創出等加算	注399 他に分類されない代謝性医薬品(フェニルケトン尿症)	15
8	ベスレミ皮下注250μgシリンジ ベスレミ皮下注500μgシリンジ	250μg0.5mL1筒 500μg1mL1筒	ファーマエッセンシアジャパン株式会社	ロベグインターフェロン アルファ-2b(遺伝子組換え)	新有効成分含有医薬品	297,259円 565,154円	原価計算方式	費用対効果評価(H1)	注429 その他の腫瘍用薬(真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る))	17
9	アトガム点滴静注液250mg	250mg5mL1管	ファイザー株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	新有効成分含有医薬品	75,467円	原価計算方式	有用性加算(Ⅱ)A=5% 市場性加算(Ⅰ)A=10% 新薬創出等加算 加算係数 0	注639 その他の生物学的製剤(中等症以上の再生不良性貧血)	19
10	アボハイドローション20%	20%1g	久光製薬株式会社	オキシプロチニン塩酸塩	新効能医薬品、新剤形医薬品	545.80円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	—	外125 発汗剤、止汗剤(原発性手掌多汗症)	21
11	コムレクス耳科用液1.5%	1.5%5mL1瓶	セオリアファーマ株式会社	レボフロキサシン水和物	新投与経路医薬品	1,584.50円	類似薬効比較方式(Ⅰ)	—	外132 耳鼻科用剤(<適応菌種>本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシントバクター属、<適応症>外耳炎、中耳炎)	23

No.	銘柄名	規格単位	会社名	成分名	承認区分	算定薬価	算定方式	補正加算等	薬効分類	ページ
12	ネキソブリッド外用ゲル5g	5g1瓶(混合用ゲル付)	科研製薬株式会社	パイナップル茎搾汁精製物	新有効成分含有医薬品	162,995.90円	原価計算方式	有用性加算(Ⅱ)A=5% 市場性加算(Ⅰ)A=10% 新薬創出等加算 加算係数 0	外269 その他の外皮用薬(深達性II度又はIII度熱傷における壊死組織の除去)	25

	品目数	成分数
内用薬	2	2
注射薬	12	6
外用薬	3	3
計	17	11

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-内-1			
薬効分類	内339 その他の血液・体液用薬			
成 分 名	アバトロンボパグマレイン酸塩			
新薬収載希望者	Swedish Orphan Biopharm Japan (株)			
販 売 名 (規格単位)	ドブテレット錠20mg (20mg 1錠)			
効能・効果	待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善			
主な用法・用量	通常、成人には、アバトロンボパグとして以下の用量を1日1回、5日間食後に経口投与する。 投与開始前の血小板数が40,000/ μ L以上50,000/ μ L未満：40mg 投与開始前の血小板数が40,000/ μ L未満：60mg			
算定方式	類似薬効比較方式(I)			
算定	比較薬	成分名：ルストロンボパグ 会社名：塩野義製薬(株)		
		販売名(規格単位) マルプレタ錠3mg (3mg 1錠)	薬価(1日薬価) 13,382.50円 (13,382.50円)	
補正加算	なし			
外 国 平 均 価 格 調 整	なし			
算定薬価	20mg 1錠 7,106.60円 (1日薬価：18,733円)			
外 国 価 格		新薬収載希望者による市場規模予測		
20mg 1錠 英国 64.00 ポンド 10,368円 独国 126.05 ヨーロ 17,521円 外国平均価格 13,944.50円		予測年度 (ピーク時) 6年度	予測本剤投与患者数 723人	予測販売金額 0.7億円
(参考) 20mg 1錠 米国(RED BOOK) 470.41 ドル 62,564.50円 (注) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均				
最初に承認された国(年月)： 米国(2018年5月)				
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日	

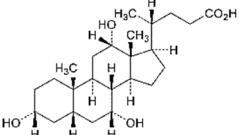
薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性	新薬		最類似薬
	成分名	アバトロンボパグマレイン酸塩	ルストロンボパグ
	イ. 効能・効果	待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善	左に同じ
	ロ. 薬理作用	トロンボポエチン受容体刺激作用	左に同じ
	ハ. 組成及び化学構造	 	
	二. 投与形態 剤形 用法	内用 錠剤 1日1回、5日間	左に同じ 左に同じ 1日1回、7日間
	画期性加算 (70~120%)	該当しない	
補正加算	有用性加算（I） (35~60%)	該当しない	
	有用性加算（II） (5~30%)	該当しない	
	市場性加算（I） (10~20%)	該当しない	
	市場性加算（II） (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織	令和 年 月 日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-内-2	
薬効分類	内399 他に分類されない代謝性医薬品	
成 分 名	コール酸	
新薬収載希望者	(株) レクメド	
販 売 名 (規格単位)	オファコルカプセル 50mg (50mg 1カプセル)	
効能・効果	先天性胆汁酸代謝異常症	
主な用法・用量	通常、1日量として5～15mg/kgを1回又は数回に分けて食事中に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減すること。	
算 定	算定方式	原価計算方式
	製品総原価	8,192.50円
	営業利益	1,630.60円 (流通経費を除く価格の16.6%)
	流通経費	750.80円 (消費税を除く価格の7.1%) 出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課）
	消費税	1,057.40円
定	補正加算	有用性加算(II) (A=5%)、市場性加算(I) (A=10%) 加算係数 0.6 (加算前) 50mg 1カプセル 11,631.30円 → 12,678.10円 (加算後)
	外国平均価格調整	(調整前) 50mg 1カプセル 12,678.10円 → 12,596.00円 (調整後)
算定薬価	50mg 1カプセル 12,596.00円	
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測
50mg 1カプセル 英国 62 ポンド 10,044円 外国平均価格 10,044円 (参考) 50mg 1カプセル 米国(RED BOOK) 331 ドル 44,023円 独国(GKV) 74.35 ユーロ 10,335円 仏国(仏国官報) 78.00 ユーロ 10,842円		予測年度 (ピーク時) 10年度 予測本剤投与患者数 7人 予測販売金額 2.3億円
(注) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均		最初に承認された国(年月)： 欧州(2013年9月)
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期

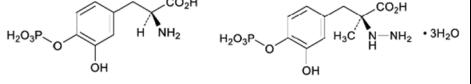
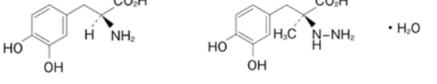
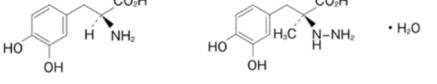
薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	令和5年4月18日
原価計算方式を採用する妥当性		新薬	類似薬がない根拠
	成分名	コール酸	薬価算定においては「承認を受けた日の前日から起算して過去10年間に薬価収載されたもの」を最類似薬とすることが基本であるが、ケノデオキシコール酸は平成18年の薬価収載品目であり、また、イ) 効能及び効果が本剤と異なることから、本剤の算定上の比較薬として用いるには適当でないと判断した。
	イ. 効能・効果	先天性胆汁酸代謝異常症	
	ロ. 薬理作用	CYP7A1の抑制による異常胆汁酸等の合成抑制、胆汁流量及び胆汁中への胆汁酸等の分泌増加に伴う胆汁うつ滞の改善作用、並びに脂質及び脂溶性ビタミンの吸収促進作用	
	ハ. 組成及び化学構造		
	二. 投与形態 剤形 用法	内用 カプセル剤 1日1～数回	
補正加算	早期性加算 (70～120%)	該当しない	
	有用性加算(I) (35～60%)	該当しない	
	有用性加算(II) (5～30%)	該当する (A=5%) [ハ. 治療方法の改善 (標準的治療法) : ③-b=1p] 本剤は当該疾患に対して長年に亘る使用実績が蓄積されており、海外では標準的治療法とされていること等から、有用性加算(II) (A=5%)を適用することが適当と判断した。	
	市場性加算(I) (10～20%)	該当する (A=10%) 本剤は希少疾病用医薬品に指定されていることから、加算の要件を満たす。	
	市場性加算(II) (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5～20%)	該当しない	
	小児加算 (5～20%)	該当しない	
	先駆加算 (10～20%)	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当する (主な理由: 希少疾病用医薬品として指定／厚生労働省が開発を公募)	
費用対効果評価への該当性	費用対効果評価への該当性	該当しない	
	当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-1	
薬効分類	116 抗パーキンソン剤（注射薬）	
成 分 名	ホスレボドパ・ホスカルビドパ水和物	
新薬収載希望者	アッヴィイ（同）	
販 売 名 (規格単位)	ヴィアレブ配合持続皮下注（10mL 1瓶）	
効能・効果	レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善	
主な用法・用量	<p>本剤投与前の経口レボドパ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与する。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。なお、必要に応じて持続投与中に追加投与を行うことができる。</p> <p>通常、成人には、本剤を0.15～0.69mL／時間（レボドパ換算量として約26～117mg／時間）で持続投与する。負荷投与を行う場合は本剤0.6～2.0mL（レボドパ換算量として約100～350mg）を投与する。追加投与は本剤を1回あたり0.1～0.3mL（レボドパ換算量として約17～51mg）で投与する。</p> <p>本剤の投与量は症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL（レボドパ換算量として2840mg）を超えないこと。</p>	
算定方式	類似薬効比較方式（I）	
算定	比較薬	成分名：レボドパ・カルビドパ水和物 会社名：アッヴィイ（同）
		販売名（規格単位） デュオドーパ配合経腸用液 ^注 (100mL 1カセット) 薬価（1日薬価） 15,282.20円 (8,699.40円)
		注）新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目
	剤形間比	類似薬に適當な剤形間比がない：1
		有用性加算（II）（A=10%） (加算前) 10mL 1瓶 12,070円 → 13,277円 (加算後)
	国外平均価格調整	なし
算定薬価	10mL 1瓶 13,277円（1日薬価：9,570円）	
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測
10mL 1瓶 英国 84.7 ポンド 13,721円 外国平均価格 13,721円		予測年度 (ピーク時) 10年度 予測本剤投与患者数 2.0千人 予測販売金額 96億円
(注) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均		
最初に承認された国（年月）： オーストリア（2022年8月）		
製造販売承認日	令和4年12月23日	薬価基準収載予定期
		令和5年5月24日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性		新薬	最類似薬
	成分名	ホスレボドパ・ホスカルビドパ水和物	レボドパ・カルビドパ水和物
	イ. 効能・効果	レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善	左に同じ
	ロ. 薬理作用	ドバミン增加作用、レボドパ脱炭酸酵素阻害作用	左に同じ
	ハ. 組成及び化学構造	 	
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 持続皮下投与	内用 液剤 経胃瘻空腸内投与
補正加算	早期性加算（70～120%）	該当しない	
	有用性加算（I）（35～60%）	該当しない	
	有用性加算（II）（5～30%）	該当する（A=10%） [ハ. 治療方法の改善（不十分例、利便性）：③-a, ③-c=2p]	本剤は24時間持続皮下投与が可能であり、既存治療では効果が不十分な症状の改善や安全性の観点で既存治療の適用とならない患者への使用が見込まれること、侵襲性が低く入院期間も短縮する利便性があることから、有用性加算（II）（A=10%）を適用することが適当と判断した。
	市場性加算（I）（10～20%）	該当しない	
	市場性加算（II）（5%）	該当しない	
	特定用途加算（5～20%）	該当しない	
	小児加算（5～20%）	該当しない	
	先駆加算（10～20%）	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当する（主な理由：加算適用）	
費用対効果評価への該当性	該当しない		
	当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-2		
薬効分類	239 その他の消化器官用薬（注射薬）		
成分名	ベドリズマブ（遺伝子組換え）		
新薬収載希望者	武田薬品工業（株）		
販売名 (規格単位)	エンタインビオ皮下注 108mg ペン（108mg 0.68mL 1キット） エンタインビオ皮下注 108mg シリンジ（108mg 0.68mL 1筒）		
効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）		
主な用法・用量	通常、成人にはベドリズマブ（遺伝子組換え）として1回108mgを2週間隔で皮下注射する。		
算定方式	類似薬効比較方式（I）		
算定	比較薬	成分名：ベドリズマブ（遺伝子組換え） 会社名：武田薬品工業（株）	
		販売名（規格単位） エンタインビオ点滴静注用 300mg ^{注）} (300mg 1瓶)	薬価（1日薬価） 279, 573円 (4, 992円)
	注）新薬創出・適応外薬解消等促進加算の対象品目		
	補正加算	なし	
	外国平均価格調整	なし	
算定薬価	108mg 0.68mL 1キット 108mg 0.68mL 1筒	69, 888円（1日薬価：4, 992円） 69, 888円（1日薬価：4, 992円）	
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測	
108mg 0.68mL 1キット／筒 英国(MIMS) 512.50 ポンド 独国(Rote Liste) 649.44 ユーロ 仏国(VIDAL) 383.38 ユーロ 外国平均価格 75, 529円		予測年度 (ピーク時) 10年度	予測本剤投与患者数 1.0万人 予測販売金額 185億円
(注) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均			
最初に承認された国（年月）： カナダ（2020年4月）			
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性		新薬	最類似薬
	成分名	ベドリズマブ（遺伝子組換え）	左に同じ
	イ. 効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療及び維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）
	ロ. 薬理作用	$\alpha_4 \beta_7$ インテグリン阻害作用	左に同じ
	ハ. 組成及び化学構造	マウス抗ヒト $\alpha_4 \beta_7$ インテグリンモノクローナル抗体の相補性決定部、並びにヒト IgG1 のフレームワーク及び定常部からなるヒト化モノクローナル抗体であり、451 個のアミノ酸塩基からなる H鎖（ γ 1鎖）2本及び 219 個のアミノ酸塩基からなる L鎖（ κ 鎖）2本で構成される糖タンパク質	左に同じ
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤（キット製品） 2週に1回	左に同じ 注射剤 8週に1回
	画期性加算（70～120%）	該当しない	
補正加算	有用性加算（I）（35～60%）	該当しない	
	有用性加算（II）（5～30%）	該当しない	
	市場性加算（I）（10～20%）	該当しない	
	市場性加算（II）（5%）	該当しない	
	特定用途加算（5～20%）	該当しない	
	小児加算（5～20%）	該当しない	
	先駆加算（10～20%）	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当する（主な理由：新薬創出等加算該当品目の剤形追加）		
費用対効果評価への該当性	該当しない		
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-3						
薬効分類	239 その他の消化器官用薬（注射薬）						
成 分 名	ミリキズマブ（遺伝子組換え）						
新薬収載希望者	日本イーライリリー（株）						
販 売 名 (規格単位)	オンボ一点滴静注 300mg (300mg 15mL 1瓶)						
効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）						
主な用法・用量	<p>通常、成人にはミリキズマブ（遺伝子組換え）として、1回300mgを4週間隔で3回（初回、4週、8週）点滴静注する。なお、12週時に効果不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回（12週、16週、20週）投与することができる。</p> <p>また、ミリキズマブ（遺伝子組換え）皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には、1回300mgを4週間隔で3回点滴静注することができる。</p>						
算定方式	類似薬効比較方式（I）						
算定	比較薬	成分名：リサンキズマブ（遺伝子組換え） 会社名：アッヴィ（同） <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">販売名（規格単位）</th> <th style="width: 50%;">薬価（1日薬価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スキリージ点滴静注 600mg (600mg 10mL 1瓶)</td> <td>192, 321円 (6, 869円)</td> </tr> </tbody> </table>		販売名（規格単位）	薬価（1日薬価）	スキリージ点滴静注 600mg (600mg 10mL 1瓶)	192, 321円 (6, 869円)
販売名（規格単位）	薬価（1日薬価）						
スキリージ点滴静注 600mg (600mg 10mL 1瓶)	192, 321円 (6, 869円)						
補正加算	なし						
外国平均価格調整	なし						
算定薬価	300mg 15mL 1瓶 192, 332円（1日薬価：6, 869円）						
外 国 価 格		新薬収載希望者による市場規模予測					
なし		予測年度 (ピーク時)	予測本剤投与患者数				
		10年度	3.5千人				
			24億円				
最初に承認された国（年月）：日本							
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日				

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性		新薬	最類似薬
	成分名	ミリキズマブ（遺伝子組換え）	リサンキズマブ（遺伝子組換え）
	イ. 効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）	中等症から重症の活動期クロhn病の寛解導入療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）
	ロ. 薬理作用	IL-23 p19阻害作用	左と同じ
	ハ. 組成及び化学構造	ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG4モノクローナル抗体で、チャイニーズハムスター卵巣細胞により產生される441個のアミノ酸残基からなるH鎖2本及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖2本で構成される糖タンパク質（分子量：約149,000）	ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体（449個のアミノ酸残基からなるH鎖2本及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖2本で構成される糖タンパク質（分子量：約149,000））
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 4週間隔で3回	左と同じ 左と同じ 左と同じ
	早期性加算（70～120%）	該当しない	
補正加算	有用性加算（I）（35～60%）	該当しない	
	有用性加算（II）（5～30%）	該当しない	
	市場性加算（I）（10～20%）	該当しない	
	市場性加算（II）（5%）	該当しない	
	特定用途加算（5～20%）	該当しない	
	小児加算（5～20%）	該当しない	
	先駆加算（10～20%）	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当しない	
費用対効果評価への該当性	該当しない		
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-4			
薬効分類	239 その他の消化器官用薬（注射薬）			
成 分 名	ミリキズマブ（遺伝子組換え）			
新薬収載希望者	日本イーライリリー（株）			
販 売 名 (規格単位)	オンボ一皮下注100mg オートインジェクター (100mg 1mL 1キット) オンボ一皮下注100mg シリンジ (100mg 1mL 1筒)			
効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）			
主な用法・用量	ミリキズマブ（遺伝子組換え）点滴静注製剤による導入療法終了4週後から、通常、成人にはミリキズマブ（遺伝子組換え）として1回200mgを4週間隔で皮下投与する。			
算 定 方 式	類似薬効比較方式（I）			
算 定	比 較 薬	成分名：リサンキズマブ（遺伝子組換え） 会社名：アッヴィ（同）		
		販売名（規格単位） スキリージ皮下注360mg オートドーザー ^{（360mg 2.4mL 1キット）}	薬価（1日薬価） 508, 169円 (9, 057円)	
補 正 加 算	なし			
外 国 平 均 価 格 調 整	なし			
算 定 薬 価	100mg 1mL 1キット 126, 798円（1日薬価：9, 057円） 100mg 1mL 1筒 126, 798円（1日薬価：9, 057円）			
外 国 価 格		新薬収載希望者による市場規模予測		
なし		予測年度 (ピーク時) 10年度	予測本剤投与患者数 1. 2万人	予測販売金額 291億円
最初に承認された国（年月）：日本				
製 造 販 売 承 認 日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日	

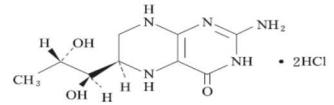
薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性		新薬	最類似薬
	成分名	ミリキズマブ（遺伝子組換え）	リサンキズマブ（遺伝子組換え）
	イ. 効能・効果	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）	中等症から重症の活動期クロhn病の寛解維持療法（既存治療で効果不十分な場合に限る）
	ロ. 薬理作用	IL-23p19阻害作用	左と同じ
	ハ. 組成及び化学構造	ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG4モノクローナル抗体で、チャイニーズハムスター卵巣細胞により產生される441個のアミノ酸残基からなるH鎖2本及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖2本で構成される糖タンパク質（分子量：約149,000）	ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体（449個のアミノ酸残基からなるH鎖2本及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖2本で構成される糖タンパク質（分子量：約149,000））
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤（キット製品） 4週間隔で1回	左と同じ 左と同じ 8週間隔で1回
	早期性加算（70～120%）	該当しない	
補正加算	有用性加算（I）（35～60%）	該当しない	
	有用性加算（II）（5～30%）	該当しない	
	市場性加算（I）（10～20%）	該当しない	
	市場性加算（II）（5%）	該当しない	
	特定用途加算（5～20%）	該当しない	
	小児加算（5～20%）	該当しない	
	先駆加算（10～20%）	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当しない	
費用対効果評価への該当性	該当性	該当しない	
	当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-5		
薬効分類	399 他に分類されない代謝性医薬品（注射薬）		
成 分 名	ペグバリアーゼ（遺伝子組換え）		
新薬収載希望者	BioMarin Pharmaceutical Japan (株)		
販 売 名 (規格単位)	パリンジック皮下注2.5mg (2.5mg 0.5mL 1筒) パリンジック皮下注10mg (10mg 0.5mL 1筒) パリンジック皮下注20mg (20mg 1mL 1筒)		
効能・効果	フェニルケトン尿症		
主な用法・用量	通常、成人にはペグバリアーゼ（遺伝子組換え）として1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与する。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、漸増法に従い、段階的に增量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に增量できるが、最大用量は60mgである。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。		
算定方式	類似薬効比較方式（I）		
算定	比 較 薬	成分名：サプロプロテリン塩酸塩 会社名：第一三共（株）	
		販売名（規格単位）	薬価（1日薬価）
		ビオプロテイン顆粒10% (10% 1g 1包)	37,360.50円 (186,802.50円)
	剤形間比	類似薬に適當な剤形間比がない：1	
	規格間比	ボックスゾゴ皮下注用1.2mg及びボックスゾゴ皮下注用0.4mgの規格間比：0.02930450	
	補正加算	有用性加算（II）(A=5%)、市場性加算（I）(A=10%) (加算前) 20mg 1mL 1筒 62,268円 → 71,608円 (加算後)	
	キット特徴部位の原材料費	20mg 1mL 1筒	71,608円 → 71,755円
算定	外 国 平 均 価 格 調 整	(調整前) 20mg 1mL 1筒 71,755円 → 65,468円 (調整後)	
	算 定 薬 価	2.5mg 0.5mL 1筒 10mg 0.5mL 1筒 20mg 1mL 1筒	61,606円 64,155円 65,468円 (1日薬価：196,404円)
外 国 価 格		新薬収載希望者による市場規模予測	
2.5mg 0.5mL 1筒、10mg 0.5mL 1筒、 20mg 1mL 1筒 独国 349.02ユーロ 外国平均価格 48,514円		予測年度 (ピーク時) 10年度	予測本剤投与患者数 127人 予測販売金額 36億円
(参考) 2.5mg 0.5mL 1筒、10mg 0.5mL 1筒、 20mg 1mL 1筒 米国(AWP) 706.80ドル 米国(WAC) 589.00ドル (注1) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均 (注2) 米国 (AWP) は從来参照していた RED BOOK の価格		最初に承認された国（年月）： 米国（2018年5月）	
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性	新薬	最類似薬	
	成分名 ペグバリアーゼ（遺伝子組換え）	サプロプロテリン塩酸塩	
	イ. 効能・効果 フェニルケトン尿症	・ジヒドロビオプロテリン合成酵素欠損、ジヒドロプロテリジン還元酵素欠損に基づく高フェニルアラニン血症における血清フェニルアラニン値の低下 ・テトラヒドロビオプロテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損に基づく高フェニルアラニン血症における血清フェニルアラニン値の低下	
	ロ. 薬理作用 フェニルアラニンアンモニアリーゼ酵素作用	フェニルアラニン値低下作用	
	ハ. 組成及び化学構造 567個のアミノ酸残基からなるサブユニット4個から構成されるPEG化タンパク質（分子量：約917,000）		
補正加算	二. 投与形態 剤形 用法 注射 注射剤（キット製品） 1日1回（維持用量）	内用 顆粒剤 1日1～3回に分割経口投与	
	画期性加算（70～120%） 該当しない		
	有用性加算（I）（35～60%） 該当しない		
	有用性加算（II）（5～30%） 該当する（A=5%） 〔イ. 新規作用機序（異なる標的分子）：①-b=1p〕 本剤はフェニルアラニンアンモニアリーゼ酵素作用を有する新規作用機序医薬品であり、臨床上の有用性が一定程度評価されていると考えられることから、有用性加算（II）（A=5%）を適用することが適当と判断した。		
	市場性加算（I）（10～20%） 該当する（A=10%） 本剤は希少疾病用医薬品に指定されていることから、加算の要件を満たす。		
	市場性加算（II）（5%） 該当しない		
	特定用途加算（5～20%） 該当しない		
	小児加算（5～20%） 該当しない		
	先駆加算（10～20%） 該当しない		
新薬創出・適応外薬解消等促進加算	新薬創出・適応外薬解消等促進加算 該当する（主な理由：希少疾病用医薬品として指定）		
	費用対効果評価への該当性 該当しない		
	当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点		
	上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和年月日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-6		
薬効分類	429 その他の腫瘍用薬(注射薬)		
成 分 名	ロペグインターフェロン アルファー-2b(遺伝子組換え)		
新薬収載希望者	ファーマエッセンシアジャパン(株)		
販 売 名 (規格単位)	ベスレミ皮下注250μgシリソジ(250μg0.5mL1筒) ベスレミ皮下注500μgシリソジ(500μg1mL1筒)		
効能・効果	真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る)		
主な用法・用量	通常、成人には、ロペグインターフェロン アルファー-2b(遺伝子組換え)(インターフェロン アルファー-2b(遺伝子組換え)として)1回100μg(他の細胞減少療法薬を投与中の場合は50μg)を開始用量とし、2週に1回皮下投与する。患者の状態により適宜増減するが、增量は50μgずつ行い、1回500μgを超えないこと。		
算定方式	原価計算方式		
原 価 計 算 定	規 格	250μg0.5mL1筒	500μg1mL1筒
	製品総原価	197,526円	392,142円
	営業利益	41,674円 (流通経費を除く価格の16.6%)	79,231円 (流通経費を除く価格の16.6%)
	流通経費	19,187円 (消費税を除く価格の7.1%)	36,478円 (消費税を除く価格の7.1%)
	出典:「医薬品産業実態調査報告書」(厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課)		
	消費税	27,024円	51,378円
補正加算	なし		
外国平均 価格調整	なし		
算定薬価	250μg0.5mL1筒 500μg1mL1筒	297,259円 565,154円	
外国価格	新薬収載希望者による市場規模予測		
なし	予測年度 (ピーク時) 10年度	予測本剤投与患者数 1.7千人	予測販売金額 163億円
最初に承認された国(年月): 欧州(2019年2月)			
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期 令和5年5月24日	

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	令和5年4月18日
原価計算方式を採用する妥当性		新薬	類似薬がない根拠
	成分名	ロペグインターフェロン アルファー2b (遺伝子組換え)	本剤と同様の効能・効果を有する既収載品としてはルキソリチニブリン酸塩が存在するが、構造、薬理作用及び投与方法が異なることから、本剤に新薬算定最類似薬はないと判断した。
	イ. 効能・効果	真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る)	
	ロ. 薬理作用	細胞増殖抑制シグナルの活性化作用	
	ハ. 組成及び化学構造		
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 2週に1回	
	画期性加算 (70~120%)	該当しない	
補正加算	有用性加算(I) (35~60%)	該当しない	
	有用性加算(II) (5~30%)	該当しない	
	市場性加算(I) (10~20%)	該当しない	
	市場性加算(II) (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当しない	
費用対効果評価への該当性	該当する(H1)		
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-注-7	
薬効分類	639 その他の生物学的製剤（注射薬）	
成 分 名	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	
新薬収載希望者	ファイザー（株）	
販売名 (規格単位)	アトガム点滴静注液 250mg (250mg 5mL 1管)	
効能・効果	中等症以上の再生不良性貧血	
主な用法・用量	通常、1日1回体重1kgあたり抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリンとして40mgを緩徐に点滴静注する。投与期間は4日間とする。	
算定方式	原価計算方式	
原 価 計 算	製品総原価	53,155円
	営業利益	10,580円 (流通経費を除く価格の16.6%)
	流通経費	4,871円 (消費税を除く価格の7.1%) 出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課）
	消費税	6,861円
補正加算	有用性加算（II）(A=5%)、市場性加算（I）(A=10%) 加算係数 0 250mg 5mL 1管 75,467円 → 75,467円 (加算前) (加算後)	
外国平均 価格調整	なし	
算定薬価	250mg 5mL 1管 75,467円	
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測
250mg 5mL 1管 米国(ASP) 3,002.83ドル 399,376円 英国 504.00ポンド 81,648円 外国平均価格 81,648円		予測年度 予測本剤投与患者数 予測販売金額 (ピーク時) 4年度 353人 8.1億円
(注) 為替レートは令和4年4月～令和5年3月の平均		
最初に承認された国（年月）： 米国（1981年11月）		
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期
		令和5年5月24日

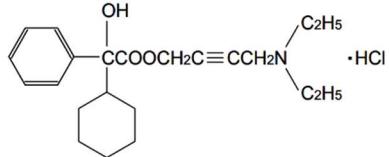
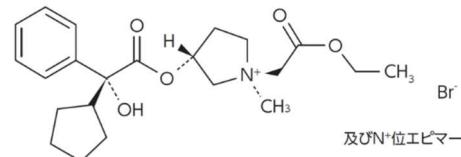
薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	令和5年4月18日
原価計算方式を採用する妥当性		新薬	類似薬がない根拠
	成分名	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	
	イ. 効能・効果	中等症以上の再生不良性貧血	
	ロ. 薬理作用	免疫抑制作用 (T細胞抑制作用)	
	ハ. 組成及び化学構造	ヒト由来の胸腺細胞で免疫したウマの血漿から分離精製した免疫グロブリンG	
	二. 投与形態 剤形 用法	注射 注射剤 1日1回、4日間	薬価算定においては「承認を受けた日の前日から起算して過去10年間に薬価収載されたもの」を最類似薬とすることが基本であるが、本剤と一定程度の類似性のある抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン製剤及びロミプロスチム(遺伝子組換え)製剤は、それぞれ平成20年及び平成23年の薬価収載品目であることから、本剤の算定上の比較薬として用いるには適当でないと判断した。
補正加算	早期性加算 (70~120%)	該当しない	
	有用性加算(I) (35~60%)	該当しない	
	有用性加算(II) (5~30%)	該当する (A=5%) [ハ. 治療方法の改善(不十分例) : ③-a=1p] 抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン治療後の再発患者に対しても効果が期待されることから、有用性加算(II) (A=5%) を適用することが適当と判断した。	
	市場性加算(I) (10~20%)	該当する (A=10%) 本剤は希少疾病用医薬品に指定されていることから、加算の要件を満たす。	
	市場性加算(II) (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算			
		該当する (主な理由: 希少疾病用医薬品として指定)	
費用対効果評価への該当性			
		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-外-1					
薬効分類	125 発汗剤、止汗剤（外用薬）					
成分名	オキシブチニン塩酸塩					
新薬収載希望者	久光製薬（株）					
販売名 (規格単位)	アポハイドローション20%（20%1g）					
効能・効果	原発性手掌多汗症					
主な用法・用量	1日1回、就寝前に適量を両手掌全体に塗布する。					
算定	算定方式	類似薬効比較方式（I）（組成及び投与形態が同一で効能及び効果が異なる既収載品がある新薬の薬価算定の特例）				
	比較薬	成分名：ソフピロニウム臭化物 会社名：科研製薬（株）				
		販売名（規格単位） エクロックゲル5% (5%1g)	薬価（1日薬価） 242.60円 (262.00円)			
	補正加算	なし				
	外国平均 価格調整	なし				
算定薬価	20%1g	545.80円（1日薬価：262.00円）				
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測				
なし		予測年度 (ピーク時) 4年度	予測本剤投与患者数 2.7万人	予測販売金額 9.4億円		
最初に承認された国：日本						
同一成分既収載品	品目名 (投与形態)	ネオキシテープ73.5mg（外用薬）				
	薬価	73.5mg 1枚	154.00円			
	効能・効果	過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁				
	用法・用量	通常、成人に対し本剤1日1回、1枚（オキシブチニン塩酸塩として73.5mg）を下腹部、腰部又は大腿部のいずれかに貼付し、24時間毎に貼り替える。				
	含量単位薬価比	73.5mg 1枚	1.3倍			
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日			

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性	新薬		最類似薬
	成分名	オキシブチニン塩酸塩	
	イ. 効能・効果	原発性手掌多汗症	
	ロ. 薬理作用	アセチルコリン受容体拮抗作用	
	ハ. 組成及び化学構造		
	二. 投与形態 剤形 用法	外用 ローション剤 1日1回	左に同じ ゲル剤 左に同じ
補正 加算	早期性加算 (70~120%)	該当しない	
	有用性加算（I） (35~60%)	該当しない	
	有用性加算（II） (5~30%)	該当しない	
	市場性加算（I） (10~20%)	該当しない	
	市場性加算（II） (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
新薬創出・適応外薬解消等促進加算		該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解		第二回算定組織	令和 年 月 日

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-外-2		
薬効分類	132 耳鼻科用剤(外用薬)		
成分名	レボフロキサシン水和物		
新薬収載希望者	セオリアファーマ(株)		
販売名 (規格単位)	コムレクス耳科用液 1.5% (1.5% 5mL 1瓶)		
効能・効果	<p><適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネットバクター属</p> <p><適応症> 外耳炎、中耳炎</p>		
主な用法・用量	通常、1回6~10滴を1日2回点耳する。点耳後は約10分間の耳浴を行う。 なお、症状により適宜回数を増減する。		
算定方式	類似薬効比較方式(I)		
算定	比較薬	成分名：ラスクフロキサシン塩酸塩 会社名：杏林製薬(株)	
		販売名(規格単位)	薬価(1日薬価) ラスピック錠 75mg (75mg 1錠) 316.90円 (316.90円)
	剤形間比	類似薬に適當な剤形間比がない：1	
	補正加算	なし	
	外国平均価格調整	なし	
算定薬価	1.5% 5mL 1瓶 1,584.50円(1日薬価：316.90円)		
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測	
なし		予測年度 (ピーク時)	予測本剤投与患者数
		3年度	17万人
			8.8億円
最初に承認された国(年月)：日本			
製造販売承認日	令和5年3月27日	薬価基準収載予定期	令和5年5月24日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	類似薬効比較方式（I）	第一回算定組織	令和5年4月18日
最類似薬選定の妥当性	新薬		最類似薬
	成分名	レボフロキサシン水和物	ラスクフロキサシン塩酸塩
	<u><適応菌種></u> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、綠膿菌、アシネトバクター属 <u><適応症></u> 外耳炎、中耳炎		
	<u><適応菌種></u> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、クレブシエラ属、エンテロバクター属、インフルエンザ菌、レジオネラ・ニューモフィラ、プレボテラ属、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ） <u><適応症></u> 咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎		
	ロ. 薬理作用	核酸（DNA）合成阻害作用	左に同じ
	ハ. 組成及び化学構造		
	二. 投与形態 剤形 用法	外用 液剤 1日2回	内用 錠剤 1日1回
	画期性加算 (70~120%)	該当しない	
補正加算	有用性加算（I） (35~60%)	該当しない	
	有用性加算（II） (5~30%)	該当しない	
	市場性加算（I） (10~20%)	該当しない	
	市場性加算（II） (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当しない	
費用対効果評価への該当性		該当しない	
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新医薬品の薬価算定について

整理番号	23-5-外-3	
薬効分類	269 その他の外皮用薬（外用薬）	
成 分 名	パイナップル茎搾汁精製物	
新薬収載希望者	科研製薬（株）	
販 売 名 (規格単位)	ネキソブリッド外用ゲル5g（5g1瓶（混合用ゲル付））	
効能・効果	深達性Ⅱ度又はⅢ度熱傷における壞死組織の除去	
主な用法・用量	混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加えて混合し、本剤を調製する。本剤を熱傷創に適量塗布し、4時間後に除去する。	
算定	算定方式	原価計算方式
	製品総原価	114,806.30円
	原価計算 営業利益	22,851.10円 (流通経費を除く価格の16.6%)
	原価計算 流通経費	10,520.60円 (消費税を除く価格の7.1%)
	出典：「医薬品産業実態調査報告書」（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課）	
	原価計算 消費税	14,817.80円
	補正加算	有用性加算（II）（A=5%）、市場性加算（I）（A=10%） 加算係数 0 (加算前) 5g1瓶（混合用ゲル付） 162,995.90円 → (加算後) 162,995.90円
算定薬価	5g1瓶（混合用ゲル付）	162,995.90円
外国価格		新薬収載希望者による市場規模予測
(参考) 5g1瓶（混合用ゲル付） 米国(AWP) 3,780ドル 502,740.00円 米国(WAC) 3,150ドル 418,950.00円 独国(Lauer-taxe) 1,089ユーロ 151,371.00円		予測年度 予測本剤投与患者数 予測販売金額 (ピーク時) 9年度 1.6千人 8.8億円
最初に承認された国（年月）： 欧州（2012年12月）		
製造販売承認日	令和4年12月23日	薬価基準収載予定期
		令和5年5月24日

薬価算定組織における検討結果のまとめ

算定方式	原価計算方式	第一回算定組織	令和5年4月18日
原価計算方式を採用する妥当性		新薬	類似薬がない根拠
	成分名	パイナップル茎搾汁精製物	
	イ. 効能・効果	深達性II度又はIII度熱傷における壞死組織の除去	
	ロ. 薬理作用	壞死組織除去作用	
	ハ. 組成及び化学構造	パイナップル茎搾汁精製物(タンパク質) 〈混合用ゲル〉 カルボキシビニルポリマー、無水リン酸水素二ナトリウム、pH調節剤	薬価算定においては「承認を受けた日の前日から起算して過去10年間に薬価収載されたもの」を最類似薬とすることが基本であるが、本剤と一定程度の類似性のあるプロメライン製剤は昭和49年の薬価収載品目であることから、本剤の算定上の比較薬として用いるには適当ないと判断した。
	二. 投与形態 剤形 用法	外用 ゲル剤 1回	
補正加算	早期性加算 (70~120%)	該当しない	
	有用性加算(I) (35~60%)	該当しない	
	有用性加算(II) (5~30%)	該当する(A=5%) 〔ハ. 治療方法の改善(利便性) :③-c=1p〕 臨床試験において、標準治療群と比較して本剤群でより早期に壞死組織が除去されること、出血量が少ないことが確認されていること等から、有用性加算(II)(A=5%)を適用することが適当と判断した。	
	市場性加算(I) (10~20%)	該当する(A=10%) 本剤は希少疾病用医薬品に指定されていることから、加算の要件を満たす。	
	市場性加算(II) (5%)	該当しない	
	特定用途加算 (5~20%)	該当しない	
	小児加算 (5~20%)	該当しない	
	先駆加算 (10~20%)	該当しない	
	新薬創出・適応外薬解消等促進加算	該当する(主な理由: 希少疾病用医薬品として指定)	
費用対効果評価への該当性	該当しない		
当初算定案に対する新薬収載希望者の不服意見の要点			
上記不服意見に対する見解	第二回算定組織	令和 年 月 日	

新薬創出等加算の平均的な加算率について

各年度の新薬創出等加算の平均的な加算率は以下のとおり。

	平成 22年度	平成 24年度	平成 26年度	平成 28年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
加算率 (※)	4.0%	3.5%	3.2%	3.6%	2.8%	1.8%	2.1%	1.3%	1.8%	1.5%

※ 各年度の加算率は、類似薬効比較方式（Ⅱ）等の算定において、比較薬の薬価から、新薬創出等加算の累積額相当分を控除する際の係数として用いられる。

新薬算定における係数について

●労務費単価

	令和元年	令和2年	令和3年
現金給与総額（円）※1 A	508,858	480,669	503,847
実労働時間（時間）※2 B	156.4	156.0	162.0
時間あたり労務費（円／時間）※3 C	3,254	3,081	3,110
法定福利費（%）※4 D	15.1	15.1	16.3
労務費単価（円／時間）※5 E	3,745	3,546	3,617
令和元年～令和3年 平均労務費単価（円／時間）	3,636		

●一般管理販売費率

	令和元年	令和2年	令和3年
一般管理販売費率（%）※6	50.5	50.1	50.9
令和元年～令和3年 平均一般管理販売費率（%）	50.5		

●営業利益率

	令和元年	令和2年	令和3年
営業利益率（%）※7	16.1	17.3	16.4
令和元年～令和3年 平均営業利益率（%）	16.6		

●流通経費率

	令和元年	令和2年	令和3年
売上高（百万円）※8 A	18,005,518	17,334,686	17,572,509
売上原価（百万円）※9 B	16,669,310	16,143,503	16,345,300
流通経費率（%）※10 C	7.4	6.9	7.0
令和元年～令和3年 平均流通経費率（%）	7.1		

※1 「毎月勤労統計調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室）
全国調査年次報告における医薬品製造業(E165)の規模0（30人以上）、性T
(男女計)の「現金給与額 総額」

※2 「毎月勤労統計調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室）
全国調査年次報告における医薬品製造業(E165)の規模0（30人以上）、性T
(男女計)の「実労働時間数 総数」

※3 C = A / B

※4 「就労条件総合調査」（厚生労働省政策統括官付参事官付賃金福祉統計室）
「第38表 産業、企業規模別、現金給与以外の労働費用の現金給与額に対する割合
(3-1)」の「製造業-素材関連」における「法定福利費」

※5 E = C × (1 + D / 100)

※6 「産業別財務データハンドブック」（日本政策投資銀行）連結決算「第1表」の
「1.5.6 医薬品 Pharmaceuticals」における「販売費・一般管理費」

※7 「産業別財務データハンドブック」（日本政策投資銀行）連結決算「第1表」の
「1.5.6 医薬品 Pharmaceuticals」における「営業損益」

※8 「医薬品産業実態調査」（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課）
卸売業「表8 損益計算書（医薬品関係部門以外も含む）」における「売上高」

※9 「医薬品産業実態調査」（厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課）
卸売業「表8 損益計算書（医薬品関係部門以外も含む）」における「売上原価」

※10 C = (A - B) / A × 100

市場拡大再算定品目について

- 効能変更等が承認された既収載品及び2年度目以降の予想販売額が一定額350億円を超える既収載品について、一定規模以上の市場拡大のあった場合、新薬収載の機会（年4回）を活用して、薬価を見直すこととされている。
- 今般、NDBデータ（12月診療分）に基づく検討を行ったところ、タリージェ錠及びその類似品、エンレスト錠並びにベージニオ錠及びその類似品について、市場拡大再算定の要件に該当したことから、新薬収載の機会を活用して薬価を見直す^(※1)こととする。

※1 NDBデータ（12月診療分）に基づく検討のため、再算定薬価が令和5年度薬価より高い場合は、再算定薬価は適用しない。

《薬価算定組織 令和5年4月18日》

No	銘柄名	成分名	会社名	規格単位	現行薬価	改定薬価	薬効分類	再算定の理由	補正加算	適用日
1	タリージェ錠 2.5mg タリージェ錠 5mg タリージェ錠 10mg タリージェ錠 15mg	ミロガバリンベシル酸塩	第一三共(株)	2.5mg1錠 5mg1錠 10mg1錠 15mg1錠	70.60 97.30 134.50 162.70	67.20 92.50 127.90 154.80	内 119 その他の中 枢神経系用薬	市場拡大再算定の 要件に該当 ^(※2)	A=5	令和5年8月1日 ^(※3)
	リリカカプセル 25mg リリカカプセル 75mg リリカOD錠 25mg リリカOD錠 75mg	プレガバリン	ヴィアトリス製薬(株)	25mg1カプセル 75mg1カプセル 25mg1錠 75mg1錠	40.80 67.60 40.80 67.60	40.50 67.20 40.50 67.20	内 119 その他の中 枢神経系用薬	類似品	無	
2	エンレスト錠 50mg エンレスト錠 100mg エンレスト錠 200mg	サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物	ノバルティス ファーマ(株)	50mg1錠 100mg1錠 200mg1錠	65.20 114.40 201.30	55.40 97.20 171.10	内 219 その他の中 枢神経系用薬	市場拡大再算定の 要件に該当 ^(※2)	無	令和5年8月1日 ^(※3)
3	ベージニオ錠 50mg ベージニオ錠 100mg ベージニオ錠 150mg	アベマシクリブ	日本イーライリリー(株)	50mg1錠 100mg1錠 150mg1錠	3,319.00 6,059.40 8,616.80	3,049.70 5,567.70 7,917.50	内 429 その他の中 枢神経系用薬	市場拡大再算定の 要件に該当 ^(※2)	A=5	令和5年8月1日 ^(※3)
	イブランスカプセル 25mg イブランスカプセル 125mg イブランス錠 25mg イブランス錠 125mg	パルボシクリブ	ファイザー(株)	25mg1カプセル 125mg1カプセル 25mg1錠 125mg1錠	5,679.70 22,978.10 5,679.70 22,978.10	5,076.80 20,538.90 5,076.80 20,538.90	内 429 その他の中 枢神経系用薬	類似品	無	

※2 本品は収載から10年を経過していない。また、NDBデータに基づく検討を行ったところ、年間販売額が350億円超かつ、基準年間販売額の2倍超という要件に該当すると判断した。

※3 医療機関等における在庫への影響等を踏まえ、再算定薬価の適用には一定の猶予期間を設けることとする。

	成分数	品目数
内用薬	5	18
計	5	18

類似薬選定のための薬剤分類（改訂第13版）について

1. 「類似薬選定のための薬剤分類」は、平成11年の中医協（薬価制度改革の基本方針）に基づき、類似薬効比較方式に係る類似薬選定の透明化を図るために作成されている医療用医薬品成分の分類で、薬価算定における薬理作用類似薬を判断する上での基礎資料。
2. 今般、令和4年5月から令和5年3月までに薬価収載された51成分について、薬価算定組織において検討作業を進め、「類似薬選定のための薬剤分類（改訂第13版）」としてとりまとめた。

類似薬選定のための薬剤分類

(改訂第13版)

薬価算定組織

2023年5月現在

<追加51成分(令和4年5月～令和5年3月収載分)>

分類名	頁	
113 抗てんかん剤	P9～	フェンフルラミン塩酸塩 エダラボン バルベナジントシル酸塩 ドネペジル
119 その他の中枢神経系用薬	P23～	
129 その他の末梢神経系用薬	P30～	ブトリシランナトリウム
131 眼科用剤	P31～	ファリシマブ(遺伝子組換え) リパスジル塩酸塩水和物／ブリモニジン酒石酸塩
213 利尿剤	P42～	トルバズタリン酸エステルナトリウム
214 血圧降下剤	P43～	トレプロスチニル
218 高脂血症用剤	P50～	ピタバスタチンカルシウム水和物／エゼチミブ
219 その他の循環器官用剤	P52～	フィネレノン
239 鎮吐剤	P71～	ホスネツビタント塩化物塩酸塩 ウパダシチニブ水和物
239 その他の消化器官用剤	P73～	カロテグラストメチル リサンキズマブ(遺伝子組換え)
241～249 ホルモン剤・抗ホルモン剤	P74～	アバロバラチド酢酸塩
264 鎮痛、鎮痙、収斂、消炎剤	P87～	ジファミラスト
124・321・322・331 無機質製剤	P103～	デルイソマルトース第二鉄
339 その他の血液・体液用薬	P112～	アンデキサネット アルファ(遺伝子組換え)
395 酵素製剤	P120～	ベストロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え) オリピダーゼ アルファ(遺伝子組換え)
396 糖尿病用薬	P122～	チルゼバチド
399 他に分類されない代謝性医薬品	P129～	デュークラバシチニブ ホスタマチニブナトリウム水和物 アバコパン カプラシズマブ(遺伝子組換え) スペソリマブ(遺伝子組換え) ボソリチド(遺伝子組換え)
421～429 腫瘍用薬	P135～	アシミニブ塩酸塩 セルメチニブ硫酸塩 バレメトスタットシル酸塩 ピミテスピブ ダリナパルシン セミプリマブ(遺伝子組換え) トレメリムマブ(遺伝子組換え) クリサンタスパーゼ
441～449 アレルギー用薬	P148～	テゼベルマブ(遺伝子組換え) トラロキヌマブ(遺伝子組換え) ネモリズマブ(遺伝子組換え) ラナデルマブ(遺伝子組換え)
617 主として真菌に作用するもの	P158～	イサブコナゾニウム硫酸塩

625 ウィルスに作用するもの	P159～	カボテグラビルナトリウム モルヌピラビル ニルマトレルビル・リトナビル エンシトレルビル フマル酸 カボテグラビル リルピビリン
631－633 ワクチン類、毒素及びトキソイド類、抗毒素類	P163～	4価髄膜炎菌ワクチン(破傷風トキソイド結合体)
634 輸血用血液製剤・血漿分画製剤・血球由来製剤	P164～	乾燥濃縮人C1-インアクチベーター
639 その他の生物学的製剤	P168～	スチムリマブ(遺伝子組換え)
リウマチ治療用剤	P178～	オゾラリズマブ(遺伝子組換え)

分類表の見方

- | | |
|--------------|--|
| 1. 内注外区分 | 1:内用薬 2:注射薬 3:外用薬 |
| 2. 分類名 | 原則として、従来の薬効分類名をもとにした。 |
| 3. 主な適応症 | 薬事法上の承認に基づく「効能・効果」をもとに簡潔に記載。
但し、「効能・効果」が多岐にわたる場合は、同一「効能・効果」をもつ薬剤が比較的多い「効能・効果」をまとめて、当該「効能・効果」を「主な適応症」として代表させた。 |
| 4. 薬理作用1、2、3 | 添付文書の「薬効薬理」欄の記述をもとに、主な薬理作用を挙げた。同一の薬理作用をもつ薬剤を同一枠内に記載。 |
| 5. 組成・構造 | 添付文書等から特徴的な構造群名が用いられていれば記載。配合剤については「配合剤」と記載。 |
| 6. 成分 | 添付文書による。 |
| 7. 剂形区分、剤形 | 薬価算定上の剤形分類による。 |
| 8. 用法 | 特に必要な場合、投与回数等を参考として記載。 |
| 9. 線引き | 以上1～8の項目を勘案して、範疇が異なる領域を線により区分。これが投与経路が同じで薬理作用が類似している薬理作用類似薬の範囲を示すこととなる。 |

111 全身麻酔剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	全身麻酔剤	全身麻酔の導入	麻酔作用	下行性抑制系活動の増強作用			ケタミン塩酸塩	注-1	注射薬		ケタラール	
				脳幹の網様体賦活系の抑制作用			チアミラールナトリウム	注-1	注射薬		0.5gイソゾール	
		全身麻酔の導入および維持	麻酔作用				チオペンタールナトリウム	注-1	注射薬		ラボナル注	
							プロポフォール	注-1 注-2	注射薬 キット		ディブリバン注	
3	全身麻酔剤	全身麻酔	麻酔作用	上行性網様体賦活系抑制作用		ハロゲン化エーテル系	イソフルラン	外-2	吸入剤		イソフルラン吸入麻酔液	
							セボフルラン	外-2	吸入剤		セボフレン	
							デスフルラン	外-2	吸入剤		スープレン吸入麻酔	
							麻醉用エーテル	外-2	吸入剤		麻醉用エーテル	
							ハロタン	外-2	吸入剤		ハロタン	
							亜酸化窒素	外-2	吸入剤		亜酸化窒素,笑気ガ	

112 抗不安剂

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き	
1	抗不安剤	神経症、心身症における不安・緊張・抑うつ・(睡眠障害)	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ロフラゼブ酸エチル	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		メイラックス細粒 メイラックス錠		
							オキサゾラム	内-2 内-1	散剤 錠剤		セレナール散 セレナール錠		
							クロキサゾラム	内-2 内-1	散剤 錠剤		セバゾン散 セバゾン錠		
							クロルジアゼボキシド	内-2 内-1	散剤 錠剤		コントール散、バランス散 コントール錠、バランス錠		
							ジアゼパム	内-2 内-1 内-3	散剤 錠剤 シロップ剤		セルシン100倍散 セルシル錠 セルシンシロップ		
							メキサゾラム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		メレックス細粒 メレックス錠		
							メダゼパム	内-1	錠剤		レスミット錠		
							プロマゼパム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		レキソタン細粒 レキソタン錠		
							ロラゼパム	内-1	錠剤		ワイパックス錠		
							エチゾラム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		デパス細粒 デバス錠		
							クロチアゼパム	内-2 内-1	顆粒剤 錠剤		リーゼ顆粒 リーゼ錠		
							クロラゼブ酸ニカリウム	内-1	カプセル剤		メンドン		
							フルタゾラム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		コレミナール細粒 コレミナール錠		
							アルブラゾラム	内-1	錠剤		コンスタン錠		
							フルジアゼパム	内-1	錠剤		エリスパン錠		
							セロトニン受容体刺激作用		アザビロン系	タンドスピロンクエン酸塩	セティール錠		
							ジフェニルメタン系	ヒドロキシジン塩酸塩	内-1	錠剤		アタラックス	
							ヒドロキシジンバモ酸塩	内-2 内-1 内-1 内-3 内-3	散剤 錠剤 カプセル剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		アタラックスP10倍散 ハタナジン錠 アタラックスP アタラックスPシロップ アタラックスPドライシ		
								ガンマオリザノール	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		ハイゼット細粒 ハイゼット錠	
								臭化カリウム末					
								臭化ナトリウム末					
2	抗不安剤	神経症における不安・緊張・抑うつ	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	注-1	注射薬		セルシン注射液		
		麻酔前投薬、神経症における不安・緊張・抑うつ	抗不安作用			ジフェニルメタン系	ヒドロキシジン塩酸塩	注-1	注射薬		アタラックスP注射液		
3	抗不安剤	麻酔前投薬	抗不安作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	プロマゼパム	外-6	坐剤		プロマゼパム坐剤 3mg		

112 催眠鎮静剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3 (作用持続時間)	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き	
1	催眠鎮静剤	不眠症 脳波検査等における睡眠	睡眠作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	短時間作用型	ベンゾジアゼピン系	トリアゾラム	内-1	錠剤		ハルシオン		
							リレマザホン塩酸塩	内-1	錠剤		リスマー錠		
							ロルメタゼバム	内-1	錠剤		ロラメット錠		
							ソピクロン	内-1	錠剤		アモバン錠		
					中間作用型		エスゾピクロン	内-1	錠剤		ルネスター錠		
							イミダゾビリジン系	ソルビテム酒石酸塩	内-1	錠剤	マイスリー錠		
							チエノトリアゾロジアゼピン系	プロチゾラム	内-1	錠剤	レンドルミン錠		
					長時間作用型		エスタゾラム	内-2	散剤		ユーロジン散		
							フルニトラゼバム	内-1	錠剤		サイレース錠		
							ニトラゼバム	内-2	散剤	内-2	ネルボン散 ベンザリン細粒 ネルボン錠 ベンザリン錠		
					大脳皮質の知覚並びに運動領域興奮抑制作用 CI-透過性上昇作用		ベンゾジアゼピン	フルラゼバム塩酸塩	内-1	カプセル剤	ダルメートカプセル		
							クアゼバム	内-1	錠剤		ドラール錠		
							ハロキサゾラム	内-2	細粒剤		ソメリーン細粒 ソメリーン錠		
							アモバルビタール	内-1	錠剤		イソミタール		
					中枢神経系(大脳皮質)抑制作用		パルビツール	内-2	末剤		パルビタール		
							フェノパルビタール	内-2	散剤	内-2	フェノパルビタール末 (局)		
								内-1	錠剤	内-1	フェノパルビタール散 (局)		
								内-3	液剤	内-3	フェノパール錠 フェノパールエリキシル		
2	催眠鎮静剤	鎮静 麻醉導入 集中治療における鎮静	催眠鎮静作用 鎮静作用	CI-透過性上昇作用	中間作用型	パルビツール酸系	セコバルビタールナトリウム	注-1	注射薬		注射用アイオナール ナトリウム		
					長時間作用型	パルビツール酸系	フェノパルビタール	注-1	注射薬		フェノパール		
				ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	短時間作用型	ベンゾジアゼピン系	ミタゾラム	注-1	注射薬		ドルミカム注		
					中間作用型	ベンゾジアゼピン	フルニトラゼバム	注-1	注射薬		サイレース注		
3	催眠鎮静剤	催眠、不安・緊張状態の鎮静	催眠鎮静作用	中枢性α2受容体刺激作用			デクスメテトミジン塩酸塩	注-1	注射薬		プレセデックス静注液200μg		
					透過性上昇作用	パルビツール酸系	フェノパルビタールナトリウム	注-2	キット		プレセデックス静注液200μg/50mLシリコンジ		
				中枢神経系(大脳皮質)抑制作用	短時間作用型		抱水クロラール	外-6	坐剤		エスクレ坐剤		
								外-9	キット		エスクレ注腸用キット「500」		

113 抗てんかん剤

内注外区分	分類名	主な適応症(国際抗てんかん発作分類)	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	抗てんかん剤	複雑部分発作、単純部分発作、全般発作(特に欠神発作、ミオクロニー発作)、混合発作	抗痙攣作用	GABA分解酵素活性阻害作用		脂肪酸系	バルプロ酸ナトリウム	内-2 内-2 内-1 内-1 内-4	細粒剤 顆粒剤 錠剤 錠剤 シロップ剤		デパケン細粒 セレニカR顆粒 デパケン錠 デパケンR錠 デパケンシロップ	
		複雑部分発作、単純部分発作、全般発作	抗痙攣作用	電位依存性Naチャネル遮断作用		ヒダントイン系	フェニトイン エトトイ	内-2 内-2 内-1 内-1	散剤 散剤 錠剤 錠剤		アレビアチン散 フェニトイン散 アレビアチン錠 ビタントール錠	
		全般発作(特に強直間代発作)						内-2	末剤		アクセノン末	
		複雑部分発作、全般発作(特に強直性間代発作)				イミノスチルベン系	カルバマゼピン	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		テグレトール細粒 デゲレトール錠	
		複雑部分発作、単純部分発作、全般発作	抗痙攣作用	Cl-透過性上昇作用		バルビツール酸系	フェノバルビタール ブリミド	内-2 内-2 内-1 内-3	末剤 散剤 錠剤 液剤		フェノバル末 フェノバル10倍散 フェノバル錠 フェノバルビタールエリキシル	
								内-2 内-1	細粒剤 錠剤		マイソリン細粒 マイソリン錠	
		複雑部分発作、全般発作(特にミオクロニー発作)	抗痙攣作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	クロナゼパム ニトラゼパム クロバザム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		ランドセン細粒 ランドセン錠	
		単純部分発作、全般発作						内-2 内-2 内-1 内-1	散剤 細粒剤 錠剤 錠剤		ネルボン散 ベンザリン細粒 ネルボン錠 ベンザリン錠	
		他の薬剤と併用による複雑部分発作、単純部分発作、全般発作						内-2 内-1	細粒剤 錠剤		マイスタン細粒 マイスタン錠	
		全般発作(特に欠神発作)	抗痙攣作用	Caチャネル遮断作用		オキサソリジン系	トリメタジョン	内-2	散剤		ミノ・アレビアチン散	
		複雑部分発作、単純部分発作、全般発作	抗痙攣作用			フェニル尿素系	アセチルフェネトライド	内-2 内-1	末剤 錠剤		クランボール クランボール錠	
		複雑部分発作	抗痙攣作用			スルタム系	スルチアム	内-1	錠剤		オスボロット錠	
		全般発作(特に欠神発作)	抗痙攣作用			スクシミド系	エトスクシミド	内-2 内-4	散剤 シロップ剤		エビレオブリマル散 サロンチンシロップ	
		複雑部分発作、単純部分発作、全般発作(特に強直間代発作)、混合発作	抗痙攣作用			ベンズイソキサゾール系	ゾニサミド	内-2 内-1	散剤 錠剤		エクセグラ	
		部分発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者)	抗痙攣作用	電位依存性Caチャネル阻害作用 電位依存性Naチャネル抑制作用、電位依存性L型Caチャネル抑制作用、AMPA/カイニン酸型グルタミン酸受容体機能抑制作用、炭酸脱水酵素阻害作用、GABA受容体機能増強作用 電位依存性Naチャネル抑制作用		ガバベンチン トピラマート	ガバベンチン 内-1 内-3,4	錠剤 錠剤	シロップ剤		ガバベン錠 ガバベンシロップ トピナ細粒	
							内-2	細粒剤			トピナ錠	
							ラコサミド	内-1 内-3,4	錠剤 トライシロップ剤		ビムバット錠 ビムバットトライシロップ	

		部分発作、強直間代発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者)	AMPA型グルタミン酸受容体拮抗作用		ペランバネル水和物	内-1 内-2	錠剤 細粒剤		フィコンパ錠 フィコンパ細粒	
		部分発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者)	抗痙攣作用	シナプス小胞たん白質2A(SV2A)との結合によるてんかん発作抑制作用		レベチラセタム	内-1 内-3.4	錠剤 ドライシロップ剤	イーケプラ錠 イーケプラドライシロップ	
		部分発作、強直間代発作、Lennox-Gastaut症候群における全般発作(他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者) 他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないLennox-Gastaut症候群における強直発作及び脱力発作に対する抗てんかん薬との併用療法	抗痙攣作用	電位依存性Naチャンネル抑制作用		ラモトリギン ルフィナミド	内-1 内-1	錠剤 錠剤	ラミクタール イノベロン錠	
		クロハザム及びバルプロ酸ナトリウムで十分な効果が認められないDravet症候群患者における間代発作又は強直間代発作に対するクロハザム及びバルプロ酸ナトリウムとの併用療法	抗痙攣作用	GABA の取り込み阻害作用		スチリベントール	内-1 内-3.4	カブセル剤 ドライシロップ剤	ティアコミットカブセル ティアコミットドライシロップ	
		他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないDravet症候群患者におけるてんかん発作に対する抗てんかん薬との併用療法	抗痙攣作用	セロトニン受容体アゴニスト作用		フェンフルラミン塩酸塩	内-3.4	液剤	フィンテブラ内用液	
		点頭てんかん	抗痙攣作用	GABAアミノ基転移酵素阻害作用		ビガバトリン	内-2	散剤	サブリル散分包	
		皮質性ミオクローヌスに対する抗てんかん剤などとの併用療法	抗ミオクローヌス作用			ピラセタム	内-3	液剤	ミオカーム内服液	
		複雑部分発作、単純部分発作、全般発作	配合剤(抗痙攣作用+催眠鎮静作用)	電位依存性Naチャンネル遮断作用		配合剤	フェニトイントリウム/フェノバルビタール/安息香酸ナトリウムカフェイン	錠剤	ヒダントール-D, -E, -F	
		新生児けいれん、てんかん重積発作	抗痙攣作用	Cl ⁻ 透過性上昇作用		配合剤	フェニトイントリウム/フェノバルビタール	注射薬	10%フェノバル	
		全般発作(てんかん発作重積症を含む)		電位依存性Naチャンネル遮断作用			フェノバルビタールナトリウム	注射薬	ノーベルバル静注	
		てんかん重積状態、脳外科手術又は意識障害(頭部外傷等)時のてんかん発作の発現抑制等		ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ヒダントイントリウム系	ホスピフェニトイントリウム水和物	注射薬	ホストイン静注	
		てんかん重積状態				ベンゾジアゼピン系	ミダゾラム ロラゼパム	注射薬 注射薬	ミダフレッサ静注 ロラビタ静注	
		全般発作(てんかん様重積発作の抑制を含む)	抗痙攣作用	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用		ベンゾジアゼピン系	ジアゼパム	注射薬	セルシン注射液	
		部分発作(二次性全般化発作を含む)	抗痙攣作用	シナプス小胞たん白質2A(SV2A)との結合によるてんかん発作抑制作用 電位依存性Naチャンネル抑制作用		レベチラセタム ラコサミド	注-1 注-1	注射薬 注射薬	イーケプラ点滴静注 ビムバット点滴静注	

3	抗てんかん剤	熱性けいれん及びてんかんのけいれん発作の改善	抗痙攣作用	Cl-透過性上昇作用		バルビツール酸系	フェノバルビタール	外-6	坐剤		ワコピタール坐剤	
			ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	ベンゾジアゼピン系		ジアゼパム	外-6	坐剤		ダイアップ坐剤		
		てんかん重積状態	ベンゾジアゼピン受容体刺激作用	ベンゾジアゼピン系		ミダゾラム	外-9	キット		フコラム口腔用液		

114 解熱鎮痛消炎劑

		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用	アニリン系	アセトアミノフェン	内-2 内-2 内-1 内-3 内-3	散剤 細粒剤 錠剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		アセトアミノフェン カロナール細粒 カロナール錠 カロナールシロップ アセトアミノフェンドラ イシロップ	
					ピラゾロン系	イソプロビルアンチビリン	内-2	散剤		イソプロビルアンチビ リン	
					サリチル酸系	エテンザミド	内-2	散剤		エтенザミド	
		熱性疾患	解熱作用	体温中枢調節作用	ピラゾロン系	スルビリン	内-2	末剤		スルビリン	
		疼痛性疾患	鎮痛作用	中枢鎮痛機構活性化作用		ワクシニアウイルス接種家兎 炎症皮膚抽出液	内-1	錠剤		ノイロトロビン錠	
			配合剤(鎮痛作用)	中枢性痛覚抑制作用+中枢興奮作用	配合剤	アンチビリン／カフェイン／ク エン酸	内-2	末剤		ミグレニン	
				視床下部抑制作用+中枢興奮作用	配合剤	シメトリド／無水カフェイン	内-2	顆粒剤		キヨーリンAP2配合 顆粒	
2	解熱鎮痛消炎 剤	疼痛性疾患	鎮痛作用		プロピオニ酸系	ケトプロフェン	注-1	注射薬		カビステン筋注、メ ジェイド筋注	
						フルルビプロフェンアキセチル	注-1	注射薬		ロピオニン静注	
				体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用	サリチル酸系	サリチル酸ナトリウム	注-1	注射薬		サリチル酸Na静注	
				中枢鎮痛機構活性化作用		ワクシニアウイルス接種家兎 炎症皮膚抽出液	注-1	注射薬		ノイロトロビン注射液	
			配合剤	プロスタグラジン生合成阻害作用+鎮痛効果増強作用	配合剤	サリチル酸ナトリウム／コンド ロイチン硫酸ナトリウム	注-1	注射薬		カシワドール静注	
				プロスタグラジン生合成阻害作用+局所麻酔作用		サリチル酸ナトリウム／ジブ カイン	注-1 注-2	注射薬 キット		ネオビタカイン注 ネオビタカイン注シリ ンジ	
		熱性疾患	解熱作用	体温中枢調節作用	ピラゾロン系	スルビリン	注-1	注射薬		メチロン注	
		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用／中枢性痛覚抑制作用	アニリン系	アセトアミノフェン	注-1	注射薬		アセリオ静注液	
3	解熱鎮痛消炎 剤	熱性疾患、疼痛性疾患、炎症性疾患	解熱作用／鎮痛作用／抗炎症作用	プロスタグラジン生合成阻害作用	アリール酢酸系	ジクロフェナカナトリウム	外-6 外-1 外-1 外-1 外-5	坐剤 クリーム剤 ローション剤 ゲル 貼付剤		ボルタレンサボ ボルタレンクリーム ボルタレンローション ボルタレンゲル ボルタレンテープ	
						ケトプロフェン	外-6	坐剤		メナミン坐剤	
		各種がんにおける鎮痛	鎮痛作用	プロスタグラジン生合成阻害作用	アリール酢酸系	インドメタシン	外-6	坐剤		インダシン坐剤	
		熱性疾患、疼痛性疾患	解熱作用／鎮痛作用	体温中枢調節作用+中枢性痛覚抑制作用	アニリン系	アセトアミノフェン	外-5	貼付剤		ジクトルテープ	
							外-6	坐剤		アンヒバ坐剤	

114 弱オピオイド類

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	弱オピオイド類	癌性疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用		ベンズアゾシン系 フェノールエーテル系	塩酸ベンタゾシン トラマドール塩酸塩	内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日4回 1日2回 1日1回	ソセゴン錠25mg トラマールOD錠 ツートラム錠 ワントラム錠	
		癌性疼痛、慢性疼痛(非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合)					トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン	内-1	錠剤		トラムセット配合錠	
		非がん性慢性疼痛、抜歯後の疼痛(非オピオイド鎮痛剤で治療困難な場合)										
2	弱オピオイド類	癌性疼痛、術後疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用		ベンズアゾシン系 フェノールエーテル	ブレノルフィン塩酸塩 ベンタゾシン トラマドール塩酸塩	注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬		レベタン注 ソセゴン注射液 クリスピノン注1号	
3	弱オピオイド類	癌性疼痛、術後疼痛	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用			ブレノルフィン塩酸塩	外-6	坐剤		レベタン坐薬	
		慢性疼痛における鎮痛(変形性関節症、腰痛症)	鎮痛作用	中枢神経刺激伝導抑制作用			ブレノルフィン	外-5	貼付剤		ノルスパンテープ	

114・211・216 片頭痛用剤

内注 外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	片頭痛用剤	片頭痛	血管収縮作用	抗セロトニン作用 セトニン5-HT1受容体刺激作用	トリプタン系	ジメチアジンメシル酸 コハク酸スマトリプタン 臭化水素酸エレトリブタ ブルミトリプタン 安息香酸リザトリプタン ナラトリプタン塩酸塩	内-1	錠剤		ミグリステン錠		
							内-1	錠剤		イミグラン錠		
							内-1	錠剤		レルバックス錠		
							内-1	錠剤		ゾーミング錠		
							内-1	錠剤		マクサルト錠10mg		
			三叉神経過活動抑制作用	セトニン5-HT1受容体刺激作用	ジタン系	ラスミジタンコハク酸塩	内-1	錠剤		アマージ錠		
							内-2	末剤		レイボー錠		
			中枢神経興奮作用			カフェイン 安息香酸ナトリウムカ フェイン	内-2	末剤		カフェイン 安息香酸ナトリウ ムカフェイン		
							内-1	錠剤		ミグシス錠		
			血管収縮抑制作用 配合剤(血管収縮作用+ 中枢神経興奮作用+鎮痛 作用)	カルシウム拮抗作用	ピベラジン系	塩酸ロメリジン 酒石酸エルゴタミン/ 無水カフェイン/イソブ ロビルアンチピリン	内-1	錠剤		クリアミンA錠 クリアミンS錠		
							注-2	キット		イミグランキット皮 下注3mg		
2	片頭痛用剤	片頭痛	脳血管収縮作用	セトニン5-HT1受容体刺激作用	トリプタン系	スマトリプタンコハク酸 塩	注-2	キット		イミグランキット皮 下注3mg		
			CGRP/CGRP受容体阻害作用									
3	片頭痛用剤	片頭痛	血管収縮作用	セトニン5-HT1受容体刺激作用	トリプタン系	スマトリプタン	外-2	噴霧剤 (鼻腔内)		イミグラン点鼻液 20		

115 興奮剤・覚醒剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	覚醒剤	ナルコレプシー	覚醒作用	ノルエピネフリン、ドバミン遊離取り込み阻害作用／MAO阻害作用			メタンフェタミン塩酸塩	内－1	錠剤		ヒロボン錠	

116 抗パーキンソン剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤型区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	抗パーキンソン剤	パーキンソン病	ドバミン增加作用			レボドパ	内-2 内-1 内-1	散剤 錠剤 カプセル剤		ドバストン散 ドバゾール錠 ドバールカプセル		
			配合剤(ドバミン增加作用+レボドパ脱炭酸酵素阻害作用)			配合剤	レボドパ/ベンセラジド塩酸塩	内-1	錠剤	ネオドバゾール錠		
					配合剤	レボドパ/カルビドパ水和物	内-1	錠剤		ネオドバストン錠		
					配合剤	レボドパ/カルビドパ水和物	内-3	液剤		デュオドーバ配合経腸用液		
			配合剤(ドバミン增加作用+レボドパ脱炭酸酵素阻害作用+COMT阻害作用)			レボドパ/カルビドパ水和物/エンタカボン	内-1	錠剤		スタレボ配合錠		
			ドバミン受容体刺激作用	ドバミンD2受容体刺激作用		プラミベキソール塩酸塩水和物	内-1 内-1 ロビニロール塩酸塩	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日2~3回 1日1回 1日3回 1日1回	ビ・シフロール錠 ミラベックスLA錠 レキップ錠 レキップCR錠		
				ドバミンD1, D2受容体刺激作		カベルゴリン ペルゴリドメシル酸塩	内-1 内-1 内-2	錠剤 錠剤 顆粒剤		カバサール錠 ペルマックス錠 ペルゴリド顆粒		
			ノルアドレナリン増加作用			ドロキシドパ	内-2 内-1 内-1	細粒剤 カプセル剤 錠剤		ドブス細粒 ドブスカプセル ドブスOD錠		
			B型モノアミン酸化酵素阻害作用			セレギリン塩酸塩 ラザギリンメシル酸塩 サフィナミドメシル酸塩	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		エフピー錠 アジレクト錠 エクフィナ錠		
			B型モノアミン酸化酵素阻害作用+ドバミン増加作用			ゾニサミド	内-1	錠剤		トレリーフOD錠		
			カテコール-O-メチル基転移酵素(COMT)阻害作用			エンタカボン オピカボン	内-1 内-1	錠剤 錠剤		コムタン錠 オンジェンティス錠		
			アデノシンA2A受容体拮抗作用			イストラデフィリン	内-1	錠剤		ノウリアスト錠		
			パーキンソン症候群	ドバミン受容体刺激作用	ドバミンD2受容体刺激作用	麦角アルカロイド系	プロモクリブチンメシル酸塩 アマンタジン塩酸塩	内-1 内-2 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		バーロデル シンメトレル細粒 シンメトレル錠	
							プロメタジン塩酸塩 ビロヘプチン塩酸塩 トリヘキシフェニジル塩酸塩 ビペリデン塩酸塩	内-1 内-2 内-1 内-2 内-2 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 散剤 細粒剤 散剤		ヒペルナ糖衣錠 ビレチア錠 トリモール細粒 トリモール錠 アーテン散 アーテン錠 ビペリデン塩酸塩散 アキネットン細粒 アキネットン錠	
				アセチルコリン受容体拮抗作用			チアブリド塩酸塩	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		グラマリール細粒 グラマリール錠	
				自発運動抑制作用								

			ドバミン增加作用				レボドバ	注-1	注射薬		ドバストン注射液	
2	抗パーキンソン	パーキンソン病	アセチルコリン受容体拮抗作用				プロメタジン塩酸塩	注-1	注射薬		ヒペルナ注	
			ドバミンD1様及びD2様受容体刺激作用				ビベリデン乳酸塩	注-1	注射薬		アキネットン注射液	
							アボモルヒネ塩酸塩	注-1	注射薬		アポカイン皮下注	
3	抗パーキンソン剤	パーキンソン病	ドバミン受容体刺激作用	ドバミンD2受容体刺激作用			ロチゴチン	外-5	貼付剤	1日1回	ニューブロパッチ	
							ロビニロール塩酸塩	外-5	貼付剤	1日1回	ハルロピテープ	

117 抗うつ剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き		
1	抗うつ剤	うつ病・うつ状態	モノアミン再取り込み阻害作 用 α 2-アドレナリン受容体遮断 作用 セロトニン受容体遮断作用 セロトニン再取り込み阻害作 用 選択的セロトニンの再取り込 み阻害作用 セロトニン、ノルアドレナリン 再取り込み阻害作用 ノルアドレナリン作動性 セロトニン作動性 セロトニン作動性・セロトニン 再取り込み阻害作用 ドバミン受容体拮抗作用 中枢神経興奮作用			三環系	アミトリプチリン塩酸塩	内-1	錠剤		トリパタノール錠			
							イミプラミン塩酸塩	内-1	錠剤	トフランニール錠				
							トリミプラミンマレイン酸塩	内-2	散剤	スルモンチール散				
							内-1	錠剤		スルモンチール錠				
							クロミプラミン塩酸塩	内-1	錠剤	アナフラニール錠				
							アモキサビン	内-2	細粒剤	アモキサン細粒				
							内-1	カプセル 剤		アミキサンカプセル				
							ロフェプラミン塩酸塩	内-1	錠剤	アンブリット錠				
							ドスレビン塩酸塩	内-1	錠剤	プロチアデン錠				
							ノルトリプチリン塩酸塩	内-1	錠剤	ノリトレン錠				
							マプロチリン塩酸塩	内-1	錠剤	ルジオミール錠				
						四環系	ミアンセリン塩酸塩	内-1	錠剤	テトラミド錠				
							セチブチリンマレイン酸塩	内-1	錠剤	テシブル錠				
			トリアゾロビリジン 系			トリアゾロビリジン 系	トラソドン塩酸塩	内-1	錠剤	レスリン錠				
							フルボキサミンマレイン酸塩	内-1	錠剤	ルボックス錠				
							パロキセチン塩酸塩水和物	内-1	錠剤	パキシル錠				
							セルトラリン塩酸塩	内-1	錠剤	ジェイゾロフト錠				
			セロトニン、ノルアドレナリン 再取り込み阻害作用				エヌシタロプラムシュ酸塩	内-1	錠剤	レクサプロ錠				
							ミルナシプラン塩酸塩	内-1	錠剤	トレドミン錠				
							デュロキセチン塩酸塩	内-1	カプセル 剤	サインバルタカプセ ル				
			ノルアドレナリン作動性 セロトニン作動性				ベンラファキシン塩酸塩	内-1	カプセル 剤	イフェクサーSRカプ セル				
							ミルタザビン	内-1	錠剤	レメロン錠 リフレックス錠				
							ボルチオキセチン臭化水素 酸塩	内-1	錠剤	トリントリックス錠				
			セロトニン作動性・セロトニン 再取り込み阻害作用			ベンズアミド系	スルピリド	内-1	錠剤	ドグマチール錠				
							ベモリン	内-1	錠剤	ベタナミン錠				
							クロミプラミン塩酸塩	注-1	注射薬	アナフラニール注射				
2	抗うつ剤	うつ病・うつ状態	モノアミン再取り込み阻害作 用			三環系								

117 精神神経用剤

				ジベンゾチアゼビン系	クエチアピンマル酸塩	内-1 内-2 内-1	錠剤 細粒剤 錠剤		セロケル錠 セロケル細粒 ビプレッソ徐放錠
				ベンズイソチアゾール系	ペロスピロン塩酸塩水和物	内-1	錠剤		ルーラン錠
					ルラシドン塩酸塩	内-1	錠剤		ラツーダ錠
					プロナンセリン	内-1 内-2	錠剤 散剤		ロナセン錠 ロナセン散
				ジベンゾジアゼビン系	クロザビン	内-1	錠剤		クロザリル錠
					アセナビンマレイン酸塩	内-5	舌下錠		シクレスト舌下錠
		ドバミンD2受容体部分アゴニスト作用		キブリノン系	アリピラゾール	内-2 内-1 内-3	散剤 錠剤 液剤		エビリファイ散 エビリファイ錠、OD錠 エビリファイ内用液
		抗セロトニン作用／抗カテコールアミン作用			ブレクスピラゾール	内-1	錠剤		レキサルティ錠、OD錠
		統合失調症の興奮状態、躁病、躁うつ病の躁状態	情動経路の誘発電位抑制作用		レセルビン	内-2 内-1	散剤 錠剤		レセルビン散 レセルビン錠 (アボプロン散・錠)
		躁病及び躁うつ病の躁状態	躁状態改善作用		カルバマゼビン	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		テグレトール細粒 テグレトール錠
					炭酸リチウム	内-1	錠剤		リーマス
2	精神神経用剤	統合失調症	抗ドバミン作用	フェノチアジン系	ペルフェナジン塩酸塩	注-1	注射薬		ビーゼットシー注
					クロルプロマジン塩酸塩	注-1	注射薬		コントミン筋注
					レボメプロマジン塩酸塩	注-1	注射薬		ヒルナミン注
					フルフェナジンデカン酸塩	注-1	注射薬		フルデカシン注
		抗ドバミン作用／抗セロトニン作用		ブチロフェノン系	ハロペリドール	注-1	注射薬		セレネース注
					ハロペリドールデカン酸エヌテル	注-1	注射薬		ハロマンス注
					チミペロン	注-1	注射薬		トロペロン注
		ドバミンD2受容体部分アゴニスト作用		ベンザミド系	スルビリド	注-1	注射薬		ドグマチール注
					リスペリドン	注-2	キット		リスペリダール コンスタ筋注用
					バリペリドンバルミチン酸エヌステル	注-2	キット		ゼブリオン水懸筋注シリンジ、ゼブリオンTRI水懸筋注シリンジ
		抗セロトニン作用／抗カテコールアミン作用		チエノベンゾジアゼピン系	オランザピン	注-1	注射薬		ジブレキサ筋注用
					アリピラゾール水和物	注-1 注-2	注射薬 キット		エビリファイ持続性水懸筋注用 エビリファイ持続性水懸筋注用シリンジ
					レセルビン	注-1	注射薬		レセルビン注(アボプロン注)
3	精神神経用剤	統合失調症	抗ドバミン作用／抗セロトニン作用		プロナンセリン	外-5	テープ剤		ロナセンテープ

118 総合感冒剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	総合感冒剤	感冒若しくは上気道炎に伴う諸症状の改善	配合剤(感冒症状改善作用)			配合剤	サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン ／クロルフェニラミンマレイン酸塩 サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン ／クロルフェニラミンマレイン酸塩 サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン ／メチレンジサリチル酸プロメタジン サリチルアミド／アセトアミノフェン／無水カフェイン ／メチレンジサリチル酸プロメタジン	内-2 内-2 内-2 内-1 内-2	顆粒剤 顆粒剤 顆粒剤 錠剤 顆粒剤		ペレックス顆粒 ペレックス-1/6顆粒 PL顆粒 ビーエイ錠 幼児用PL顆粒	

119 その他の中枢神経系用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の中枢神経用薬	脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善	精神活動改善作用				アマンタジン塩酸塩	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		シンメトレル細粒 シンメトレル錠	
		高度肥満症における食事療法及び運動療法の補助	摂食中枢抑制作用				マジンドール	内-1	錠剤		サノレックス錠	
		筋萎縮性側索硬化症(ALS)の治療および病態進展の抑制	神經細胞保護作用				リルゾール	内-1	錠剤		リルテック錠	
		フリーラジカル除去による神經保護					エダラボン	内-3	液剤		ラジカット内用懸濁液	
2	筋骨格系疾患	脊髄性筋萎縮症	SMNタンパク質の発現増加作用				リスジプラム	内-3 内-4	ドライシロップ剤		エプリスティドライシロップ	
		アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ可逆的阻害作用				ドネペジル塩酸塩	内-1 内-2 内-3	錠剤 細粒剤 ゼリー		アリセプト錠 アリセプト細粒 アリセプト内服ゼリー	
		軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ可逆的阻害作用	ニコチン性アセチルコリン受容体アロスティック増強作用			ガランタミン臭化水素酸塩	内-1 内-3	錠剤 液剤		レミニール錠 レミニール内用液	
		中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	NMDA受容体拮抗作用				メマンチン塩酸塩	内-1 内-1 内-3	錠剤 錠剤 ドライシロップ剤		メマリー錠 メマリーOD錠 メマリードライシロップ	
		次の疾患における頭痛・頭重・倦怠感・心悸亢進・発汗等の自律神経症状:自律神経失調症・頭部・頭部損傷、更年期障害・卵巣欠落症	自律神経緊張不均衡改善作用				トフィソバム	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		トフィソバム細粒 グラナダキシン錠	
		脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為・精神興奮・徘徊・せん妄の改善	自発運動抑制作用	抗ドバミン作用			チアブリド塩酸塩	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		グラマリール細粒 グラマリール錠	
		脊髄小脳変性症における運動失調の改善	自発運動亢進作用				タルチレリン水和物	内-1	錠剤		セレジスト錠5	
		不眠症における入眠困難の改善	催眠作用	メラトニン受容体刺激作用			ラメルテオൺ	内-1	錠剤		ロゼレム錠	
		小児期の神経発達症に伴う入眠困難の改善	催眠作用	メラトニン受容体刺激作用			メラトニン	内-2	顆粒剤		メラトベル顆粒小児	
		不眠症		オレキシン受容体拮抗作用			スピロキサント レンボレキサント	内-1 内-1	錠剤 錠剤		ベルソムラ錠 デエビゴ錠	
3	精神・神経疾患	ナルコレプシーに伴う日中の過度の眠気	中枢神経興奮作用	覚醒作用			モダフィニル	内-1	錠剤		モディオダール錠	
		ナルコレプシー	中枢神経興奮作用	覚醒作用			メチルフェニデート塩酸塩	内-1	錠剤		リタリン錠	
		注意欠陥／多動性障害(AD/HD)	中枢神経興奮作用				メチルフェニデート塩酸塩	内-1	錠剤		コンサータ錠	
		選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害作用					リステキサンフェタミンメチル酸塩	内-1	カプセル剤		ビバンセカプセル	
4	小児期における注意欠陥／多動性障害(AD/HD)	選択的α2Aアドレナリン受容体作動薬					アトモキセチン塩酸塩	内-1 内-3, 4	カプセル剤 液剤		ストラテラカプセル ストラテラ内用液	
		次の患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る)血液透析患者・慢性肝疾患患		選択的オピオイドκ受容体作動作用			ナルフラフィン塩酸塩	内-1	カプセル剤		レミッヂカプセル レミッヂOD錠	

	末梢性神経障害性疼痛	電位依存性カルシウムチャネルの $\alpha 2\delta$ サブユニット結合によるカルシウム流入の抑制を介した興奮性神経伝達物質の遊離の抑制作用			フレガバリン ミロガバリンベシル酸塩	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤		リリカカプセル リリカOD錠 タリージェ錠	
	中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群(下肢静止不能症候群)	電位依存性カルシウムチャネル阻害作用			ガバベンチン エナカルビル	内-1	錠剤		レグナイト錠	
	ハンチントン病に伴う舞蹈運動	モノアミン小胞トランスポーター-2(VMAT2)の選択的阻害作用			テトラベナジン	内-1	錠剤		コレアジン錠	
	遅発性ジスキネジア	小胞モノアミントランスポーター-2(VMAT2)の選択的阻害作用			バルベナジントシリ酸塩	内-1	カプセル剤		ジスバルカプセル	
	アルコール依存症患者における断酒維持の補助	グルタミン酸作動性神経活動の抑制			アカンプロサートカルシウム	内-1	錠剤		レグテクト錠	
	アルコール依存症患者における飲酒量の低減	選択的オピオイド受容体調節作用			ナルメフェン塩酸塩水和物	内-1	錠剤		セリンクロ錠	
2	その他の中枢神経用薬	(1)頭部外傷、くも膜下出血に伴う昏睡、半昏睡を除く遷延性意識障害 (2)脊髄小脳変性症における運動失調の改善	意識障害改善作用／自発運動亢進作用		プロチレリン酒石酸塩	注-1	注射薬		ヒルトニン注射液	
		脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善	フリーラジカル消去作用		エダラボン	注-1 注-2	注射薬キット		ラジカット注 ラジカット点滴静注バッグ	
		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	α 4インテグリンと血管細胞接着分子(VCAM-1)の相互作用に対する阻害作用		ヒト型モノクローナル抗体	ナタリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	タイサブリ点滴静注	
		再発寛解型多発性硬化症及び疾患活動性を有する二次性進行型多発性硬化症における再発予防及び身体的障害の進行抑制	抗CD20作用		ヒト型モノクローナル抗体	オファツムマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	ケシンブタ皮下注	
		脊髄性筋萎縮症	SMNタンパク質の発現増加作用		アンチセンスオリゴヌクレオチド	ヌシネルセンナトリウム	注-1	注射薬	スピニラザ髓注	
3	その他の中枢神経用薬	軽度及び中等度のアルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制	アセチルコリンエステラーゼ可逆的阻害作用		リバステグミン ドネペジル	外-5 外-5	貼付剤 貼付剤		イクセロンパッチ リバスタッヂパッチ アリドネパッチ	

121 局所麻酔剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用 3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	局所麻酔剤	表面麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			リドカイン塩酸塩	内-3	液剤		キシロカインビスカス	
2	局所麻酔剤	局所麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用			ブビパカイン塩酸塩	注-1	注射薬		マーカイン注射液	
							ロビパカイン塩酸塩水和物	注-1	注射薬			
							リドカイン塩酸塩	注-1	注射薬		キシロカイン注射液	
							注-2	キット				
							プロカイン塩酸塩	注-1	注射薬		塩酸プロカイン注射液	
							テトラカイン塩酸塩	注-1	注射薬		テトカイン「杏林」	
							メビパカイン塩酸塩	注-1	注射薬		塩酸メビパカイン注射液	
							注-2	キット				
							レボブビパカイン塩酸塩	注-1	注射薬		ボブスカイン注	
							注-2	キット			ボブスカイン注シリ	
3	局所麻酔剤	表面麻酔	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用		配合剤	リドカイン塩酸塩/アドレナリン	注-1	注射薬		キシロカイン注射液	
							ブビパカイン塩酸塩	注-1	注射薬		ネオペルカミンS	
							リドカイン塩酸塩	注-1	注射薬		キシロカイン注射液	
							注-2	キット				
							テトラカイン塩酸塩	注-1	注射薬		テトカイン「杏林」	
3	局所麻酔剤	皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用		ジブカイン塩酸塩	外-1	原末				
							リドカイン	外-2 外-5	噴霧剤 貼付剤		キシロカインポンプス プレー ベンレス	
							リドカイン塩酸塩	外-1 外-1	液剤 ゼリー		キシロカイン液 キシロカインゼリー	
							パラブチルアミノ安息香酸ジ エチラミノエチル塩酸塩	外-1	末剤		テーカイン原末	
3	局所麻酔剤	静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用		リドカイン／プロピトカイン	外-1 外-5	クリーム 貼付剤			エムラクリーム エムラバッチ	
							リドカイン	外-5	貼付剤		ベンレス	

122 骨格筋弛緩剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な商品名	線引き				
1	骨格筋弛緩剤	運動器疾患に伴う有痛性痙攣／筋緊張状態、痙攣性麻痺	脊髄反射抑制作用(多シナップス反射抑制)				クロルフェネシンカルバミン酸塩エステル	内-1	錠剤		リンラキサー錠					
							メトカルバモール	内-2	顆粒剤		ロバキシン					
							アプロカロン	内-1	錠剤		アロフト					
							エペリゾン塩酸塩	内-2	顆粒剤		ミオナール顆粒					
		痙攣性麻痺					チザニジン塩酸塩	内-2	顆粒剤		ミオナール錠					
							チザニジン塩酸塩	内-1	錠剤		テルネリン顆粒 テルネリン錠					
		悪性症候群	筋小胞体からのCaイオン遊離抑制作用	GABA受容体親和作用			パクロフェン	内-1	錠剤		リオレサール錠					
2	骨格筋弛緩剤	麻酔時の筋弛緩、気管内挿管時の筋弛緩	神経終板に対する脱分極作用				スキサメトニウム塩化物水和物	注-1	注射薬		レラキシン					
			神経筋接合部遮断作用				ロクロニウム臭化物	注-1	注射薬		エスラックス静注					
		運動器疾患に伴う有痛性痙攣					ブリジノールメシル酸塩	注-1	注射薬		コンラックス注					
		麻酔時における悪性高熱症、悪性症候群	筋小胞体からのCaイオン遊離抑制作用				ダントロレンナトリウム	注-1	注射薬		ダントリウム注射用					
		眼瞼けいれん、片側顔面けいれん、痙攣性斜頭、痙攣	アセチルコリン放出抑制作用				A型ボツリヌス毒素	注-1	注射薬		ボトックス注100					
							インコボツリヌストキシンA	注-1	注射薬		ゼオマイン筋注用					
							B型ボツリヌス毒素	注-1	注射薬		ナープロック筋注					
		脳脊髄疾患に由来する重度の痙攣性麻痺	脊髄反射抑制作用(单シナップス反射抑制)	GABA受容体親和作用			パクロフェン	注-1	注射薬		ギャバロン隨注					

123 自律神経剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	自律神経剤(β受容体拮抗薬を除く)	慢性胃炎等の消化器機能異常	消化管運動亢進作用	アセチルコリン受容体刺激作用	四級アンモニウム塩	ベタネコール塩化物	内-2	散剤		ベサコリン散		
		重症筋無力症	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用		ジスチグミン臭化物 ビリドスチグミン臭化物	内-1 内-1	錠剤 錠剤		ウブレチド錠 メスチノン「ロシュ」錠		
		慢性胃炎等の消化器機能異常、重症筋無力症	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用		アンペノニウム塩化物	内-1	錠剤		マイテラーゼ		
2	自律神経剤(β受容体拮抗薬を除く)	酔後の腸管痙攣／慢性胃炎等の消化器機能異常	消化管運動亢進作用	アセチルコリン受容体刺激作用		アセチルコリン塩化物	注-1	注射薬		オビソート注射用		
		副交感神經刺激作用				カルニチン塩化物	注-1	注射薬		エントミン注		
		非脱分極性筋弛緩剤による遷延性呼吸抑制に対する拮抗	神経筋伝達障害改善作用	コリンエステラーゼ阻害作用	配合剤	ネオスチグミンメチル硫酸塩	注-1	注射薬		ワゴスチグミン注		
		非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗	配合剤(神経筋伝達障害改善作用)	コリンエステラーゼ阻害作用・副交感神經遮断作用		ネオスチグミンメチル硫酸塩/アトロピン硫酸塩水和物	注-2	キット		アトワゴリバース静注シリンジ		

124 鎮けい剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮痙剤	胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれん、運動亢進および疼痛／過敏性腸症候群	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制および鎮緩解作用	アセチルコリン拮抗作用(ムスカリノン受容体拮抗作用)			アトロビン硫酸塩	内-2	末剤		硫酸アトロビン	
							ロートエキス	内-2	散剤		ロートエキス散	
							ブチルスコポラミン臭化物	内-1	錠剤		ブスコパン錠	
							N-メチルスコポラミンメチル硫酸	内-1	錠剤		ダイビン錠	
							プロロピウム臭化物	内-2 内-1 内-1	顆粒剤 錠剤 カプセル剤		コリオバン顆粒 コリオバン錠 コリオバンカプセル	
							ビペリドレート塩酸塩	内-1	錠剤		ダクチル錠	
							チメビジウム臭化物	内-1 内-1	錠剤 カプセル剤		臭化チメビジウム30mg錠 セスデンカプセル	
							チキジウム臭化物	内-2 内-1	顆粒剤 カプセル剤		チキジウム臭化物顆 チアトン	
							プロパンテリン臭化物	内-1	錠剤		プロパンサイン	
		過敏性腸症候群	配合剤(消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制および鎮緩解作用)	アセチルコリン拮抗作用+鎮静作用	配合剤	メベンゾラート臭化物／フェノバルビタール	内-1	錠剤		トランコロンP錠		
		胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれん、運動亢進および疼痛	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制および鎮緩解作用	COMT(catechol-O-methyltransferase)阻害作用 ／Oddi括約筋弛緩作用		フロプロビオン	内-1 内-1	錠剤 カプセル剤		コスパノン錠 コスパノンカプセル		
		子宮収縮の抑制	子宮平滑筋弛緩作用	β受容体刺激作用		イソクスブリニン塩酸塩	内-1	錠剤		ズファジラン錠		
2	鎮痙剤	胃・十二指腸等の腹部平滑筋のけいれんおよび疼痛(麻酔前投薬の効能を含む。)	消化器・泌尿器・子宮等の平滑筋運動亢進抑制および鎮緩解作用	アセチルコリン拮抗作用(ムスカリノン受容体拮抗作用)			アトロビン硫酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット		硫酸アトロビン	
							スコポラミン臭化水素酸塩	注-1	注射薬		ハイスコ皮下注	
							ブチルスコポラミン臭化物	注-1 注-2	注射薬 キット		ブスコパン注	
							チメビジウム臭化物	注-1	注射薬		セスデン注射液	
		子瘤	配合剤(骨格筋弛緩作用)	Mgによるアセチルコリン放出抑制作用	配合剤	ババベリン塩酸塩	注-1	注射薬		塩酸ババベリン注射液		

125 発汗剤、止汗剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	発汗剤、止汗剤	原発性腋窩多汗症	アセチルコリン受容体拮抗作用				ソフビロニウム臭化物 グリコピロニウムトシル酸塩水和物	外-1	ゲル剤 液剤	1日1回塗布 1日1回塗布	エクロックゲル ラビフォートワイブ	

129 その他の末梢神経系用薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の末梢 神経系用薬	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの末梢神経障害の進行抑制	トランスサイレチン(TTR)4量体の乖離及び変性の抑制				タファミジスマグルミン	内-1	カプセル 剤		ビンダケルカプセル	
2	その他の末梢 神経系用薬	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー	RNAi機構によるトランスサイレチン(TTR)産生抑制				パチシランナトリウム ブトリシランナトリウム	注-1	注射薬		オンバットロ点滴静注 アムウトラ皮下注	

131 眼科用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	眼科用剤	網膜色素変性症	暗順応改善作用	好気的代謝促進作用		カルチノイド	ヘレニエン	内-1	錠剤	1日10~20mg2~4分服	アダプチノール	
2	眼科用剤	中心窓下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性症	細胞内呼吸障害作用 VEGF阻害作用	レーザー光照射による活性酸素生成作用		光感受性物質	ベルテポルフィン	注-1	注射薬	静脈内投与	ビスタン静注用15mg	
						ヒト型マウス抗ヒトVEGFモノクローナル抗体のFab断片	ラニビズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	硝子体内注射	ルセンティス硝子体内注射液	
						遺伝子組換え融合糖蛋白質	アフリベルセプト(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬キット	硝子体内注射	アイリーア硝子体内注射液 アイリーア硝子体内注射用キット	
						遺伝子組換え一本鎖抗体	プロルシズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	硝子体内注射	ペオビュ硝子体内注射用キット	
			VEGF/Ang-2阻害作用			ヒト化二重特異性モノクローナルIgG1抗体	ファリシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	硝子体内注射	バビースモ硝子体内注射液	
		硝子体手術時の硝子体可視化	難水溶性等の物理学的性質に基づく硝子体可視化作用			ステロイド(フッ素付加)	トリアムシノロンアセトニド	注-1	注射薬	硝子体内注射	マキュエイド眼用	
3	眼科用剤	結膜炎/角膜炎等	主として一般細菌に作用するもの	細胞壁合成阻害作用		セフェム系	セフメノキシム塩酸塩	外-3	点眼剤	溶解後1回1~2滴、1日4回	ベストロン点眼用	
						ニューキノロン系	レボフロキサシン	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回	クラビット点眼液	
							ノルフロキサシン	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回	ノフロ点眼液	
							ロメフロキサシン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回	ロメフロン眼科耳科用液	
							オフロキサシン	外-3	眼軟膏	1日3回、適量 塗布。	タリビット眼軟膏	
									点眼剤	1回1滴、1日3回	タリビット点眼液	
							ガチフロキサシン水和物	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回 (眼科周術期の無菌化療法の手術前は1回1滴、1日5回)	ガチフロ点眼液	
							トスフロキサントシル酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回	オゼックス点眼液/トスフロ点眼液	
							モキシフロキサシン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回 (眼科周術期の無菌化療法の手術前は1回1滴、1日5回)	ベガモックス点眼液	
				蛋白合成阻害作用		アミノグリコシド系	ゲンタマイシン硫酸塩	外-3	点眼剤	1回1~2滴、 1日3~4回	ゲンタシン点眼液	
							トプラマイシン	外-3	点眼剤	1回1~2滴、 1日4~5回	トプラス点眼液	
							ジベカシン硫酸塩	外-3	点眼剤	1回2滴、1日4回	パニマイシン点眼液	
						クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	外-3	点眼剤	1日1~数回、 適量	クロラムフェニコール点眼液T	
			結膜粘膜表層細胞新生促進作用/毛細管透過性抑制作用/細菌 ^{フローティング} 阻害作用			マクロライド系	アジスロマイシン水和物	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1~2回	アジマイシン点眼液	
							硫酸亜鉛	外-3	点眼剤	1回1~2滴、 1日3~5回	オフサリンP	

	配合剤（主として一般細菌に作用するもの）	蛋白合成阻害+細胞膜機能障害作用)		配合剤	クロラムフェニコール／コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム エリスロマイシン／コリスチン	外-3	点眼剤	1回2～3滴、 1日4～5回	コリマイC点眼液	
		蛋白合成阻害+抗炎症作用)		配合剤	フラジオマイシン硫酸塩／メチルブレドニゾロン フランジオマイシン硫酸塩／リン酸ベタメタゾンナトリウム	外-3 外-3 点眼剤	眼軟膏 眼軟膏 眼軟膏	1日1～数回、 適量 1日1～数回、 適量 1回1～2滴、 1日1～数回点眼。	ネオメドロールE E軟膏 眼・耳科用リンデロンA軟膏 眼・耳科用リンデロンA液	
	ウイルスに作用するもの	ヘルペスウイルス	核酸(DNA)合成阻害作用		アシクロビル	外-3	眼軟膏	1日5回、適量	ゾビラックス眼軟膏	
	主として真菌に作用するもの	真菌	抗真菌作用		ビマリシン	外-3 点眼剤	眼軟膏 眼軟膏	1回適量、1日4～5回 1回1～2滴、 1日6～8回	ビマリシン眼軟膏 ビマリシン点眼液	
新生児膿漏眼の予防	殺菌作用	組織蛋白凝固沈殿作用			硝酸銀	外-3	点眼剤	クレー・デ氏法により点眼。新生児に対し点眼後生理食塩液で洗浄。	硝酸銀	
慢性結膜炎	涙液分泌抑制	結膜/角膜神経麻痺作用、三叉神経反射弓一過性遮断作用			オキシブロカイン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1～2滴、 1日数回	ラクリミン点眼液	
アレルギー性結膜炎	抗炎症作用	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	抗ヒスタミン作用/抗ロコトリエン作用		クロモグリク酸ナトリウム ペミロラストカリウム トラニラスト アシタザノラスト水和物	外-3 外-3 外-3 外-3	点眼剤 点眼剤 点眼剤 点眼剤	1回1～2滴、 1日4回 1回1滴、1日2回 1回1～2滴、 1日4回 1回1～2滴、 1日4回	クロモグリク酸ナトリウム点眼液 アレギサール点眼液 リザベン点眼液 ゼペリン点眼液 ケタス点眼液	
		ケミカルメディエータ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用		ケトチフェンフル酸塩 オロバタジン塩酸塩 レボカバスチン塩酸塩 エビナステチン塩酸塩	外-3 外-3 外-3 外-3	点眼剤 点眼剤 点眼剤 点眼剤	1回1～2滴、 1日4回 1回1～2滴、 1日4回 1回1～2滴、 1日4回 1回1滴、1日4回 1回1滴、1日2回	ザジテン点眼液 バタノール点眼液 リボスチン点眼液 アレジオン点眼液 アレジオンLX点眼液	
		角膜上皮再生促進作用			アズレン	外-3	点眼剤	1回1～2滴、 1日3～5回	アズレン点眼液	
					シクロスボリン	外-3	点眼剤	1回1滴、1日3回点眼する	パビロックミニ点眼液O. 1%	
					タクロリムス水和物	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回点眼する	タリムス点眼液	
春期カタル	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖抑制、G0→G1移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、インターロイキン2(IL-2)等のサイトカイン産生抑制作用							

術後炎症防止等	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	(非ステロイド作用)	フェニル酢酸系	ジクロフェナクナトリウム	外-3	点眼剤	眼手術前4回、眼手術後1日3回、1回1滴	ジクロード点眼液	
内眼部手術における術後炎症	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	(非ステロイド作用)	アリール酸系	ネバフェナク	外-3	点眼剤	眼手術前日から1回1滴1日3回点眼。手術日に限り、術前3回術後1回点眼。	ネパナック点眼液	
結膜炎等の炎症疾患の対症療法	抗炎症作用	プロスタグランジン生合成抑制作用	(非ステロイド作用)	ブチロン酸系	プラノプロフェン プロムフェナクナトリウム水和物	外-3 外-3	点眼剤 点眼剤	1回1~2滴、1日4回 1回1~2滴、1日2回	ニフラン点眼液 プロナック点眼液	
		白血球遊走抑制作用/虹彩毛様体腫脹抑制作用	(ステロイド作用)	ステロイド	デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム デキサメタゾン リン酸デキサメタゾンナトリウム リン酸ベタメタゾンナトリウム 酢酸ブレドニゾロン フルオロメトロン	外-3 外-3 外-3 外-3 外-3	点眼剤 眼軟膏 点眼剤 点眼剤 点眼剤	1回1~2滴、1日3~4回 1回1~2滴、1日3~4回 1回1~2滴、1日3~4回 1回1~2滴、1日3~4回 1回1~2滴、1日数回宛	DMゾロン点眼液 サンテゾーン0.05%眼軟 点眼・点耳用デカドロン液 リンデロン液 ブレドニン眼軟膏 フルメトロン点眼液	
角結膜上皮障害	角膜創傷治癒促進作用	上皮細胞接着・進展促進作用(保水性亢進作用)	フィブロカチン結合作用		ヒアルロン酸ナトリウム	外-3	点眼剤	1回1滴、1日5~6回	ヒアレン ヒアレンミニ	
角膜表層の保護	角膜保護作用/乾燥抑制作用/透明性保持作用	結膜囊内滞留性亢進作用			コンドロイチン硫酸ナトリウム	外-3	点眼剤	1回1~2滴、1日2~4回	コンドロン点眼液	
	配合剤(角膜保護作用/乾燥抑制作用/透明性保持作用+ビタミンB2補給作用)	結膜囊内滞留性亢進作用+角膜へのFDA取込促進作用		配合剤	フラビニアデニンジヌクレオチドナトリウム/コンドロイチン硫酸ナトリウム	外-3	点眼剤	1回1~2滴、1日3~6回	ムコファジン点眼液	
ドライアイ	ムチン/水分分泌促進作用	P2Y2受容体刺激作用			ジケアホソルナトリウム	外-3	点眼剤	1日6回 1日3回	ジケアス点眼液 ジケアスLX点眼液	
	ムチン産生促進作用				レバミビド	外-3	点眼剤	1回1滴、1日4回点眼	ムコスタ点眼液UD	
表在性充血	末梢血管収縮作用/充血抑制作用	血管平滑筋α受容体刺激作用			ナファザリン硝酸塩	外-3	点眼剤	1回1~2滴、1日2~3回	眼科用ブリビナ	
診断/治療を目的とする散瞳/調節麻痺	散瞳作用/調節麻痺作用	毛様体筋麻痺作用			アトロピン硫酸塩	外-3	眼軟膏 点眼剤	1回1~3回適量結膜のう 1回1~2滴、1日1~3回	リュウアト1%眼軟膏 日点アトロピン点眼液1%	
					トロピカミド	外-3	点眼剤	(散瞳)1回1~2滴、1回。 (調節麻痺) 3~5分おきに2~3回、1回1滴	ミドリンM	
	調節麻痺作用				シクロベントラート塩酸塩	外-3	点眼剤	1日1回1滴又は1滴点眼後5~10分さらに1滴	サイプレジン1%点眼液	
	副交感神経遮断作用/散瞳作用/毛様筋麻痺作用				ホマトロピン臭化水素酸塩	外-3	点眼用末剂			
	瞳孔散大筋収縮/交感神経α1受容体刺激作用			配合剤	フェニレフリン塩酸塩 トロピカミド/フェニレフリン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1~2滴	ネオシネジンコーワ5%点眼液 ミドリンP点眼液	

					ポリビニルアルコールヨウ素液	外-3	点眼剤		PA・ヨード液	
				ホウ酸	外-3	点眼用末剤	〔眼軟膏〕1日1～4回。〔点眼液〕1回1～2滴、1日3～6回	ホウ酸		
				ホウ砂	外-3	点眼用末剤	1回1～2滴、1日3～6回	ホウ砂		
	涙液の補充			正常涙液類似液	ホウ酸／無機塩類	外-3	点眼剤	1回1～2滴、1日5～6回	人工涙液マイティア	
	緑内障	房水産生抑制作用/房水流し促進作用	アドレナリン α_2 受容体刺激作用		ブリモニジン酒石酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	アイファガン点眼液	
		配合剤（房水産生抑制作用/房水流し促進作用）	プロスタグランジン受容体刺激作用/交感神経 β 受容体遮断作用		配合剤	ラタノプロスト／チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	ザラカム配合点眼液
						トラボプロスト／チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	デュオトラバ配合点眼液
						タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	タブコム配合点眼液
						カルテオロール塩酸塩／ラタノプロスト	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	ミケルナ配合点眼液
			アドレナリン α_2 受容体刺激作用／交感神経 β 受容体遮断作用		配合剤	ブリモニジン酒石酸塩／チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	アイベータ配合点眼液
			アドレナリン α_2 受容体刺激作用／炭酸脱水酵素阻害作用(Na ⁺ 能動輸送抑制作用)		配合剤	ブリモニジン酒石酸塩／プリンジラミド	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	アイラミド配合懸濁性点眼液
			Rhoキナーゼ阻害作用／アドレナリン α_2 受容体刺激作用		配合剤	リバスジル塩酸塩水和物／ブリモニジン酒石酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	グラアルファ配合点眼液
		房水流し促進作用	交感神経 α_1 受容体遮断作用			フナゾシン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	デタントールO.O1%点眼液
			プロスタグランジン受容体刺激作用		代謝型プロスタグランジン系	イソプロビルウノプロストン	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	レスキュラ点眼液
					プロスタグランジンF ₂ α 系	ラタノプロスト	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	キサラタン点眼液
						トラボプロスト	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	トラバタンズ点眼液
						タフルプロスト	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	タプロス点眼液
						ビマトプロスト	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	ルミガン点眼液
			プロスタノイドEP2受容体刺激作用			オミデネバグ イソプロビル	外-3	点眼剤	1回1滴、1日1回	エイベリス点眼液 エイベリスミニ点眼液
			Rhoキナーゼ阻害作用			リバスジル塩酸塩水和物	外-3	点眼剤	1回1滴、1日2回	グラナテック点眼液

					ニプラジロール	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 2回	ハイパジールコーア点眼液	
					レボブノロール塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 1回	レボブノロール塩酸塩点眼液	
					カルテオロール塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 2回	ミケラン点眼液	
					チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 2回 1回1滴、1日 1回	チモブトール点眼液 チモブトールXE リズモンTG点眼液	
					ベタキソロール塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 2回	ベタキソロール塩酸塩点眼液	
		炭酸脱水酵素阻害作用(Na+能動輸送抑制作用)			ドルゾラミド塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 3回	トルソフト点眼液	
		配合剤(房水産生抑制作用)	炭酸脱水酵素阻害作用／交感神経β受容体遮断作用	配合剤	ドルゾラミド塩酸塩／チモロールマレイン酸塩	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 2回	コソフト配合点眼液	
		縮瞳作用/房水流増作用	可逆性抗コリンエステラーゼ阻害作用		ジスチグミン臭化物	外-3	点眼剤	1回1滴、1日 1～2回	ウブレチド点眼液	
			副交感神經刺激作用		ビロカルビン塩酸塩	外-3	点眼剤	1回1～2滴、 1日3～5回	サンピロ 塩酸ビロカルビン	
	初期老人性白内障	水晶体タンパク変性抑制作用	キノイド物質競合的阻害作用		ビレノキシン	外-3	点眼剤	溶解後1回1～ 2滴、1日3～ 5回	カタリンK点眼用	
		角膜障害軽減・回復促進作用	角膜コラーゲン合成促進/コラーゼ活性阻止作用		グルタチオン	外-3	点眼剤	溶解後1回1～ 2滴、1日3～ 5回	タチオン点眼用	
	調節性眼睛疲労における微動調節の改善	毛様体筋賦活作用	網膜酸素消費量増強作用		ビタミンB12	シアノコバラミン	外-3	点眼剤	1回1～2滴、 1日3～5回	サンコバ点眼液
	眼内レンズ挿入術・全層角膜移植術における手術補助	粘弹性、保水性等潤滑作用/前房形成作用/角膜内皮保護作用	前房形成・保持作用/角膜内皮保護作用		ヒアルロン酸ナトリウム	外-3	注入液		ヒーロン	
		配合剤(粘弹性、保水性等潤滑作用/前房形成作用/角膜内皮保護作用)		配合剤	ヒアルロン酸ナトリウム／コンドロイチン硫酸ナトリウム	外-3	注入液		ピスコート	
	レーザー術後眼圧上昇防止	房水産生抑制作用	毛様体上皮細胞α2受容体刺激作用		アブラクロニジン塩酸塩	外-3	点眼剤	レーザー照射1時間前、照射直後1滴ずつ	アイオビジン1%	
	眼科領域における表面麻酔	涙液分泌抑制作用	結膜/角膜神經麻痺作用、三叉神經反射弓の一過性遮断作用		オキシプロカイン塩酸塩	外-3	点眼剤	1～4滴	ベノキシールO.4%液	
	眼科手術時の眼灌流/洗浄	角膜保護作用	角膜内皮障害防止作用		オキシグルタチオン	外-3	点眼剤		ピースエスプラス	
		配合剤(洗浄作用)	眼内灌流作用	配合剤	フドウ糖／無機塩類	外-3	点眼剤		オベガードMA	
		配合剤(調節機能改善作用)		配合剤	ネオスチグミン／無機塩類	外-3	点眼剤	1回2～3滴、 1日4回	ミオビン点眼液	
	主として一般細菌に作用するもの	M R S Aに作用	細胞壁合成阻害作用		グルコベータイド系	パンコマイシン塩酸塩	外-3	眼軟膏		パンコマイシン眼軟膏

132 耳鼻科用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1 3	耳鼻科用剤	中耳/中枢障害による耳鳴	配合剤(内耳循環血量増加作用+内耳血管カリウム騒音刺激による変動予防作用)	蝸牛放射状動脈枝血流速度上昇作用+内耳電解質への作用		配合剤	ババペリン塩酸塩/ニコチン酸アミド	内-1	錠剤	1錠	ストミンA錠	
		慢性副鼻腔炎	病的副鼻腔分泌の正常化作用	線毛運動亢進作用			塩酸アンプロキソール	内-1	錠剤		ムコサール錠	
		アレルギー性鼻炎	ケミカルメチエーネ遊離抑制作用	抗ヒスタミン作用、抗ロイコトリエン作用			クロモグリク酸ナトリウム	外-4	点鼻液		クロモグリク酸ナトリウム・点鼻液	
			ケミカルメチエーネ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用			ケトチフェンフル酸塩 レボカバスチン塩酸塩	外-4 外-4	点鼻液 点鼻液		ザジテン点鼻液 リボスチン点鼻液	
			抗炎症作用	血管収縮作用		ステロイド	ベクロメタゾンブロピオ酸エステル プロピオ酸フルチカゾン フルチカゾンフランカルボン酸エステル モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物 デキサメタゾンシベシル酸エステル	外-4	噴霧剤		ベクロメタゾン点鼻液、ベクロメタゾン鼻用ハウダー	
		諸疾患の充血・うっ血	充血抑制作用	末梢血管収縮作用	交感神経α2受容体刺激作用		トラマジリン塩酸塩 アドレナリン ナファゾリン硝酸塩	外-4 外-4 外-4	点鼻液 点鼻液 点鼻液		フルナーゼ点鼻液 アラミスト点鼻液 ナゾネックス点鼻液	
			配合剤(充血抑制作用+抗炎症作用)	血管収縮作用		配合剤	テトラヒドロゾリン塩酸塩/ブレドニゾロン	外-4	点鼻液		エリザスカセル外用	
		外耳炎、中耳炎	主として一般細菌に作用するもの	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)	細胞壁合成阻害作用	セフェム系	セフメノキシム塩酸塩	外-4	耳鼻科用液		ベストロン耳鼻科用	
						ホスホマイシン系	ホスホマイシンナトリウム	外-4	耳科用液		耳科用ホスミンS	
					核酸(DNA)合成阻害作用	ニューキノロン系	オフロキサシン ロメフロキサシン塩酸塩	外-4 外-4	耳科用液 耳科用液		タリビッド耳科用液 ロメフロン耳科用液	
		MRSAの除菌	蛋白合成阻害作用	イソロイシル-tRNA合成酵素阻害作用/イソロイシンAMP複合体生成阻害作用		蛋白合成阻害作用	クロラムフェニコール	外-4	耳科用液		クロロマイセチン耳科用	
		鼓膜穿孔	鼓膜穿孔治癒促進作用	血管新生作用等	F G F受容体特異的結合作用		ムビロシンカルシウム水和物	外-1	軟膏剂		バクトロバン	
							トラフェルミン(遺伝子組換え)	外-4	耳科用剤		リティンバ	

133 鎮暈剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮暈剤	メニエル症候群等に伴うめまい /内耳障害に基づくめまい	自律神経調整作用	迷路機能亢進抑制作用	抗ヒスタミン作用	ジフェニルメタン系	ジメンヒドリナート	内-1	錠剤		ドラマミン	
			配合剤(自律神経調整作用)		配合剤	ジフェンヒドラミン/ジプロフィリン	内-1	錠剤		トラベルミン		
			循環改善作用	内耳血流量増加作用	脳血管拡張作用/ヒスタミン類似作用		ベタヒスチンメシル酸塩	内-1	錠剤		メリスロン	
				交感神経β2受容体刺激作用	内耳血流改善作用/ヒスタミン遊離抑制作用	カテコラミン類	dI-イソブレナリン塩酸塩	内-1	カプセル剤		イゾメニール	
				椎骨脳底動脈の循環改善作用			ジフェニドール塩酸塩	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤		セファドール	
			配合剤(自律神経調整作用)	迷路機能亢進抑制作用	抗ヒスタミン作用	配合剤	ジフェンヒドラミン/ジプロフィリン	注-1	注射剤		トラベルミン	
2	鎮暈剤	メニエル症候群等に伴うめまい										

190 その他の神経系及び感覚器官用医薬品

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	その他の神経系及び感覚器官用医薬品	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	エクソンスキッピング作用	エクソン53スキッピング作用			ビルトラルセン	注-1	注射葉		ビルテブソ点滴静注	

211 強心剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	強心剤	心不全	心拍出量増加作用／心拍数減少作用	Na/Kポンプ遮断作用		強心配糖体	ジゴキシン メチルジゴキシン	内-2 内-1 内-3 内-1	散剤 錠剤 液剤 錠剤		ジゴシン散 ジゴキシン錠 ジゴシンエリキシル ラニラビップ錠	
			心拍出量増加作用	ホスホジエステラーゼ阻害作用		キサンチン系	アミノフィリン プロキシフィリン	内-2 内-2 内-1	末剤 錠剤 末剤 錠剤		ネオフィリン末 ネオフィリン錠 モノフィリン モノフィリン錠	
			心拍出量増加作用／心拍数增加	β受容体刺激作用			テノバミン	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		カルグート細粒 カルグート錠5	
			心拍出量増加作用／腎血流量増加作用	β受容体刺激作用		カテコールアミン系	ドカルバミン	内-2	顆粒剤		タナドーバ顆粒	
			心拍出量増加作用／血管拡張作用	ホスホジエステラーゼⅢ阻害作用／Ca感受性増強作用			ピモベンダン	内-1	錠剤		ピモベンダン錠	
			ATP産生賦活作用				ユビデカレノン	内-2 内-1 内-1	顆粒剤 錠剤 カプセル剤		ユビデカレノン顆粒 ノイキノン錠 ユビデカレノンカプセル	
2	強心剤	急性心不全	心拍出量増加作用／心拍数減少作用	Na/Kポンプ遮断作用		強心配糖体	ジゴキシン デスラノンド	注-1	注射薬		ジゴシン注	
			心拍出量増加作用／血管拡張作用	アデニル酸シクラーゼ活性作用			コルホルシンドロバート塩酸塩	注-1	注射薬		ジギラノゲン注	
				選択的ホスホジエステラーゼⅢ阻害作用			オルブリノン塩酸塩 ミルリノン	注-1 注-2 注-1 注-2	注射薬 キット 注射薬 キット		アデール注 コアテック注5mg ミルリーラ注射液10mg ミルリノン22.5mg 150mLキット	
			心拍出量増加作用／腎血管拡張作用	β受容体刺激作用		カテコールアミン系	ドバミン塩酸塩 ドバタミン塩酸塩 I-イソブレナリン塩酸塩	注-1 注-2 注-1 注-2 注-1	注射薬 キット 注射薬 キット 注射薬		イノバン注 ドバミン塩酸塩点滴静注液 ドブタミン塩酸塩100mg ドブタミンキット点滴静注用 プロタノール-L注	
			心拍出量増加作用／心拍数增加作用									
			心拍出量増加作用／末梢血管拡張作用	サイクリックAMP直接増加作用			ジプロフィリン プロキシフィリン アミノフィリン	注-1 注-1 注-1 注-2	注射薬 注射薬 注射薬 キット		ネオフィリンM注 モノフィリン注 ネオフィリン注	
			眠気、倦怠感、血管拡張性及び脊椎穿刺後頭痛	中枢興奮作用	ホスフォジエステラーゼ阻害作用	キサンチン系	安息香酸ナトリウム カフェイン	注-1	注射薬		アクトシン注	
											アンナカ注	

212 不整脈用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2(遮断解離スピード)	薬理作用3	組成・構造成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	不整脈用剤	上室性不整脈、心室性不整脈	Na チャンネル遮断作用 β 遮断作用	速い		メキシレチン塩酸塩	内-1 内-1	錠剤 カプセル剤		メキシレート錠 メキシチールカプセル	
				中間		ビルメノール塩酸塩	内-1	カプセル剤		ビルメノールカプセル	
				中間		シベノンジンコハク酸塩	内-1	錠剤		シベノール錠	
				中間		アブリジン塩酸塩	内-1	カプセル剤		アスベンノンカプセル	
				中間		プロカインアミド塩酸塩	内-1	錠剤		アミサリジン錠	
				中間		キニジン硫酸塩	内-2 内-1	散剤 錠剤		硫酸キニジン 硫酸キニジン錠	
				遅い		ジンピラミド	内-1	カプセル剤		リスマダン	
				遅い		ジンピラミドリン酸塩	内-1	錠剤		リスマダンR錠	
				遅い		プロパフェノン塩酸塩	内-1	錠剤		プロノン錠	
				遅い		ビルシカイニド塩酸塩水和	内-1	カプセル剤		サンリズムカプセル	
				遅い		フレカイニド酢酸塩	内-1 内-2	錠剤 細粒剤		タンポコール錠 タンポコロール細粒	
						アテノロール	内-1	錠剤		テノーミン	
						アロチノロール塩酸塩	内-1	錠剤		アルマール錠	
						カルテオロール塩酸塩	内-2 内-1	細粒剤 錠剤		ミケラン細粒 ミケラン錠	
						ブフェトロール塩酸塩	内-1	錠剤		アドビオール錠	
						プロプラノロール塩酸塩	内-1	錠剤		インデラル錠	
						ナドロール	内-1	錠剤		ナディック錠	
						ビンドロール	内-1	錠剤		カルビスケン錠	
						ビソプロロールフルマドニクル酸塩	内-1	錠剤		メインテート錠	
						メトプロロール酒石酸塩	内-1	錠剤		セロケン錠	
		心室頻拍、心室細動	Kチャンネル遮断作用／β遮断作用			ソタロール塩酸塩	内-1	錠剤		ソタコール錠	
		心室性頻拍、心室細動、心不全又は肥大型心筋症に伴う心房細動	Kチャンネル遮断作用/Naチャンネル遮断作用/Caチャネル遮断作用/β受容体遮断作用			アミオダロン塩酸塩	内-1	錠剤		アミオダロン塩酸塩錠	
		心室性不整脈	Ca チャンネル遮断作用／Na チャンネル遮断作用			ペブリジル塩酸塩	内-1	錠剤		ペブリコール錠	
		上室性不整脈	Na／Kポンプ遮断作用			ジゴキシン	内-2 内-1 内-3	散剤 錠剤 液剤		ジゴキシン1000倍散 ジゴキシン錠 ジゴシンエリキシル	
				メチルジゴキシン	内-1	錠剤		ラニラビット錠			

2	不整脈用剤	上室性不整脈、心室性不整脈	Naチャンネル遮断作用 β 受容体遮断作用 β 1受容体遮断作用(選択性) 心室頻拍、心室細動 上室性不整脈	速い			メキシレチン塩酸塩	注-1	注射薬	メキシチール注射液	
				速い			リドカイン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	ギシロカイン注	
				中間			プロカインアミド塩酸塩	注-1	注射薬	アミサリン注	
				中間			シベンゾリンコハク酸塩	注-1	注射薬	シベノール注射液	
				遅い			ジソピラミドリン酸塩	注-1	注射薬	リスモタンP注	
				遅い			ビルシカイニド塩酸塩水和	注-1	注射薬	サンリズム注射液50	
				遅い			フレカイニド酢酸塩	注-1	注射薬	タンポコール注50mg	
				β 受容体遮断作用			プロプラノロール塩酸塩	注-1	注射薬	インデラル注射液2m	
				β 1受容体遮断作用(選択性)			ランジオロール塩酸塩	注-1	注射薬	注射用オノアクト	
							エスマロール塩酸塩	注-1	注射薬		
				Kチャンネル遮断作用			ニフェカラント塩酸塩	注-1	注射薬	シンピット注	
				Kチャンネル遮断作用/Naチャンネル遮断作用/Caチャンネル遮断作用/ β 受容体遮断作用			アミオダロン塩酸塩	注-1	注射薬	アンカロン注	
				Caチャンネル遮断作用			ペラバミル塩酸塩	注-1	注射薬	ワソラン注	
				Na/Kポンプ遮断作用			ジルチアゼム塩酸塩	注-1	注射薬	ヘルベッサー注用	
							ジゴキシン テスラノシド	注-1	注射薬	ジゴシン注	
								注-1	注射薬	ジギラノゲン注	

213 利尿劑

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	利尿剤	浮腫(うつ血性心不全を含む)／高血圧	利尿作用	遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用 抗アルドステロン作用 抗アルドステロン作用／尿細管直接作用 ペンレルーフでのNa再吸収抑制作用 ペンレルーフでのNa再吸収抑制作用 利尿作用／眼圧低下作用／脳圧低下作用 ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留 脳圧亢進時、緑内障、メニエル病								
							トリクロルメチアジド ヒドロクロロチアジド ベンチルヒドロクロロチアジド	内-1	錠剤		フレイトラン錠	
								内-1	錠剤			
								内-1	錠剤		ベハイド錠	
						非チアジド系	トリバミド	内-1	錠剤		ノルモナール錠15mg	
							インダバミド	内-1	錠剤		ナトリックス錠1mg	
						スピロノラクトン	内-2	細粒剤		アルタクトンA細粒		
							内-1	錠剤		アルダクトンA錠		
						トリアムテレン	内-1	カプセル剤		トリテレンカプセル		
							内-2	細粒剤		フロセミド細粒		
						プロセミド	内-1	錠剤		ラシックス錠		
							内-1	錠剤		バイカル錠		
						メフルシド	内-1	錠剤		ダイアート錠		
							内-1	錠剤		ルブラック錠		
						アゼミド	内-2	末剤		ダイアモックス末		
							内-1	錠剤		ダイアモックス錠		
						トルバフタン	内-1	錠剤		サムスカOD錠		
							内-2	顆粒剤		サムスカ顆粒		
						イソルビド	内-3	液剤		イソバイド		
							内-2	液剤		ラシックス注射液		
2	利尿剤	浮腫(うつ血性心不全を含む) 緑内障、てんかん、メニエル病・メニエル症候群、アシドーシス 術中・術後・外傷後及び薬物中毒時の急性腎不全の予防・治療、眼内圧降下	利尿作用 利尿作用／眼圧低下作用／脳圧低下作用 浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用 ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全における体液貯留	ペンレルーフでのNa再吸収抑制作用 抗アルドステロン作用 炭酸脱水酵素抑制作用 配合剤(浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用)			プロセミド	注-1	注射薬		ソルダクトン100mg	
									注射薬		注射用ダイアモックス	
										マンニトール注射液		
							D-マンニトール注射液	注-1	注射薬		マンニトールS	
									サムタス点滴静注用			

214 血圧降下剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	血圧降下剤	高血圧症	交感神経抑制作用	カテコールアミン枯渇作用			レセルビン	内-2 内-1	散剤 錠剤		レセルビン散 アポブロン錠	
				中枢性 α 受容体刺激作用			クロニジン塩酸塩	内-1	錠剤		カタプレス錠75	
							グアナベンズ酢酸塩	内-1	錠剤		ワイテンス錠	
							メチルドバ	内-1	錠剤		アルドメット錠125	
				α 1受容体遮断作用			ブナゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	2~3	デタントール錠	
							ブナゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	1	デタントールR錠3mg	
							ドキサゾシンメシル酸塩	内-1	錠剤	1	カルデナリン錠0.5	
							ブラゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	2~3	ミニプレス錠0.5mg	
							ウラビジル	内-1	カプセル剤	2	エブランチル15	
							テラゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	2	バソメット錠	
				β 受容体遮断作用	ISA(-)		プロプラノロール塩酸塩	内-1	カプセル剤 錠剤	1 3	インデラルLA	
					ISA(-)		ニブライロール	内-1	錠剤	2	ハイパジールコーワ	
					ISA(-)		ナドロール	内-1	錠剤	1	ナデック錠30mg	
					ISA(+)		ビンドロール	内-1	錠剤	3	カルビスケン錠	
					ISA(+)		カルテオロール塩酸塩	内-1	カプセル剤	2~3	ミケランLA	
				β 1受容体遮断作用 (選択性)	ISA(-)		ベタキソロール塩酸塩	内-1	錠剤	1	ケルロング錠5mg	
					ISA(-)		メトプロロール酒石酸塩	内-1 内-1	錠剤 錠剤	3 1	セロケン錠20mg セロケンL錠	
					ISA(-)		ペバントロール塩酸塩	内-1	錠剤	2	カルバン錠25	
					ISA(-)		アテノロール	内-1 内-3	錠剤 トライシロ ブ剤	1	テノーミン25	
					ISA(-)		ビソプロロールフルマール酸塩	内-1	錠剤		メインテート錠5mg	
					ISA(+)		セリプロロール塩酸塩	内-1	錠剤	1	セレクトール錠100m	
				α β 受容体遮断作用			ラベタロール塩酸塩	内-1	錠剤	3	トランデート錠50mg	
							アモスラロール塩酸塩	内-1	錠剤	2	ローガン錠10mg	
							アロチノロール塩酸塩	内-1	錠剤	2	アルマール錠5mg	
							カルベジロール	内-1	錠剤	1~2	アーチスト錠10mg	

レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用	ACE阻害作用				エナラプリルマレイン酸塩 内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1	レニベース錠2.5
					リシノブリル	錠剤	1	ロンゲス錠5mg
					カブトブリル 内-2 内-1 内-1	細粒剤 錠剤 カプセル剤	3 3 2	カブトリル細粒 カブトリル錠 カブトリルR
					アラセブリル 内-1	錠剤	1~2	セタブリル錠25mg
アンジオテンシンII受容体拮抗作用					デラブリル塩酸塩	錠剤	2	アデカット7.5mg錠
					シラザブリル 内-1	錠剤	1	ラザブリル錠
					ベナゼブリル塩酸塩 内-1	錠剤	1	チバセン錠2.5mg
レニン阻害作用 鉱質コルチコイド受容体拮抗作用					イミダブリル塩酸塩 内-1	錠剤	1	ノバロック錠2.5
					テモカブリル塩酸塩 内-1	錠剤	1	エースコール錠1mg
					トランドラブリル 内-1	錠剤	1	オドリック錠
配合剤(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用/利尿作用)	アンジオテンシンII受容体拮抗作用/遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用		配合剤		ペリンドブリルエルブミン 内-1	錠剤		コバシル錠2mg
					ロサルタンカリウム 内-1	錠剤	1	ニューロタン錠25
					バルサルタン 内-1	錠剤	1	ディオバン錠80
					カンデサルタンシレキセチ 内-1	錠剤	1	プロプレス錠2
					テルミサルタン 内-1	錠剤	1	ミカルディス錠
					オルメサルタン メドキソミル 内-1	錠剤	1	オルメテック
					イルベサルタン 内-1	錠剤	1	イルベタン錠50mg アバプロ錠50mg
					アジルサルタン 内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1 1	アジルバ錠 アジルバ顆粒
					アリスクリンフマル酸塩 内-1	錠剤	1	ラジレス錠150mg
					エブレレノン 内-1	錠剤	1	セララ錠25mg
					エサキセレノン 内-1	錠剤	1	ミネプロ錠、OD錠

		配合剤(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用／血管平滑筋弛緩作用)	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用／Caチャネル遮断作用		配合剤	バルサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内-1	錠剤	1	エックスフォージ配合錠	
						オルメサルタン メドキソミル／アゼルニジピン	内-1	錠剤	1	レザルタス配合錠LD、同HD	
						カンデサルタン シレキセチル／アムロジピンベシル酸	内-1	錠剤	1	ユニシア配合錠LD、同HD	
						テルミサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内-1	錠剤	1	ミカムロ配合錠AP、同BP	
						イルベサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内-1	錠剤	1	アイミクス配合錠LD、同HD	
						バルサルタン／シルニジピン	内-1	錠剤	1	アテディオ配合錠	
						アジルサルタン／アムロジピンベシル酸塩	内-1	錠剤	1	ザクラス配合錠LD、同HD	
		配合剤(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系抑制作用／血管平滑筋弛緩作用／遠位尿細管でのNa再吸収抑制作用／利尿作用)	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗作用／Caチャネル遮断作用		配合剤	テルミサルタン／アムロジピンベシル酸塩／ヒドロクロロチアジド	内-1	錠剤	1	ミカトリオ配合錠	
	血管平滑筋弛緩作用	Caチャネル遮断作用	房室結節伝導抑制作用	ベンゾチアゼピン系	ジルチアゼム塩酸塩	内-1 内-1	錠剤 カプセル剤	3 1	ヘルベッサー錠 ヘルベッサーR100		
				ジヒドロピリジン系	ニフェジピン	内-2 内-1 内-1	細粒剤 錠剤 カプセル剤	3 1 1	セバミット細粒 エマベリン錠 アラート		
					ニフェジピン	内-1	錠剤	1	アダラートCR錠10m		
					ニトレンジピン	内-1	錠剤	1	バイロテンシン錠5m		
					ベニジピン塩酸塩	内-1	錠剤	1～2	コニール錠		
					ベシル酸アムロジピン	内-1	錠剤	1	アムロジン錠		
					ニルバジピン	内-1	錠剤	2	ニバジール錠		
					マニジピン塩酸塩	内-1	錠剤	1			
					ニカルジピン塩酸塩	内-1 内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 散剤	3 2 3	ラジストミンL錠 ベルジピンLA		
					マニジピン塩酸塩	内-1	錠剤	1	カルスロット錠5		
					バルニジピン塩酸塩	内-1	カプセル剤	1	ヒポカ5mgカプセル		
					エホニジピン塩酸塩	内-1	錠剤	1～2	ランデル錠10		
					フェロジピン	内-1	錠剤	2	スプレンジール錠2.5mg		
					シルニジピン	内-1	錠剤	1	アテレック錠5		
					アゼルニジピン	内-1	錠剤	1	カルプロック錠		

			血管平滑筋直接弛緩作用			ヒドララジン塩酸塩	内-2 内-1	散剤 錠剤		アブレジン散 アブレゾリン錠10mg	
肺動脈性肺高血圧症	肺血行動態の改善作用	血小板凝集抑制作用/血管拡張作用			ペラプロストナトリウム	内-1	錠剤 錠剤(徐放剤)	3~4 2	ドルナー ペラサスLA錠 ケアロードLA錠		
		プロスタグランジン I ₂ 作用	プロスタサイクリン(IP)受容体アゴニスト作用	セレキシパグ	内-1	錠剤	2	ウプラビ錠			
		エンドセリン受容体拮抗作用		ボセンタン水和物 マシテンタン	内-1 内-1	錠剤 錠剤	2 2	トラクリア錠62.5mg トラクリア小児用分散			
		選択的エンドセリン(ET) _A 受容体拮抗作用		アンブリセンタン	内-1	錠剤	1	オブスマット錠			
		ホスホジエステラーゼ5阻害作用		シルデナフィルクエン酸塩 タダラフィル	内-1 内-1	錠剤 ドライシロップ剤	3 3	レバチオ錠 レバチオODフィルム レバチオ懸濁用ドライシロップ アドシリカ錠20mg			
	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	血管拡張作用	cGMP増加作用	グアニル酸シクラーゼ活性作用	リオシグアト	内-1	錠剤	3	アデムバス錠		
2 血圧降下剤	高血圧性緊急症	交感神経抑制作用	カテコールアミン枯渇作用		レセルビン	注-1	注射薬		アボプロン注0.3mg		
		血管平滑筋直接弛緩作用 交感神経抑制作用			ヒドララジン塩酸塩	注-1	注射薬		注射用アブレゾリン		
		血管平滑筋弛緩作用	Caチャネル遮断作用	ニカルジピン塩酸塩 房室結節伝導抑制作用	ジルチアゼム塩酸塩	注-1	注射薬		ベルジピン2mg ヘルベッサー注射用		
	手術時の異常高血圧症／手術時の低血圧維持	血管平滑筋弛緩作用	cGMP増加作用	グアニル酸シクラーゼ活性作用	ニトロブルドナトリウム ニトログリセリン	注-1 注-1	注射薬 注射薬		ニトプロ注 ミリスロール注		
		外科手術時の低血圧維持(高血圧症又は軽度の虚血性心疾患合併時)	血管拡張作用+血小板凝集抑制作用	プロスタグランジンE ₁ 作用	アルプロスタジルアルファデクス	注-1	注射薬		注射用プロスタンディン500		
3 血圧降下剤	肺動脈性肺高血圧症	血管拡張作用+血小板凝集抑制作用	プロスタグランジン I ₂ 作用		エボプロステノールナトリウム トレプロスチニル	注-1 注-1	注射薬 注射薬		静注用フローランO.5mg トレプロスト注射液		
	高血圧症	交感神経抑制作用	β ₁ 受容体遮断作用(選択性)	ISA(-)	ビソプロロール	外-5	貼付剤		ビソノテープ		
	肺動脈性肺高血圧症	血管拡張作用+血小板凝集抑制作用	プロスタグランジン I ₂ 作用		イロプロスト トレプロスチニル	外-2 外-2	吸入剤 吸入剤		ベンテイビス吸入液 トレプロスト吸入液		

216 血管収縮剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	血管収縮剤	低血圧	血管収縮作用	α 受容体刺激作用			ミドドリン塩酸塩	内-1	錠剤	メトリジン錠2mg		
							アメジニウムメチル硫酸塩	内-1	錠剤	リズミック錠10mg		
				交感神経刺激作用			エチレフリン塩酸塩	内-1	錠剤	エチレフリン塩酸塩錠		
2	血管収縮剤	低血圧又はショック時の補助治療	血管収縮作用	交感神経刺激作用			エチレフリン塩酸塩	注-1	注射薬	エホチール注射液		
							フェニレフリン塩酸塩	注-1	注射薬	ネオシネジンコーワ注1号		
						アドレナリン	注-1 注-2	注射薬 キット		ボスマニン注		
						ノルアドレナリン	注-1	注射薬		ノルアドレナリン注		

217 虚血性心疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	交感神経抑制作用	β 受容体遮断作用	ISA(−)		フェトロール塩酸塩	内−1	錠剤		アドビオール錠	
					ISA(−)		プロプラノロール塩酸塩	内−1	錠剤		インデラル錠10mg	
					ISA(−)		ナドロール	内−1	錠剤		ナデイク錠30mg	
					ISA(−)		プロプラノロール塩酸塩	内−1	カプセル剤		インデラルLA	
					ISA(−)		ニブラジロール	内−1	錠剤		ハイパジールコーウ錠	
					ISA(+)		カルテオロール塩酸塩	内−2 内−1	細粒剤 錠剤		ミケラン細粒 ミケラン錠	
					ISA(+)		ビンドロール	内−1	錠剤		ヒシクロビン錠	
			β 1受容体遮断作用 (選択性)		ISA(−)		アテノロール	内−1	錠剤		テノーミン25	
					ISA(−)		ビソプロロールフルマ酸塩	内−1	錠剤		メインテート錠2.5	
					ISA(−)		メトプロロール酒石酸塩	内−1	錠剤		セロケン錠20mg	
					ISA(−)		ベタキソロール塩酸塩	内−1	錠剤		ケルロング錠5mg	
					ISA(+)		セリプロロール塩酸塩	内−1	錠剤		セレクトール錠100mg	
			$\alpha\beta$ 受容体遮断作用				アロチノロール塩酸塩	内−1	錠剤		アルマール錠5	
							カルベジロール	内−1	錠剤		アーチスト錠10mg	
			血管平滑筋弛緩作用	cGMP増加作用			イソソルビド硝酸塩	内−1 内−1	錠剤 カプセル剤		ニトロール錠 ニトロールRカプセル	
							イソソルビドー硝酸塩	内−1	錠剤		アイトロール錠10m	
							ニトログリセリン	内−1	錠剤		バソレーターRB2.	
							ニコランジル	内−1	錠剤		シグマート錠2.5m	
			Ca拮抗作用	房室結節伝導抑制作用	フェニルアルキルアミン系	ペラバミル塩酸塩	内−1	錠剤		ワソラン錠		
					ベンゾチアゼピン系	ジルチアゼム塩酸塩	内−1 内−1	錠剤 カプセル剤		ヘルベッサー錠 ヘルベッサーR100		
					ジヒドロビリジン系	ニフェジピン	内−2 内−1	細粒剤 カプセル剤		セバミット細粒 ニフェジピンカプセル		
						エホニジピン塩酸塩	内−1	錠剤		ランデル錠10		
						ニトレングリジン	内−1	錠剤		バイロテンシン錠5		
						ベニジピン塩酸塩	内−1	錠剤		コニール錠2		
				Ca拮抗作用／Naチャンネル遮断作用		アムロジピンベシル酸塩	内−1	錠剤		アムロジン錠2.5		
						ベフリジル塩酸塩	内−1	錠剤		ベフリコール錠		
			抗血小板凝集抑制作用			ジビリタモール	内−1	錠剤		ベルサンチン錠		
						ジラゼブ塩酸塩	内−1	錠剤		コメリアンコーウ錠		
						トリメタジン塩酸塩	内−1	錠剤		バスタレルF錠		
						トラピジル	内−1	錠剤		ロコルナール錠100mg		

2	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	血管拡張作用	cGMP増加作用			ニコランジル	注-1	注射薬		シグマート注2mg	
							イソソルビド硝酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット		ニトロール注5mg	
							ニトログリセリン	注-1	注射薬		ミリスロール注	
						ジビリダモール	注-1	注射薬		ジビリダモール静注液		
						プロプラノロール塩酸塩	注-1	注射薬		インデラル注射液		
3	虚血性心疾患用剤	虚血性心疾患	血管拡張作用	cGMP増加作用		硝酸系	ニトログリセリン	外-2	噴霧剤		ミオコールスプレー	
							外-5	貼付剤		ニトロダームTTS		
							外-2	噴霧剤		ニトロールスプレー		
						亜硝酸アミル	外-5	貼付剤		リファックテープ		
							外-2	吸入剤		亜硝酸アミル		

218 高脂血症用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	高脂血症用剤	高脂血症(主に高コレステロール血症)	コレステロール低下作用／トリグリセリド低下作用	リボ蛋白リバーゼ活性作用／トリグリセリドリバーゼ活性作用		フィブラー系	ベザフィブラー クロフィブラー フェノフィブラー ペマフィブラー	内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 カプセル剤 錠剤 錠剤		ベザトールSR錠 クロフィブラー・カプセル リビデイル錠 トライコア錠 バルモディア錠	
			コレステロール異化排泄作用			プロブコール	内-2 内-1	細粒剤 錠剤			シンレスター・細粒 シンレスター・錠	
			リボ蛋白リバーゼ活性作用／コレステロール異化排泄作用			ニコチン酸系	ニコモール ニセリトロール	内-1 内-1	錠剤 錠剤		コレキサミン錠 ペリシット錠	
			リボタンパクリバーゼ活性化作用			エラスター	内-1	錠剤			エラスチーム錠	
						イコサペント酸エチル	内-1	カプセル剤			エバデール	
						イコサペント酸エチル／ドコサヘキサエン酸エチル	内-1	カプセル剤			ロトリガ粒状カプセル	
			コレステロール低下作用	コレステロール生合成阻害作用	HMG-CoA還元酵素阻害作用		プラバスタチナトリウム シンバスタチン フルバスタチナトリウム アトルバスタチンカルシウム ビタバスタチンカルシウム水和物 ロスバスタチンカルシウム	内-2 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	細粒剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤		メバロチン・細粒 メバロチン錠	
				コレステロール吸収抑制作用		胆汁酸吸着樹脂	コレステラミン コレステミド エゼチミブ 植物由来	内-3 内-2 内-1 内-2 内-1	ドライシロップ剤 顆粒剤 錠剤 錠剤 細粒剤 錠剤		クエストラン コレバイン・顆粒 コレバイン錠 ゼチア錠 ハイゼット・細粒 ハイゼット錠	
			VLDL／カイロミクロン形成阻害作用	ミクロソームトリグリセリド転送タンパク質(MTP)阻害作用			ロミタビドメシル酸塩	内-1	カプセル剤		ジャクスタビッド・カプセル	
			配合剤(コレステロール低下作用)	コレステロール吸収抑制作用／コレステロール生合成阻害作用			エゼチミブ／アトルバスタチンカルシウム水和物 エゼチミブ／ロスバスタチンカルシウム	内-1 内-1	錠剤 錠剤		アトーゼット配合錠 ロスーゼット配合錠	
		高トリグリセリド血症	トリグリセリド低下作用	リボタンパクリバーゼ活性作用			ビタバスタチンカルシウム水和物／エゼチミブ	内-1	錠剤		リバゼブ配合錠	
							デキストラン硫酸ナトリウム	内-1	錠剤		MDSコーワ錠	

		高脂質血症に伴う随伴症状	コレステロール低下作用	コレステロール異化排泄作用			トコフェロールニコチン酸エ ステル	内-1	カプセル 剤		ユベラNカプセル	
2	高脂血症用剤	高コレステロール血症	コレステロール低下作用	LDL受容体分解阻害作用	PCSK9阻害作用		エボロクマブ(遺伝子組換え)	注-2 注-2	キット キット		レバーサ皮下注ペン レバーサ皮下注オーネミニドーザー	

219 その他の循環器官用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	その他の循環器官用剤	末梢循環障害	末梢血行改善作用	血小板凝集抑制作用			トコフェロールニコチン酸エステル	内-1	カプセル剤		ユベラNカプセル	
							トコフェロール酢酸エステル	内-2 内-1 内-1	顆粒剤 錠剤 カプセル剤		ユベラ錠 ユベラ顆粒	
			末梢血管拡張作用	血管平滑筋直接弛緩作用			ヘブロニカート	内-1	錠剤		ヘブロニカート錠	
		高カリウム血症	血中カリウム低下作用	血管拡張作用 + 子宮筋弛緩作用	β受容体刺激作用		イソクスプリン塩酸塩	内-1	錠剤		ズファジラン錠	
				NaイオンとKイオンの交換作用	イオン交換樹脂	ポリスチレンスルホン酸ナトリウム	内-2 内-3	散剤 ドライシロップ剤		ケイキサレート散 ケイキサレードラ イシロップ		
				CaイオンとKイオンの交換作用	イオン交換樹脂	ポリスチレンスルホン酸カルシウム	内-2 内-3 内-3 内-3	散剤 ドライシロップ剤 ゼリー 液剤		カリメート散 カリメートドライシロップ ポリスチレンスルホン酸Ca経口ゼカリメート経口液		
				Kイオンの捕捉作用		ジルコニウムシクロケイ酸ナトリウム水和物	内-3	散剤		ロケルマ懸濁用散		
		高リン血症	血中リン低下作用	高分子による吸着作用		イオン交換樹脂	セベラマー塩酸塩	内-1	錠剤		レナジェル錠 オスブロック錠	
							セキサロマー	内-1 内-2	カプセル剤 顆粒剤		キックリンカプセル キックリン顆粒	
				金属イオンとリン酸イオンの結合			炭酸ランタン水和物	内-5 内-2 内-1	チュアブル 顆粒剤 錠剤		ホスレノールチュアブル錠 ホスレノール顆粒分包 ホスレノールOD錠	
							クエン酸第二鉄水和物	内-1	錠剤		リオナ錠	
							スクロオキシ水酸化鉄	内-5 内-2	チュアブル 顆粒剤		ピートルチュアブル錠 ピートル顆粒分包	
		慢性動脈閉塞症	血管拡張作用	プロスタグランジンE1作用			リマプロストアルファデクス	内-1	錠剤		オバルモン錠	
		慢性脳循環障害	脳血流増加作用				イブジラスト	内-1	カプセル剤		ケタスカプセル	
							イフェンプロジル酒石酸塩	内-1	錠剤		セロクラール錠	
				コリンアセチルトランスフェラーゼ活性化作用			ニセルゴリン	内-2 内-1	散剤 錠剤		サアミオン散 サアミオン錠	
		高血圧症又は狭心症と、高コレステロール血症又は家族性高コレステロール血症を併発している患者		Caチャネル遮断作用 + HMG-CoA還元酵素阻害作用		配合剤	アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物	内-1	錠剤		カデュエット配合錠	
		褐色細胞腫のカテコールアミン分泌過剰状態の改善		カテコールアミン生合成阻害作用			メチロシン	内-1	カプセル剤		デムサーカプセル	

		慢性心不全	心拍数減少作用 血管拡張作用/利尿作用 可溶性グアニル酸シクラーゼ(sGC)刺激作用	HCNチャネル遮断作用 アンジオテンシン受容体ネブリライシン阻害作用			イバプラジン塩酸塩 サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物 ペレイシグアト	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		コララン錠 エンレスト錠 ベリキューボ錠	
		トランスサイレチン型心アミロイドーシス	トランスサイレチン(TTR)4量体の乖離及び変性の抑制				タファミジスマグルミン タファミジス	内-1 内-1	カプセル剤 カプセル剤		ビンダケルカブセル ビンマックカブセル	
		2型糖尿病を合併する慢性腎臓病	非ステロイド型選択的ミネラルカルチコイド受容体拮抗作用				フィネレノン	内-1	錠剤		ケレンディア錠	
2	その他の循環器官用剤	慢性動脈閉塞症	血管拡張作用	プロスタグラジンE1作用			アルプロスタジル アルプロスタジルアルファデクス	注-1 注-2 注-1	注射薬 キット 注射薬		リブル注 リブルキット注 タンデトロン注射用20	
		末梢循環障害	血管拡張作用+子宮筋弛緩作用	β 受容体刺激作用			イソクスプリン塩酸塩	注-1	注射薬		ズファジラン注	
		意識障害(脳虚血症状を含む)	配合剤(脳血流量／酸素消費量増加作用／頭蓋内圧降下作用)	浸透圧作用		配合剤	濃グリセリン／果糖	注-1	注射薬		グリセオール注	
			血管拡張作用	蛋白リン酸化酵素阻害作用			ファスジル塩酸塩水和物	注-1	注射薬		エリル注S	
			血小板凝集抑制作用	トロンボキサンA2阻害作用			オザグレルナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		カタクロット注 オザグレルNa点滴静注シリジ	
			血管収縮抑制作用	エンドセリン受容体阻害作用			クラゾセンタンナトリウム	注-1	注射薬		ピラツツ点滴静注液	
		脳血栓症急性期	血液抗凝固作用	抗トロンビン作用			アルガトロバン	注-1 注-2	注射薬 キット		スロンノン／ノバスタンHI注 アルガトロバン注シリジ10mg	
		術中・術後・外傷後及び薬物中毒時の急性腎不全の予防・治療、眼内圧降下	浸透圧利尿作用／脳圧低下作用／眼内圧降下作用				D-マンニトール	注-1	注射薬		マンニトール注射液	
			配合剤(浸透圧利尿作用／脳圧降下作用／眼内圧降下作用)			配合剤	D-ソルビトール/D-マンニトール	注-1	注射薬		マンニトールS	
		未熟児動脈管開存症	動脈管閉鎖作用				インドメタシンナトリウム イブロフェン L-リシン	注-1 注-1	注射薬 注射薬		インダシン静注用 イブリーフ静注	

221 呼吸促進剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	呼吸促進剤	呼吸抑制時(急性)	末梢性化学受容器を介して呼吸中枢への選択的刺激作用				ドキサブラム塩酸塩	注-1	注射薬		ドブラム注射液	
			呼吸中枢刺激作用				ジモルホラミン	注-1	注射薬		テラブチク静注	
			オピエート受容体拮抗作用				ナロキソン塩酸塩	注-1	注射薬		ナロキソン塩酸塩静注	
			ベンゾジアゼピン受容体拮抗作用				レバロルファン酒石酸塩	注-1	注射薬		ロルファン注射液	
3	呼吸促進剤	呼吸窮迫症候群	呼吸窮迫症改善作用	肺胞の気-液界面の表面張力を低下させて肺の虚脱を防止し、肺の安定した換気能力の維持作用		牛肺抽出物	肺サーファクタント	外-2	吸入剤		サーファクテン	
											フルマゼニル静注シリンジ	

222-224 鎮咳剤・去痰剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1		鎮咳及び去痰	鎮咳作用／去痰作用	喀痰溶解作用／気道内分泌液増加作用／鎮咳作用			エプラジノン塩酸塩	内-1	錠剤		レスブレン錠	
				咳中枢抑制作用／気道内分泌液增加作用			チベビジンヒベンズ酸塩	内-2 内-1 内-3 内-4	散剤 錠剤 シロップ剤 ドライロップ剤		アスペリン散 アスペリン錠 アスペリンシロップ アスペリンドライシロップ	
				咳中枢抑制作用／去痰作用			シャゼンソウエキス	内-2	末剤			
				配合剤(咳中枢抑制作用+気道分泌促進作用+喀痰粘度低下作用)		配合剤	ジヒドロコデインリン酸塩／エフェドリン塩酸塩／塩化アンモニウム	内-3	シロップ剤		セキコテシロップ	
				配合剤(咳中枢抑制作用+気道分泌促進作用)			デキストロメトルファン臭化水素酸塩／クレゾールスルホン酸カリウム	内-3	シロップ剤		メジコンシロップ	
				配合剤(咳中枢抑制作用+去痰作用)			キキョウ流エキス／シャゼンソウエキス／シャクヤクエキス	内-3	液剤		マルコホンA液	
							キキョウ流エキス／カンゾウエキス／シャゼンソウエキス／シャクヤクエキス／ジヒドロコデインリン酸塩	内-3	液剤		オピセゾールコデイン液	
							ペントキシベリングクエン酸塩	内-1	錠剤		ペントキシベリングクエン酸塩錠	
							デキストロメトルファン臭化水素酸塩	内-2 内-2 内-1	散剤 細粒剤 錠剤		メジコン散 デキストロメトルファン臭化水素酸塩細粒 メジコン錠	
							ジメモルファンリン酸塩	内-2 内-1 内-3	散剤 錠剤 シロップ剤		アストミン散 アストミン錠 アストミンシロップ	
		鎮咳	鎮咳作用	咳中枢抑制作用			コデインリン酸塩	内-2 内-2 内-1	末剤 散剤 錠剤		リン酸コデイン リン酸コデイン10倍散 リン酸コデイン錠	
							ジヒドロコデインリン酸塩	内-2 内-2	末剤 散剤		リン酸ジヒドロコデイン	
							ノスカピン	内-2	末剤		ノスカピン	
							クロペラスチン	内-2 内-1	散剤 錠剤		フスタゾール散 フスタゾール糖衣錠	
							クロフェダノール塩酸塩	内-2 内-1	顆粒剤 錠剤		コルドリン顆粒 コロドリン錠	
				咳反射抑制作用	P2X3受容体拮抗作		ゲーファビキサントクエン酸塩	内-1	錠剤		リフヌア錠	
				気管支拡張作用	β 受容体刺激作用		メチルエフェドリン塩酸塩 エフェドリン塩酸塩	内-2 内-2 内-1	散剤 末剤 錠剤		ネオドリン散 塩酸エフェドリン 塩酸エフェドリン錠	
				配合剤(咳中枢抑制作用+気管支拡張作用+抗ヒスタミン作用)		配合剤	ジヒドロコデインリン酸塩／dl-メチルエフェドリン塩酸塩／クロルフェニラミンマレイン酸塩	内-1 内-3	錠剤 シロップ剤		クロフェドリンS錠 ライトゲンシロップT	
				配合剤(咳中枢抑制作用+気管支拡張作用+抗ヒスタミン作用+鎮静作用+鎮痛作用)		配合剤	ジプロフィリン／ジヒドロコデインリン酸塩／dl-メチルエフェドリン塩酸塩／ジフェンヒドラミンサリチル酸塩／アセトアミノフェン／プロモバケリル尿素	内-1	錠剤		カフコデ錠「モハン」	

		去痰	去痰作用	喀痰粘度低下作用			L-カルボシステイン	内-2 内-1 内-4 内-3,4	細粒剤 錠剤 シロップ剤 トライロップ剤		ムコダイン細粒 ムコダイン錠 ムコダインシロップ	
							L-エチルシスティン塩酸塩	内-1	錠剤		チスタニン糖衣錠	
							フドスティン	内-1 内-3	錠剤 液剤		クリアナル錠 スペリア内用液	
				肺表面活性物質分泌促進作用／ 気道内分泌液增加作用			アンプロキソール塩酸塩	内-1 内-1 内-3 内-3,4 内-4	錠剤 カプセル剤 シロップ剤 トライロップ剤 液剤		ムコソルバン錠 アンプロキソール塩酸塩 徐放カプセル ムコソルバンシロップ ムコソルバンドライシロップ ムコソルバン液	
							プロムヘキシン塩酸塩	内-1 内-3	錠剤 シロップ剤		プロムヘキシン塩酸塩 プロムヘキシン塩酸塩シロップ	
				気道内分泌液增加作用			桜皮エキス	内-3	液剤		プロテン液	
							セネガ	内-3	シロップ剤		セネガシロップ	
				配合剤(気道分泌促進作用+喀痰溶解作用)		配合剤	アンモニア水／ウイキョウ油	内-3	液剤		アンモニア・ウイキョウ精	
2		鎮咳及び去痰	鎮咳作用／去痰作用				グアイフェネシン	注-1	注射薬		フストジル注射液	
		鎮咳	気管支拡張作用	β受容体刺激作用(非選択性)			メチルエフェドリン塩酸塩	注-1	注射薬		メチエフ注射液	
			鎮咳作用				エフェドリン塩酸塩	注-1	注射薬		塩酸エフェドリン注射液	
3		去痰	去痰作用	肺表面活性物質の分泌促進作用／ 気道内分泌液增加作用			デキストロメトルファン臭化水素酸	注-1	注射薬		ハイフスタンM注	
							プロムヘキシン塩酸塩	注-1	注射薬		コフメジン注射液	
				気道粘液溶解作用			アセチルシスティン	外-2	吸入剤		ムコフィリン液	
				気道内分泌液增加作用			プロムヘキシン塩酸塩	外-2	吸入剤		ビソルボン吸入液	

225 気管支拡張剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	気管支拡張剤	気管支喘息	気管支拡張作用	β 受容体刺激作用(非選択性) β 2受容体刺激作用(選択性)		トリメトキノール塩酸塩 サルブタモール硫酸塩 テルブタリン硫酸塩 クレンブテロール塩酸塩 プロカテロール塩酸塩 フェノテロール臭化水素酸塩 ツロブテロール塩酸塩 ホスホジエステラーゼ阻害作用	内-2 内-1 内-4 内-1 内-4 内-1 内-1 内-4 内-1 内-4 内-2 内-1 内-2 内-1 内-1 内-1 内-3, 4 内-4 内-1 内-4 内-2 内-1 内-2 内-1 内-1 内-1 内-4	散剤 錠剤 シロップ剤 錠剤 シロップ剤 錠剤 シロップ剤 錠剤 ドライシロップ剤 ドライシロップ剤 末剤 錠剤 末剤 錠剤 顆粒剤 カプセル剤 ドライシロップ剤 液剤		イノリン散 イノリン錠 イノリンシロップ サルブタモール硫酸塩錠 ベネトリンシロップ ブリカニール錠 ブリカニールシロップ スピロペント錠 メブチンミニ錠 メブチンシロップ メブチンドライシロップ フェノテロール臭化水素酸塩DS ホクナリン錠 ホクナリンドライシロップ ネオフィリン末 ネオフィリン錠 モノフィリン テオドール顆粒 テオロング錠 テオフィリン徐放カプセル テオフィリンシロップ用 レスピア静注・経口液		

2	気管支拡張剤	気管支喘息		β 受容体刺激作用(非選択性)			イソプレナリン塩酸塩	注-1	注射薬		プロタノール注	
				β 2受容体刺激作用(選択性)			テルブタリン硫酸塩	注-1	注射薬		ブリカニール注射液	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用			アミノフィリン	注-1	注射薬		アミノフィリン注射液	
							注-2	キット		ネオフィリン点滴用バッグ		
							プロキシフィリン	注-1	注射薬		モノフィリン注	
							ジプロフィリン	注-1	注射薬		ネオフィリンM注	
3	気管支拡張剤	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	気管支拡張作用	β 受容体刺激作用(非選択性)			トリメトキノール塩酸塩	外-2	吸入剤		イノリン吸入液	
				β 2受容体刺激作用(選択性)			イソプレナリン塩酸塩	外-2	吸入剤		アスプール液	
							プロカテロール塩酸塩	外-2 外-9	吸入剤 キット		メブチン吸入液 メブチンクリックヘラー $10\mu g$	
							フェノテロール臭化水素酸	外-2	吸入剤		ペロテックエロゾル	
							サルブタモール硫酸塩	外-2	吸入剤		ベネトリン吸入液	
							ツロブテロール	外-5 外-9	貼付剤 キット		ホクナリンテープ セレベント50ディスカス	
							インダカテロールマレイン酸塩	外-2	吸入剤		オンプレス吸入用カプセル	
							ホルモテロールフルマル酸塩 水和物	外-9	キット		オーキシス $9\mu g$ ターピュハイラー	

配合剤(気管支拡張作用)	β 受容体刺激作用／抗炎症作用		配合剤	サルメテロールキシナホ酸／フルチカゾンプロピオン酸エステル	外-2 外-9	吸入剤キット		アドエアディスカス	
				ホルモテロールフマル酸塩水和物／ブテソニド	外-9	キット		シムビコートタービュヘイラー	
				フルチカゾンプロピオン酸エステル／ホルモテロールフマル酸塩水和物	外-9	キット		フルティフォームエアゾール	
				ビランテロールトリフェニル酢酸塩／フルチカゾンフランカルボン酸エステル	外-9	キット		レルベアエリプタ	
	β 受容体刺激作用／抗コリン作用		配合剤	インダカテロールマレイン酸塩／グリコビロニウム臭化物	外-2	吸入剤		ウルティプロ吸入用カプセル	
				ウメクリジニウム臭化物／ビランテロールトリフェニル酢酸塩	外-9	キット		アノーロエリプタ	
				チオトロビウム臭化物水和物／オロダテロール塩酸塩	外-9	キット		スピオルトレスピマット	
				ホルモテロールフマル酸塩水和物／グリコビロニウム臭化物	外-9	キット		ビベスピエアロスフィア	
	β 受容体刺激作用／抗コリン作用／抗炎症作用		配合剤	ビランテロールトリフェニル酢酸塩／ウメクリジニウム臭化物／フルチカゾンフランカルボン酸エステル	外-9	キット		テリルジーエリプタ	
				ホルモテロールフマル酸塩水和物／グリコビロニウム臭化物／ブテソニド	外-9	キット		ビレーズトリエアロスマフィア	
				インダカテロール酢酸塩／グリコビロニウム臭化物／モメタゾンフランカルボン酸エステル	外-2	吸入剤		エナジア吸入用カプセル	
				ホスホジエステラーゼ阻害作用／気管支平滑筋弛緩作用	配合剤	dl-メチルエフェドリン塩酸塩／ジプロフィリン	外-6	坐剤	アニスマ

		抗炎症作用			フルチカゾンプロピオン酸エステル フルチカゾンフランカルボン酸エステル ブデソニド ブデソニド(小) シクロソニド モメタゾンフランカルボン酸エステル ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	外-2 外-2 外-2 外-2 外-2 外-9 外-2	吸入剤 吸入剤 吸入剤 吸入剤 吸入剤 キット 吸入剤	フルタイドディスカス アニュイティ パルミコートーピュハイラー パルミコート吸入液 オルベスコインヘラー アズマネックスインヘラー キュバールエアゾール		
気管支拡張剤	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	気管支拡張作用	抗コリン作用		イプラトロビウム臭化物 チオトロビウム臭化物水和 グリコビロニウム臭化物 アクリジニウム臭化物 ウメクリジニウム臭化物	外-2 外-9 外-2 外-9 外-9	吸入剤 キット 吸入剤 キット キット	アトロベント スピリーバレスピマット スピリーバ吸入用カプセル シープリ吸入用カプセル エクリラジェヌエア		
				持続型						

226 含そう剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	含そう剤	咽頭炎、扁桃炎、口内炎、急性歯肉炎、舌炎、口腔創傷	創傷治癒促進作用	白血球遊走阻止作用／ヒスタミン遊離抑制作用		アズレンスルホン酸ナトリウム	外-8	含嗽剤		アズレン錠含嗽用「フジモト」マズレニンG アズノール・ガーグル		
			配合剤(創傷治癒促進作用)									
		口腔内の消毒	殺菌作用	細胞質膜破壊作用		ドミフェン臭化物	外-8	トローチ剤		オラドール含嗽液		
				蛋白質の酸化による細胞破壊作用								
		歯科用：口腔内の消毒、抜歯創の感染予防	殺菌作用	蛋白変性作用		ベンゼトニウム塩化物	外-8	含嗽剤		ネオステングリーン		

229 その他の呼吸器官用薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	その他の呼吸器官用薬	囊胞性線維症における肺機能の改善	DNA選択的加水分解作用			ドルナーゼ アルファ (遺伝子組換え)	外-2	吸入剤		ブルモザイム吸入液		

231 止しや剤・整腸剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き	
1	止しや剤、整腸剤	消化管内ガスによる腹部症状 下痢症 腸内菌叢異常 抗生素質・化学療法剤投与時の腸内菌叢異常 腸内菌叢異常 抗生素質・化学療法剤投与時の腸内菌叢異常 過敏性腸症候群	消化管内ガス駆除作用 止瀉作用 腐敗細菌増殖抑制作用 整腸作用 腐敗細菌増殖抑制作用 配合剤(整腸作用)	消泡作用 抗コリン作用 取れん作用 吸着作用 ぜん動抑制作用 腐敗細菌増殖抑制作用 腐敗細菌増殖抑制作用 腐敗細菌増殖抑制作用 便通調整作用									
							ジメチコン	内-1 内-2 内-3	錠剤 散剤 シロップ剤	1日3回 1日3回 1日3回	ガスコン ガスコン ガスコンドロップ		
							ロペラミド塩酸塩	内-1 内-2	錠剤、カプセル剤 細粒剤	1日1～2回 1日1～2回	ロペミン ロペミン		
							ロペラミド塩酸塩(小)	内-2	細粒剤	1日2～3回	ロペミン		
							タンニン酸アルブミン 次硝酸ビスマス	内-2 内-2	末剤	1日3～4回 1日2～3回			
							薬用炭 天然ケイ酸アルミニウム	内-2	末剤	1日数回 1日3～4回	アドソルビン		
							ペルベリン塩化物 ペルベリン塩化物水和物／ゲンノショウコエキス	内-1 内-1	錠剤	1日3回 1日3回	塩化ペルベリン錠 フェロベリン配合錠		
							(乳酸菌) ビフィズス菌製剤(1) ビフィズス菌製剤(4) ビフィズス菌製剤 ラクトミン	内-2 内-2 内-1 内-2	散剤 散 錠 末剤 散剤	1日3回 1日3回 1日3回 1日3回	ビフィスゲン ラックビー微粒 ビオフェルミン錠剤 ビオフェルミン		
							(酪酸菌) 酪酸菌製剤	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3回 1日3回	ミヤBM錠 ミヤBM細粒		
							耐性乳酸菌製剤(2) 耐性乳酸菌製剤(3) 耐性乳酸菌製剤(4)	内-2 内-1 内-2 内-2	散剤 錠剤 散剤 散剤	1日3回 1日3回 1日3回 1日3回	耐性乳酸菌散 ビオフェルミンR ビオフェルミンR ラックビーR		
							配合剤	ビフィズス菌配合剤 酪酸菌配合剤 耐性乳酸菌配合剤	内-2 内-1 内-2 内-1 内-2	散剤 錠剤 散剤 錠剤 散剤	1日3回 1日3回 1日3回 1日3回 1日3回	ビオスミン ビオスリー ビオスリー レベニン錠 レベニン散	
							トリメブチンマレイン酸塩 ポリカルボフィルカルシウム	内-1 内-2 内-1	錠剤 細粒剤 錠剤	1日3回 1日3回 1日3回	セレキノン セレキノン コロネル		
2	止しや剤・整腸剤	下痢症	止瀉作用	殺菌・蠕動抑制作用			ペルベリン硫酸塩	注-1	注射薬	1日1回皮下 又は筋注	ストブニン		

232-234 消化性潰瘍用剤・健胃消化剤・制酸剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	消化性潰瘍用剤等	胃潰瘍、十二指腸潰瘍	胃酸分泌抑制作用	ヒスタミンH2受容体遮断作用			シメチジン ファモチジン ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩 ニザチジン ラフチジン	内-1 内-2 内-1 内-2 内-1 内-1 内-2	錠剤 細粒剤 錠剤 散剤 カプセル剤 カプセル剤 錠剤	1日2回 1日1～2回 1日1～2回 1日1～2回 1日1～2回	タガメット カイロック ガスター アルタット アルタット細粒 アシノン プロテカジン	
				プロトンポンプ阻害作用			オメプラゾール ランソプラゾール ラベプラゾールナトリウム エソメプラゾールマグネシウム水和物 ボノプラザンマル酸塩	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-3 内-4	錠剤 カプセル剤 錠剤 カプセル剤 錠剤 顆粒剤	1日1回 1日1回 1日1回 1日1回 1日1回	オメプラール タケブロン バリエット ネキシウムカプセル ネキシウム懸濁用顆粒 タケキャブ	
	胃潰瘍	胃酸分泌抑制作用	ムスカリンM1受容体遮断作用				ビレンゼピン塩酸塩	内-1	錠剤	1日3～4回	ビレンゼピン塩酸塩錠	
		粘膜保護作用				多糖体 含アルミニウム アルジオキサ ペンスアミド アミノ酸 イソブレノイド 亜鉛錯体 アズレン誘導体	アルギン酸ナトリウム スクラルファート アルジオキサ スルピリド メチルメチオニンスルホニウムクロライド L-グルタミン テブレノン エカベトナトリウム ポラブレジンク エグアレンナトリウム	内-3 内-4 内-2 内-2 内-1 内-1 内-2 内-1 内-1 内-2 内-1 内-2 内-1 内-1	液剤 トライソップ剤 細粒剤 顆粒剤 液剤 顆粒剤 錠剤 カプセル剤 細粒剤 顆粒剤 カプセル剤 顆粒剤 顆粒剤 錠剤	1日3～4回 1日3回 1日3～4回 1日3回 1日3回 1日3～4回 1日2回 1日2回 1日2回	アルロイドG アルサルミン イサロン ドグマチール キャベジンU グルミン セルベックス ガストローム プロマック アズロキサ アズロキサ錠	

					セトラキサート塩酸塩 内-1 内-2	カプセル剤 細粒剤	1日3~4回	ノイエル
					ベネキサートベータデクス塩酸塩 内-1	カプセル剤	1日2回	ウルグート
					レバミビド 内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回	ムコスタ
					ソファルコン 内-1 内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 細粒剤	1日3回	ソファルコン
					イルソグラジンマレイン酸塩 内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日1~2回	ガスロンN
					ビペリジルベンズアミド トロキシビド 内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3回	アプレース
					アズレンスルホン酸ナトリウム 内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回	アズノール
					プロスタグランдин様作用 プロスタグランдин誘導体 ミソプロストール 内-1	錠剤	1日4回	サイトテック
胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自他覚症状改善	配合剤(制酸作用 + 粘膜保護作用)	酸中和作用 + 粘膜修復作用		配合剤	メタケイ酸アルミニンマグネシウム/メチルメオニヌルホニウムクロライド 内-2	散剤	1日3回	キャベジンUコーワ散
	配合剤(制酸作用 + 胃酸分泌抑制作用)	酸中和作用 + アセチルコリン受容体拮抗作用		配合剤	水酸化アルミニウム/酸化マグネシウム/サイロミン 内-2	顆粒剤	1日3~4回	コランチル顆粒
	配合剤(粘膜保護作用 + 粘膜保護作用)	粘膜修復作用 + 粘膜修復作用		配合剤	アズレンスルホン酸ナトリウム/L-グルタルミン 内-2 内-2 内-1	顆粒剤 細粒剤 錠剤	1日3~4回	マーズレン
胃酸過多、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎	制酸作用	酸中和作用		アルミニウム塩	乾燥水酸化アルミニウムゲル 合成ケイ酸アルミニウム 内-2	細粒剤 末剤	1日数回 1日3~4回	乾燥水酸化アルミニウムゲル 合成ケイ酸アルミニウム
				カルシウム塩	沈降炭酸カルシウム 内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3~4回 1日3回	炭カル
				ナトリウム塩	炭酸水素ナトリウム 内-2	末剤	1日数回	
				マグネシウム塩	酸化マグネシウム 内-1 内-2 内-2	錠剤 末剤 細粒剤	1日数回 1日数回	マグラックス
					炭酸マグネシウム 内-2	末剤	1日数回	
					水酸化マグネシウム 内-1 内-3	錠剤 液剤	1日数回	ミルマグ
					ケイ酸マグネシウム 内-2	末剤	1日数回	
	配合剤(制酸作用+制酸作用)	酸中和作用+酸中和作用		配合剤	水酸化アルミニウムゲル/水酸化マグネシウム 内-3	液剤	1日数回	マーロックス
胃炎等の疼痛	局所麻酔作用	活動電位伝達抑制作用			アミノ安息香酸エチル 内-2	末剤	1日3回	アミノ安息香酸エチル
					オキセザゼイン 内-1	錠剤	1日3~4回	ストロカイン錠
					ビペリジノアセチルアミノ安息香酸エチル 内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日1~4回 1日1~4回	ニチカイン錠 ビペリジノアセチルアミノ安息香酸エチル

		胃酸補充作用	胃酸様作用			希塩酸	内-3 内-3 内-2 内-3	液剤 液剤 末剤 散剤 液剤			
低酸症 主に胃液分泌促進		食欲増進作用	苦味健胃作用			コンズランゴ ホミカ	内-3 内-3 内-2 内-3	液剤 液剤 1日3回 1日3回			
消化器不定愁訴(食欲不振、胃部不快感など)	配合剤(制酸作用+健胃作用+消化補助作用)	酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／炭酸カルシウム／メタケイ酸アルミニウム／オウレン／ケイヒ／ウイキョウ／ヨウジ／ショウキョウ／サンショウ／カンゾウ／タチアスターーゼ	内-2	散剤	1日3回	S・M散		
		酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+炭水化物消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／炭酸カルシウム／メタケイ酸アルミニウム／オウレン／ケイヒ／ウイキョウ／ヨウジ／ショウキョウ／サンショウ／カンゾウ／ビオシアスターーゼ	内-2	散剤	1日3回	マナミンTM散		
		酸中和作用+苦味健胃作用+炭水化物消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／炭酸カルシウム／水酸化アルミニウム／ニガキ／オウバク／ケイヒ／ウイキョウ／ヨウジ／ショウキョウ／カンゾウ／ジアスター	内-2	散剤	1日3回	つくしA・M散		
		酸中和作用+苦味健胃作用+炭水化物消化酵素作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／炭酸カルシウム／メタケイ酸アルミニウム／オウレン／ケイヒ／ウイキョウ／ヨウジ／ショウキョウ／サンショウ／カンゾウ／シアスター	内-2	散剤	1日2～3回	FK散		
	配合剤(制酸作用+健胃作用)	酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用+鎮痙・鎮痛作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／ゲンチアナ／シアスター	内-2	散剤	1日3回	ピットサン		
		酸中和作用+苦味健胃作用+芳香健胃作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／ゲンチアナ／ケイヒ／ショウキョウ／サンショウ／メントール／ロートエキス散	内-2	散剤	1日3回	ベルサン		
		酸中和作用+苦味健胃作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／ゲンチアナ／ケイヒ／ショウキョウ／サンショウ／メントール	内-2	散剤	1日3回	ピアサン		
		酸中和作用+苦味健胃作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／センブリ	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日3回	センブリ・重曹錠		
		酸中和作用+苦味健胃作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／ニガ	内-2	散剤		健胃散「スズ」		
タンパク質の消化異常	タンパク質消化補助作用	タンパク分解酵素作用			含糖ペプシン	内-2	末剤	1日3回			
炭水化物の消化異常	炭水化物消化補助作用	炭水化物分解酵素作用			シアスター	内-2	末剤	1日3回			
乳糖不耐症	乳糖消化補助作用	乳糖分解酵素作用			β-ガラクトシダーゼ(ペニシリウム) ガラクトシダーゼ	内-2 内-2	細粒剤 散剤 顆粒剤	1回 1回	ミルラクト ガランター		
消化異常	消化補助作用	膵消化酵素作用			パンクリアチン(ブタ)	内-2	末剤	1日3回			
膵外分泌機能不全における膵消化酵素の補充	消化補助作用	膵消化酵素作用			パンクリリバーゼ	内-1 内-2	カプセル剤 顆粒剤	1日3回	リパクレオンカプセル リパクレオン顆粒		
消化異常	配合剤(消化補助作用)	炭水化物分解酵素作用+タンパク分解酵素作用+膵消化酵素作用		配合剤	サナクターーゼ配合剤 シアスターーゼ配合剤(1)	内-1 内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 顆粒剤	1日3回 1日3回 1日3回	エクセラーゼ タフマックE タフマックE		
					ビオデアスターーゼ1000 配合剤	内-1	カプセル剤	1日3回			
					ビオデアスターーゼ2000 配合剤	内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 顆粒剤	1日3回	オーネス		
					膵臓性消化酵素配合剤(1)	内-2	顆粒剤	1日3回	ベリチーム		

2	消化性潰瘍用剤等	上部消化管出血 経口投与不可能な出血を伴う胃潰瘍、十二指腸潰瘍 胃潰瘍、十二指腸潰瘍 慢性胃炎	胃酸分泌抑制作用 胃酸分泌抑制作用 粘膜保護作用 消化液分泌促進作用	ヒスタミンH2受容体遮断作用 プロトンポンプ阻害作用 粘膜修復作用 副交感神經刺激作用		シメチジン	注-1	注射薬	1日4回6時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	タガメット	
						ファモチジン	注-1	注射薬	1日2回12時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	ガスター	
						ロキサチジン酢酸エスティル塩酸塩	注-1	注射薬	1日2回12時間ごとに緩徐に静注、点滴静注	アルタット	
						オメプラゾールナトリウム	注-1	注射薬	1日2回点滴静注、静注	オメプラゾール注用20	
						ラニソプラゾール	注-1	注射薬	1日2回点滴静注、静注	タケブロン静注用	

235 下剤・浣腸剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	下剤、浣腸剤	便秘症	瀉下作用	浸透圧性作用(腸内水分吸収阻止)		塩類	酸化マグネシウム 炭酸マグネシウム 水酸化マグネシウム 硫酸マグネシウム	内-1 内-2 内-2 内-1 内-3 内-2	錠剤 末剤 錠剤 液剤 末剤 散剤 シロップ剤	1日数回 1日数回 1日数回 1回 1日3回 1日3回		
						糖類	ラクトロース(小)	内-2 内-3	散剤 シロップ剤	1日3回 1日3回	モニラック モニラック	
				膨潤作用(腸内水分吸収阻止)			カルメロースナトリウム	内-2	末剤	1日3回		
				腸管刺激作用		(リチノール 酸)	ヒマシ油、加香ヒマシ 油	内-3	液剤	とん用		
						ジフェノール 系	ピコスルファートナトリ ウム	内-1 内-2 内-3	錠剤 顆粒剤 液剤、ドライ シロップ剤	1日1回 1日1回 1日1回	ラキソペロン ピコスルファートナト リウム顆粒 ラキソペロン液、スナ イリングドライシロップ	
						アントラキノン配 糖体	カスカラサグラダ流エ キス	内-3	液剤			
							センノシド	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日1回 1日1回	ブルゼニド ソルドールE	
							センナエキス	内-1	錠剤	1日1回	ヨーデルS	
				浸透圧性作用			人工カルルス塩	内-2	末剤	1日1回		
			配合剤(瀉下作用)	腸管刺激作用+腸管刺激作用		配合剤	センナ/センナ実	内-2	顆粒剤	1日1~2回	アローゼン	
				腸管刺激作用+健胃作用+芳香 健胃作用+殺菌収斂作用		配合剤	センナ/カンゾウ/ウ イキョウ/イオウ	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日3回 1日3回	セチロ 複方カンゾウ散	
				界面活性作用+腸ぜん動促進 作用		配合剤	ジオクチルソジウムス ルホサクシネット/カ サンスラノール	内-1	錠剤	1日1回、1 日2~3回	ビーマス配合錠	
		乳幼児の便秘	瀉下作用	腸ぜん動促進作用	発酵作用		マルツエキス	内-4	液剤	1日2~3回	マルツエキス	
		大腸検査及び大腸手術時の前処置	腸管内容物排泄作用	腸管内への水分移行作用			クエン酸マグネシウム	内-2 内-3	散剤 液剤	水に溶かし 服用	マグコロール散 マグコロール内用液	
			配合剤(腸管内容物排泄作 用)	腸管内洗浄作用		配合剤	ナトリウム・カリウム配 合剤	内-2	散剤	水に溶かし 経口投与	ニフレック配合内用 剤	
							ナトリウム・カリウム・ アスコルビン酸配合剤	内-2	散剤	水に溶かし 経口投与	モビプレップ配合内 用剤	
							ピコスルファートナトリ ウム水和物・酸化マグ ネシウム・無水クエン 酸	内-2	散剤	水に溶かし 経口投与	ピコプレップ配合内 用剤	

		大腸検査の前処置					リン酸二水素ナトリウムー水和物・無水リン酸水素ニナトリウム	内-1	錠剤	1回5錠	ビジクリア
							無水硫酸ナトリウム・硫酸カリウム・硫酸マグネシウム水和物	内-3	液剤		サルプレップ配合内用液
		慢性便秘症(器質的疾患による便秘を除く)	瀉下作用	浸透圧性作用(腸内水分吸収阻止)			ラクツロース	内-3	ゼリー	1日2回	ラグノスNF経口ゼリーパック
				浸透圧性水分保持作用			マクロゴール4000／塩化ナトリウム／炭酸水素ナトリウム／塩化カリウム	内-3,4	散剤	水に溶かし経口投与、1日1～3回	モビコール配合内用剤LD、同HD
				胆汁酸再吸収抑制作用			エロビキシバット水和物	内-1	錠剤	1日1回	グーフィス錠
				腸液分泌促進作用			ルビプロストン	内-1	カプセル剤	1日2回	アミティーザカプセル
							リナクロチド	内-1	錠剤	1日1回	リンゼス錠
		便秘型過敏性腸症候群									
		オピオイド誘発性便秘症	抗便秘作用	末梢性μオピオイド受容体拮抗作用			ナルデメジントシル酸塩	内-1	錠剤	1日1回	スインブロイク錠
3	下剤、浣腸剤	便秘	排便促進作用	直腸粘膜刺激作用			ビサコジル	外-6	坐剤	1日1～2回	テレミンソフト
				潤滑・浸透圧性水分保持作用			グリセリン	外-7	浣腸剤	1回	グリセリン浣腸液
			配合剤(排便促進作用)	炭酸ガス産生+炭酸ガス産生促進作用		配合剤	炭酸水素ナトリウム／無水リン酸二水素ナトリウム	外-6	坐剤	1回	新レシカルボン

236 利胆剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用 3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	利胆剤	胆石、胆汁うつ滞	利胆作用	胆汁酸様作用			ケノデオキシコール酸 ウルソデオキシコール酸	内-1 内-1 内-2	カプセル剤 錠剤 顆粒剤	1日2~3回 1日3回 1日3回	レガレン ウルソ ウルソ	
			排胆作用	コリン様作用(Oddi括約筋弛緩作用)			トレビブトン	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3回 1日3回	スパカール スパカール	
2	利胆剤	胆汁うつ滞	利胆作用	水分増大作用			デヒドロコール酸	注-1	注射薬	1日1回静注	デヒドロコール酸注	

239 鎮吐剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	鎮吐剤	消化器不定愁訴(恶心・嘔吐・食欲不振など)	消化管運動改善作用	ドバミン受容体拮抗作用		ベンズアミド	メトクロラミド	内-1	錠剤	1日2~3回	プリンペラン錠	
				ドバミンD2受容体拮抗作用		ベンツイミダゾール	ドンベリドン ドンベリドン(小)	内-1 内-4	錠剤 ドライシロップ剤	1日2~3回 1日3回	プリンペラン細粒 プリンペランシロップ	
				ドバミンD2受容体拮抗作用／アセチルコリンエステラーゼ阻害作用		ベンズアミド	イトブリド塩酸塩	内-1	錠剤	1日3回	ナウゼリン	
				セロトニン5-HT4受容体刺激作用(アセチルコリン遊離促進)		ベンズアミド	モサブリドクエン酸塩	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日3回	ガナトン	
				消化管平滑筋直接作用			トリメブチンマレイン酸塩	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	1日3回	ガスモチン ガスモチン	
	機能性ディスペプシアにおける食後膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感 抗悪性腫瘍剤投与に伴う恶心・嘔吐	消化管運動改善作用 制吐作用	アセチルコリンエステラーゼ阻害作用 セロトニン5-HT3受容体拮抗作用 サブスタンスP/ニューロキニン(NK1)受容体拮抗作用	アセチルコリンエステラーゼ阻害作用		アコチアミド塩酸塩 水和物	アコチアミド塩酸塩	内-1	錠剤	1日3回	アコファイド錠	
				セロトニン5-HT3受容体拮抗作用		グラニセトロン塩酸塩	グラニセトロン塩酸塩 内-1 内-3	内-2 内-1 内-3	細粒剤 錠剤 ゼリー	1日1回	カイトリル細粒 カイトリル錠	
				サブスタンスP/ニューロキニン(NK1)受容体拮抗作用		オンダンセトロン塩酸塩 ラモセトロン塩酸塩	オンダンセトロン塩酸塩 ラモセトロン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	オンダンセトロンODフィルム ナゼアOD	
				消化管内ガスによる腹部症状	消泡作用		アブレピタント	内-1	カプセル	1日1回	イメンドカプセル	
						ジメチコン	ジメチコン	内-1 内-2 内-3	錠剤 散剤、細粒 シロップ剤	1日3回 1日3回 1日3回	ガスコン ガスコン ガスコンドロップ	

2	鎮吐剤	消化器不定愁訴(恶心・嘔吐・食欲不振など)	消化管運動調整作用	ドバミン受容体拮抗作用			メトクロラミド塩酸塩	注-1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	プリンペラン	
		術前・術後の恶心・嘔吐	条件反射抑制作用	ドバミン受容体拮抗作用			プロクロルペラジン	注-1	注射薬	1日1回筋注	ノバミン	
		抗癌剤投与による恶心・嘔吐	制吐作用	セロトニン5-HT3受容体拮抗作用			グラニセトロン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回静注 又は点滴静注 1日1回点滴静注	カイトリル	
							オンダンセトロン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回緩徐に静注	カイトリル点滴静注用3mg/バッグ ゾフラン	
							バロノセトロン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1回静注 又は点滴静注 1日1回静注 又は点滴静注	アロキシ静注 アロキシ点滴静注バッグ	
							ラモセトロン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回静注	ナゼア	
				ニューロキニン(NK1)受容体拮抗作用			ホスアブレピタントメグルミン	注-1	注射薬	1日1回点滴静注	プロイメント点滴静注用	
							ホスネツビタント塩化物塩酸塩	注-1	注射薬	1日1回点滴静注	アロカリス点滴静注	
							ドンペリドン	外-6	坐剤	1日2回	ナウゼリン	
							ドンペリドン(小)	外-6	坐剤	1日2～3回	ナウゼリン	
3	鎮吐剤	消化器不定愁訴(恶心・嘔吐・食欲不振など)	消化管運動改善作用	ドバミンD2受容体拮抗作用								

239 その他の消化器官用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	止しや剤・整腸 剤	潰瘍性大腸炎	消炎作用	(免疫抑制作用)	5-アミノサリチル酸	メサラジン	内-1	錠剤	1日3回	ペンタサ錠		
							内-2	顆粒剤		ペンタサ顆粒		
						メサラジン	内-1	錠剤	1日3回	アサコール錠		
						メサラジン	内-1	錠剤	1日1回	リアルダ錠		
						サラゾスルファビリジン	内-1	錠剤	1日4~6回	サラゾビリン		
		チロシンキナーゼ阻害作用	ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害作用			トファシチニブクエン酸塩	内-1	錠剤	1日2回	ゼルヤンツ錠		
						フィルゴチニブマレイン酸塩	内-1	錠剤	1日1回	ジセレカ錠		
						ウバダシチニブ水和物	内-1	錠剤	1日1回	リンヴォック錠		
		クローン病	抗炎症作用	ステロイドレセプター結合作用		カロテグラストメチル	内-1	錠剤	1日3回	カログラ錠		
						ブデソニド	内-1	カプセル剤	1日1回	ゼンタコートカプセル		
その他の消化 器官用剤		頭頸部の放射線治療に伴う口腔乾燥症状の改善	唾液分泌促進作用	ムスカリーン受容体刺激作用		ピロカルピン塩酸塩	内-1	錠剤		サラジェン		
		シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症状				内-2	顆粒剤			エボザックカプセル		
		タバコ、医薬品等の誤飲時における催吐	催吐作用	5-HT ₃ 受容体刺激作用		セビメリソニド	内-1	カプセル剤				
2	止しや剤・整腸 剤	潰瘍性大腸炎	α4β7インテグリン阻害作用		ヒトα4β7インテグリンに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	ヒトα4β7インテグリンに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	注-1	注射薬		エンタイビオ		
						ベドリズマブ(遺伝子組換え)						
3	止しや剤・整腸 剤	潰瘍性大腸炎	IL-23p19阻害作用		ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	注-1	注射薬		スキリージ点滴静注		
						リサンキズマブ(遺伝子組換え)						
			消炎作用	(免疫抑制作用)		注-2	キット			スキリージ皮下注入 オートドーザー		
			ステロイドレセプター結合作用	ステロイド	メサラジン 外-7 外-6 サラゾスルファビリジン 外-6 ベタメタゾン 外-6 ベタメタゾンリン酸エチシルナトリウム 外-7 ブデソニド 外-7	メサラジン	外-7	注腸剤	1日1剤	ペンタサ		
						外-6	坐剤			ペンタサ坐剤		
						サラゾスルファビリジン	外-6	坐剤	1日2回	サラゾビリン		
						ベタメタゾン	外-6	坐剤	1日1~2回	リンデロン		
						ベタメタゾンリン酸エチシルナトリウム	外-7	注腸液	1回	ステロネマ		
						ブデソニド	外-7	注腸剤	1日2回	レクタブル		

241-249 ホルモン剤・抗ホルモン剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	ホルモン剤・抗ホルモン剤	中枢性尿崩症・尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン; パソブレシン様(腎尿細管水再吸收促進)作用		ペプチド(パソブレシン誘導体)	デスマブレシン酢酸塩水和物	内-1	錠剤	1日1回 1日1~3回	ミニリンメルトOD錠	
		男性における夜間多尿による夜間頻尿					デスマブレシン酢酸塩水和物(小)	内-1	錠剤	1日1回	ミニリンメルトOD錠	
	甲状腺機能低下症		甲状腺ホルモン補充作用			T3, T4	乾燥甲状腺(食用獸由来)	内-2	末剤	1日15~40mg開始、維持量1日40~200mg	チラーチン	
						T3	リオチロニンナトリウム	内-1	錠剤	初回量1日 5~25ugを1~2週間間隔で少しづつ增量し、維持量1日25~75ug	チロナミン	
						T4	レボチロキシンナトリウム	内-1	錠剤	1日1回 0.025~0.4mg、一般に0.025~0.1mg/kg開始、維持量 0.1~0.4mg	チラーチンS	
							レボチロキシンナトリウム(小)	内-2	散剤	乳幼児:1日1回 10ug/kg 未熟児:1日1回 5ug/kg開始、8日目から1回 10ug/kg	チラーチンS	
	甲状腺機能亢進症		甲状腺機能抑制作用	抗甲状腺ホルモン作用			チアマゾール	内-1	錠剤	初期量1日30mgを3~4回で、重症の場合1日40~60mg、機能亢進症状がほぼ消失したなら1~4週間ごとに漸減し、維持量1日 5~10mgを1~2回	メルカゾール	
							プロピルチオウラシル	内-1	錠剤	初期量1日300mgを3~4回で、重症の場合1日400~600mg、機能亢進症状がほぼ消失したなら1~4週間ごとに漸減し、維持量1日 50~100mgを1~2回	チウラジール	
	著しい消耗状態	蛋白合成促進作用	蛋白同化ホルモン作用	ステロイドレセプター結合/特異的蛋白生成促進作用	ステロイド	メテノロン酢酸エステル	内-1	錠剤	1回 100mg、1~2週間ごと	ブリモボラン		
	塩喪失型先天性副腎皮質過形成症、アジソン病	ナトリウム貯留作用	硬質副腎皮質ホルモン(アルドステロン)作用		ステロイド(コルチゾン系)	フルドロコルチゾン酢酸エステル	内-1	錠剤	1回 100mg、1~2週間ごと	フロリネフ		
	副腎皮質機能不全、炎症性疾患、自己免疫疾患、臓器移植、腫瘍	抗炎症作用/免疫抑制作用	糖質副腎皮質ホルモン作用	ステロイドレセプター結合、特異的蛋白生成促進作用	ステロイド(コルチゾン系)	コルチゾン酢酸エステル	内-1	錠剤	1日12.5~150mg、1日1~4回	コートン		
						ヒドロコルチゾン	内-1	錠剤	1日10~120mg、1日1~4回	コートリル		
					ステロイド(プレドニゾロン系)	ブレドニゾロン	内-1	錠剤	1日 5~60mg、1日1~4回	プレドニン		
							内-2	散剤	1日 5~60mg、1日1~4回	プレドニゾロン		
						メチルブレドニゾロン	内-1	錠剤	1日 4~48mg、1日1~4回	メドロール		

					ステロイド (フッ素付加)	トリアムシノロン デキサメタゾン ベタメタゾン	内-1 内-3 内-1 内-1 内-2 内-3	錠剤 錠剤 液剤 錠剤 錠剤 散剤 シロップ剤	1日 4~48mg、1日1~4回 で 1日 0.5~8mg、1日1~4回 で 1日 0.15~4mg、1日1~4回 で 1日 40mg、1日1回、4日間 1日 0.5~8mg、1日1~4回 で 1日 0.5~8mg、1日1~4回 で 1日 0.15~4mg、1日1~4回 で	レダコート デカドロン デカドロンエリキシル レナデックス リンデロン リンデロン リンデロン	
副腎皮質ホルモン分泌過剰症	アルドステロン・コルチゾール分泌抑制作用	3b-hydroxysteroid脱水素酵素阻害作用		ステロイド	トリロスタン	内-1	錠剤	1日初期量 240mg、維持量 240~480mg、3~4回で	デソバン		
	ステロイド分泌改善作用	副腎皮質ホルモン合成阻害作用		非ステロイド	ミトタン	内-1	カプセル剤	1回500~1,000mg、1日3回から開始	オペブリム		
	コルチゾール合成抑制作用	11 β -水酸化酵素阻害作用		非ステロイド	オシロドロスタットリン酸塩	内-1	錠剤	1回1mgを1日2回から開始、患者の状態に応じて適宜増減。最高用量は1回30mgを1日2回。	イスツリサ		
透析施行中の腎性貧血	造血作用	骨髓 CFU-E (赤芽球コロニー形成細胞) 増加作用		ステロイド(アンドロスタン系)	メピチオスタン	内-1	カプセル剤	1日20mg、2回で	チオデロン		
蕁麻疹・湿疹・皮膚炎群、薬疹、アレルギー性鼻炎	配合剤(免疫抑制作用／鎮痙作用)	ホスホリバーゼA2阻害／抗ヒスタミン作用		配合剤	ベタメタゾン／d-マレイン酸クロルフェニラミン	内-1 内-3	錠剤 シロップ剤	1回1~2錠 1回5~10mL	セレスタミン セレスタミン		
男子性腺機能不全	アンドロゲン補充作用	アンドロゲン作用		ステロイド	メチルテストステロン	内-1	錠剤	1日20~50mg	エナルモン		
前立腺肥大症	前立腺肥大抑制作用	抗アンドロゲン作用 5 α 還元酵素阻害作用		ステロイド	クロルマジノン酢酸エステ ^{..}	内-1	錠剤 徐放錠	1回25mg、1日2回 1回50mg、1日1回	プロスター ^L		
子宮内膜症	ゴナドトロビン分泌抑制作用	下垂体-卵巣系抑制作用		ステロイド	デュタステリド ダナゾール ジエノゲスト	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤	1回0.5mg、1日1回 1日2mgを2回に分けて	ボンゾール ディナゲスト		
子宮筋腫	GnRH受容体拮抗作用	ゴナドトロビン分泌抑制作用		非ステロイド	レルゴリクス	内-1	錠剤	1日1回	レルミナ		
排卵障害	ゴナドトロビン分泌促進／排卵誘発作用	視床下部下垂体エトロゲン受容体拮抗作用(フィードバック抑制消失)		非ステロイド	シクロフェニル クロミフェンクエン酸塩	内-1 内-1	錠剤	1日400~600mg、1日2~3回で 第1ケール1日50mg、5日間で開始	セキソビット クロミッド		
更年期障害、卵巣機能低下	卵胞ホルモン補充作用	ステロイドレセプター結合作用 ／特異的蛋白生成促進		ステロイド(I ストリオール系)	エストリオール 結合型エストロゲン エストラジオール	内-1 内-1 内-1	錠剤	1回 0.1~ 1mg、1日1~2回 1日 0.625~ 1.25mg	エストリール ブレマリン ジュリナ		
	黄体ホルモン補充作用	ステロイドレセプター結合作用 ／特異的蛋白生成促進		ステロイド	プロゲステロン	内-1	カプセル剤	1日 100~200mg、1日1回	エフメノ		
月経異常、黄体機能不全	黄体ホルモン補充作用	ステロイドレセプター結合作用 ／特異的蛋白生成促進作用		ステロイド(合成黄体ホルモン)	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル ジドロゲステロン クロルマジノン酢酸エステ ノルエチステロン	内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日 2.5~15mg、1日1~3回 1日 5~15mg、1日1~3回 1日 2~12mg、1日1~3回 1日 5~10mg、1日1~2回	ヒスロン デュファストン ルトラール ノアルテン		

		配合剤(黄体ホルモン補充作用／卵胞ホルモン補充作用／脳下垂体ゴナドトロピン分泌抑制作用／排卵抑制作用)	黄体ホルモン作用／卵胞ホルモン作用		配合剤	ノルゲストレル／エチニルエストラジオール ノルエチステロン／エチニルエストラジオール トロスピレン／エチニルエストラジオール ベータデックス レボノルゲストレル／エチニルエストラジオール	内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日1回、7～10日間／1日1回、月経周期の第5日～3週間 1日1回、21日間、その後7日間休薬 1日1回(1シートに実薬24錠、偽薬4錠) 1日1回(25日目以降に3日間連続出血又は120日達した場合に4日間休薬) 1日1回、21日間、その後7日間休薬又は1日1回、77日間、その後7日間休薬	プラノバール配合錠 ルナベル配合錠LD、同ULD マーズ配合錠 マーズフレックス配合錠 ジェミーナ配合錠	
	月経困難症										
	末梢循環障害	循環改善作用	キニーゲン分解作用／キニン遊離作用	糖蛋白	カリジノゲナーゼ	内-1	錠剤 カセロル剤	1日3回			
2	ホルモン剤・抗ホルモン剤	慢性関節リウマチ、点頭てんかん、気管支喘息、ネフローゼ症候群	副腎皮質ホルモン生成分泌促進作用	ACTH様副腎皮質刺激作用	ペプチド	テトラコサクチド酢酸エストラジオール	注-1	注射薬	1日1回、必要があれば2～3日行う(筋注、静注、点滴静注)。	コートロシンZ注	
	成長ホルモン分泌不全性低身長症・成人成長ホルモン分泌不全症	成長促進作用	成長ホルモン作用(肝ソマトメジン生成分泌促進)	成長ホルモン (成 長ホルモ ン)	ペプチド(成 長ホルモ ン)	ソマトロビン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1週間に0.175mg/kg、2～4回に分けて筋注、6～7回に分けて皮下注	ジェノトロビン	
						ソマトロビン(遺伝子組換え)	注-2	キット	1週間に0.175mg/kg、6～7回に分けて皮下注	ノルデイトロビン フレックスプロ注	
						ソマトロビン(遺伝子組換え)	注-2	キット	1週間に0.175mg/kg、2～4回に分けて筋注、6～7回に分けて皮下注	ジェノトロビンカビ クイック	
	成長ホルモン抵抗性小人症	成長促進作用	ソマトメジンC作用			ソマトメジンC(天然型ヒトソマトメジンC)	注-2	キット	週1回	エヌジェンラ	
	先端肥大症・下垂体性巨人症	成長ホルモン分泌抑制作用	下垂体ソマトスタチン受容体刺激作用			オクトレオチド酢酸エステル	注-1	注射薬	1日2～3回皮下注	ソマゾン	
	先端巨大症	成長ホルモン受容体拮抗作用		下垂体 ソマト スタチン 誘導 体	ペプチド(ソマトスタチン誘導体)	オクトレオチド酢酸エスティル	注-1	注射薬	4週毎に1回筋注	サンドスタチン	
	下垂体性尿崩症	抗利尿作用	遠位尿細管における水の再吸収促進作用			オクトレオチド酢酸エスティル	注-2	キット	4週毎に1回筋注	サンドスタチンLAR 筋注用 サンドスタチンLAR 筋注用キット	
	血友病A、von Willebrand病	止血作用	内因性第VIII因子・von Willebrand因子放出作用			パシレオチドバモ酸塩	注-2	キット	4週毎に1回筋注	シゲニフォーLAR 筋注用キット	
	甲状腺機能低下症	甲状腺ホルモン補充作用				ランレオチド酢酸塩	注-1	注射薬	4週毎に1回深部皮下注	ソマチュリン皮下	
	甲状腺機能亢進症	甲状腺機能抑制作用	抗甲状腺ホルモン作用		T4	ベグビソマント(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回皮下投与	ソマバート皮下注用	

著しい消耗状態	蛋白合成促進作用	蛋白同化ホルモン作用		ステロイド(ノルテストステロン系)	メテノロンエナント酸エステル	注-1	注射薬	1回100mg、1~2週間ごとに筋注	メテノロンエナント酸エステル	
急性低血圧・ショック、局所出血、局所麻酔薬の作用延長、気管支いれん、心停止		交感神経 α , β 受容体刺激作用	カテコールアミン	アドレナリン	注-1 注-2	注射薬キット キット	1回0.2~1mgを皮下注、筋注 1回0.15又は0.3mgを筋注	ボスミン注 エピベン注射液		
急性低血圧・ショック	血圧上昇作用	交感神経 α 受容体刺激作用	カテコールアミン	ノルアドレナリン	注-1	注射薬	点滴静注:1回1mg、皮下注射:1回0.1~1mg	ノルアドリナリン		
急性心不全	利尿作用／血管拡張作用	α 型ヒト心房性Na利尿ペチド受容体刺激作用		カルベリチド	注-1	注射薬	1分間当たり0.1 μ g/kgを持つ緩静注	ハング注射用1000		
副腎皮質機能不全、炎症性疾患、自己免疫疾患、臓器移植、腫瘍	抗炎症作用／免疫抑制作用／代謝・循環改善作用	糖質副腎皮質ホルモン作用(ステロイドセプター結合、特異的蛋白生成促進)	ステロイド(コレチゾン系)	ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、点滴静注、筋注:1回50~100mgを1日1~4回、緊急時1回 1回250~1,000mgを静注又は点滴静注	ソル・コーテフ		
			ステロイド(ブレドニゾロン系)	ヒドロコルチゾンリシン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1日1回又は数回、1回100~1,000mgを静注又は点滴静注	ソル・コーテフ250		
			ステロイド(ブレドニゾロン系)	ブレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注:1回10~50mg、3~6時間ごと、点滴静注:1回20~100mg、1日1~2回	水溶性ブレドニン		
				メチルブレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1回125~2000mgを緩徐に静注又は点滴静注	ソル・メドロール		
				メチルブレドニゾロン酢酸エステル	注-1	注射薬	筋注:1回40~120mg、1~2週おき	デボ・メドロール		
			ステロイド(フッ素付加)	トリアムシノロンアセトニド	注-1	注射薬	筋注:1回20~80mg、1~2週おき、関節腔内注射等:1回2~40mg、原則として投与間隔2週間以上。	筋注用ケナコルト-A(4%)		
				デキサメタゾンパルミチン酸エステル	注-1	注射薬	1回4mg、2週に1回静注	リメタゾン		
				デキサメタゾンリシン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注:1回2~8mg、3~6時間ごと、点滴静注:1回2~10mg、1日1~2回 1日1回又は数回0.5~4mg/kg静注	コルソソ(0.4%,0.5%) デカドロンS(2%)		
				ベタメタゾンリシン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	静注、筋注:1回2~8mg、3~6時間ごと、点滴静注:1回2~10mg、1日1~2回 1回0.5~4mg/kg静注	リンデロン(0.4%) リンデロン(2%)		
アレルギー性鼻炎、慢性関節リウマチ、関節炎	配合剤(抗アレルギー、抗炎症、免疫抑制作用)	糖質副腎皮質ホルモン作用／糖質副腎皮質ホルモン作用	配合剤	ベタメタゾン酢酸エステル／ベタメタゾンリシン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	筋注:1回0.1~1mL、症状により3~4時間ごと、関節腔内注射等:1回0.1~1.5mL、原則として投与間隔2週間以上、局所皮内注射:1回1~3mL、鼻腔内注入:1回1~3mL、1日1~数回	リンデロン懸濁注		
男子性腺機能不全、男子不妊症	男性ホルモン補充作用		ステロイド	テストステロンプロピオン酸エステル テストステロンエナント酸エステル	注-1 注-1	注射薬 注射薬	1回25~50mg、1~3日間ごとに筋注 1回100mg、7~10日間ごとに又は1回250mg、2~4週間ごとに筋注	エナルモン エナルモンデポー		
前立腺肥大症	前立腺重量抑制作用	抗アンドロゲン作用	ステロイド	ゲストノロンカプロン酸エステル	注-1	注射薬	1週1回200mg筋筋注	デボスタット		
視床下部性性腺機能低下症	ゴナドトロビン分泌促進作用	下垂体受容体刺激作用	ペプチド(LH-RH)	ゴナドレリン酢酸エステル	注-1	注射薬	1日12回(2時間間隔)皮下注	ヒポクライン		

低ゴナドロビン性男子性腺機能低下症における精子形成の誘導・生殖補助医療における調節卵巢刺激	ゴナドロビン作用(精子形成作用)／卵胞ホルモン作用				ホリトロビンアルファ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬キット	週3回皮下投与	ゴナールエフ	
					ホリトロビンデルタ(遺伝子組換え)	注-2	キット	1日1回皮下投与	レコベル	
中枢性思春期早発症	ゴナドロビン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ペプチド(LH-RH誘導体)	リュープロレリン酢酸塩	注-1	注射用(徐放製剤)	4週1回30μg/kg皮下注	リューブリン	
更年期障害、乳汁分泌不全	細胞呼吸促進作用／創傷治癒促進作用				胎盤抽出物	注-1	注射薬	1日1回、毎日又は隔日皮下注	メルスモン	
更年期障害	配合剤(ホルモン補充作用)	卵胞ホルモン作用／アンドロゲン作用		配合剤	エストラジオール／テストステロン(1) エストラジオール吉草酸エスティル／テストステロンエナント酸エスティル	注-1 注-1	注射薬 注射薬	2~4週ごとに1回1mL筋注 2~4週ごとに1回1mL筋注	エスジン・デポー ブリモジアン・デポー	
機能性子宮出血	配合剤(ホルモン補充作用)	黄体ホルモン作用／卵胞ホルモン作用		配合剤	ヒドロキシプログステロンカプロン酸エスティル／エストラジオール安息香酸エスティル(2)	注-1	注射薬	1週間に1回1mL筋注	ルテスデポー注	
卵巣機能低下	卵胞ホルモン作用			ステロイド(エストラジオール系)	エストラジオール安息香酸エスティル	注-1	注射薬(懸濁)	1回0.1~5mg、隔日又は毎日1回筋注又は皮下注	オバホルモン水懸注	
					エストラジオール吉草酸エスティル	注-1	注射薬	1回5~10mg、1~4週間ごとに筋注	プロギノン・デポー	
					エストリオール	注-1	注射薬(懸濁)	1回5~10mg、7~10日ごとに皮下又は筋注	ホーリン	
月経異常、黄体機能不全	黄体ホルモン作用			ステロイド(プロゲステロン系)	プロゲステロン	注-1	注射薬	1日10~50mg、1~2回に分け筋注	プロゲストン	
					ヒドロキシプログステロンカプロン酸エスティル	注-1	注射薬	1週1回65~125mg筋注	プロゲデポー	
排卵誘発	卵胞成熟作用	卵胞ホルモン作用		ペプチド	下垂体性性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日卵胞成熟ホルモンとして、75~150IUを連続筋注	HMG注	
					精製下垂体性性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日卵胞成熟ホルモンとして、75~150IUを連続皮下注又は筋注	フェルティノームP	
					黄体形成ホルモン作用		ペプチド	1日3000~5000単位を筋注	ゴナトロビン1000	
早発排卵の防止	GnRH受容体拮抗作用	ゴナドロビン分泌抑制作用		ペプチド(GnRH誘導体)	注射用ヒト絨毛性腺刺激ホルモン	注-1	注射薬	1日1回250μg皮下投与	オビドレル	
					ガニレリクス酢酸塩	注-2	キット	1日1回皮下注	ガニレスト	
					セトロリクス酢酸塩	注-1	注射薬	1日1回皮下注	セトロタイド	
子宮内膜症	下垂体反応性低下作用／ゴナドロビン分泌抑制作用	持続的下垂体受容体刺激作用		ペプチド(LH-RH誘導体)	リュープロレリン酢酸塩	注-1 注-2	注射薬(徐放製剤) キット(徐放製剤)	4週に1回皮下注 4週に1回皮下注	リューブリン リューブリンキット	
					ゴセレリン酢酸塩	注-2	キット(徐放製剤)	4週ごとに前腹部皮下投与	ゾラデックスデボ1.8mg	

		骨折の危険性の高い骨粗鬆症	骨形成促進作用			テリバラチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	1日1回 24ヵ月まで	フルテオ皮下注キット600μg	
					テリバラチド酢酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	1週に1回皮下投与 24ヵ月間まで 1週に2回皮下投与 24ヵ月間まで	テリボン皮下注用 テリボン皮下注 オートインジェクター		
		脂肪萎縮症	糖代謝改善作用、脂質代謝改善作用			アバロバラチド酢酸塩	注-1	注射薬	1日1回皮下投与 18ヵ月間まで	オスタパロ皮下注 カートリッジ	
		短腸症候群	天然型ヒトGLP-2の遺伝子組換えアナログ			メトレレブチン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回 皮下注	メトレレブチン皮下注用	
3	ホルモン剤・抗ホルモン剤	中枢性尿崩症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン; バソプレシン様(腎尿細管水再吸收促進)作用		ペプチド(バソプレシン誘導体)	デスマブレシン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	1日1~2回鼻腔内に投与	デスマブレシン・スプレー
		夜尿症	抗利尿作用	脳下垂体ホルモン; バソプレシン様(腎尿細管水再吸收促進)作用		ペプチド(バソプレシン誘導体)	デスマブレシン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	1日1回鼻腔内に投与	デスマブレシン・スプレー10協和
		局所出血、鼻粘膜の充血、局所麻酔薬の作用延長、気管支拡張作用	末梢血管収縮／気管支拡張作用	交感神経α,β受容体刺激作用		カテコールアミン	アドレナリン	外-1	液剤	希釈し吸入、直接塗布、点鼻など	ボスマシン
		中枢性思春期早発症	ゴナドトロビン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ペプチド(GnRH誘導体)	ブセレリン酢酸塩	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	1日3~6回	スプレキュア
		更年期障害、卵巣欠落症状(ホルモン補充療法)	卵胞ホルモン補充作用	ステロイドレセプター結合作用／特異的蛋白生成促進作用		ステロイド	エストラジオール	外-5	貼付剤	1枚を下腹部、背部のいずれかに貼付、2日ごとに替える	エストラーナテープ
			卵胞ホルモン補充作用／黄体ホルモン補充作用			エストラジオール	外-1	軟膏(ゲル)剤	1日1回	ディビゲル	
		生殖補助医療における黄体補充	黄体ホルモン補充作用			エストラジオール／ノルエチステロン酢酸エステル	外-5	貼付剤(配合剤)	3~4日毎に1回	メノエイドコンビパッチ	
		子宮内膜症、子宮筋腫	ゴナドトロビン分泌抑制作用	持続的下垂体前葉刺激作用(受容体 down regulation)		ステロイド(プロゲステロン系)	プロゲステロン	外-6	塗剤	1日2回	ルテウム
						ブセレリン酢酸塩	外-2	塗剤	1日3回	ウトロゲスタン	
		過多月経	黄体ホルモン補充作用			ナファレリン酢酸塩	外-2	塗剤	1日2回又は3回	ルティナス	
		低血糖時の救急処置	グリコーゲン分解および糖新生作用	アデニル酸シクラーゼ活性化作用		レボノルゲストレル	外-6	塗剤	1日1回	ワンクリノン	
						グルカゴン	外-2	噴霧剤(鼻腔内)	月経周期1~2日目から1日3回	スプレキュア	
						ナサニール			月経周期1~2日目から1日2回		
						ミレーナ			子宮腔内に装着する		
						バクスミー					

251 泌尿器官用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	泌尿器官用剤	前立腺肥大に伴う排尿障害 過活動膀胱、神経因性膀胱、不安定膀胱における頻尿・尿意切迫感・尿失禁 神経性頻尿、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎に伴う頻尿・残尿感 腹圧性尿失禁 尿路結石	配合剤(前立腺腫結合組織膨脹改善作用+膀胱頸部周辺のうつ血・炎症消退作用+膀胱排尿筋収縮力増強作用)			配合剤	オオウメガサソウエキス／ハコヤナギエキス／セイヨウオキナガエキス／スギナエキス／コムギ胚芽油(1)	内-1	錠剤	1日3回	エビプロスタット配合錠	
			前立腺に対する消炎作用			セルニチンボーレンエキス	内-1	錠剤	1日2~3回	セルニルトン錠		
			α1受容体遮断作用			タムスロシン塩酸塩	内-1	錠剤 カプセル剤	1日1回	ハルナールD錠		
						シロドシン	内-1	錠剤	1日2回	ユリーフ錠		
						ナフトビジル	内-1	錠剤	1日1回	フリバス錠		
						ウラビジル	内-1	カプセル剤	1日2回	エブランチルカプセル		
						テラゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	1日2回	バソメット錠		
						プラゾシン塩酸塩	内-1	錠剤	1日2~3回	ミニプレス錠		
			ホスホジエステラーゼ5阻害作用			タダラフィル	内-1	錠剤	1日1回	ザルティア錠		
			膀胱平滑筋弛緩作用(抗コリン作用(抗ムスカリノ作用))			オキシブチニン塩酸塩	内-1	錠剤	1日3回	ボラキス錠		
					ベンジル酸誘導体	プロピベリン塩酸塩 ソリフェナシンコハク酸 酒石酸トルテロジン イミダフェナシン フェソテロジンフマル酸	内-1 内-2 内-1 内-1 内-1	錠剤 細粒剤 錠剤 カプセル剤 錠剤	1日1回 1日1回 1日1回 1日2回 1日1回	バップフォー錠 バップフォー細粒 ベシケア錠 デトルシトールカプセル ウリトス錠 ステープラ錠 トビエース錠		
			選択的β3アドレナリン受容体制激作用			ミラベグロン ビペグロン	内-1 内-1	錠剤	1日1回 1日1回	ベタニス錠 ベオーバ錠		
			膀胱平滑筋弛緩作用／膀胱充満時律動収縮抑制作用			フラボキサート塩酸塩	内-1	錠剤	1日3回	プラダロン錠		
			膀胱平滑筋弛緩作用(β2受容体制激作用)／尿道括約筋収縮作用			クレンブテロール塩酸塩	内-1	錠剤	1日2回	スピロベント錠		
			尿路結石	尿路結石生成の要因を抑制+排泄促進及び症状の緩解		ウラジロガシエキス	内-1	錠剤	1日3回	ウロカルン錠		
3	泌尿器官用剤	前立腺及び膀胱疾患の経尿道的手術時、その他泌尿器科手術時並びに術後の洗浄 過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁	尿道、膀胱の開存性の維持／内視鏡視野の確保／切除組織片・血液の除去			D-ソルビトール	外-1	液剤(灌流)	手術など必要に応じて適宜増減	ウロマチックS		
			膀胱平滑筋弛緩作用(抗コリン作用(抗ムスカリノ作用))			オキシブチニン塩酸塩	外-5	貼付剤	1日1回1枚を貼付	ネオキシテープ		

252 生殖器官用剤

内注外 区分	分類名	主たる効能	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	生殖器官用剤	非特異性膣炎	自浄作用回復作用／膣粘膜細胞角化促進作用／炎症に対する膣抵抗増強作用				エストリオール	外-6	膣錠		ホーリンV錠	
			蛋白合成阻害作用			クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	外-6	膣錠		クロマイ膣錠	
	カンジダ起因膣炎、外陰膣炎		細胞質膜変性作用			アゾール系	クロトリマゾール	外-6	膣錠		エンペシド膣錠	
			細胞膜合成阻害作用			イミダゾール系	オキシコナゾール硝酸塩	外-6	膣錠		オキナゾールV100	
							ミコナゾール硝酸塩	外-6	膣坐剤		フロリード膣坐剤	
							イソコナゾール硝酸塩	外-6	膣錠		アデスタンG100	
	トリコモナス膣炎		抗原虫作用				チニダゾール	外-6	膣錠		ハイシンジン膣錠	
							メトロニダゾール	外-6	膣錠		メトロニダゾール錠	

253 子宮収縮剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	子宮収縮剤	子宮収縮促進並びに子宮出血の予防・治療 (胎盤娩出後、子宮復古不全、流産、人工妊娠) 妊娠末期における陣痛誘発並びに陣痛促進	子宮平滑筋選択的収縮作用／出血量減少作用(胎盤娩出期短縮)				メチルエルゴメトリノ マレイン酸塩	内-1	錠剤	1日2～4回	パルタンM錠	
2	子宮収縮剤	子宮収縮促進並びに子宮出血の予防・治療 (胎盤娩出前後、弛緩出血、子宮復古不全、帝王切開術、流産、人工妊娠中絶)	子宮平滑筋選択的収縮作用／出血量減少作用(胎盤娩出期短縮)				メチルエルゴメトリノ マレイン酸塩	内-1	錠剤	1時間ごとに6回	プロスタグラジンE2 2	
		子宮収縮の誘発、促進並びに子宮出血の治療(分娩誘発、微弱陣痛、弛緩出血、胎盤娩出前後、子宮復古不全、帝王切開術、流産、人工妊娠中絶)			ペフチド ⁺	オキシトシン	注-1	注射薬	1回 0.1～0.2mg 静注、又は1回 0.2mg皮下注、筋	メチルエルゴメトリノ マレイン酸塩注		
		分娩後の子宮弛緩、産褥時の出血	子宮収縮作用		プロスタグラジンF2α 誘導体	ジノプロスト	注-1	注射薬	点滴静注	アトニン-O		
		妊娠末期における陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進、卵膜外投与(治療的流産)	子宮収縮作用／分娩誘発作用		プロスタグラジンF2α 誘導体	ジノプロスト	注-1	注射薬	点滴静注／持続 静注	プロスタルモン・F注 射薬50		
3	子宮収縮剤	妊娠中期の治療的流産	子宮収縮作用／子宮頸管拡大作用		プロスタグラジンE1 誘導体	ゲメプロスト	外-6	坐剤	3時間ごとに挿入	ブレグランディンP		

255 痔疾用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	痔疾用剤	痔核の症状の緩解	血栓、出血抑制作用／浮腫抑制作用／創傷治癒促進作用			トリベノンド	内-1	カプセル剤	1日3回	ヘモクロン		
			循環機能調節作用／線維素溶解作用／抗炎症抗浮腫作用／組織修復作用			静脈血管叢エキス(雑食動物)	内-1	舌下錠	1日3回	ヘモリンガル		
			配合剤(消炎作用／抗浮腫作用+血管壁透過性抑制作用／末梢循環促進作用／抗凝血作用／組織修復促進作用)		配合剤	プロメライン／トコフェロール酢酸エステル	内-1	錠剤	1日3~4回	ヘモナーゼ		
2	痔疾用剤	内痔核	上痔靜脈圧迫閉塞作用／止血作用／痔核の硬化萎縮作用			フェノール	注-1	注射薬	1回5mLを粘膜下に注射	バオスクリー		
			配合剤(炎症惹起作用／組織硬化作用／血流量減少作用)		配合剤	硫酸アルミニウムカリウム／タンニン酸	注-1	注射薬	1つの主痔核あたり2%溶液として9~13mL	ジオン注生食液付、同無痛化剤付		
3	痔疾用剤	痔核・裂肛の症状の緩解	配合剤(鎮痛作用+粘膜保護作用)		配合剤	リドカイン／アミノ安息香酸エチル／次没食子酸ビスマス	外-6	坐剤	1日1個、1日1~3回肛門内に挿入	ヘルミチンS坐剤		
			配合剤(局所感染防御作用／肉芽形成促進作用+抗炎症作用)		配合剤	大腸菌死菌／ヒドロコルチゾン	外-1	軟膏剤	1日1~3回塗布又は注入	強力ポステリザン(軟膏)		
			配合剤(抗炎症作用+殺菌作用+鎮痛作用+収斂、止血作用)		配合剤	ヒドロコルチゾン／硫酸フライオマイシン／塩酸ジブカイン／エスクロシ	外-1 外-6	軟膏剤 坐剤	1日1~3回塗布又は注入 1日1~3回、1回1個肛門内に挿入	プロクトセディル軟膏 プロクトセディル坐薬		
			配合剤(抗炎症作用+鎮痛作用)		配合剤	ジフルコルトロン吉草酸エステル／リドカイン	外-1 外-6	軟膏剤 坐剤	1日2回肛門内に注入 1日2回肛門内に挿入	ネリザ軟膏 ネリザ坐剤		
			配合剤(抗うつ血作用／血栓形成抑制作用／門脈血流量低下状態改善作用／浮腫抑制作用／血管透過性亢進抑制作用／創傷治癒促進作用+末梢性鎮痛作用)		配合剤	トリベノンド／リドカイン	外-1 外-6	軟膏剤 坐剤	1日2回 1日2回朝夕塗布又は注入	ボラザG軟膏 ボラザG坐剤		
		肛門疾患における鎮痛・鎮痙、肛門のびらん・炎症	配合剤(鎮けい作用／鎮痛作用+局所収斂作用／止血作用)		配合剤	ロートエキス／タンニン酸	外-6	坐剤	1日1~3回肛門内に挿入	ロートエキス・タンニン坐剤「サトウ」		

259 その他の泌尿器生殖器官用薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1		切迫早産、切迫流産	子宮収縮抑制作用	子宮筋β2受容体刺激作用／オキシトシン誘発作用			リドリン塩酸塩	内-1	錠剤	1日3回	ウテメリン錠	
		勃起不全(満足な性行為を行ふに十分な勃起とその維持が出来ない患者)	ホスホジエステラーゼ(PDE)5阻害作用				シルデナフィルケン酸塩	内-1	錠剤	1日1回	バイアグラ錠 バイアグラODフィルム	
							タadalafil	内-1	錠剤	1日1回	シアリス錠	
2	その他の泌尿生殖器官用薬	切迫早産、切迫流産	子宮収縮抑制作用	子宮筋β2受容体刺激作用／オキシトシン誘発作用			リドリン塩酸塩	注-1	注射薬	50mgを5%ブドウ糖注射液又は10%マルトース注射液500mLに希釈し、毎分50μgから点滴静注開始	ウテメリン注	
				Ca2+の細胞外流出促進作用			硫酸マグネシウム／ブドウ糖	注-1 注-2	注射薬 キット	初回量として4gを20分以上かけて静注後、毎時1gより持続静脈内投与	マグセント注 マグセント注シリング	
3	その他の泌尿生殖器官用薬	間質性膀胱炎(ハンナ型)の諸症状(膀胱に関連する慢性の骨盤部の疼痛、圧迫感及び不快感、尿意亢進又は頻尿等の下部尿路症状)の改善	抗炎症作用、鎮痛作用				ジメチルスルホキシド	外-1	液剤	1回あたり1バイアル50mL、2週間間隔で6回膀胱内に注入。	ジムソ膀胱内注入液	

261 外皮用殺菌消毒剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	外皮用殺菌用剤	皮膚等の消毒	主として一般細菌/真菌/ウイルスに作用するもの	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)/結核菌/真菌/ウイルスに作用		塩素系	次亜塩素酸ナトリウム	外-1	液剤		ヤクラックスD	
						ヨウ素系	ヨウ素 ボビドンヨード	外-1 外-1	液剤 クリーム剤 ゲル		プレボダイン イソジン インジンゲル	
						ヨードホルム	ヨードホルム	外-1	末剤		ヨードホルム	
						ヨードチンキ	ヨードチンキ	外-1	液剤		ヨードチンキ 希ヨードチンキ	
						アルコール系	イソプロパノール エタノール	外-1 外-1	液剤		消毒用イソプロピル アルコール エタノール 無水エタノール 消毒用エタノール	
						配合剤	イソプロパノール/メタノール変性アル	外-1	液剤		東豊消アル	
					細胞質アミノ基のアルキル化作用	アルデヒド系	ホルマリン	外-1	液剤		ホルマリン	
						フェノール系	レゾルシン クレゾール石ケン フェノール	外-1 外-1 外-1	末剤 液剤 液剤		レゾルシン クレゾール石ケン液 フェノール フェノール水 液状フェノール 消毒用フェノール 消毒用フェノール水	
			主として一般細菌に作用するもの	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)/結核菌/真菌に作用		第四級アンモニウム塩系	ベンザルコニウム塩化物 ベンゼトニウム塩化物 両面界面活性剤系	外-1 外-1 外-1	液剤 液剤 液剤		ザルコニン/オスバン 濃塩化ベンザルコニウム液50 ベゼトン液/ハイアミン液 サテニジン	
					(比較的低濃度)細胞膜障害作用。(比較的高濃度)蛋白/核酸の沈着作用	ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	外-1	液剤		ヘキサック/ヒビテン	
					細胞呼吸酵素阻害作用		アクリノール	外-1	末剤 液剤		アクリノール	
						過酸化物系	過マンガン酸カリウム オキシドール	外-1 外-1	末剤 液剤		過マンガン酸カリウム オキシドール	
						水銀系	マーキュロクロム	外-1	液剤		マーキュロクロム	
		ヨードチンキ塗布皮膚面のヨウ素の脱色	配合剤			配合剤	チオ硫酸ナトリウム/エタノール	外-1	液剤		ハイポエタノール	

263 化膿性疾患用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	化膿性疾患用剤	膿皮症等／外傷等による二次感染	主として一般細菌に作用するもの	主としてグラム陽性菌(G+)に作用	蛋白合成阻害作用		フジン酸ナトリウム	外-1	軟膏剤		フジンレオ軟膏	
							アミノグリコシド系	フラジオマイシン硫酸塩	外-5	貼付剤	ソフラチュール貼付剤	
			配合剤(主として一般細菌に作用するもの)	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)に作用	蛋白合成阻害作用	テトラサイクリン系	テトラサイクリン塩酸塩	外-1	軟膏剤		アクロマイシン	
							クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	外-1	軟膏剤 液剤	クロロマイセチン	
							アミノグリコシド系	ゲンタマイシン硫酸塩	外-1	軟膏剤 クリーム剤	ゲンタシン	
		外傷等による二次感染	主として一般細菌に作用するもの	主としてグラム陰性菌(G-)に作用	蛋白合成阻害作用+抗炎症作用	配合剤	クロラムフェニコール/フラジオマイシン硫酸塩/ブレドニロン	外-1	軟膏剤		クロマイ-P	
							細胞壁合成阻害+蛋白合成阻害	パントラシン/フラジオマイシン硫酸塩	外-1	軟膏剤	バラマイシン	
		熱傷、皮膚潰瘍等による創面感染 ざ瘡	主として一般細菌/真菌に作用するもの	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)/真菌に作用	葉酸合成阻害作用+細胞膜/細胞壁障害作用	サルファ剤	ポリミキシンB硫酸塩	外-1	散剤		硫酸ポリミキシンB	
							スルファジアジン銀	外-1	クリーム剤		ゲーベン	
							オゼノキサシン	外-1	軟膏剤 クリーム剤 液剤		アクアチム軟膏 アクアチムクリーム アクアチムローション	
		ざ瘡/酒さ	配合剤(皮膚軟化/殺菌作用 +鎮痛/消炎作用)	角質-SH基縮合作用	核酸(DNA)合成阻害作用	ニューキノロン系	ナジフロキサシン	外-1	ローション クリーム剤		ゼビアックスローション ゼビアックス油性クリーム	
							オゼノキサシン	外-1	ローション クリーム剤		ダラシンTゲル ダラシンTローション	
						リンコマイシン系	クリンダマイシンリン酸エステル	外-1	ゲル ローション 剤		イオウ・カンフルローション	

264 鎮痛、鎮痒、收斂、消炎劑

			(medium)	ステロイド	トリアムシノロンアセトニド ヒドロコルチゾン酢酸エステル クロベタゾン酢酸エステル アルクロメタゾンプロピオニ酸エステル	外-1 外-1 外-1 外-1 外-1 外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤 軟膏剤 クリーム剤 軟膏剤 クリーム剤 軟膏剤	1日2~3回 1日1~数回 1日1~数回 1日1~数回	ケナコルト-A ロコイド キンダベート アルメタ		
			(weak)	ステロイド	デキサメタゾン プレドニゾロン フルドロキシコルチド	外-1 外-1 外-1 外-5	軟膏剤 クリーム剤 液剤 クリーム剤	1日2~3回 1日1~数回 12か24時間ごと貼りか			
	配合剤(抗炎症/鎮痛/鎮痒作用)		(weak)	配合剤	デキサメタゾン/脱脂大豆乾留タール	外-1	軟膏剤 クリーム剤	1日1~数回 1日数回	グリメサゾン オイラックス		
	鎮痒作用	温覚刺激作用			クロタミトン	外-1 外-1 外-1	クリーム剤	1日数回	オイラックスH		
	配合剤(鎮痒作用)	温覚刺激作用+ステロイド受容体と結合		配合剤	クロタミトン/ヒドロコルチゾン	外-1	クリーム剤	1日1~数回			
	抗炎症/鎮痛作用	プロスタグランジン生合成阻害作用等		プロピオニ酸系	イブプロフェンピコノール スプロフェン	外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤	1日数回。帯状疱疹:1日1~2回。 1日数回。帯状疱疹:1日1~2回。	スタデルム		
				アントラニル酸系	ウフェナマート	外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤	1日数回	トバルジック コンベック		
					グリチルレチン酸	外-1 外-1	クリーム剤 軟膏剤	1日数回 1日数回	デルマクリン デルマクリンA軟膏		
	抗炎症作用	抗ヒスタミン作用		ジフェンヒドラン系	ジフェンヒドラン ジフェンヒドランラウリル硫酸塩	外-1 外-1	クリーム剤 軟膏剤	1日数回 1日数回	レスタミン ベナバスタ		
	配合剤(防腐/消毒/鎮痒作用+收敛/保護作用)			配合剤	フェノール/亜鉛華リニメント	外-1	軟膏剤	1日1~数回	カチリ		
	湿疹、皮膚炎群等(湿潤を伴う又は二次感染併発)	局所感染防御/肉芽形成促進/抗炎症作用			混合死菌製剤	外-1	軟膏剤		エキザルベ		
		配合剤(抗炎症/鎮痛/鎮痒作用+抗菌作用)	ステロイド受容体と結合+蛋白合成阻害作用	(strong)	配合剤	フルオシロノンアセトニド/フラジオマイシン ベタメタゾン吉草酸エステル/フラジオマイシン ベタメタゾン吉草酸エステル/ゲンタマイシン	外-1 外-1 外-1	軟膏剤 軟膏剤 軟膏剤	1日1~数回 1日1~数回 1日1~数回	フルコートF ペトネベートN リンデロン-VG リンデロン-VGクリーム	
				(medium)	配合剤	ヒドロコルチゾン酢酸塩/ジフェンヒドラン/フランジオマイシン ヒドロコルチゾン/オキシテトラサイクリン塩酸塩	外-1 外-1	軟膏剤 軟膏剤	1日1~数回 1日1~数回	強力レスタミンコーチソン テラ・コートリル	

		アトピー性皮膚炎	免疫抑制作用	サイトカイン産生抑制/肥溝細胞・好酸球脱颗粒抑制/抗原提示能抑制作用			タクロリムス水和物	外-1	軟膏剤	1日1~2回	プロトピック	
			免疫調節作用	ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害作用 ホスホジエステラーゼ4(PDE4)阻害作用			デルゴシチニブ ジファミラスト	外-1 外-1	軟膏剤 軟膏剤	1日2回 1日2回	コレクチム モイゼルト	
		角化性皮膚疾患	保護作用	ムコ多糖類新陳代謝亢進作用			ビタミンA油	外-1	軟膏剤	1日2~3回	ザーネ	
			配合剤(保護作用+皮膚血行促進作用)	ムコ多糖類新陳代謝亢進+微少循環系賦活作用		配合剤	ビタミンA/トコフェロール	外-1	軟膏剤	1日1~数回	ユベラ	
			表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用	1,25-(OH) ₂ D ₃ 受容体結合		活性型VD ₃	タカルシトール	外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤液剤	1日1~2回	ボンアルファ	
							カルシポトリオール マキサカルシトール	外-1 外-1 外-1	軟膏剤 軟膏剤 液剤	1日2回 1日2回	ドボネックス オキサロール	
			配合剤(表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用+抗炎症/鎮痛/鎮痒作用)	1,25-(OH) ₂ D ₃ 受容体結合/ステロイド受容体結合		配合剤	カルシポトリオール水和物/ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	外-1	軟膏剤	1日1回	ドボベット	
		皮膚刺激	局所刺激作用			生薬	カントリスチンキ	外-1	液剤	少量(希釈) 塗布	カンタリス	
							トウガラシチンキ	外-1	液剤	1日1~数回	トウガラシチンキ	
		湿疹、皮膚炎等の消炎・収斂等	収斂作用				カラミン	外-1	液剤	1日1~数回	カラミン	
			収斂/消炎/保護/防腐作用			無機塩類	酸化亜鉛 硫酸亜鉛 塩化亜鉛 硫酸アルミニウムカリウム	外-1 外-1 外-1 外-1	末剤 末剤 末剤 末剤	1日1~数回	酸化亜鉛 硫酸亜鉛 塩化亜鉛 ミョウバン	
			配合剤(収斂/消炎/保護/防腐作用)			配合剤	亜鉛華 アクリノール/チング油 亜鉛華デンプン	外-1 外-1 外-1	軟膏剤 軟膏剤 末剤	1日1~数回 1日1~数回 1日1~数回	亜鉛華軟膏 ポチート アクリノール・チング油 亜鉛華デンプン	
		皮膚・粘膜の炎症の消炎・収斂	収斂作用				タンニン酸	外-1	末剤		タンニン酸	
							過酸化物系	過マンガン酸カリウム	外-1	末剤		過マンガン酸カリウム
			局所刺激作用				アンモニア水	外-1	液剤	希釈塗布	アンモニア水	

筋肉痛等の鎮痛、消炎	抗炎症/鎮痛作用	プロstagランジン生合成阻害作用等	アリール酢酸系	インドメタシン	外-1 外-1 外-1 外-5	軟膏剤 クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日2回	インテバソ カトレップ		
			プロピオン酸系	ケトプロフェン	外-1 外-1 外-1 外-5	クリーム剤 液剤 ゲル 貼付剤	1日数回 1日1回、2回 1日2回	セクター エバテック		
				フルルビプロフェン	外-5	貼付剤	1日1回、2回	アドフード		
				ロキソプロフェンナトリウム水和物	外-1 外-5 外-2	ゲル 貼付剤 噴霧剤	1日数回 1日1回 1日数回	ロキソニン		
			オキシカム系	ピロキシカム	外-1	軟膏剤	1日数回	フェルデンド バキソ		
				ジクロフェナクナトリウム	外-1 外-1 外-1 外-5	ゲル クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日1回	ナボール		
				フェルビナク	外-1 外-1 外-1 外-5	軟膏剤 クリーム剤 液剤 貼付剤	1日数回 1日2回	ナバゲルン		
			配合剤	サリチル酸メチル	外-1	液剤	局所塗布	サリチル酸メチル		
				サリチル酸メチル/グリチルレチン	外-1	軟膏剤	1日1～数回	スチックゼノールA		
				サリチル酸メチル/dl-カンフル/トメントール	外-5	貼付剤	1日1～2回	MS冷シップ		
				サリチル酸メチル/dl-カンフル/トウガラシエキス	外-5	貼付剤	1日1～2回	MS温シップ		
				サリチル酸グリコール/ノニル酸ワニリラミド	外-5	貼付剤	1日1～2回	GSスターH		
			抗炎症/鎮痛作用	エスフルルビプロフェン/ハッカ油	外-5	貼付剤	1日1回	ロコアーテープ		
				カンフル	外-1	液剤	塗布又は塗擦	カンフル精		
				d-カンフル	外-1	末剤	塗布又は塗擦	d-カンフル		
			外傷後の腫脹・筋肉痛等	dl-カンフル	外-1	末剤	塗布又は塗擦	dl-カンフル		
				抗炎症/鎮痛/血流量増加作用等						
				配合剤(抗炎症/鎮痛/血流量増加作用等)						
表皮に欠損のない打撲	局所血管収縮/局所保護作用					ヘパリン類似物質	外-1 外-1 外-1 外-1 外-1	ゲル 軟膏剤 クリーム剤 液剤 スプレー剤	1日1～数回	ヒルドイド
						ヘパリン類似物質/サリチル酸/副腎エキス	外-1	クリーム剤	1日1～数回	ゼスタック
						酢酸鉛	外-1	末剤	湿布	酢酸鉛

265 感染性皮膚疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	感染性皮膚疾患用剤	白癬, カンジダ症	皮膚糸状菌、カンジダ、真菌に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	スクアレンエボキシダーゼ選択性阻害作用	アリルアミン系	テルビナフィン塩酸塩	外-1 外-1 外-2	クリーム剤 液剤 噴霧剤	1日1回	ラミシール ラミシール外用スプレー	
					エルゴステロール合成阻害作用	イミダゾール系	クロトリマゾール	外-1 外-1 外-1 外-8	軟膏剤 クリーム剤 液剤 トローチ	1日2~3回 1日5回	タオングル／エンペシド	
							オキシコナゾール硝酸塩	外-1 外-1	クリーム剤 液剤	1日2~3回	デリマイン	
							ビホナゾール	外-1 外-1	クリーム剤 液剤	1日1回	マイコスポール	
							ケトコナゾール	外-1 外-1 外-2	クリーム剤 液剤 噴霧剤	1日1回	ニゾラール	
							ラノコナゾール	外-1 外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤 液剤	1日1回	アスタッフ	
							ネチコナゾール塩酸塩	外-1 外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤 液剤	1日1回	アトラント	
							ミコナゾール硝酸塩	外-1	クリーム剤	1日2~3回	フロリードD	
							ミコナゾール	外-8	錠剤	1日1回	オラビ錠口腔用	
							イソコナゾール硝酸塩	外-1	クリーム剤	1日2~3回	アデスタン	
							スルコナゾール硝酸塩	外-1 外-1	クリーム剤 液剤	1日2~3回	エクセルダーム	
							ルリコナゾール	外-1 外-1 外-1	クリーム剤 液剤 軟膏	1日1回	ルリコン ルリコン軟膏	
						モルホリン系	アモロルフィン塩酸塩	外-1	クリーム剤	1日1回	ベキロン	
	白癬、疥癬	抗菌作用/角質軟化作用	角質-SH基縮合作用				イオウ	外-1	末剤	1日1~2回	イオウ	
	白癬	皮膚糸状菌に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	スクアレンエボキシダーゼ選択性阻害作用	ベンジルアミン系	ブテナフィン塩酸塩	外-1 外-1 外-2	クリーム剤 液剤 噴霧剤	1日1回	メンタックス		
					チオカルバメート	リラナフタート	外-1 外-1	クリーム剤 液剤	1日1回	ゼフナート		
						トルナフタート	外-1 外-1	軟膏剤 液剤	1日2~3回	ハイアラージン		
	爪白癬	皮膚糸状菌(トリコフィン属)に抗菌作用	細胞膜合成阻害作用	エルゴステロール合成阻害作用	トリアゾール系	エフィナコナゾール	外-1	液剤	1日1回	クレナフィン爪外用液		
					イミダゾール系	ルリコナゾール	外-1	液剤	1日1回	ルコナック爪外用液		
	単純疱疹／帯状疱疹	ヘルペスウイルス	核酸(DNA)合成阻害作用			アシクロビル	外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤	1日数回	ゾビラックス		
						ビタラビン	外-1 外-1	軟膏剤 クリーム剤	1日1~4回	アラセナーA		

ウイルスに作用するもの	尖圭コンジローマ	免疫賦活作用	インターフェロン等產生促進作用/細胞性免疫応答賦活化作用			イキモト	外-1	クリーム剤	1日1回週3回	ベセルナクリーム	
-------------	----------	--------	------------------------------	--	--	------	-----	-------	---------	----------	--

266 皮膚軟化剤(腐しよく剤を含む。)

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	皮膚軟化剤	角化症等	角質水分保持量増加作用/ 角質溶解作用			尿素	尿素	外-1	軟膏剤 クリーム剤 液剤 末剤	1日2~3回	ケラチナミン	
			角質溶解作用/防腐作用	細胞膨潤軟化作用		有機酸	サリチル酸	外-1 外-5	末剤 軟膏剤 貼付剤	1日1~2回 2~5日ごと	サリチル酸 スピール膏M	
		脂漏等の角質溶解	蛋白凝固/角質溶解作用			レゾルシン	レゾルシン	外-1	末剤	1日1~2回	レゾルシン	
		手足のき裂性・落屑性皮膚炎	配合剤(皮膚乾燥防止作用 +皮膚腐食/軟化作用)			配合剤	グリセリン+水酸化カリウム	外-1	液剤	1日1~数回	グリセリンカリ液	

267 毛髪用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	毛髪用剤	円形脱毛症	局所血管拡張作用				アセチルコリン塩化物	注-1	注射薬	1回0.1g数ヵ所に 週1回皮内注	オビソート注	
3	毛髪用剤	円形脱毛症における脱毛防 止・発毛促進	局所血管拡張・発毛促進作 用	副交感神経刺激作用			カルプロニウム塩化物	外-1	液剤	1日2~3回適量 塗布	フロジン液	
		発毛促進	局所刺激作用			生葉	カンタリスチンキ トウガラシチンキ	外-1 外-1	液剤 液剤	少量(希釀)塗布 1日1~数回	カンタリス トウガラシチンキ	

264・269・395・412 皮膚潰瘍用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
3	皮膚潰瘍用剤	皮膚潰瘍	創傷治癒促進作用	血管新生作用等	サイクリックAMP誘導体増加作用	トレチノイントコフェリル	外-1	軟膏剤	1日1~2回	オルゼン		
					血小板凝集能抑制作用	サイクリックAMP誘導体	クラデシンナトリウム	外-1	軟膏剤	1日1~2回	アクシン	
					FGF受容体特異的結合作用	プロスタグランジンE1誘導体	アルプロスタジルアルファデクス	外-1	軟膏剤	1日2回	プロスタンディン	
			配合剤(創傷治癒促進作用)	殺菌作用+創面清浄化作用		線維芽細胞成長因子	トラフェルミン(遺伝子組換え)	外-2	噴霧剤	1日1回	フィプラススプレー	
					浮腫改善/線維芽細胞活性化作用+殺菌作用		ヨウ素	外-1	散剤	1日1回(2回)	カデックス	
			抗炎症作用/組織修復作用	抗壞死/抗浮腫/蛋白産生阻止/表皮形成促進作用			外-1	軟膏		カデックス軟膏		
			熱傷	硬組織形成誘導作用			精製白糖/ホビドンヨード	外-1	軟膏剤	1日1~2回	ユーバスター/イワデクト	
			熱傷等の壞死組織除去等	壞死組織除去作用			ベンダザック	外-1	軟膏剤	1日数回	ジルダザック	
							水酸化カルシウム	外-1	液剤		石灰水	
							プロメライン	外-1	軟膏剤		プロメライン軟膏	

269 その他の外皮用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の外皮用剤	乾癬	表皮細胞増殖抑制/分化誘導作用			テトラン誘導体	エトレチナート	内-1	カプセル剤	1日1～3回	チガソン	
		局所療法で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬	ホスホジエステラーゼ4(PDE4)阻害作用			アブレミラスト	内-1	錠剤	1日2回	オテズラ錠		
		白斑	光感受性増強作用			メトキサレン	内-1	錠剤	1日20mg2時間後日光浴等	オクソラレン		
3	その他の外皮用剤	白斑	光感受性増強作用			メトキサレン	外-1	軟膏剤 液剤	塗布し、1～2時間後日光浴等	オクソラレン		
		尋常性ざ瘡	毛包上皮細胞異常角化抑制作用			アダパレン	外-1	ゲル剤	1日1回塗布	ディフェリングル		
			角層剥離作用/抗菌作用			過酸化ベンゾイル	外-1	ゲル剤	1日1回塗布	ベピオゲル		
			配合剤(タンパク合成阻害作用+角層剥離作用／抗菌作用)		配合剤	クリンダマイシンリン酸エヌステル水和物／過酸化ベンゾイル	外-1	ゲル剤	1日1回塗布	デュック配合ゲル		
			配合剤(毛包上皮細胞異常角化抑制作用+角層剥離作用／抗菌作用)		配合剤	アダパレン／過酸化ベンゾイル	外-1	ゲル剤	1日1回塗布	エビデュオゲル		
		がん性皮膚潰瘍部位の殺菌・臭気の軽減	核酸(DNA)障害作用			メトロニダゾール	外-1	ゲル剤	1日1～2回塗布	ロゼックスゲル		

270-279 歯科用薬剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	歯科用局所麻酔剤	歯科領域における浸潤麻酔・伝達麻酔	局所麻酔作用	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用	アニリド系	メビパカイン塩酸塩	注-1	注射薬			
							リトカイン塩酸塩／エピネフリン酒石酸水素塩	注-1	注射薬	オーラ		
							リドカイン塩酸塩／アドレナリン	注-1	注射薬	キシレステシンA		
							プロピトカイン塩酸塩／フェリフレン	注-1	注射薬	歯科用シタネストーオクタブレシン		
3	歯科用局所麻酔剤	歯科領域における表面麻酔	局所麻酔作用	神経遮断作用	活動電位伝導抑制作用	エステル型	アミノ安息香酸エチル	外-1	セリー液剤	ビーゾカイン		
			配合剤(局所麻酔作用)			配合剤	アミノ安息香酸エチル／ハラチルアミノ安息香酸ジエチル／エチル塩酸塩	外-1	バスター剤	ハリケイン		
							アミノ安息香酸エチル／ジアカイン塩酸塩	外-1	軟膏剤	ネオザロカインバスター		
	歯科用殺菌剤	慢性辺縁性歯周炎	主として一般細菌に作用	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)に作用	蛋白合成阻害作用	テトラサイクリン系	ミノサイクリン塩酸塩	外-1	軟膏剤	プロネスバスタアロペリオクリン		
		拔歯創等の感染予防					テトラサイクリン塩酸塩	外-8	トローチ	オキシテトラコーン		
							オキシテトラサイクリン塩酸塩	外-8	錠剤	アクロマイシントロチ		
						アミグリコシド系	フルオロマツイン硫酸塩	外-8	含嗽剤	デンターグルF		
							ベンゼトニウム塩化物	外-8	含嗽剤	デステリンググリーン		
			配合剤(殺菌作用+抗炎症作用)	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)/真菌	細胞内皮系機能抑制作用+蛋白合成阻害作用	配合剤	エビシビドロコレステリン/テトラサイクリン塩酸	外-1	軟膏剤	テトラサイクリン・ブルステロン歯科用軟		
	その他の歯科口腔用薬	辺縁性歯周炎	配合剤(抗炎症作用+抗菌作用+鎮痛作用)			配合剤	ヒドロコルチゾン酢酸エチル/ヒノキオール	外-1	軟膏剤	ヒノボロン		
			配合剤(殺菌作用+抗炎症作用)	細胞破壊作用+抗ヒスタジン作用		配合剤	クロルヘキシジン塩酸塩/ジフェンヒドラミン	外-1	軟膏剤	デスバコーワ		
		口内炎	主として一般細菌に作用	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)に作用	蛋白合成阻害作用	テトラサイクリン系	テトラサイクリン塩酸塩	外-8	トローチ剤	アクロマイシン		
			抗炎症/鎮痛作用	ステロイド受容体と結合		ステロイド	トリアムシノロンアセトニド	外-1 外-5	軟膏剤 貼付剤	ロートローチ		
							デキサメタゾン	外-1	軟膏剤	アフタッヂ		
							ベクロメタゾンプロピオニ酸エチル	外-2	噴霧剤	デキサルチゾン/アフタゾロン		
										サルコート		
		咽頭炎、扁桃炎/口内炎	抗炎症/創傷治癒促進/抗アレルギー作用				アズレンスルホン酸ナトリウム	外-8	トローチ剤	アズノールST		
			主として一般細菌/真菌に作用	主としてグラム陽性菌(G+)/真菌に作用			セチルビリジニウム塩化物	外-8	トローチ剤	スプロールトローチ		
			主として一般細菌に作用	主としてグラム陽性菌(G+)/グラム陰性菌(G-)に作用	脂肪可溶化/蛋白変性作用	陽イオン界面活性剤	デカリニウム塩化物	外-8	トローチ剤	SPトローチ		
					有機成分(酵素蛋白)酸化分解作用		ドミフェン臭化物	外-8	トローチ剤	オラドール		
										複方ヨード・グリセリン		
		口腔乾燥症	唾液成分の補充					外-1	液剤	複方ヨード・グリセリン		
		歯周疾患の外科的手術後の創面包帯	配合剤(創面保護作用+鎮痛作用)			配合剤	リン酸ニカリウム/無機塩類	外-2	噴霧剤	サリベート		
		歯科領域における手術後の止血	止血作用/創傷充填作用	凝血物形成促進作用			酸化亜鉛/コウジ油	外-1	軟膏剤	サージカルパックN/ペリオドンタルパック		
		口腔粘膜損傷の止血	配合剤(止血作用+局所麻酔作用)			配合剤	酸化セルロース	外-5	貼付剤	デンセル、サージセル		
		歯周炎による歯槽骨の欠損	歯周組織再生促進作用	FGF受容体特異的結合作用			塩化アルミニウム/セチルビリジニウム塩化物	外-1	セリー液剤	歯科用TDゼット・ゼリー歯科用TDゼット		
							トラフェルミン(遺伝子組換え)	外-9	キット	リグロス		

290 その他の個々の器官系用医薬品

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の個々の器官系用医薬品	乳児血管腫	β受容体遮断作用				プロプラノロール塩酸塩	内-4	シロップ剤		ヘマンジオルシロップ小児用	

311-318 ビタミン剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	ビタミン剤	ビタミンA欠乏症	ビタミンA補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導作用		レチノイド	ビタミンA レチノールレバルミチン酸エステル	内-1 内-2	錠剤 末剤	1日2,000~4,000 ビタミンA単位 1日2,000~4,000 ビタミンA単位	チョコラA錠 チョコラA末	
		ビタミンA欠乏症、ビタミンD欠乏症	ビタミンA・D補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導／カルシウム代謝調節作用			肝油(魚由来)	内-3	液剤(油)	1日2,000~4,000 ビタミンA単位(補給)、1日3,000~100,000ビタミンA単位(治療)	チョコラA滴	
		ビタミンD代謝異常、副甲状腺機能低下症	ビタミンD補充作用	カルシウム代謝調節作用		活性型ビタミンD ₃ 活性型ビタミンD ₃ 誘導体	カルシトリオール アルファカルシドール	内-1 内-1 内-2 内-3	カプセル剤 錠剤 散剤 液剤	1日1回 1日1回 1日1回 1日1回	ロカルトロール アルファロール アルファロール アルファロール	
		骨粗鬆症	ビタミンD補充作用	カルシウム代謝調節作用		活性型ビタミンD ₃ 誘導体	エルデカルシトール	内-1	錠剤 カプセル剤	1日1回	エディロール	
		二次性副甲状腺機能亢進症	活性型ビタミンD ₃ 補充作用	副甲状腺ホルモン分泌抑制作用		活性型ビタミンD ₃ 誘導体	ファレカルシトリオール	内-1	錠剤	1日1回	ホーネル錠、フルスタン錠	
		ビタミンB1欠乏症	ビタミンB1補充作用	α-ケトグルタル酸脱炭酸酵素補酵素作用		ビタミンB1(カルボキシラーゼ前駆体) ビタミンB1誘導体	チアミン塩化物塩酸塩 セトチアミン塩酸塩(ジセチアミン塩酸塩) オクトチアミン チアミジスルフィド ビスベンチアミン フルスルチアミン ベンフォチアミン	内-2 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	散剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日1~3回 1日5~100mg 1日25~100mg 1日1~3回 1日5~100mg 1日5~100mg 1日5~100mg	塩酸チアミン散 ジセタミン ノイビタ アクチビン ベストン アリナミンF ハイポン	
		ビタミンB2欠乏症	ビタミンB2補充作用	酸化還元酵素補酵素作用		ビタミンB2	リボフラビン醋酸エステル ビタミンB2補酵素型	内-1 内-2 内-1 内-3	錠剤 細粒剤 錠剤 シロップ剤	1日2~3回 1日2~3回 1日1~3回 1日1~3回	ハイポン ハイポン フランアデニンジヌクレオチド錠 フラン	
		ニコチン酸欠乏症	抗ペラグラ因子補充作用	NAD,NADP:脱水素酵素反応補酵素作用		NAD,NADP前駆体	ニコチン酸アミド	内-2	散剤	1日25~200mg	ニコチン酸アミド散	
		パントテン酸欠乏症	パントテン酸補充作用	CoA:脂肪・タンパク質・炭水化合物代謝補酵素作用		CoA構成成分 CoA前駆体	パントテン酸カルシウム パンテチン	内-2 内-1 内-2	散剤 錠剤 散剤 細粒剤	1日1~3回 1日1~3回 1日1~3回	パントテン酸カルシウム パンテシン パンテシン	
		ビタミンB6欠乏症	ビタミンB6補充作用	アミノ酸・タンパク質代謝補酵素		ビタミンB6	ピリドキシン塩酸塩 ビタミンB6補酵素	内-1 内-2	錠剤 散剤 末剤	1日10~100mg 1日10~100mg	ビタミンB6錠 ビタミンB6散 ピリドキシン塩酸塩原末 ビドキサール	
		葉酸欠乏症	葉酸補充作用	核酸代謝補酵素作用			葉酸	内-1 内-2	錠剤 散剤	1日2~3回 1日2~3回	フォリアミン 葉酸10倍散	

	ビタミンB12欠乏症、巨赤芽球性貧血、悪性貧血に伴う神経障害	ビタミンB12補充作用			ビタミンB12補酵素型	コバマミド	内-1 内-2	カプセル剤 カプセル剤 細粒剤	1日1～3回 1日3回	ハイコバルト	
末梢性神経障害	神經再生促進作用	核酸代謝・ヘム合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	メコバラミン	内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 細粒剤	1日3回 1日3回	メチコバルト メチコバルト		
ビタミンB群、タンパク質の摂取不良	栄養補充作用	ビタミンB・タンパク補給			乾燥酵母	内-2	末剤	1日3回	乾燥酵母エピオス		
ビタミンC欠乏症	ビタミンC補充作用	還元作用			アスコルビン酸	内-2	散剤 顆粒剤 末剤	1日1～数回	ハイシー		
ビタミンE欠乏症、末梢循環障害、過酸化脂質の増加防止	ビタミンE補充作用	抗酸化作用			トコフェロール酢酸エステル	内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 顆粒剤	1日2～3回 1日2～3回	ユベラ トコフェロール酢酸エステル顆粒		
ビタミンK欠乏症	止血機構賦活作用	プロトロンビン合成促進作用		ビタミンK1 ビタミンK2	フィトナジオン メナテレノン メナテレノン(小)	内-1 内-2 内-1 内-3	錠剤 散剤 カプセル剤 シロップ剤	1日5～15mg 1日5～15mg 1日2回 1日1回	ケーワン ケイツー ケイツー		
ビオチン欠乏性湿疹・皮膚炎	皮膚炎改善作用	カルボキシル基転移反応・補酵素作用			ビオチン	内-2 内-3	散剤 シロップ剤	1日1～3回 1日1～3回	ビオチン散 ビオチンドライシロッ		
ビタミン欠乏症	配合剤(ビタミンB群補充作用)	ビタミンB1+B6 +B12作用	配合剤	チアミンジスルフド／ビリドキシン塩酸塩／シアノコバラミン(2) チアミンジスルフド／ビリドキサルリン酸エステル／ビドロキソコバラミン(3) ベンゾチアミン／ビリドキシン塩酸塩／シアノコバラミン(1)	チアミンジスルフド／ビリドキシン塩酸塩／シアノコバラミン(2)	内-1	錠剤	1日1～3回	アリチア		
		ビタミンB1+B2 +B6+B12作用			チアミンジスルフド／ビリドキサルリン酸エステル／ビドロキソコバラミン塩酸塩(1)	内-1	カプセル剤	1日1～3回	O·S·T·ミックス		
		ビタミンB2 +B6作用 ビタミンB2 +B6+ニコチン酸+パンテン酸作用			オクトチアミン／リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩／シアノコバラミン フルスルチアミン塩酸塩／リボフラビン／ビリドキサルリン酸エステル／ビドロキソコバラミン塩酸塩(1)	内-1 内-2	カプセル剤 散剤	1日1～3回 1日0.25～0.75g	ビタミン ビタミン		
		配合剤(ビタミンC補充作用+パンテン酸作用)	配合剤	リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩	リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1～3回	強力ビフロキシン		
		配合剤(ビタミンC補充作用+パンテン酸作用)	配合剤	リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩／ニコチン酸アミド／パンテン酸カルシウム	リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩／ニコチン酸アミド／パンテン酸カルシウム	内-2	顆粒剤	1日1～3回	デルバント		
	配合剤(ビタミン補充作用)	ビタミンA+B1+B2+B6+B12+C+D+E+ニコチン酸+パンテン酸作用	配合剤	アスコルビン酸／パンテン酸カルシウム(1)	アスコルビン酸／パンテン酸カルシウム(1)	内-1 内-2	錠剤 末剤	1日1～3回 1日1～2g	シナール パンビタン		
			配合剤	レチノールハルミチン酸エステル／チアミン硝酸塩／リボフラビン／ビリドキシン塩酸塩／シアノコバラミン／アスコルビン酸／エルゴカルシフェロール／トコフェロール酢酸エスエル／パンテン酸カルシウム／ニコチン酸アミド／葉酸							

2	ビタミン剤	ビタミンA欠乏症	ビタミンA補充作用	網膜機能維持・上皮組織分化誘導作用		レチノイド	レチノールバルミチン酸エステル	注-1	注射薬	1日3,000～100,000ビタミンA単	チヨコラA	
		二次性副甲状腺機能亢進症	活性型ビタミンD3補充作用	副甲状腺ホルモン分泌抑制作用		活性型ビタミンD ₃ 誘導体	マキサカルシトール	注-1	注射薬	1回2.5～10ugを週3回、透析回路静脈側に注入	オキサロール注	
						カルシトリオール	注-1	注射薬	1回0.5～1.5ugを週3回、静注	ロカルトロール注		
		ビタミンB1欠乏症	ビタミンB1補充作用	α-ケトグルタル酸脱炭酸酵素補酵素作用		ビタミンB1	チアミン塩化物塩酸塩	注-1	注射薬	1日1～50mg皮下・筋注又は静注	チアミン塩化物塩酸塩注	
						ビタミンB1誘導体	フルスルチアミン塩酸塩	注-1	注射薬	1日5～100mg静注	アリナミンF	
						チアミジスルフィド	注-1	注射薬	1日5～100mg皮下・筋注又は緩徐に静注	バイオゲン		
						プロスルチアミン	注-1	注射薬	1日10mg静注	アリナミン		
		ビタミンB2欠乏症	ビタミンB2補充作用	酸化還元酵素補酵素作用		ビタミンB2	リボフラビンリン酸エステルナトリウム	注-1	注射薬	1日2～30mg皮下・筋注又は静注	ビスラーゼ	
						ビタミンB2補酵素型	フラビニアデニンジヌクレオチド	注-1	注射薬	1日1～2回皮下・筋注又は静注	フラビタン	
		バントテン酸欠乏症	バントテン酸補充作用	CoA:脂肪・タンパク質、炭水化合物代謝補酵素作用		CoA前駆体	パンテチン	注-1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	バントシン	
						パンテノール	注-1	注射薬	1日1～2回筋注又は静注	バントール		
		ビタミンB6欠乏症		アミノ酸・タンパク質代謝補酵素作用		ビタミンB6	ピリドキシン塩酸塩	注-1	注射薬	1日1～2回皮下・筋注又は静注	アデロキシン	
						ビタミンB6補酵素型	ピリドキサールリン酸エステル	注-1	注射薬	1日1～2回皮下・筋注又は静注	ピロミジン	
		葉酸欠乏症	葉酸補充作用	核酸代謝補酵素作用			葉酸	注-1	注射薬	1日1回皮下又は筋注	フォリアミン	
		ビタミンB12欠乏症、巨赤芽球性貧血、悪性貧血に伴う神経障害	ビタミンB12補充作用	核酸代謝・ヘム合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	ヒドロキソコバラミン酢酸塩	注-1	注射薬	1回1mgまで、筋注又は静注	フレスマシンS	
						シアノコバラミン	注-1	注射薬	1回1mg、皮下注・筋注又は静注	シアノコバラミン		
		末梢性神経障害、ビタミンB12欠乏による巨赤芽球性貧血	ビタミンB12補充作用+神経再生促進作用	核酸代謝・ヘム合成補酵素作用		ビタミンB12補酵素型	メコバラミン	注-1	注射薬	1日1回0.5mg、週3回筋注又は静注	メチコバール	
							キット	注-2	注射薬	1日1回0.5mg、週3回筋注又は静注	ハイトコバミンM注500μgシリンジ	
		ビタミンC欠乏症	ビタミンC補充作用	還元作用			アスコルビン酸	注-1	注射薬	1日1～数回、皮下注・筋注又は静注	ビスコリン	
		ビタミンK欠乏症	止血機構賦活作用	プロトロンビン合成促進作用		ビタミンK2	メナテレノン	注-1	注射薬	1日1回10～20mg、静注	ケイツーN静注	
		ビオチン欠乏性湿疹・皮膚炎	ビオチン補充作用	カルボキシル基転移反応補酵素作用			ビオチン	注-1	注射薬	1日0.5～2mg皮下・筋注又は静注	ビオチン	

ビタミン欠乏症	配合剤(ビタミンC+L-システィン補充作用)	ビタミンC+チオール酵素(SH酵素) 賦活作用		配合剤	アスコルビン酸/L-システィン	注-1	注射薬	1日1~2回、皮下、筋注又は静注	クリストファン	
	配合剤(ビタミンB1+B2+C補充作用)	ビタミンB1+B2+C作用		配合剤	チアミン塩酸塩/リボラビンリン酸 エステルナトリウム/アスコルビン酸	注-1	注射薬	1日5~10mLを糖液等に混じ、静注又は点滴静注	ビスコン	
	配合剤(ビタミンB群補充作用)	ビタミンB1+B6+B12作用		配合剤	チアミン塩酸塩/ピリドキシン塩酸塩 /シアノコバラミン	注-1	注射薬	1日1回2mL、皮下、筋注又は静注	ダビタミックス	
					チアミンジスルフィド/ピリドキシン塩酸塩/ヒドロキソコバラミン酢酸塩	注-1	注射薬	1日1回10mLを緩徐に静注	ネオラミン・スリービー	
					チアミンモノスフェトイジスルフィド/ピリドキシン塩酸塩/シアノコバラミン	注-1	注射薬	1日1バイアル、緩徐々に静注又は点滴静注	ビタメジン	
	配合剤(ビタミン類補充作用)	ビタミンB1+B2+B6+ニコチン酸+パンテノン酸+ビタミンC作用		配合剤	チアミン塩酸塩/リボラビンリン酸 エステルナトリウム/ピリドキシン塩酸塩/ニコチン酸アミド/パンテノール/アスコルビン酸	注-1	注射薬	1日1~3回、皮下、筋注又は静注	シーバラ	
高カロリー静脈栄養時のビタミン補給	配合剤(ビタミン類補充作用)			配合剤	ビタミンA/ビタミンB1/ビタミンB2/ニコチン酸/パンテノン酸/ビタミンB6/葉酸/ビタミンB12/ビタミンC/ビタミンD/ビタミンE/ビオチン/ビタミンK(2)	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	オーツカMV注	
					ビタミンA/ビタミンB1/ビタミンB2/ニコチン酸/パンテノン酸/ビタミンB6/葉酸/ビタミンB12/ビタミンC/ビタミンD/ビタミンE/ビオチン/ビタミンK(6)	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	マルタミン	
					ビタミンA/ビタミンB1/ビタミンB2/ニコチン酸/パンテノン酸/ビタミンB6/葉酸/ビタミンB12/ビタミンC/ビタミンD/ビタミンE/ビオチン/ビタミンK(4)(7)	注-1	注射薬	1日1回、点滴静注	オーツカMV注、マルタミン注射用	
						注-2	キット	1日1回、点滴静注	ビタジェクト	

124・321・322・331 無機質製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	無機質製剤	低カルシウム血症	カルシウムの補給			カルシウム製剤	乳酸カルシウム グルコン酸カルシウム 塩化カルシウム L-アスパラギン酸カルシウム リン酸水素カルシウム	内-2 内-2 内-2 内-1 内-2	末剤 末剤 末剤 錠剤 末剤		乳酸カルシウム カルチコール 塩化カルシウム アスパラーカーCA リン酸水素カルシウム	
		RANKL阻害剤(デノスマブ(遺伝子組換)等)投与に伴う低カルシウム血症	カルシウムの補給(ビタミンD補充療法)				沈降炭酸カルシウム/コレカルシフェロール/炭酸マグネシウム	内-1	錠剤		デノタスチュアブル配合錠	
		甲状腺腫、甲状腺機能低下症	ヨードの補給			ヨウ素製剤	ヨウ化カリウム ヨウ素レシチン	内-1 内-1 内-2	丸剤 錠剤 散剤		ヨウ化カリウム ヨウレチン	
		鉄欠乏性貧血	鉄の補給				硫酸鉄 フマル酸第一鉄 溶性ビロリン酸第二鉄 クエン酸第一鉄ナトリウム	内-1 内-1 内-3 内-1 内-2	錠剤 カプセル剤 シロフ剤 錠剤 顆粒剤		フェロ・グラデュメット フェルム インクレミン フェロミア	
		低カリウム血症				カリウム製剤	塩化カリウム 酢酸カリウム L-アスパラギン酸カリウム グルコン酸カリウム	内-1 内-2 内-3 内-3 内-1 内-2	錠剤 末剤 液剤 液剤 錠剤 錠剤		塩化カリウム徐放錠 酢酸カリウム液 アスパラK グルコンサンK	
		脱水症等における電解質の補給	配合剤(水分、カリウム、マグネシウムの補給)				ナトリウム/カリウム/マグネシウム	内-2	顆粒剤		ソリターT	
		低カリウム状態におけるカリウム補給	配合剤(カリウム、マグネシウムの補給)				アスパラギン酸カリウム/マグネシウム	内-1	錠剤		アスパラ	
		低リン血症	配合剤(リンの補充)				リン酸二水素ナトリウム-水和物／無水リン酸水素二ナトリウム	内-2	顆粒剤		ホスリポン配合顆粒	

2	無機質製剤	低カルシウム血症	カルシウムの補給		カルシウム製剤	グルコン酸カルシウム 塩化カルシウム	注-1 注-1	注射薬 注射薬		カルチコール	
		鉄欠乏性貧血	鉄の補給		鉄製剤	含糖酸化鉄 カルボキシマルトース第二鉄	注-1 注-1	注射薬 注射薬		塩カル フェジン フェインジェクト静注	
		低カリウム血症	カリウムの補給		カリウム製剤	塩化カリウム L-アスパラギン酸カリウム	注-1 注-1 注-2	注射薬 注射薬 キット		K. C. L. アスパラK アスパラギン酸カリウム注10mEqキット「テルモ」(10mL)	
		低マグネシウム血症 低セレン血症	マグネシウムの補給 セレンの補給		マグネシウム製剤 セレン製剤	硫酸マグネシウム 亜セレン酸ナトリウム	注-1 注-1	注射薬 注射薬		硫酸Mg補正液 アセレンド注	
		電解質補液の電解質補正	リン酸の補正 ナトリウムの補正		リン酸塩 ナトリウム製剤	リン酸二カリウム 塩化ナトリウム 乳酸ナトリウム	注-2 注-1 注-2	キット 注射薬 キット		リン酸2カリウム注 10%塩化ナトリウム注射液	
		カリウムの補正		カリウム製剤	塩化カリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		コンクライト-L コンクライト-K KCL注10mEqキット「テルモ」(10mL) KCL注20mEqキット「テルモ」(20mL)		
		低クロルアルカロースの是正		アンモニウム製剤	塩化アンモニウム	注-1	注射薬		コンクライトA		
		低カリウム状態におけるカリウム補給	配合剤(カリウム、マグネシウムの補給)	配合剤	アスパラギン酸カリウム/マグネシウム	注-1	注射薬		アスパラ		
		高カロリー静脈栄養時の亜鉛、鉄、銅、マンガン、ヨウ素の補	配合剤(微量元素の補給)	配合剤	塩化マンガン/硫酸亜鉛	注-1 注-2	注射薬 キット		エレメンミック 塩化マンガン・硫酸亜鉛配合キット		
		アシドーシス	アシドーシス改善作用	酸性物質の中和作用		炭酸水素ナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		メイロン	
			配合剤(アシドーシス改善作用)	血中CO ₂ 減少作用	配合剤	トロメタモール/塩化ナトリウム/塩化カリウム/氷酢酸	注-1	注射薬		サムセット	

323 糖類剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	糖類剤	経口的栄養補給, ブドウ糖負荷試験	経口的栄養補給, ブドウ糖負荷試験			六炭糖	ブドウ糖	内-2	末剤		ブドウ糖	
2	糖類剤	脱水症, 低血糖等	水・エネルギー補給			六炭糖	ブドウ糖	注-1 注-2	注射薬 キット		糖液 メディジェクト	
		注射剤の溶解希釈剤				六炭糖	ブドウ糖(5%)	注-2	キット		糖液キット5%	
		糖尿病等のエネルギー補給	水・エネルギー補給			六炭糖 二糖類 五炭糖アルコール	果糖 マルトース キシリトール	注-1 注-1 注-1 注-2	注射薬 注射薬 注射薬 キット		レボーゼ マルトス-10 キリット/キシリット	

325 たん白アミノ酸・脂肪製剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	たん白アミノ酸・脂肪製剤	低タンパク血症等におけるアミノ酸補給				アミノ酸	総合アミノ酸製剤	内-2	顆粒剤		ESポリタミン配合顆粒	
		低タンパク血症等における腎不全時のアミノ酸補給				アミノ酸	腎不全用アミノ酸製剤	内-2	顆粒剤		アミュー配合顆粒	
		末代償性肝硬変患者の低アルブミン血症改善				分岐鎖アミノ酸	イソロイシン/ロイシン/バリン	内-2 内-3	顆粒剤 ゼリー		リーバクト配合顆粒 リーバクト配合経口ゼリー	
		栄養管理				経腸栄養剤	消化態	内-2	散剤		エレンタールP乳幼児用配合内用剤	
								内-2	散剤		エレンタール配合内用剤	
								内-3	液剤		ツインラインNF配合経腸用	
							半消化態	内-3	液剤		エンジニアリキッド	
								内-3	半固体剤		ラコールNF配合経腸用半固体剤	
								内-3	液剤		ラコールNF配合経腸用液	
								内-3	液剤		エネーボ配合経腸用液	
								内-3	液剤		イノラス配合経腸用液	
							肝不全用成分栄養剤	内-2	散剤		アミノレバパン配合散 ヘパンED配合内用剤	
2	たん白アミノ酸・脂肪製剤	慢性肝障害時における脳症の改善				アミノ酸	肝不全用アミノ酸製剤	注-1	注射薬		アミノレパン点滴静注	
		モリヘパン点滴静注										
		低タンパク血症等における腎不全時のアミノ酸補給				アミノ酸	腎不全用アミノ酸製剤	注-1	注射薬		キドミン輸液	
		ネオアミュー輸液										
		ルテチウムオキソドトレオチド(¹⁷⁷ Lu)による腎被曝の低減				アミノ酸	L-リシン/L-アルギニン	注-1	注射薬		ライザケア輸液	
		低タンパク血症等におけるアミノ酸補給	配合剤			配合剤	小児用高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤	注-1	注射薬		プレアミンP注射液	
		モリプロンF輸液					高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤	注-1	注射薬			
		ハイ・プレアミンS					総合アミノ酸製剤(ソルビトール加)	注-1	注射薬			
		プラスアミノ輸液					総合アミノ酸製剤(フードウ糖加)	注-1	注射薬			
		ツインパル輸液										
3	たん白アミノ酸・脂肪製剤	低タンパク血症等におけるアミノ酸・電解質・水分の補給	配合剤			配合剤	アミノ酸/糖/電解質	注-2	キット		ビーフリード輸液	
		アミグランド輸液					アミノ酸/糖/電解質/ビタミンB1	注-2	キット		パレセーフ輸液	
		パレプラス輸液					アミノ酸/糖/電解質/水溶性ビタミン	注-2	キット			
		エネフリード輸液					アミノ酸/糖/電解質/ビタミン/脂肪	注-2	キット			
		ビーエヌツイン1号輸液										
4	たん白アミノ酸・脂肪製剤	経中心静脈栄養の場合のアミノ酸・電解質・水分・カロリー補給	配合剤			配合剤	アミノ酸/糖/電解質	注-2	キット		フルカリック1号輸液	
		ネオパレン1号輸液					アミノ酸/糖/電解質/ビタミン	注-2	キット		エルネオバNF1号輸液	
		ワンパル1号輸液						注-2	キット		ワンパル2号輸液	
		ワンパル2号輸液						注-2	キット		イントラリビッド輸液 イントラロス輸液	
5	たん白アミノ酸・脂肪製剤	術前術後、急・慢性消化器疾患等における栄養補給	熱量・必須脂肪酸補給			ダイズ脂肪	ダイズ油注射液	注-1	注射薬			

327 特殊ミルク製剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	特殊ミルク製剤	フェニルケトン尿症					フェニルアラニン除去ミルク	内-2	末剤		フェニルアラニン除去ミルク	
		メープルシロップ尿症					ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク	内-2	末剤		ロイシン・イソロイシン・バリン除去ミルク	

331 血液代用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	血液代用剤	注射剤の溶解希釈/細胞外液の欠乏 細胞外液の補給 細胞外液の補給/代謝性アシドーシス補正					生理食塩液 リンゲル液 乳酸リンゲル液 ブドウ糖加 ソルビトール加 マルトース加 酢酸リンゲル液 ブドウ糖加	注-1 注-2	注射薬 キット		生食注 生食注TN リンゲル液 ラクテック ラクテックD ラクテックG ラクトリンゲルM ヴィーンF ヴィーンD	
	血漿增量	血漿增量作用/末梢血管血流改善作用	粘稠度低下作用			デキストラン製剤	デキストラン40/乳酸リンゲル デキストラン40/ブドウ糖	注-1	注射薬		低分子デキストランL サヴィオゾール 低分子デキストラン糖注	
			粘稠度低下作用/浸透圧維持作用				ヒドロキシエチルデンプン70000 ヒドロキシエチルデンプン130000	注-1	注射薬		サリンヘス、ヘスパンダー ボルベン輸液	
	水分/電解質の補給						開始液 脱水補充液 低濃度糖 高濃度糖 維持液(複合糖加) 電解質高張	注-1	注射薬		KN補液1A, 1B KN補液2A, 2B KN補液3A, 3B KN補液MG3 トリフリード ソリタックス-H KN補液4A, 4B クリニザルツB, S	

332 止血剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	止血剤	出血傾向・出血	止血作用	毛細管抵抗増強作用	血管透過性抑制作用		カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム	内-1 内-2 内-2	錠剤 散剤 細粒		アドナ	
				抗プラスミン作用			トラネキサム酸	内-1 内-1 内-2 内-2 内-3 内-4	錠剤 カプセル剤 散剤 細粒剤 シロップ シロップ		トランサンミン	
		上部消化管出血	止血作用	トロンビン作用			トロンビン	内-2	細粒剤		トロンビン	
2	止血剤	出血傾向/出血	止血作用	毛細管抵抗増強作用	血管透過性抑制作用		カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム	注-1	注射薬		アドナ	
				抗プラスミン作用			トラネキサム酸	注-1 注-2	注射薬 キット		トランサンミン 10%トランサンボン注 シリソジ	
				トロンビン様作用		酵素	ヘモコアグラーーゼ	注-1	注射薬		レブチラーゼS	
		ヘパリン過量投与時の中和	ヘパリン拮抗作用	ヘパリン拮抗作用		強塩基性ポリペ ブチド	プロタミン硫酸塩	注-1	注射薬		硫酸プロタミン	
				食道静脈瘤	血管内皮細胞障害作用		モノエタノールアミノオレイン酸塩	注-1	注射薬		オルダミン	
				一次性下肢静脈瘤(伏在静脈瘤の 本幹を除く)硬化退縮	止血作用	血管内皮細胞障害作用/組 織纖維化作用	ポリドカノール	注-1	注射薬		ポリドカスクレロール	
3	止血剤	出血	止血作用	トロンビン作用			トロンビン	外-1 外-9	ハウダー剤 キット		トロンビン トロンビン液モチダソ フトボトル	
				出血部位被覆作用、血小板 機能亢進作用、フィブリン形 成促進作用、赤血球凝集作 用		アルギン酸系	アルギン酸ナトリウム	外-1	ハウダー剤		アルト	
		止血、創腔充填	止血作用	凝結塊形成作用		セルロース系	酸化セルロース	外-5	貼付剤		オキシセル/サージ セル	
		止血、褥瘡潰瘍	止血/癒着防止作用				ゼラチン	外-5	貼付剤		スポンゼル、ゼル フォーム	

333·339 血液凝固·血小板凝集阻止劑

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	血液凝固・血小板凝集阻止剤	血栓塞栓症	血液凝固阻止作用	抗ビタミンK作用		クマリン系	ワルファリンカリウム 内-1 内-2	錠剤 顆粒剤		ワーファリン		
		非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	血液凝固阻止作用	直接トロンビン阻害作用			ダビガトランエキシラート メタンスルホン酸塩	内-1	カプセル剤	プラザキサ		
		下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制	血液凝固阻止作用	第Xa因子阻害作用			リバーロキサバン	内-1 内-1 内-2	錠剤 錠剤 細粒剤	イグザレルト錠 イグザレルトOD錠 イグザレルト細粒分包		
							内-3	ドライシロップ剤		イグザレルト小児用ドライシロップ		
							アピキサバン	内-1	錠剤	エリキュース錠		
							エドキサバントシリ酸塩水和物	内-1	錠剤	リクシアナ錠		
		慢性動脈閉塞症に伴う虚血性諸症状の改善/心臓弁置換後の血栓・塞栓の抑制	血小板凝集抑制作用	ADP受容体拮抗作用			チクロビジン塩酸塩	内-1	錠剤	バナルジン錠		
		虚血性脳血管障害(心原性脳塞栓症を除く)後の再発抑制 経皮的冠動脈形成術が適用される虚血性心疾患					内-2	細粒剤		バナルジン細粒		
							クロビドグレル硫酸塩	内-1	錠剤	プラビックス錠		
							プラスグレル塩酸塩	内-1 内-1	錠剤 錠剤	エフィエント錠 エフィエントOD錠		
							チカグレロル	内-1	錠剤	ブリリナタ錠		
		慢性動脈閉塞症に伴う虚血性諸症状の改善/心臓弁置換後の血栓・塞栓の抑制	プロスタグランジンI2放出促進・増強作用				ジビリダモール	内-1 内-1	錠剤 カプセル剤	ベルサンチン錠 ベルサンチン-Lカプセル		
			血小板凝集抑制作用/血管拡張作用	アデニルシクラーゼ増加作用		PGI2誘導体	ベラプロストナトリウム	内-1	錠剤	トルナー錠 プロサイリン錠		
						PGE1誘導体	リマプロストアルファデクス	内-1	錠剤	オバルモン錠		
				EPA含量増加作用		EPA	イコサヘント酸エチル	内-1	カプセル剤	エバデールS		
				5HT2受容体拮抗作用			サルボグレラート塩酸塩	内-1 内-2	錠剤 細粒剤	アンプラーグ錠 アンプラーグ細粒		
				ホスホ-エステラーゼ阻害作用			シロスタゾール	内-1 内-2 内-3	錠剤 散剤 ゼリー	プレタール		
		狭心症等の血栓形成抑制	血小板凝集抑制作用	トロンボキサンA2産生抑制作用	シクロオキシゲナーゼ阻害作用		アスピリン	内-1	錠剤	バイアスピリン錠		
			配合剤(血小板凝集抑制作用)			配合剤	アスピリン/ダイアルミニネー	内-1	錠剤	バファリン配合錠A81		
		経皮的冠動脈形成術が適用される虚血性心疾患	配合剤(血小板凝集抑制作用/血小板凝集抑制作用)	トロンボキサンA2産生抑制作用/ADP受容体拮抗作用		配合剤	アスピリン/クロビドグレル硫酸塩	内-1	錠剤	コンプラビン配合錠		
		狭心症等の血栓形成抑制(胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の既往がある患者に限る)	配合剤(血小板凝集抑制作用/胃酸分泌抑制作用)	トロンボキサンA2産生抑制作用/プロトンポンプ阻害作用		配合剤	アスピリン/ラノソブラゾール	内-1	錠剤	タケルダ配合錠		
							アスピリン/ボノフラザンフマル酸塩	内-1	錠剤	キャブリーン配合錠		
		待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患者における血小板減少症の改善	トロンボポエチン受容体刺激作用				ルストロンボバグ	内-1	錠剤	ムルブレタ錠		

2	血液凝固・血小板凝集阻止剤	採取血液の凝固防止	血液凝固阻止作用 血液凝固因子活性阻害作用 /アンチトロンビンⅢ結合作用	血液凝固第IV因子(カルシウムイオン)捕捉作用		オキシカルボン酸系	輸血用ケエン酸ナトリウム	注-1	注射薬		チトラミン		
汎発性血管内血液凝固症(DIC)				血液凝固因子活性阻害作用 /アンチトロンビンⅢ結合作用	非選択的X _a 及びトロンビン阻害	未分画ヘパリン	ヘパリンカルシウム	注-1	注射薬	キット	ヘパリン		
							ヘパリンナトリウム	注-1	注射薬		ノボ・ヘパリン		
					選択的X _a 阻害	低分子ヘパリン	ダナバロイドナトリウム	注-1	注射薬		オルガラン		
下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制				トロンビン活性阻害作用、ブロテインC活性化作用	アンチトロンビンⅢ非依存性 血液凝固阻止作用	糖蛋白質	トロンボモデュリン アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		リコモジュリン		
				アンチトロンビンⅢ結合作用	選択的X _a 阻害		フォンダバリヌクスナトリウム	注-1	注射薬		アリクストラ		
						低分子ヘパリン	エノキサバリンナトリウム	注-2	キット		クレキサン皮下注キット		
液体体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析)						低分子ヘパリン	ダルテバリンナトリウム	注-1	注射薬		フラグミン		
							バルナバリンナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		ダルテバリンNaシリ ンジ5000「HK」 ローヘバ ローヘバ注シリジ		

339 その他の血液・体液用薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	その他の血液・ 体液用薬	放射線による白血球減少症	白血球増加作用	白血球減少抑制作用			アデニン	内-1	錠剤		ロイコン	
			造血機能回復効果	血液幹細胞増加作用			セファランチン	内-1 内-2	錠剤 末剤		セファランチン	
		腎性貧血(透析施行中等を含む)	赤血球増加作用	低酸素誘導因子-プロリン水酸化酵素(HIF-PH)阻害作用			ロキサデュstatt	内-1	錠剤		エペレンゾ錠	
							ダブロデュstatt	内-1	錠剤		ダーブロック錠	
							バダデュstatt	内-1	錠剤		バフセオ錠	
							エナロデュstatt	内-1	錠剤		エナロイ錠	
							モリデュstattナトリウム	内-1	錠剤		マスレッド錠	
		放射線・抗がん剤投与等による白血球減少症	白血球増加作用	CSFの内因的な誘導促進作用			結核菌熱水抽出物	注-1	注射薬		アンサー	
							アデニン	注-1	注射薬		ロイコン	
		抗がん剤投与等による好中球減少症	造血機能回復作用	血液幹細胞増加作用		G-CSF	セファランチン	注-1 +L2	注射薬 キット		セファランチン	
							フィルグラスマチム(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		グラン	
							レノグラスマチム(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ノイトロジン	
2	その他の血液・ 体液用薬	自家末梢血幹細胞移植のための造血幹細胞の末梢血中への動員促進	CXCケモカイン受容体4拮抗作用			ベグ化G-CSF	ベグフィルグラスマチム(遺伝子組換え)	注-2	キット		ジーラスター皮下注	
							プレリキサホル	注-1	注射薬		モソビル皮下注	
		腎性貧血(透析施行中等を含む)	赤血球増加作用	造血前駆細胞に対するコロニー形成亢進作用		ヒトエリスロボエチン	エボエチナルファ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		エスパー	
							エボエチナベータ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		エボジン	
							ダルベボエチナルファ(遺伝子組換え)	注-2	キット		ネスブ注射液ブライジング	
							エボエチナベータベゴル(遺伝子組換え)	注-2	キット		ミルセラ注シリジンジ	
		穿頭・開頭手術時の洗浄、脊髄疾患手術時の洗浄及び神経内視鏡手術時の灌流	配合剤			配合剤	ブドウ糖・塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化マグネシウム・塩化カルシウム水和物・リン酸二水素カリウム・炭酸水素ナトリウム	注-2	キット		アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液	
		ダビガトランの抗凝固作用の中和	血液凝固阻止剤の中和作用	ダビガトランの中和作用			イダルシズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		プリズバインド	
		直接作用型第Xa因子阻害剤投与中の患者における、生命を脅かす出血又は止血困難な出血の発現時の抗凝固作用の中和	直接作用型第Xa因子阻害剤の無効化作用				アンデキサネットアルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		オンデキサ	

341 人工腎臓用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	人工腎臓用剤	急性・慢性腎不全	透析原理による血液浄化	重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正		Ca高濃度		注-1	透析ろ過用剤		キンダリー透析剤AF1号 キンダリー透析剤AF1P	
					ブドウ糖添加による透析液の浸透圧上昇	Ca中間濃度～高濃度(又はCa通常濃度～高濃度)		注-1	透析ろ過用剤		キンダリー透析剤AF2号 キンダリー透析剤AF2P号 キンダリー透析剤2E	
								注-1	透析ろ過用剤		AK-ソリタ透析剤・DL AK-ソリタ透析剤・DP	
								注-1	透析ろ過用剤		Dドライ透析剤3. OS	
								注-1	透析ろ過用剤		リンパック透析剤TA3 リンパック透析剤TA5	
						Ca低濃度		注-1	透析ろ過用剤		カーポスター透析剤・L カーポスター透析剤・M カーポスター透析剤・P	
								注-1	透析ろ過用剤		キンダリー透析剤AF3号 キンダリー透析剤AF3P号 キンダリー透析剤3D	
								注-1	透析ろ過用剤		AK-ソリタ透析剤・FL AK-ソリタ透析剤・FP	
								注-1	透析ろ過用剤		Dドライ透析剤2. 5S	
								注-1	透析ろ過用剤		リンパック透析剤TA1	
						Ca中間濃度(又はCa通常濃度)		注-1	透析ろ過用剤		キンダリー透析剤AF4号 キンダリー透析剤AF4P号 キンダリー透析剤4D	
								注-1	透析ろ過用剤		Dドライ透析剤2. 75S	
								注-1	透析ろ過用剤		キンダリー透析剤AF5号 キンダリー透析剤AF5P号	
			ろ過と液補充による血液浄化	重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正/血清電解質濃度の是正				注-1	透析ろ過用剤		バイフィル透析剤 バイフィル専用炭酸水素ナトリウム補充液1.39%	
				重炭酸による体液の酸塩基平衡の是正				注-1	透析ろ過用剤		サプラッド血液ろ過用補充液BSG	

342 腹膜透析用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	腹膜透析用剤	急性・慢性腎不全	ブドウ糖低濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ダイアニール1.5	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート360	
					Mg低濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル15A	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル15A	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート360LCa	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート360LCa	
					Mg低濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル15B	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル15B	
			ブドウ糖中濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ダイアニール2.5	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート400	
					Mg低濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル25A	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル25A	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート400LCa	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート400LCa	
					Mg低濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル25B	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ガンプロソル25B	
			ブドウ糖高濃度	Ca通常濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ダイアニール4.25	
								注-1	透析ろ過用剤		ペリソリタG	
				Ca低濃度	Mg通常濃度	排尿用バッグなし		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート460LCa	
						排尿用バッグ付き		注-1	透析ろ過用剤		ペリセート460LCa	
			慢性腎不全	膠質浸透圧物質による浸透圧		排液用バッグなし	ヨテキストリン配合剤	注-1	透析ろ過用剤		エクストラニール	
						排液用バッグ付き	ヨテキストリン配合剤	注-1	透析ろ過用剤		エクストラニール	

391 肝臓疾患用剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	肝臓疾患用剤	高ビリルビン血症(閉塞性黄疸を除く)における肝機能の改善	虚血、低酸素条件下で肝機能恒常性維持作用				アミノエチルスルホン酸	内-2	散剤	1日3回	タウリン散「大正」	
		慢性肝疾患における肝機能の改善	代謝改善、重金属解毒作用	チオール基による代謝障害阻止作用／肝臓保護作用／抗アレルギー作用			チオプロニン	内-1	錠剤	1日3回	チオラ錠100	
		肝解毒機能増強作用／抗脂肝作用／肝細胞再生促進作用				ジクロロ酢酸ジイソプロビルアミン散	内-1	錠剤	1日2～3回	リバオール		
		細胞内酵素活性維持作用／細胞内脂質異常改善作用／血中タンパク分画改善作用				ポリエンホスファチルコリン	内-1	カプセル剤	1日3回	EPL		
		肝実質細胞保護作用／肝実質再生促進作用				肝臓加水分解物	内-1	錠剤	1日3回	レナルチン腸溶錠		
		HBe抗原陽性B型慢性肝炎におけるウイルスマーカーの改善	免疫賦活作用	ウイルス感染細胞破壊作用／抗体産生能増強による抗原排除促進作用			プロバゲルマニウム	内-1	カプセル剤	1日3回	セロシオン	
		高アンモニア血症	血中アンモニア低下作用	腸管内pH低下作用／アンモニア生成吸収抑制作用			ラクツロース	内-2	散剤	1日3回	モニラック	
							内-3	シロップ剤	1日3回	ラクツロース・シラップ「日研」		
						内-3	ゼリー	1日3回	カロリールゼリー			
			配合剤(血中アンモニア增加抑制作用)	血中アンモニア濃度調整作用	配合剤	L-アルギニン／L-アルギニン塩酸塩	内-2	末剤	1日3回	ポルトラック		
		尿素サイクル異常症	血中アンモニア增加抑制作用	血中アンモニア濃度調整作用		フェニル酪酸ナトリウム	内-1	顆粒剤	1日3～6回	ブフェニール錠		
		N-アセチルグルタミン酸合成酵素欠損症、イソ吉草酸血症、メチルマロン酸血症、プロピオノ酸血症による高アンモニア血症	カルバモイルレリン酸合成酵素I活性化作用	血中アンモニア濃度調整作用		カルグルミン酸	内-2	顆粒剤	1日3～6回	ブフェニール顆粒		
		肝性脳症における高アンモニア血症の改善	核酸(RNA)合成阻害作用			リファキシミン	内-1	錠剤	1日3回	リフキシマ錠		
2	肝臓疾患用剤	小児ストロフルス、湿疹・皮膚炎、尋麻疹、皮膚そう痒症、口内炎、フリケン、薬疹・中毒疹。慢性肝疾患における肝機能異常の改善	配合剤(抗炎症作用／解毒作用／抗ウイルス作用+偽アルドステロン症抑制作用)			配合剤	グリチルリチン／グリシン／システィン	注-1	注射薬	1日1回静注	強力ネオミノファーゲンシー	
		高アンモニア血症	血中アンモニア低下作用	肝アルギナーゼ活性化作用		グルタミン酸アルギニン	注-1	注射薬	1日1回静注			
			血中アンモニア增加抑制作用	血中アンモニア代謝促進作用		塩酸L-アルギニン	注-1	注射薬	1時間以上かけて点滴静注			
		慢性肝疾患における肝機能の改善	肝再生(肝細胞増殖)促進作用／抗脂肝作用			胎盤加水分解物	注-1	注射薬	1日1回皮下又は筋注	ラエンネット		
		細胞成分の保護、活性化作用	酸化還元反応への関与	還元型グルタチオン	グルタチオン	注-1	注射薬	1日1回筋注又は静注		グルタチオン		
		配合剤(蛋白質合成促進作用+肝組織血流増加作用+生体内代謝亢進作用)		配合剤	肝臓エキス／フラビンアデニンジヌクレオチド	注-1	注射薬	1日1～2回皮下、筋又は静注		アデラビン		
		肝類洞閉塞症候群(肝中心靜脈閉塞症)	血管内皮細胞保護作用			デフィプロチドナトリウム	注-1	注射薬	1日4回静注	デファイテリオ		

392 解毒剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	解毒剤	鉛中毒	鉛中毒解毒作用	鉛イオンとキレート形成			エデト酸カルシウム ニナトリウム	内-1	錠剤	1日2~3回	ブライアン錠	
		薬物中毒、アセトン血性嘔吐症(自家中毒、周期性嘔吐症)、金属中毒、妊娠悪阻、晚期妊娠中毒	薬物中毒解毒作用	助酵素的応、メルカブツール酸の生成／その他の解毒機構への関与／SH酵素・その他の細胞成分の保護活性化／酸化還元反応への関与		還元型グルタチオン	グルタチオン	内-1	錠剤	1日1~3回	タチオン	
		薬物中毒(アセトアミノフェン過量摂取時の解毒)	薬物中毒解毒作用			グルタチオン前駆体	アセチルシステイン	内-2	散剤	1日1~3回	タチオン	
		ウィルソン病(肝レンズ核変性症)	重金属解毒作用	血清銅と可溶性キレート形成による尿排泄促進作用		D-ベニシラミン トリエンチン塩酸塩	内-1 内-1	カプセル剤 カプセル剤	1日1~数回 1日2~4回(ベニシラミンに不耐性の場合)	メタルカプターゼ メタライト		
				銅吸収阻害作用		酢酸亜鉛水和物	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤	1日3回 1日3回	ノベルジン錠 ノベルジン顆粒		
		輸血による慢性鉄過剩症(注射用鉄キレートが不適当な場合)	鉄排泄作用			デフェラシロクス	内-2	顆粒剤	1日1回	ジャドニユ顆粒		
		慢性腎不全(進行性)における尿毒症症状の改善および透析導入の遅延	腎不全病態悪化抑制作用	消化管内の尿毒症毒素吸着・排泄作用	多孔質炭素	球形吸着炭	内-1 内-2	カプセル剤 錠剤 細粒剤	1日3回 1日3回 1日3回	クレメジン		
		自家中毒・薬物中毒における吸着及び解毒	自家中毒・薬物中毒解毒作用			薬用炭	内-2	末剤	1日数回	薬用炭		
		葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減	抗葉酸代謝拮抗剤	核酸合成再開作用		ホリナートカルシウム	内-1	錠剤	1日4回(6時間間隔)	ロイコボリン		
		ホリナート・テガフル・ウラシル療法、結腸・直腸癌に対するテガフル・ウラシルの抗腫瘍効果の増強	抗腫瘍効果増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	還元物(5,10-メチレンテトラヒドロ葉酸)がFdUMPとチミジル酸合成酵素と三元複合体を形成	ホリナートカルシウム	内-1	錠剤	1日3回	ユーゼル錠25mg		

2	解毒剤	薬物中毒、アセトン血性嘔吐症(自家中毒、周期性嘔吐症)、慢性肝疾患における肝機能の改善	薬物中毒解毒作用	助酵素的応、メルカブツール酸の生成／その他の解毒機構への関与／チオール酵素(SH酵素)・その他の細胞成分の保護活性化／酸化還元反応に関与		還元型グルタチオニン	グルタチオン	注-1	注射薬	1日1回筋注及び静注	グルタチオン注射用	
	薬物中毒の際の排泄促進(ただし、pHの上昇により尿中排泄の促進される薬物に限る)	薬物中毒解毒作用	制酸作用／中和作用			炭酸水素ナトリウム	注-1 注-2	注射薬キット	1日1回静注	重ソ一注		
	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復	ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復				スガマデクスナトリウム	注-1	注射薬	1日1回静注	ブリディオン静注		
	ヒ素、水銀、鉛、銅、金、ビスマス、クロム、アンチモンの中毒	重金属解毒解毒作用	体内チオール基系酵素と金属イオンとの結合阻害作用／重金属と結合し可溶性キレート形成による体外排泄作用			ジメルカブロール	注-1	注射薬	1日目は6時間間隔で4回、2日目以降は1日1回筋注	バル筋注		
	鉛中毒	鉛解毒作用	金属イオンとキレート形成			エデト酸カルシウム二ナトリウム	注-1	注射薬	最初の5日間点滴静注	ブライアン点滴静注		
	シアノおよびシアノ化合物による中毒、ヒ素剤による中毒	解毒作用	ミトコンドリア内の酵素、ロダナーゼにより、シアノと反応し、チオシアノ酸塩を生成			チオ硫酸ナトリウム	注-1	注射薬	静注	デトキソール		
	シアノ及びシアノ化合物による中毒		水酸イオンとシアノイオンの置換によるシアノコバラミンの形成・尿中排泄作用			ヒドロキソコバラミン	注-1	注射薬	静注	シアノキット		
	エチレングリコール中毒、メタノール中毒	毒性代謝物生成抑制作用	肝臓アルコールデヒドロゲナーゼ阻害作用			ホメビゾール	注-1	注射薬	12時間毎に点滴静注	ホメビゾール点滴静注		
	中毒性メタヘモグロビン血症	メタヘモグロビン還元作用				メチルチオニニウム塩化物水和物	注-1	注射薬	5分以上かけて静脈内投与	メチレンブルー静注		
	有機リン剤の解毒	有機リン剤中毒解毒作用				ヨウ化ブラリドキシム	注-1	注射薬	静注	バム静注		
	原発性及び続発性ヘモクロマトーシスにおける鉄排泄増加	鉄排泄作用	生体内で貯蔵鉄と特異的に結合し、キレート化合物ferrioxamineBを形成し腎より排泄			メシリ酸デフェロキサン	注-1	注射薬	1日1～2回で、筋注	デスフェラール注射用		
	イホスファミド投与による泌尿器系障害発現抑制	イホスファミド尿中代謝物の膀胱への接触抑制				メスナ	注-1	注射薬	1日3回静注	ウロミテキサン注		
	葉酸代謝拮抗薬の毒性軽減	抗葉酸代謝拮抗剤	核酸合成再開作用			ホリナートカルシウム	注-1	注射薬	1日4回(6時間間隔)	ロイコボリン注		
	レボホリナート、フルオロウラシル療法;胃がん(手術不能又は再発)および結腸、直腸がんに対するフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強	抗腫瘍効果増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	還元物(5.10-メチレンテトラヒドロ葉酸)がFdUMPとチミジル酸合成酵素と三元複合体を形成		レボホリナートカルシウム	注-1	注射薬	静注、1週間ごとに6回繰り返した後、2週間休薬	アイソボリン点滴静注用		
	チオクト酸の重要が増大した際の補給(激しい肉体労働時)、Leigh症候群(亜急性壞死脳脊髄炎)	代謝性薬物中毒解毒作用	生体内エネルギー產生亢進作用	TCAサイクルの代謝活性亢進		チオクト酸	注-1	注射薬	1日1回10～25mg、静注、筋注又は皮下注	チオトミン注		
	アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出	トポイソメラーゼII阻害作用				デクスラゾキサン	注-1	注射薬	血管外漏出後6時間以内。3日間連続投与。	サビーン点滴静注用		

393 習慣性中毒用剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	商品名	線引き
1	習慣性中毒用 剤	慢性アルコール中毒者及び過飲酒 者に対する抗酒療法	抗酒作用	飲酒時の血中アルデヒド濃度を上昇	アルデヒド脱水酵素阻害		シアナミド	内-3	液剤	1日1~2回	シアナマイド液ーWf	
							ジスルフィラム	内-2	末剤	1日1~3回	ノックビン	

394 痛風治療剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	痛風治療剤	痛風発作の緩解及び予防	痛風発作緩解作用	白血球の尿酸貪食作用／食 好中球の脱颗粒阻止による白血球メバ様運動抑制作用			コルヒチン	内-1	錠剤	1日6～8回	コルヒチン錠	
		痛風	血中尿酸値抑制作用	尿酸排泄促進作用	尿酸の尿細管再吸収抑制作用	安息香酸誘導体	プロベネシド	内-1	錠剤	1日2～4回	ベネシッド錠	
		痛風・高尿酸血症				ドチヌラド	内-1	錠剤	1日1回	ユリス錠		
		痛風、高尿酸血症を伴う高血圧症 の場合における高尿酸血症の改善				ベンズプロマロン	内-1	錠剤	1日1～3回	ユリノーム錠		
		痛風・高尿酸血症	尿酸生合成の抑制	キサンチンオキシダーゼ阻 害作用(還元型)		アロブリノール	内-1	錠剤	1日2～3回	ザイロリック錠		
		痛風並びに高尿酸血症における酸 性尿の改善、アシドーシス			フェブキソstatt	内-1	錠剤	1日1回	フェブリク錠			
		配合剤(代謝産物の重炭酸 塩が生体において塩基として 作用することによる酸性 尿、アシドーシス改善作用)			トビロキソstatt	内-1	錠剤	1日2回	トビロリック錠 ウリアデック錠			
						配合剤	クエン酸カリウム ／クエン酸ナトリウム	内-1 内-2	錠剤 散剤	酸性尿：1日3回、アシドーシス：1日3～4回	ウラリット配合錠 ウラリットU配合散	

395 酵素製剤

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	酵素製剤	脳血栓症、末梢動、静脈閉塞症	血栓溶解作用				ウロキナーゼ	注-1	注射薬	用時静注／点滴静注／冠動注	ウロナーゼ静注用	
		急性心筋梗塞における冠動脈血栓の溶解					モンテブラーーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	静注	クリアクター注	
		ゴーシエ病の諸症状(貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状)の改善					アルテブラーーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	静注	アクチバシン注	
		ファブリー病	グルコセレブロシダーゼ作用				イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	セレザイム注200U	
		ムコ多糖症Ⅰ型					ペラグルセラーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	ビプリブ点滴静注用	
		ムコ多糖症Ⅱ型	ガラクトシダーゼ作用				アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	ファプラザイム点滴静注用5mg	
		ムコ多糖症ⅣA型					アガルシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	リブレガル点滴静注用	
		ムコ多糖症VI型					ラロンダーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	アウドラザイム点滴静注液	
		ムコ多糖症VII型	α-L-イズロニダーゼ作用				イデュルスルファーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	エラブレース点滴静注液	
		ボンベ病(糖原病Ⅱ型)	イズロン酸-2-スルファターゼ作用				イデュルスルファーゼ ベータ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	脳室内注	ヒュンタラーゼ脳室内注射液	
		低ホスファターゼ症	組織非特異型アルカリホスファターゼ作用				バビナフスブ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	イズカーゴ点滴静注用	
		ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症(コレステロールエステル蓄積症、ウォルマン病)	N-アセチルガラクトサミン-6-スルファターゼ作用				エロスルファーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	ビミジム点滴静注液	
		慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)の虚血性諸症状の改善、振動病における末梢循環障害の改善、突発性難聴における聽力の回復と自覚症状の改善	アリルスルファターゼB作用				ガルスルファーゼ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	ナグラザイム点滴静注液	
		がん化学療法に伴う高尿酸血症	β-グルクロニダーゼ作用				ペストロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	メセヴィ点滴静注液	
		アデノシンデアミナーゼ欠損症	尿酸直接分解作用				アルグルコンシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	マイオザイム点滴静注用	
		アデノシンデアミナーゼ欠損症	アデノシンデアミナーゼ作用				アバルグルコンシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	ネクスピアザイム点滴静注用	
		慢性動脈閉塞症(バージャー病、閉塞性動脈硬化症)の虚血性諸症状の改善、振動病における末梢循環障害の改善、突発性難聴における聽力の回復と自覚症状の改善	末梢循環改善作用	フィブリノゲン低下作用／フィブリノーゲン／フィブリン分解産物(FDP)の増加／ユーログロブリン溶解時間短縮作用／プラスミノゲン量及びα2-プラスミンインヒターの減少作用 等			アスホターゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	皮下注	ストレンジック皮下注	
		がん化学療法に伴う高尿酸血症					セペリバーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	カヌマ点滴静注液	
		アデノシンデアミナーゼ欠損症					バトロキソピン	注-1	注射薬	点滴静注	デフィブラーーゼ	

	セロイドリポフスチン症2型	セロイドリポフスチン作用			セルリボナーゼ アルファ (遺伝子組換え)	注-1	注射薬	脳室内注	ブリニューラ脳室内注射液	
	酸性スフィンゴミエリナーゼ欠損症	酸性スフィンゴミエリナーゼ作用			オリブターゼ アルファ (遺伝子組換え)	注-1	注射薬	点滴静注	センフォザイム点滴静注用	

396 糖尿病用薬

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	糖尿病用薬	インスリン非依存型糖尿病(2型糖尿病)	膵β細胞刺激によるインスリノン分泌促進作用			スルホニルウレア	アセトヘキサミド クロルプロパミド グリクロビラミド トルブタミド グリベンクラミド グリクラジド グリメビリド	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日1回又は2回 1日1回 1日1回 1日1回又は2回 1日1回又は2回 1日1回又は2回 1日1~2回	ジメリン錠 アベマイド錠 デアメリンS錠 ヘキストラスチノン錠 ヘキストラスチノン散 オイグルコン錠 グリミクロン錠 アマリール錠	
		膵β細胞刺激によるインスリノン分泌促進作用(短時間速効)				フェニルアラニン誘導体 ベンジルコハク酸誘導体 安息香酸誘導体	ナテグリニド ミチグリニドカルシウム水和物 レバグリニド	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤	1日3回 1日3回 1日3回	スター・シス錠 ファスティック錠 グルファスト錠 シュアポスト錠	
		インスリン抵抗性改善作用	細胞内インスリン情報伝達機構正常化作用／末梢(骨骼筋、脂肪組織)での糖代謝增强作用 肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用			チアゾリジン誘導体	ピオグリタゾン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	アクトス錠	
		ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用	インクレチン分解抑制作用			ビグアナイド	メトホルミン塩酸塩 ブホルミン塩酸塩	内-1 内-1	錠剤 錠剤	1日2~3回 1日2~3回	グリコラン錠 メグルコ錠 ジベトス錠	
		ミトコンドリアへの作用を介したグルコース濃度依存的インスリン分泌促進作用及びインスリン抵抗性改善作用					シタグリップチンリン酸塩水和物 アログリップチン安息香酸塩 ビルダグリップチン リナグリップチン テネリグリップチン臭化水素酸塩水和物 アナグリップチン サキサグリップチン水和物 トレラグリップチンコハク酸塩 オマリグリップチン	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤	1日1回 1日1回 1日2回 1日1回 1日1回 1日2回 1日1回 1週間に1回 1週間に1回	ジャヌビア錠 グラクタイプ錠 ネシーナ錠 エケア錠 トラゼンタ錠 テネリア錠、OD錠 スイニー錠 オングリザ錠 ザファテック錠 マリゼブ錠 ツイミーク錠	
		GLP-1受容体アゴニスト作用				GLP-1受容体アナログ	セマグルチド(遺伝子組換え)	内-1	錠剤	1日1回	リベルサス錠	

	SGLT2阻害作用				イプラグリフロジン L-プロリン	内-1	錠剤	1日1回	スーグラ錠	
					トホグリフロジン水和	内-1	錠剤	1日1回	デベルザ錠	
					ダバグリフロジンプロ	内-1	錠剤	1日1回	フォシーガ錠	
					ビレングリコール水和物	内-1	錠剤	1日1回	ルセフィ錠、OD錠	
					ルセオグリフロジン水和物	内-1	錠剤	1日1回	カナグル錠	
					エンバグリフロジン	内-1	錠剤	1日1回	ジャディアンス錠	
	配合剤(インスリン抵抗性改善作用)	細胞内インスリン情報伝達機構正常化作用／末梢(骨骼筋、脂肪組織)での糖代謝増強作用＋肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用		配合剤	ビオグリタゾン塩酸塩 ／メトホルミン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	メタクト配合錠LD,同HD	
	配合剤(インスリン抵抗性改善作用／膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用)			配合剤	ビオグリタゾン塩酸塩 ／グリメピド	内-1	錠剤	1日1回	ソニアス配合錠LD,同HD	
	配合剤(膵β細胞刺激によるインスリン分泌促進作用(短時間速効型)／αグルコシダーゼ阻害作用)			配合剤	ミチグリニドカルシウム水和物／ボグリボース	内-1	錠剤	1日3回	グルベス配合錠、OD錠	
	配合剤(ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／インスリン抵抗性改善作用)			配合剤	アログリブチン安息香酸塩／ビオグリタゾン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	リオベル配合錠LD,同HD	
	配合剤(ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／インスリン抵抗性改善作用)	インクレチン分解抑制作用＋肝の糖新生抑制作用／腸管からのグルコース吸収抑制作用／末梢での糖利用促進作用		配合剤	ビルダグリブチン／メトホルミン塩酸塩	内-1	錠剤	1日2回	エクメット配合錠LD,同HD	
					アログリブチン安息香酸塩／メトホルミン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	イニシング配合錠	
					アナグリブチン／メトホルミン塩酸塩	内-1	錠剤	1日2回	メアナ配合錠LD,同HD	
	配合剤(ジペプチジルペプチダーゼ4阻害作用／SGLT2阻害作用)	インクレチン分解抑制作用		配合剤	テネリグリブチン臭化水素酸塩水和物／カナグリフロジン水和物	内-1	錠剤	1日1回	カナリア配合錠	
					シタグリブチンリン酸塩水和物／イプラグリフロジン L-プロリン	内-1	錠剤	1日1回	スージャヌ配合錠	
					リナグリブチン／エンバグリフロジン	内-1	錠剤	1日1回	トラディアンス配合錠AP,同BP	
糖尿病の食後過血糖	αグルコシダーゼ(腸管での二糖類から单糖類への分解酵素)阻害作用				アカルボース	内-1	錠剤	1日3回	アカルボース	
					ボグリボース	内-1	錠剤	1日3回	ペイソン	
					ミグリトール	内-1	錠剤	1日3回	セイブル	

		糖尿病による末梢神経障害に伴う自覚症状	神経内ソルビトールの蓄積抑制作用 アルドース還元酵素阻害作用			エパルレstatt	内-1	錠剤	1日3回	キネダック錠	
			血漿内βエンドルフィン増加作用／サブスタチンP遊離抑制作用／神経細胞膜Na ⁺ 電流抑制作用			メキシレチン塩酸塩	内-1	カプセル剤	1日3回	メキシチールカプセル	
2	糖尿病用薬	糖尿病(インスリン療法)	インスリン補充作用	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用	ポリペプチド(ヒトインスリン(遺伝子組換え))	インスリン(遺伝子組換えヒトインスリン)	注-1	注射薬	初期:1日3回食前皮下注	ヒューマリンR注	
						イソフエンインスリン水性懸濁液(遺伝子組換えヒトインスリン)	注-2	キット	初期:1日3回食前皮下注	ヒューマカートRキット	
			インスリン補充作用	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用	ポリペプチド(ヒトインスリンアナログ)	インスリン リスプロ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	初期:1日3回食直前15分以内皮下注	ヒューマログ注バイアル100単位/mL、ヒューマログ注カート	
							注-2	キット	初期:1日3回食直前15分以内皮下注	ヒューマログ注ミリオペン、ヒューマログ注ミリオペンHD	
						インスリン アスピタルト(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	初期:1日3回食直前又は食事開始後皮下注	ルムジェブ注100単位/mL、ルムジェブ注カート	
							注-2	キット	初期:1日3回食直前又は食事開始後皮下注	ルムジェブ注ミリオペン、ルムジェブ注ミリオペンHD	
						インスリン グルリジン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	初期:1日3回食直前15分以内皮下注	ノボラピッド注100単位/mL、ノボラピッド注150、ノボラピッドノボラピッド注フレックスペン	
							注-2	キット	初期:1日3回食直前15分以内皮下注	ノボラピッド注100単位/mL、ノボラピッド注フレックスペン	
						インスリン グラルギン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	初期:1日3回食直前又は食事開始後皮下注	フィアスブ注100単位/mL	
							注-2	キット	初期:1日3回食直前又は食事開始後皮下注	フィアスブ注フレックスタッフ、フィアスブ注ペンフィル	
						インスリン デミル(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日3回食直前15分以内皮下注	アピドラ注	
							注-2	カートキット	1日3回食直前15分以内皮下注	アピドラ注カート	
						インスリン デグリデク(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回朝食前又は就寝前皮下注	アピドラ注ソロスター	
							注-2	キット	1日1回皮下注	ランタス注バイアル1000	
						インスリン デミル(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回食前又は就寝前皮下注	ランタス注キット300	
							注-2	キット	1日1回皮下注	ランタスXR注ソロスター	
						インスリン デグリデク(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回食前又は就寝前皮下注	レベミル注	
							注-2	キット	1日1回皮下注	レベミル注フレックスペン イノレット	
						インスリン デグリデク(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回皮下注	トレーシーバ注 ペン	
							注-2	キット	1日1回皮下注	トレーシーバ注 フレックスタッヂ	

		配合(混合)剤(インスリン補充作用)	インスリン受容体刺激作用／血糖降下作用		ポリペプチド(ヒトインスリンアナログ) 配合(混合)剤	インスリン リスプロ/ 中間型インスリン リスプロ	注-1 注-2	注射薬 キット	初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注 初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ヒューマログミックス 25注カート ヒューマログミックス 25注キット	
						インスリン アスパルト/中間型インスリン アスパルト	注-1 注-2 注-2	注射薬 キット キット	初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注 初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注 初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注	ヒューマログミックス 50注カート ヒューマログミックス 50注キット	
						インスリン テグルデク(遺伝子組換え)/インスリン アスパルト(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット	初期:1日2回朝食直前、夕食直前15分以内皮下注 1日1回主たる食事の直前、又は1日2回朝食直前、夕食直前	ノボラピッド30ミックス 注 ノボラピッド30ミックス 注 フレックスペン ノボラピッド50ミックス 注 フレックスペン	
		2型糖尿病	血糖低下作用	インスリン受容体刺激作用／GLP-1受容体アゴニスト	配合剤(インスリン/ GLP-1受容体アナログ)	インスリン テグルデク(遺伝子組換え)/リラグルチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	1日1回、皮下注射	ゾルトファイ配合注フレックスタッチ	
		2型糖尿病	血糖低下作用	GLP-1受容体アゴニスト	GLP-1受容体アナログ	インスリン グラルギン(遺伝子組換え)/リキシセナチド	注-2	キット	1日1回、皮下注射	ソリケア配合注ソロスター	
						リラグルチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	1回0.9mgを1日1回朝又は夕に皮下注	ピクトーザ皮下注	
						エキセナチド	注-2	キット	1回10μgを1日2回朝夕食前に皮下注	バイエッタ皮下注	
						リキシセナチド	注-2	キット	1回20μgを1日1回朝食前に皮下注	リキスマニア皮下注	
						デュラグルチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	0.75mgを週に1回、皮下注射	トルリシティ皮下注アテオス	
				GIP 受容体アゴニスト／GLP-1 受容体アゴニスト	GIP 受容体アナログ／GLP-1 受容体アナログ	セマグルチド(遺伝子組換え)	注-2	キット	0.5mgを週に1回、皮下注射	オゼンビック皮下注SD オゼンビック皮下注	
						チルゼバチド	注-2	キット	5mgを週に1回、皮下注射	マンジャロ皮下注	

	インスリン受容体異常症	血糖低下作用	ソマトメジンC受容体刺激作用		ポリペプチド(天然型ヒトソマトメジンC)	メカセルミン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1回 0.1~0.4mg/kg 皮下注	ソマゾン注射用	
--	-------------	--------	----------------	--	----------------------	----------------	-----	-----	------------------------	---------	--

244・247・248・311・398・399 骨代謝疾患用剤(カルシウム剤を除く)

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	骨代謝疾患用剤(カルシウム剤)	骨粗鬆症／骨粗鬆症における骨量減少・疼痛	骨形成促進作用	蛋白同化ホルモン作用		ステロイド	メテノロン	内-1	錠剤	1日10～20mg、2～3回	ブリモボラン	
			骨吸收抑制作用／骨形成促進作用	カルシトニン分泌促進作用		イソフラボン系	イブリフラボン	内-1	錠剤	1日3回	イブリフラボン錠	
			骨形成促進作用／骨吸収抑制作用	ビタミンD作用	骨代謝回転改善作用	活性型ビタミンD3 誘導体	カルシトリオール	内-1	錠剤 カプセル剤	1日2回	ロカルトロール	
						活性型ビタミンD3 誘導体	アルファカルシドール	内-1	錠剤 カプセル剤	1日1回	アルファロール	
								内-2	散剤	1日1回	アルファロール	
		骨吸収抑制作用						内-3	液剤	1日1回	アルファロール	
			ビタミンK作用	オステオカルシンγ-カルボキシゲルタミン酸残基生成作用	ビタミンK2	メナテレノン	内-1	カプセル剤	1日3回	グラケーカプセル 15mg		
				破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	エチドロン酸二ナトリウム	内-1	錠剤	1日1回2週間投与後10～12週間休業、周期的間歇投与	ダイドロネル錠200	
						アレンドロン酸ナトリウム水和物	内-1	錠剤	1日1回起床時	ボナロン錠5mg		
						内-1	錠剤	内-3	ゼリー	1週間に1回起床時	フォサマック錠 35mg、ボナロン錠 ボナロンゼリー	
2	骨代謝疾患用剤(カルシウム剤除く)	閉経後骨粗鬆症	骨吸収抑制作用	卵胞ホルモン作用		ステロイド	エストリオール	内-1	錠剤	1回1.0mg 1日 2回	エストリール	
			配合剤(骨吸収抑制作用)	卵胞ホルモン補充作用/黄体ホルモン補充作用		配合剤	エストラジオール・レボノルゲスト렐	内-1	錠剤	1日1錠	ウェールナラ配合錠	
			骨吸収抑制作用		選択的エストロゲン受容体モジュレーター	ベンゾチオフェン系	ラロキシフェン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	エピスタ錠60mg	
							バゼドキシフェン酢酸塩	内-1	錠剤	1日1回	ビビアント錠20mg	
											ポンビハ錠100mg	
		骨粗鬆症／骨粗鬆症における疼痛	配合剤(骨吸収抑制作用)	卵胞ホルモン作用+男性ホルモン作用		配合剤	エストラジオール吉草酸エステル／テストステロンエナント酸エステル	注-1	注射薬 1mL筋注	2～4週ごとに1回	ダイホルモンデポー	
			骨吸収抑制作用／骨形成促進作用／血清Ca低下作用			カルシトニン誘導体	エルカルトニン	注-1	注射薬	週2回筋注ほか	エルシトニン注10[疼痛改善]、エルシトニン注20S[骨粗鬆ラスカルトン10ディスボ	
								注-2	キット	週2回筋注ほか		

		骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	アレンドロン酸ナトリウム水和物 イバンドロン酸ナトリウム水和物 ゾレドロン酸水和物	注-1 注-2	注射薬 キット	4週に1回点滴静注 1ヶ月に1回静注	ボナロン点滴静注 ボナロン点滴静注バッグ ポンビバ静注シリジ	
			破骨細胞活性抑制作用(RA NK-RANKL結合阻害作用)			デノスマブ(遺伝子組 換え)	注-2	キット	6ヶ月に1回皮下 投与	プラリア皮下注	
		骨形成促進作用／骨吸収抑 制作作用	スクレロスチン阻害作用			ロモソスマブ(遺伝 子組換え)	注-1	注射薬	1ヶ月に1回皮下 注	イベニティ皮下注シリジ	
	悪性腫瘍による高Ca血症	血清Ca低下作用／骨吸収抑 制作作用	破骨細胞活性抑制作用		ビスホスホン酸塩	バミドロン酸二ナトリ ウム ゾレドロン酸水和物	注-1	注射薬	4時間以上かけて 単回点滴静注	アレディア注	
		血清Ca低下作用／骨吸収 抑制作用／骨形成促進作用			カルシトニン誘導 体	エルカトニン	注-1	注射薬	15分以上かけて 点滴静脈内投与	ゾメタ注射液4mg	
	多発性骨髄腫による骨病変 及び固形癌骨転移による骨 病変	骨吸収抑制作用	破骨細胞活性抑制作用(RA NK-RANKL結合阻害作用)			デノスマブ(遺伝子 組換え)	注-1	注射薬	週2回筋注ほか 4週に1回皮下 投与	エルシトニン注40 ランマーク皮下注	

399 他に分類されない代謝性医薬品

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	他に分類され ない代謝性医 薬品	脳代謝賦活作用	リン酸供与体として各種の酵素を介し、糖質、脂肪、蛋白質の代謝に関与				アデノシン三リン酸二ナトリウム	内-1	錠剤	1日3回	アデボスコーウ腸溶錠	
											アデボスコーウ顆粒	
		中枢神経賦活作用	脳代謝促進作用	脳内グルコース代謝亢進作用 ヘキソキナーゼ活性化作			メクロフェノキサート塩酸塩	内-1	錠剤		ルシドリール錠	
											ガンマロン錠	
											フオイパン錠	
		慢性膀胱炎における急性症状の寛解	非ペプチド蛋白分解酵素阻害作用				カモstattメシル酸塩	内-1	錠剤	1日3回	ハイチオール錠 ハイチオール散	
											ジアゾキシドカブセ	
		高インスリン血性低血糖	インスリン分泌抑制作用				ジアゾキシド	内-1	カプセル剤	1日2回又は3回	エルカルチンFF内用液	
											エルカルチンFF錠	
		湿疹、蕁麻疹、葉疹、中毒疹、尋常性座瘡、多型渗出性紅斑	皮膚代謝の正常化作用／抗アレルギー作用／解毒作用	チオール酵素(SH酵素)賦活作用			L-システイン	内-1 内-2	錠剤 末剤	1日2～3回	ハイチオール錠 ハイチオール散	
											ビオブテン顆粒	
		カルニチン欠乏症	ミトコンドリア機能賦活作用	組織内における慢性的なカルニチン欠乏状態是正作用	過剰蓄積したプロピオニル基をプロピオニルカルニチンとして体外(尿中)へ排泄し、有害なプロピオニル基からミトコンドリア機能を保護し代謝賦活		レボカルニチン	内-3、 4 内-1	液剤 錠剤	1日3回	イムラン錠	
											プレディニン錠	
		腎移植における拒否反応の抑制	プリン合成阻害	肝で6-メルカプトプリンに代謝され、プリン代謝拮抗作用	DNA, RNA合成阻害作用	プリン誘導体	アザチオプリン	内-1	錠剤	1日初期量 2～3mg/kg、維持量 0.5～	セルセプトカプセル	
											セルセプト懸濁用散	
				G1, S, G2期に作用		イミダゾール系	ミゾリビン	内-1	錠剤	1日初期量 2～3mg/kg、維持量 0.5～1mg/kg、1日1～3回		
		腎移植後の難治性拒絶反応の治療	プリン合成阻害	プリンのde novo系合成を阻害する、G1, S, G2期に作用	肝エステラーゼによりミコフェノール酸に代謝され、イノシンモノホスフェート脱水素酵素阻害作用		ミコフェノール酸モフェチル	内-1 内-3	カプセル剤 散剤	1日2回12時間毎		

		腎、肝、心、肺、膵移植における拒絶反応の抑制、骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖抑制、G0→G1移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、インターロイキン2(IL-2)等のサイトカイン産生抑制作用	シクロスボリン タクロリムス水和物	内-1 内-2 内-3	カプセル剤 顆粒剤 液剤	1日2回	サンディミュンカプセル ネオーラルカプセル シクロスボリン細粒 サンディミュン内用液	
		心移植における拒絶反応の抑制	免疫抑制作用	主に、T細胞の分化・増殖抑制、G1→S移行期に作用		エベロリムス	内-1	錠剤	1日2回	サテビカン錠	
		皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	抗炎症作用、免疫調節作用			ヒドロキシクロロキン硫酸塩	内-1	錠剤	1日1回	プラケニル錠	
		維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体活性化作用	PTH分泌抑制作用		シナカルセト塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	レグバラ錠	
		特発性肺線維症	サイトカイン産生調節作用 チロシンキナーゼ阻害作用	増殖抑制作用 抗線維化及び抗炎症作用		エボカルセト ビルフェニド ニンテダニブエタンスルホン酸塩	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 カプセル剤	1日1回 1日3回 1日2回	オルケディア錠 ビレスバ錠 オフェブカプセル	
		既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、膿瘍性乾癬、乾癬性紅皮症	チロシンキナーゼ2(TYK2)阻害作用			デュークラバシチニブ	内-1	錠剤	1日1回	ソーティクツ錠	
		慢性特発性血小板減少性紫斑病	トロンボポエチン受容体刺激作用			エルトロンボバグ オラミン	内-1	錠剤	1日1回	レボレード錠	
			脾臓チロシンキナーゼ阻害作用			ホスマチニブナトリウム水和物	内-1	錠剤	1日2回	タバリス錠	
		多発性硬化症の再発予防及び身体的障害の進行抑制	スフィンゴシン1-リン酸受容体機能的アンタゴニスト			フィンゴリモド塩酸塩 シボニモドマル酸	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤	1日1回 1日1回	イムセラカプセル ジレニアカプセル	
			神経細胞保護作用、抗炎症作用			フル酸ジメチル	内-1	カプセル剤	1日2回	メゼント錠	
		ニーマン・ピック病C型	グリコシルセラミド合成酵素阻害作用			ミグルスタット	内-1	カプセル剤	1日3回	テクフィデラカプセル	
		ホモシスチン尿症	メチル基供与によるホモシスティン低下作用			ベタイン	内-2	末剤	1日2回	ブレーザベスカプセル	
		腎性シスチン症	ジスルフイド交換反応による細胞内シスチン濃度低下作用			システアミン酒石酸塩	内-1	カプセル剤	1日4回	サイスタダン原末	
		高チロシン血症I型	4-ヒドロキシフェニルビルビン酸ジオキシゲナーゼ(HPPD)阻害作用			ニチシノン	内-1	カプセル剤	1日2回	オーファディンカプセル	
		ゴーシェ病の諸症状(貧血、血小板減少症、肝脾腫及び骨症状)の改善	グルコシルセラミド合成酵素阻害作用			エリグルスタット酒石酸塩	内-1	カプセル剤	1日2回	サデルガカプセル	
		ミガーラスタッフに反応性のあるGLA遺伝子変異を伴うファブリー病	変異型αガラクトシダーゼAのリソームへの輸送促進作用			ミガーラスタッフ塩酸塩	内-1	カプセル剤	隔日投与	ガラフォルドカプセル	
		がん悪液質	グレリン様作用	グレリン受容体であるGHS-R1a(成長ホルモン放出促進因子受容体タイプ1a)に対する作動作用		アナモレリン塩酸塩	内-1	錠剤	1日1回	エドルミズ錠	

		顯微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症	選択的C5a受容体阻害作用				アバコパン	内-1	カプセル剤	1日2回	タブネオスカプセル	
2 他に分類され ない代謝性医 薬品	進行する感音性難聴(音 響外傷を含む)	結合繊成分補充作用	尿量増加作用／尿蛋白減 少作用／結合繊コラーゲ ン纖維再生促進作用／コ ラーゲン線維安定化作用				コンドロイチン硫酸エス テルナトリウム	注-1	注射薬	1日1回、静注 又は筋注	コンドロイチン硫酸 ナトリウム注射液	
	頭部外傷後遺症	脳代謝賦活作用	リン酸供与体として各種の 酵素を介し、糖質、脂肪、 蛋白質の代謝に関与				アデノシン三リン酸二ナ トリウム	注-1	注射薬	1日1～2回静 注、筋注、皮下 注又は1日1回 点滴静注	アデシノンP注射液 10mg	
	頭部外傷に伴う意識障害	脳血流增加作用／脳代謝 改善作用	上行性網様賦活系及び錐 体外路系活性作用				シチコリン	注-1 注-2	注射薬 キット	1日1～2回点 滴静注	ニコリン	
	変形性膝関節症、肩関節 周囲炎、(スペニール)慢 性関節リウマチにおける	上皮細胞の接着・進展促 進作用	履歴				ヒアルロン酸ナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット	1週間ごとに連 続5回投与 1週間ごとに連 続5回投与	ヒアルロン酸ナトリ ウム関節注 アルツディスポ	
	変形性関節症(膝関節、 股関節)	高分子量ヒアルロン酸の 産生促進、マトリックスメタ ロプロテアーゼの産生抑 制及びシクロオキシゲ ナーゼ阻害					ジクロフェナクエタルヒ アルロン酸ナトリウム	注-2	キット	1回1シリンジを 4週間ごと	ジョイクル関節注	
	保存的非薬物治療及び經 口薬物治療が十分奏効し ない疼痛を有する変形性 膝関節症の患者の疼痛緩 和	関節液の補填					ヒアルロン酸ナトリウム 架橋処理ポリマー／ヒ アルロン酸ナトリウム架 橋処理ポリマー＝ビニル スルホン架橋体	注-2	キット	1週間ごとに連 続3回投与	サイビスクディスポ	
	保存療法で十分な改善が 得られない後縫韌帶下脱 出型の腰椎椎間板ヘルニア 急性腰炎、慢性再発性腰 炎の急性増悪期、術後の 急性腰炎	グリコサミノグリカン分解 作用					コンドリアーゼ	注-1	注射薬	単回投与	ヘルニコア椎間板注 用1.25単位	

		酵素阻害作用／蛋白分解酵素阻害作用			ウリナスタチン	注－1	注射薬	1日1～3回点滴静注	ミラクリッド
		蛋白分解酵素阻害作用／血液凝固系阻害作用／血小板凝集抑制作用			ナファモスタットメシル酸塩	注－1	注射薬	約2時間前後かけて1～2回点滴静注ほか	注射用フサン
	透析施行中の腎性貧血	造血作用	造血前駆細胞に対するコロニーフォーミング作用		エボエチンα(遺伝子組換え)	注－1 注－2	注射薬 キット	緩徐に静注	エスパー注射液
	透析導入前、透析施行中の腎性貧血	造血作用	造血前駆細胞に対するコロニーフォーミング作用		エボエチンβ(遺伝子組換え)	注－2	キット	静注、皮下注	エポジン注
	慢性特発性血小板減少性紫斑病	トロンボポエチン受容体刺激作用	巨核球系前駆細胞直接作用		ロミプロスマチム(遺伝子組換え)	注－1	注射薬	週1回皮下注 ロミブレート皮下注 250 μg調製用	
	後天性血栓性血小板減少性紫斑病	von Willebrand因子媒介血小板凝集抑制作用			カブランズマブ(遺伝子組換え)	注－1	注射薬	静注、皮下注	カブリビ注射用
	カルニチン欠乏症	ミトコンドリア機能賦活作用	組織内における慢性的なカルニチン欠乏状態は正作用	過剰蓄積したプロピオニル基をプロピオニルカルニチンとして体外(尿中)へ排泄し、有害なプロピオニル基からミトコンドリア機能を保護し代謝賦活	レボカルニチン	注－2	キット	通常、1回3～6時間ごとに点滴静注 血液透析に伴うカルニチン欠乏症に対しては、透析終了時に透析回路静脈側に注入	エルカルチソーム静注シリンジ
	腎、肝、心、肺、脾移植における拒絶反応の抑制、骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の治療	免疫抑制作用	主にT細胞の分化・増殖を抑制、G0→G1移行期に作用	カルシニューリンの活性化を阻害し、IL-2等のサイトカイン産生を抑制	シクロスボリン	注－1	注射薬	点滴静注	サンディミュン注射液
	腎移植後の拒絶反応(促進型及び急性)の治療	免疫抑制作用	リンパ球の分化、増殖抑制作用		タクロリムス水和物	注－1	注射薬	点滴静注	プログラフ注射液
	全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善	好中球エラスターーゼ阻害作用			グスベリムス塩酸塩	注－1	注射薬	1日1回点滴静注	スパニジン注射液
	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬	IL-12/23p40阻害作用		ヒトIL-12及びIL-23のp40サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	シベレヌマブ(遺伝子組換え)	注－1	注射薬	24時間静脈内持続投与	注射用エラスボール100
		IL-23p19阻害作用		ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	ウステキヌマブ(遺伝子組換え)	注－2	キット		ステラーラ点滴静注130 mg
				ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	ゲセルクマブ(遺伝子組換え)	注－2	キット		ステラーラ皮下注45mgシリンジ
				ヒトIL-23のp19サブユニットに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	リサンキズマブ(遺伝子組換え)	注－2	キット		スキリージ皮下注シリンジ スキリージ皮下注ペン

				チルドラキズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		イルミア皮下注100mgシリンジ
IL-17A阻害作用				ヒトIL-17Aに対する遺伝子組換えヒトIgG1モノクローナル抗体	セクキヌマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	コセンティクス皮下注シリンジ コセンティクス皮下注ペン
				ヒトIL-17Aに対する遺伝子組換えヒト化IgG4モノクローナル抗体	イキセキズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	トルツ皮下注80mg シリンジ トルツ皮下注80mg オートインジェクター
	IL-17受容体A阻害作用			ヒトIL-17受容体AIに対する遺伝子組換えヒトIgG2モノクローナル抗体	プロダルマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	ルミセフ皮下注シリンジ
IL-17A及びIL-17F阻害作用				ヒトIL-17A及びIL-17Fに対する遺伝子組換えヒト化IgG1モノクローナル抗体	ビメキズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	ビンゼレックス皮下注シリンジ ビンゼレックス皮下注オートインジェクター
膿疱性乾癬における急性症状の改善	IL-36受容体阻害作用			スペソリマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		スペビゴ点滴静注
以下のクリオピリン関連周期性症候群 ・家族性関連自己炎症症候群 ・マックス・ウェルズ症候群 ・新生児期発症多臓器系炎症性疾患	IL-1 β 阻害作用			448個のアミノ酸残基からなるH鎖(γ 1鎖)2分子及び214個のアミノ酸残基からなるL鎖(κ 鎖)2分子で構成される糖タンパク質(分子量:約148,000)	カナキヌマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	イラリス皮下注用
多発性硬化症の再発予防	免疫調節作用			グラチラマー酢酸塩	注-2	キット	1日1回皮下注	コバキソン皮下注シリンジ
血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症	カルシウム受容体活性化作用	PTH分泌抑制作用		エテルカルセチド塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	週3回透析終了時の返血時に投与	パーサビブ静注透析用 パーサビブ静注透析用シリンジ
全身性エリテマトーデス	抗Bリンパ球刺激因子(BLyS)作用			ウバシカルセトナトリウム水和物	注-2	キット	週3回透析終了時の返血時に投与	ウバシタ静注透析用シリンジ
	I型インターフェロン阻害作用			ベリムマブ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		ベンリスト点滴静注用 ベンリスト皮下注200mgオートインジェクター ベンリスト皮下注200mgシリンジ

	低リン血症性くる病・骨軟化症	抗FGF23作用				プロスマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		クリースビータ皮下注	
	急性肝性ポルフィリン症	RNAi機構によるALAS1産生抑制作用				ギボシランナトリウム	注-1	注射薬		ギブラーイ皮下注	
	骨端線閉鎖を伴わない軟骨無形成症	線維芽細胞増殖因子受容体3(FGFR3)の下流シグナル伝達阻害			遺伝子組換えヒトC型ナトリウム利尿ペプチド(CNP)類縁体	ボソリチド(遺伝子組換え)	注-1	注射薬	1日1回皮下注	ボックスゾゴ皮下注用	

421-429 腫瘍用薬

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	DNAアルキル化／架橋形成作用	ナイトロジエン・マスター系	シクロホスファミド	内-1	錠剤		エンドキサン錠	
						メルファン	内-1	錠剤			経口用エンドキサン原末	
						アルキルスルホネート系	ブスルファン	内-2	散剤		マブリン散	
						DNAアルキル化／DNA傷害作用	イミダゾテラジン系	テモゾロミド	内-1	カプセル剤	テモダールカプセル	
						核酸合成過程の代謝阻害(ジヒドロ葉酸還元阻害作用)	葉酸系	メトレキサート	内-1	錠剤	メソトレキセート錠	
						核酸合成過程の代謝阻害(DNAポリメラーゼ活性阻害作用)	ビリミジン(ジシアラビノド)系	シタラビンオクホスファート	内-1	カプセル剤	スタラシドカプセル	
						核酸合成過程の代謝阻害(TMP合成阻害作用)	ビリミジン(フッ化ビリミジン)系	ドキシフルリジン	内-1	カプセル剤	フルツロンカプセル	
						カベシタビン	内-1	錠剤			ゼローダ錠	
						核酸合成過程の代謝阻害(プリン環生成阻害作用、ヌクレオチド転換阻害)	プリン系	メルカブトプリン	内-2	散剤	ロイケリン散	
						核酸合成過程の代謝阻害(DNA・RNAポリメラーゼ活性阻害作用)		フルダラビンリン酸エステル	内-1	錠剤	フルダラ錠	
						核酸合成過程の代謝阻害(リボヌクレオチドレダクターゼ阻害作用)	尿素置換体	ヒドロキシカルバミド	内-1	カプセル剤	ハイドレアカプセル	
						巨核球の分化・成熟抑制作用		アナグレリド塩酸塩水和物	内-1	カプセル剤	アグリリンカプセル	
				配合剤(抗腫瘍作用)	核酸合成阻害作用	核酸合成過程の代謝阻害(TMP合成阻害作用)／5-FU代謝阻害作用	配合剤	テガフル／ウラシル	内-1	カプセル剤	ユーエフティ配合カプセル	
						核酸合成過程の代謝阻害(TMP合成阻害作用)／5-FU代謝阻害作用／消化管粘膜細胞における5-FUリン酸化抑制作用	配合剤	テガフル／ギメラシル／オテラシルカリウム	内-1 内-1 内-2	カプセル剤 錠剤 顆粒	ティーエスワン配合カプセル ティーエスワン配合OD錠 ティーエスワン配合顆粒	
						核酸への取り込みによる抗腫瘍作用／トリフルリジン代謝阻害作用	配合剤	トリフルリジン／チビラシル塩酸塩	内-1	錠剤	ロンサーフ配合錠	

		抗腫瘍作用	核酸合成阻害／ホルモン様作用	DNAアルキル化／架橋形成作用、エストロゲン作用	ナイトロジエン・マスターとエストロゲンの化合物	エストラムスチンリン酸エステルナトリウム	内-1	カプセル剤		エストラサイトカプセル	
		殺細胞作用	DNA-II型トポイソメラーゼ阻害作用	ビスジオキソピペラジン系 エピボドフィロトキシン系	ソブゾキサン エトボシド	内-2 内-1	細粒剤 カプセル剤		ペラゾリン細粒 ラステットSカプセル ベブシドカプセル		
		核酸及び蛋白合成阻害作用		メチルヒドラジン系	プロカルバジン塩酸塩	内-1	カプセル剤		塩酸プロカルバジンカプセル		
		分化誘導作用	PML-RAR- α II融合遺伝子の抑制作用	ビタミンA活性代謝物	トレチノイン タミパロテン	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤		ベサノイドカプセル アムノレイク錠		
		抗腫瘍免疫能賦活作用		放線菌ペプチド	ウベニメクス	内-1	カプセル剤		ベスタチンカプセル		
		ホルモン様作用	抗エストロゲン作用	トリフェニルエチレン系 黄体ホルモン アンドロスタン系	タモキシフェンクエン酸塩 ケエン酸トレミフェン メドロキシプロゲステロン酢酸エステル メビチオスタン	内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 カプセル剤		ノルバデックス錠 フェアストン錠 ヒスロンH錠 チオデロンカプセル		
			アンドロゲンからのエストロゲン生成抑制作用(アロマターゼ阻害作用)	トリアゾール系 ステロイド系	アナストロゾール レトロゾール エキセメスタン	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		アリミデックス錠 フェマーラ錠 アロマシン錠		
			抗アンドロゲン作用	トリフルオロメチルフェニル系	フルタミド ビカルタミド	内-1 内-1	錠剤		オダイン錠 カソデックス錠		
			抗アンドロゲン作用／アンドロゲン受容体シグナル伝達阻害作用		エンザルタミド アパルタミド ダロルタミド	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		イクスタンジ錠 アーリーダ錠 ニュベクオ錠		
			アンドロゲン合成酵素阻害作用		アビラテロン酢酸エステル	内-1	錠剤		ザイティガ錠		
			抗アンドロゲン作用	卵胞ホルモン 黄体ホルモン	エチニルエストラジオール クロルマジノ酢酸エステル	内-1 内-1	錠剤 錠剤		プロセキソール錠 プロスターール錠		
			脳下垂体性ゴナドトロピン分泌抑制作用	男性ホルモン	メチルテストステロン	内-1	錠剤		エナルモン錠		
			ステロイド合成阻害作用		ミトタン	内-1	カプセル剤		オペブリム		
		チロシンキナーゼ阻害作用	Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害	2-フェニルアミノピリミジン系	イマチニブメシル酸塩 ニロチニブ塩酸塩水和物 ダサチニブ水和物 ボスチニブ水和物 ボナチニブ水和物 アシミニブ塩酸塩	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 カプセル剤 錠剤 錠剤 錠剤 錠剤		グリベック錠 タシグナカプセル スプリセル錠 ボシュリフ錠 アイクルシグ錠 セムブリックス錠		

上皮成長因子受容体(EGFR)チロシンキナーゼ阻害	4-アニリノキナゾリン系	ゲフィチニブ	内－1	錠剤	イレッサ錠	
不可逆的ErbB受容体チロシンキナーゼ阻害作用		エルロチニブ塩酸塩	内－1	錠剤	タルセバ錠	
		アファチニブマレイン酸塩	内－1	錠剤	ジオトリフ錠	
		ダコミチニブ水和物	内－1	錠剤	ビジンプロ錠	
活性化変異及びT790M変異を有するEGFRチロシンキナーゼ阻害作用		オシメルチニブメシリ酸塩	内－1	錠剤	タグリッソ錠	
EGFR/HER2デュアルチロシンキナーゼ阻害作用		ラバチニブトシリ酸塩水和物	内－1	錠剤	タイケルブ錠	
腫瘍細胞増殖抑制作用(Rafキナーゼ阻害)、血管新生抑制作用(VEGFR阻害)	ビアリル尿素系	ソラフェニブトシリ酸塩	内－1	錠剤	ネクサバール錠	
腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		スニチニブリント酸塩	内－1	カプセル剤	ステントカプセル	
腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用(VEGFR阻害)		アキシチニブ	内－1	錠剤	インライタ錠	
腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		カボザンチニブリント酸塩	内－1	錠剤	カボメティクス錠	
腫瘍細胞増殖抑制作用(Rafキナーゼ阻害)、血管新生抑制作用(VEGFR阻害)	ビアリル尿素系	ソラフェニブトシリ酸塩	内－1	錠剤	ネクサバール錠	
腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		レンバチニブメシリ酸塩	内－1	カプセル剤	レンピマカプセル	
		パンデタニブ	内－1	錠剤	カブレルサ錠	
血管内皮増殖因子受容体(VEGFR)阻害、血小板由来増殖因子受容体(PDGFR)阻害、幹細胞因子受容体(c-Kit)阻害作用		バゾバニブ塩酸塩	内－1	錠剤	ヴォトリエント錠	
血管新生阻害作用、腫瘍細胞増殖抑制作用、間質細胞シグナル伝達阻害作用		レゴラフェニブ水和物	内－1	錠剤	スチバーガ錠	

未分化リンパ腫キナーゼ(ALK)阻害作用	クリゾチニブ	内-1	カプセル剤	ザーコリカプセル		
	アレクチニブ塩酸塩	内-1	カプセル剤	アレセンサカプセル		
	セリチニブ	内-1	錠剤	ジカディア錠		
	ロルラチニブ	内-1	錠剤	ローブレナ錠		
	ブリグチニブ	内-1	錠剤	アルンブリグ錠		
トロボミオシン受容体キナーゼ(TRK)阻害作用	エヌトレクチニブ	内-1	カプセル剤	ロズリートレクカプセル		
	ラロトレクチニブ硫酸塩	内-1 内-3,4	カプセル剤 液剤	ヴァイトラックビカブセル ヴァイトラックビ内用液		
間葉上皮転換因子(MET)阻害作用	テボチニブ塩酸塩水和物	内-1	錠剤	テブミトコ錠		
	カブマチニブ塩酸塩水和物	内-1	錠剤	タブレクタ錠		
RET阻害作用	セルペルカチニブ	内-1	カプセル剤	レットヴィモカプセル		
ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害作用	ルキソリチニブリン酸塩	内-1	錠剤	ジャカビ錠		
フルトン型チロシンキナーゼ阻害作用	イブルチニブ	内-1	カプセル剤	イムフルビカカプセル		
	アカラブルチニブ	内-1	カプセル剤	カルケンスカプセル		
	チラブルチニブ塩酸塩	内-1	錠剤	ベレキシブル錠		
FMS様チロシンキナーゼ3(FLT3)阻害作用	ギルテリチニブフルマル酸塩	内-1	錠剤	ゾスバタ錠		
	ギザルチニブ塩酸塩	内-1	錠剤	ヴァンフリタ錠		
線維芽細胞増殖因子受容体(FGFR)阻害剤	ベミガチニブ	内-1	錠剤	ペマジール錠		
細胞内シグナル伝達阻害作用	KRAS G12C阻害作用	ソトラシブ	内-1	錠剤	ルマケラス錠	

			セリン／スレオニンキナーゼ阻害作用	BRAF阻害作用		ペムラフェニブ	内－1	錠剤		ゼルボラフ錠	
				MEK阻害作用		ダブラフェニブメシル酸塩	内－1	カプセル剤		タフィンラーカプセル	
						エンコラフェニブ	内－1	カプセル剤		ビラフトビカプセル	
						トラメチニブ ジメチルスルホキシド付加物	内－1	錠剤		メキニスト錠	
						ビニメチニブ	内－1	錠剤		メクトビ錠	
			MEK1/2阻害作用			セルメチニブ硫酸塩	内－1	カプセル剤		コセルゴカプセル	
			mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		エペロリムス	内－1	錠剤		アフィニートール錠	
							内－1	錠剤		アフィニートール分散錠	
						シロリムス	内－1	錠剤		ラパリムス錠	
			サイクリン依存性キナーゼ阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用		バルボシクリブ	内－1 内－1	カプセル剤 錠剤		イプランスカプセル イプランス錠	
						アベマシクリブ	内－1	錠剤		ベージニオ錠	
			骨髄腫細胞増殖抑制作用			サリドマイド	内－1	カプセル剤		サレドカプセル	
						レナリドミド水和物	内－1	カプセル剤		レプラミドカプセル	
						ボマリドミド	内－1	カプセル剤		ボマリストカプセル	
			プロテアソーム阻害作用			イキサゾミブケン酸エヌテル	内－1	カプセル剤		ニンラーロカプセル	
			ヒストン脱アセチル化酵素阻害作用			バノビノスタット乳酸塩	内－1	カプセル剤		ファリダックカプセル	
						ボリノスタット	内－1	カプセル剤		ゾリンザカプセル	
						ツシジノスタット	内－1	錠剤		ハイヤスタ錠	
			選択的EZH2阻害作用			タゼメトスタット臭化水素酸塩	内－1	錠剤		タズベリク錠	
			EZH1/2阻害作用			ハレメトスタットシリ酸	内－1	錠剤		エザルミア錠	
			レチノイドX受容体結合作用	アポトーシス誘導作用、細胞周期停止作用	合成レチノイド	ベキサロテン	内－1	カプセル剤		タルグレチンカプセル	
			プリンスクレオシドホスホリラーゼ阻害作用	アポトーシス誘導作用、腫瘍細胞増殖抑制作用		フォロデシン塩酸塩	内－1	カプセル剤		ムンデシンカプセル	
			PARP阻害作用	細胞増殖抑制作用		オラバリブ	内－1	錠剤		リムバーザ錠	
			BCL-2阻害作用	アポトーシス誘導作用、細胞周期停止作用		ニラバリブシリ酸塩水和物	内－1	カプセル剤 錠剤		ゼジューラカプセル ゼジューラ錠	
			HSP90阻害作用			ペネットクラクス	内－1	錠剤		ベネクレクスタ錠	
						ビミテスピブ	内－1	錠剤		ジェセリ錠	

2	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	DNAアルキル化／架橋形成作用	ナイトロジエン・マスター系 アルキルスルホネート系 ナイトロジエン・マスター系／ベンゾイミダゾール系 ニトロソウレア系 トリアゼン系 エチレンイミン系 DNAアルキル化／DNA傷害作用 核酸合成過程の代謝阻害(ジヒドロ葉酸還元阻害作用) 核酸合成過程の代謝阻害(TMP合成阻害作用) 核酸合成過程の代謝阻害(DNAポリメラーゼ活性阻害作用) 核酸合成過程の代謝阻害(DNAポリメラーゼ活性阻害作用、リボヌクレオチドレダクター阻害作用) タンパク質合成阻害作用(RNAへの取り込みによる殺細胞作用) 核酸合成過程の代謝阻害(DNA・RNAポリメラーゼ活性阻害作用) 核酸合成過程の代謝阻害(アデノシンデアミナーゼ阻害作用) 核酸合成過程の代謝阻害(ジヒドロ葉酸還元阻害作用、TMP合成阻害作用、グリシンアミド・リボヌクレオチド・ホルミントランスクフェラーゼ阻害作用)	シクロホスファミド	注-1	注射薬		注射用エンドキサン	
						メルファラン	注-1	注射薬		アルケラン静注用		
						イホスファミド	注-1	注射薬		注射用イホマイド		
						ブルスファン	注-1	注射薬		ブルフェクス点滴静注用		
						ベンダムスチン塩酸塩	注-1	注射薬		トレアキシン点滴静注用、トレアキシン静注液		
						ストレブトゾシン	注-1	注射薬	点滴静注	ザノサー点滴静注用		
						ニムスチン塩酸塩	注-1	注射薬		ニドラン注射用		
						ラニムスチン	注-1	注射薬		注射用サイメリソ		
						ダカルバジン	注-1	注射薬		ダカルバジン注射用		
						チオテバ	注-1	注射薬		リサイオ点滴静注液		
						イミダゾテトラジン系	テモゾロミド	注射薬	点滴静注	テモダール点滴静注用		
						葉酸系	メトトレキサート	注射薬		メトトレキセート点滴静注液		
							プララテキサート	注射薬		ジフォルタ注射液		
						ビリミジン(フッ化ビリミジン)系	フルオロウラシル	注射薬		5-FU注		
						ビリミジン(シトシンアラビノン)系	シタラビン	注射薬		キロサイド注		
							ゲムシタビン塩酸塩	注射薬		ジェムザール注射用		
							エノシタビン	注射薬		サンラビン点滴静注用		
						プリン系	ネララビン	注射薬		アラノンジー静注		
						プリン系	クロファラビン	注射薬		エボルトラ点滴静注		
							アザシチジン	注射薬	皮下注、点滴静注	ビダーザ注射用		
						プリン系	フルダラビンリン酸エステル	注射薬		フルダラ静注用		
							クラドリビン	注射薬		ロイスタチン注		
							ペメトレキセドナトリウム水和物	注射薬		アリムタ注射用		

			DNA-I型トポイソメラーゼ阻害作用	カンプテシン系	イリノテカん塩酸塩水和物 イリノテカん塩酸塩水和物(リボソーム製剤) ノギテカん塩酸塩	注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬		カンプ点滴静注、トポテシン点滴静注 オニバイド点滴静注 ハイカムチン注射		
			DNA-II型トポイソメラーゼ阻害作用	エピボドフィロトキシン系	エトボシド	注-1	注射薬		ペブシド注、ラステット注		
			DNAと結合	アントラサイクリン系	ダウノルビシン塩酸塩 ドキソルビシン塩酸塩 ドキソルビシン塩酸塩(リボソーム製剤) アクラルビシン塩酸塩 エピルビシン塩酸塩 イダルビシン塩酸塩 ビラルビシン塩酸塩 アムルビシン塩酸塩	注-1 注-1 注-1 注-1 注-1 注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬		ダウノマイシン静注用 アドリアシン静注用 ドキシリ注 アクラシノン注射 エピルビシン塩酸塩注 イダマイシン静注 テラルビシン注射用 カルセド注射用		
			DNAグアニン結合し複合体形成	アクチノマイシン系	アクチノマイシンD	注-1	注射薬		コスメゲン静注用		
			ジシンの多いDNA部分と結合		ゲムツズマプロガマイシン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		マイロターグ点滴静注用		
			二本鎖DNA切斷作用(CD22に選択的に結合)	抗体薬物複合体	イノソズマブ オゾガマイシン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ベスボンサ点滴静注用		
			DNA傷害作用	ブレオマイシン系	ブレオマイシン塩酸塩 ベプロマイシン硫酸塩	注-1 注-1	注射薬 注射薬		ブレオ注射用 ベブレオ注射用		
			DNA/RNAと架橋形成作用	アントラサイクリン系	ミトキサンtron塩酸塩	注-1	注射薬		ノバントロン注		
			DNAアルキル化／架橋形成作用	マイトイシン系	マイトイシンC	注-1	注射薬		マイトイシン注入用		
			DNA内/DNA間架橋形成作用	白金錯化合物	シスプラチニン カルボプラチニン ネダプラチニン オキサリプラチニン シスプラチニン ミリプラチニン水和物	注-1 注-1 注-1 注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬	肝動注	ブリプラチニン注、ランダ注 バラプラチニン注射 アクプラ静注用 エルプラット点滴静注液 動注用アイエーコール ミリプラ動注用		
			ヌクレオチド除去修復機構阻害		トラベクテジン	注-1	注射薬		ヨンデリス点滴静注用		
			細胞分裂阻止作用	微小管機能阻害作用	ビンカアルカロイド系	硫酸ビンプラスチニン ビンクリスチニン硫酸塩 ビンデシン硫酸塩 ビノレルビン酒石酸塩	注-1 注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬 注射薬		エクザール注射用 オンコビン注射用 注射用フィルデシ ナベルビン注	
					タキソイド系	ドセタキセル水和物 バクリタキセル バクリタキセル カバジタキセル アセトン付加物	注-1 注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬 注射薬		タキソテール点滴静注用 タキソール注射液 アブラキサン点滴静注用 ジェブナ点滴静注	

			チューブリン重合阻害を介した微小管機能阻害作用		エリプリンメシル酸塩	注-1	注射薬		ハラヴェン静注	
			微小管機能阻害作用(CD30に選択的に結合)	抗体薬物複合体	フレンツキシマブ ベドチン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		アドセトリス点滴静注用	
			微小管機能阻害作用(CD79bに選択的に結合)	抗体薬物複合体	ボラツスマブ ベドチン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ボライビ一点滴静注用	
			微小管機能阻害作用(Nectin-4Iに選択的に結合)	抗体薬物複合体	エンホルツマブ ベドチン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		バドセフ点滴静注用	
			アポトーシス誘導作用	PML-RAR- α 蛋白質分解誘導作用	三酸化ヒ素	注-1	注射薬		トリセノックス注、トリセノックス点滴静注	
			ミトコンドリア機能障害	細胞内活性酸素種(ROS)產生促進作用	ダリナバルシン	注-1	注射薬		ダルビアス点滴静注用	
			IL-2依存性細胞傷害作用		遺伝子組換え融合タンパク質	デニロイキン ジフチトクス(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		レミトロ点滴静注用
			抗体依存性細胞傷害作用		抗HER2ヒト型モノクローナル抗体	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ハーセプチニ注射用
					ペルツスマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		バージェタ点滴静注	
					マウス-ヒトキメラ型モノクローナル抗体	リツキシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		リツキサン注
					ヒト型モノクローナル抗体	オビヌツズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ガザイバ点滴静注
						アレムツズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		マブキャンパス点滴静注
						モガムリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ボテリジオ点滴静注
					抗SLAMF7ヒト型モノクローナル抗体	エロツスマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		エムブリシティ点滴静注
					抗CD38ヒト型モノクローナル抗体	ダラツムマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ダラザレックス点滴静注
						ダラツムマブ(遺伝子組換え)・ボルヒアルロニダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ダラキユーロ配合皮下注
					抗CD38マウス-ヒトキメラ型モノクローナル抗体	イサツキシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		サークリサ点滴静注
			T細胞依存性細胞傷害作用	抗GD2マウス-ヒトキメラ型モノクローナル抗体	ジヌツキシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ユニツキシン点滴静注	
					CD3とCD19に対するヒト化二重特異性抗体	ブリナツモマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ビーリンサイト点滴静注用

			ヒト上皮細胞増殖因子受容体(EGFR)阻害作用		マウス-ヒトキメラ型モノクローナル抗体(糖タンパク質) ヒト型モノクローナル抗体(糖タンパク質)	セツキシマブ(遺伝子組換え) バニツムマブ(遺伝子組換え) ネシツムマブ(遺伝子組換え)	注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬		アービタックス注射液 ベクティビックス点滴静注 ポートラーザ点滴静注液		
			プロテアソーム阻害作用			ボルテゾミブ カルフィルゾミブ	注-1 注-1	注射薬 注射薬		ベルケイド注射用 カイプロリス点滴静注用		
			ヒストン脱アセチル化酵素阻害作用			ロミデプシン	注-1	注射薬		イストダックス点滴静注用		
			mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用、血管新生抑制作用		テムシロリムス	注-1	注射薬		トーリセル点滴静注		
			細胞分裂阻止作用及び抗体依存性細胞傷害作用		抗体薬物複合体	トラスツズマブ エムタンシン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		カドサイラ点滴静注用		
			核酸合成阻害作用及び抗体依存性細胞傷害作用		抗体薬物複合体	トラスツズマブ デルクス テカン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		エンハーツ点滴静注用		
			PD-1/PD-1リガンド結合阻害作用	がん抗原特異的なT細胞の活性化及びがん細胞に対する細胞傷害活性の増強	ヒト型モノクローナル抗体	ニボルマブ(遺伝子組換え) ペムプロリズマブ(遺伝子組換え) アベルマブ(遺伝子組換え) アテザリズマブ(遺伝子組換え) デュルバブルマブ(遺伝子組換え)	注-1 注-1 注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬 注射薬 注射薬		オブジーボ点滴静注 キイトルーダ点滴静注 バベンチオ点滴静注 テセントリク点滴静注 イミフィンジ点滴静注		
						セミプリマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		リブタヨ点滴静注		
				CTLA-4結合阻害作用		ヒト型モノクローナル抗体	イビリムマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ヤーボイ点滴静注液	
							トレメリムマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イジュド点滴静注	
腫瘍用薬 放射性医薬品	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	⁹⁰ Yにより標識された抗CD20抗体がCD20陽性のB細胞性腫瘍に集積し、 β 線を放出		マウスモノクローナル抗体	イリツモマブ チカキセタン(遺伝子組換え)、塩化イトリウム(⁹⁰ Y)	注-1	注射薬		ゼヴァリン イットリウム(⁹⁰ Y)静注用		
			¹³¹ Iで標識されたMIBGが、腫瘍に集積し、 β 線を放出			3-ヨードベンジルグアニジン(¹³¹ I)	注-1	注射薬		ライアットMIBG-I 131静注		
			¹⁷⁷ Luで標識されたソマトスタチンアナログが、ソマトスタチン受容体陽性の腫瘍に集積し、 β 線を放出			ルテチウムオキソドトレオチド(¹⁷⁷ Lu)	注-1	注射薬		ルタテラ静注		
			²²³ Raが骨転移巣に集積し、 α 線を放出			塩化ラジウム(²²³ Ra)	注-1	注射薬		ゾーフィゴ静注		
腫瘍用薬	悪性腫瘍	その他	免疫強化作用	抗腫瘍免疫能賦活作用 細胞増殖抑制作用／ヒトNK活性増強作用	菌体成分	溶連菌抽出物	注-1	注射薬		ピシバニール注射用		
					天然型インターフェロンアルファ(NAMALWA)	インターフェロンアルファ	注-1	注射薬		スマフェロン注		
					天然型インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	注-1	注射薬		フェロン注射用		
					遺伝子組換え型インターフェロンガンマ	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イムノマックス- γ 注		

				細胞障害性キラー細胞誘導作用／免疫賦活作用	遺伝子組換え型インターロイキン-2	テセロイキン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イムネース注	
				細胞栄養遮断作用	アスパラギン脱アミノ化作用 L-アスパラギン加水分解作用	酵素系	L-アスパラギナーゼ クリサンタスバーゼ	注-1 注射薬	注射薬	ロイナーゼ注用 アーウィナーゼ筋注用	
				細胞内呼吸障害作用	レーザー光照射による活性酸素生成作用	光感受性物質	タラボルフィンナトリウム	注-1 注射薬	注射薬	注射用レザフィリン	
				血管新生阻害作用	血管内皮増殖因子(VEGF)阻害作用 血管内皮増殖因子(VEGF-A、VEGF-B及びIGF)阻害作用	ヒト型モノクローナル抗体 ヒト遺伝子組換え融合タンパク質	ベバシズマブ(遺伝子組換え) アブリベルセプトベータ(遺伝子組換え)	注-1 注射薬	注射薬	アバスチン点滴静注用 ザルトラップ点滴静注	
					血管内皮増殖因子受容体2(VEGFR-2)阻害作用	ヒト型モノクローナル抗体	ラムシルマブ(遺伝子組換え)	注-1 注射薬	注射薬	サイラムザ点滴静液	
				抗悪性腫瘍薬作用増強作用	チミジル酸合成酵素の解離遅延作用	葉酸系	レボホリナートカルシウム	注-1 注射薬	注射薬	アイソボリン点滴静注用	
				ホルモン様作用	抗アンドロゲン作用	LH-RH誘導体(GnRHアゴニスト)	ゴセレリン酢酸塩 リュープロレリン酢酸塩	注-2 注-1 注-2 キット	キット	ゾラデックス リューブリン注射用	
						LH-RH誘導体(GnRHアンタゴニスト)	デガレリクス酢酸塩	注-1 注射薬	注射薬	ゴナックス皮下注用	
				抗エストロゲン作用			フルベストラント	注-2 キット	キット	フェソロデックス筋注	
				抗がん剤の作用持続作用			ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル	注-1 注射薬	注射薬	ミリブラ用懸濁用液	
				胸膜の炎症惹起作用・胸膜癒着作用			滅菌調整タルク	注-1 注射薬	注射薬	ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤	
				細胞傷害作用	中性子照射によるアルファ線及びリチウム原子核生成作用 光化学反応による細胞膜傷害作用(EGFRに選択的に結合)		ボロファラン(¹⁰ B)	注-1 注射薬	注射薬	ステボロニン点滴静注	
							セツキシマブ サロタロカナトリウム(遺伝子組換え)	注-1 注射薬	注射薬	アキヤルックス点滴静注	
3	腫瘍用薬	悪性腫瘍	抗腫瘍作用	核酸合成阻害作用	核酸合成過程の代謝阻害(TMP合成阻害作用)	ビリミジン(フッ化ビリミジン)系	フルオロウラシル	外-1 軟膏剤	軟膏剤	5-FU軟膏	
				DNA傷害作用	プレオマイシン系	プレオマイシン	外-1 軟膏剤	軟膏剤	軟膏剤	プレオS軟膏	
				DNAアルキル化作用	ニトロソウレア系	カルムスチン	外-5 貼付剤	貼付剤	貼付剤	ギリアデル脳内留置用剤	
				mTOR阻害作用	腫瘍細胞増殖抑制作用		シロリムス	外-1 ゲル剤	ゲル剤	ラバリムスゲル	
			その他	細胞傷害作用			乾燥BCG膀胱内用(日本株)	外-1 液剤	液剤	イムノプラダー膀胱注用	

430 放射性医薬品

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤型区分	剤型	用法	主な製品名	線引き
1	放射性医薬品	甲状腺の診断、検査 甲状腺機能亢進症の治療、甲状腺癌の治療	甲状腺ホルモン合成作用 甲状腺への取り込み作用			¹²³ I	ヨウ化ナトリウム(¹²³ I)	内-1	カプセル剤		ヨードカプセル-123	
						¹³¹ I	ヨウ化ナトリウム(¹³¹ I)	内-1	カプセル剤		ラジオカップ	
2	放射性医薬品	甲状腺疾患の診断				^{99m} Tc	過テクネチウム酸ナトリウム(^{99m} Tc) 注射液ジェネレータ	注-1	注射薬 (ジェネレータ)		・ウルトラテクネカウ ・メジテック ・エルマティックIII	
							過テクネチウム酸ナトリウム(^{99m} Tc) 注射液	注-1	注射薬	静注	・テクネシンチ注-10M ・テクネシンチ注-20M ・テクネゾール	
		局所脳血流診断				¹²³ I	N-イソプロピル-4-ヨードアンフェミン(¹²³ I)塩酸塩	注-1	注射液	静注	バーヒューザミン注	
						^{99m} Tc	エチレンジシスティートオキソテクネチウム(^{99m} Tc)ジエチルエスチル注射液	注-2	キット	静注	ニューロライト注射液 第一	
						^{99m} Tc	エチレンジシスティートオキソテクネチウム(^{99m} Tc)ジエチルエスチル注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	ニューロライト 第一	
						^{99m} Tc	イキサメタジムテクネチウム(^{99m} Tc) 注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	セレブロテックキット	
		外科的治療が考慮される部分てんかん患者におけるてんかん焦点の診断	中枢性ベンゾジアゼピン受容体結合作用(選択性)			¹²³ I	イオマゼニル(¹²³ I)注射液	注-2	キット	静注	ベンゾダイン注	
						¹²³ I	イオフルパン(¹²³ I)	注-2	キット	静注	ダットスキヤン静注	
		パーキンソン症候群、レビー小体型認知症診断におけるドバミントランスポーターシングラフィ	ドバミントランスポータ結合作用(選択性)			¹¹¹ In	ジエチレントリアミン五酢酸インジウム(¹¹¹ In)	注-1	注射薬	脳脊髄液腔内投与	インジウムDTPA(¹¹¹ In)注	
		腎疾患診断	腎静態シンチグラフィ			^{99m} Tc	ジメルカフトバク酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液	注-1	注射薬	静注	キドニーシンチTc-99m注	
						^{99m} Tc	ジメルカフトバク酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	・キドニーシンチキット ・テクネDMSAキット	
		腎・尿路疾患診断				^{99m} Tc	ジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネDTPAキット	
						^{99m} Tc	メルカブトアセチルグリシンルグリシンテクネチウム(^{99m} Tc)注射液	注-2	キット	静注	テクネMAG ₃ 注射液	
						^{99m} Tc	メルカブトアセチルグリシンルグリシンテクネチウム(^{99m} Tc)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネMAG ₃ キット	
		副腎疾患部位診断				¹³¹ I	ヨウ化メチルノルコレステノール(¹³¹ I)注射液	注-1	注射薬	静注	アドステロール-I131注射液	

心臓疾患診断 (心筋病変の診断)	交感神経シンチグラフィ		^{123}I	メタヨードベンジルグアニジン(^{123}I)	注-1	注射薬	静注	ミオMIBG- I^{123} 注射液	
	脂肪酸代謝シンチグラフィ		^{123}I	ヨードフェニルメルヘンタデカン酸	注-2	キット	静注	カルディオダイナ注	
	心筋血流イメージング		^{201}Tl	塩化トリウム(^{201}Tl)	注-1	注射薬	静注	・塩化トリウム(^{201}Tl)注NMP ・塩化トリウム- Tl^{201} 注射液	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	テトロホスミンテクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-2	キット	静注	マイオビュー注シリンジ	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ヘキサキストキシリブチリソニトリルテクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-2	キット	静注	カーディオライト注射液 第一	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	テトロホスミンテクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	マイオビュー「注射用」	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ヘキサキストキシリブチリソニトリルテクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	カーディオライト 第一	
	心臓疾患診断 (血管病変の診断)		$^{99\text{m}}\text{Tc}$	人血清アルブミン-エチレントリアミン五酢酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-1	注射薬	静注	プールシンチ注	
	肺血流診断		$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ビリリン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネビリリン酸キット	
	肺・脳血流診断		$^{81\text{m}}\text{Kr}$	クリプトン($^{81\text{m}}\text{Kr}$)	注-1	注射薬		クリプトン($^{81\text{m}}\text{Kr}$)シエネレータ	
骨疾患診断			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ヒドロキシチレジン-ホスホン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-1	注射薬	静注	クリアボーン注	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	メチレンジホスホン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-2	キット	静注	テクネMDP注射液	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ヒドロキシメチレンジホスホン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	クリアボーンキット	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	メチレンジホスホン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	テクネMDPキット	
	肝機能診断		$^{99\text{m}}\text{Tc}$	ガラクトン人血清アルブミン-エチレントリアミン五酢酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-1	注射薬	静注	シアロシンチ注	
肝胆道系機能診断			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	N-ビリルキシリ-5-メチルトリフトアントテクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-1	注射薬	静注	ヘパティメージ注	
	肝脾疾患診断		$^{99\text{m}}\text{Tc}$	テクネチウムスズコロイド($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液(調製用)	注-1	注射薬	静注	スズコロイド $\text{Tc}-99\text{m}$ 注調製用キット	
			$^{99\text{m}}\text{Tc}$	フイチン酸テクネチウム($^{99\text{m}}\text{Tc}$)注射液	注-1	注射薬	静注	テクネフチン酸キット	

				⁶⁷ Ga	クエン酸ガリウム(⁶⁷ Ga)	注-1 注-2	注射薬 キット	静注	・クエン酸ガリウム(⁶⁷ Ga)注NMP ・クエン酸ガリウム-Ga67注射液	
悪性腫瘍診断 (全腫瘍が適応)										
イブリツモマブ チウキセタン(遺伝子組換え)の集積部位の確認	γ線放出格種である ¹¹¹ Inで標識した抗CD20抗体(イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え))を用いたシンチグラフィ			¹¹¹ In	イブリツモマブ チウキセタン(遺伝子組換え)、塩化インジウム(¹¹¹ In)	注-1	注射薬	静注	ゼヴァリン インジウム(¹¹¹ In)静注用セット	
造血骨髄の診断				¹¹¹ In	塩化インジウム(¹¹¹ In)	注-1	注射薬	静注	塩化インジウム(¹¹¹ In)注	
循環血液、血漿量測定 (画像を伴わない検査)				⁵¹ Cr ¹³¹ I	クロム酸ナトリウム(⁵¹ Cr)注射液 ヨウ化人血清アルブミン(¹³¹ I)	注-1 注-1	注射薬 注射薬	静注 静注	放射性クロム酸ナトリウム注射液 放射性ヨウ化人血清アルブミン注射液	
神経内分泌腫瘍の診断	ソマトスタチン受容体結合作用			¹¹¹ In	ベンテトレオチド、塩化インジウム(¹¹¹ In)	注-1	注射薬	静注	オクトレオスキャン静注用セット	

441-449 アレルギー用薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用 3	組成・構 造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	アレルギー用 薬	アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患	ケミカルメディエータ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用			ジフェンヒドラミン塩酸塩	内-1	錠剤		ベナ錠 レスタミンコーウ錠	
							クレマスチンフルマル酸塩	内-2 内-1 内-4 内-4	散剤 錠剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		タベジール散 タベジール錠 タベジールシロップ	
							ホモクロルシクリジン塩酸塩	内-1	錠剤		ホモクロルシクリジン 塩酸塩錠	
							ヒドロキシジン塩酸塩	内-1	錠剤		アタラックス錠	
							ヒドロキシジンパモ酸塩	内-1 内-2 内-3	錠剤 散剤 シロップ剤		アタラックス-P散	
							シプロヘプタジン塩酸塩	内-2 内-1 内-4	散剤 錠剤 シロップ剤		ペリアクチン散 ペロアクチն錠 ペリアクチンシロップ	
							プロメタジン塩酸塩	内-1	錠剤		ヒベルナ糖衣錠 ピレチア錠	
							アリメマジン酒石酸塩	内-4	シロップ剤		アリメジンシロップ	
							d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	内-2 内-1 内-4 内-3	散剤 錠剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		ボララミン散 ボララミン錠 ボララミンシロップ ボララミンドライシロップ	
							クロルフェニラミンマレイン酸塩	内-2 内-2 内-1 内-3, 4	末剤 散剤 錠剤 シロップ剤		プロダミン アレルギン散 クロルフェニラミンマレイン酸塩錠 クロダミンシロップ	
							オキサトミド	内-1 内-4	錠剤 シロップ剤		セルテクト錠 オキサトミドシロップ	
							ベポタスチンベシル酸塩	内-1	錠剤		タリオン錠	
							オロパタジン塩酸塩	内-1 内-2 内-3, 4	錠剤 顆粒剤 ドライシロップ剤		アレロック錠 アレロック顆粒 オロパタジン塩酸塩ドライシロップ	
							メキタジン	内-2 内-1 内-4	細粒剤 錠剤 シロップ剤		ゼスラン小児用細粒 ゼスラン錠 ゼスラン小児用シロップ	
							フル酸エメダスチン	内-1	カプセル剤		ダレンカプセル	
							フェキソフェナジン塩酸塩	内-1 内-3, 4	錠剤 ドライシロップ剤		アレグラ錠 アレグラドライシロップ	
							アゼラスチン塩酸塩	内-1	錠剤		アゼブチニ錠	
							エビナスチン塩酸塩	内-1 内-4	錠剤 ドライシロップ剤		アレジオン錠 アレジオンドライシロップ	

					セチリジン塩酸塩 内-1 内-4	錠剤 ドライシロップ剤		ジルテック錠 ジルテックドライシロップ
					レボセチリジン塩酸塩 内-1 内-1 内-3,	錠剤 錠剤 シロップ剤		ザイザル錠 レボセチリジン塩酸塩 OD錠 ザイザルシロップ
					ケトチフェンフル酸塩 内-1 内-1 内-3 内-4	錠剤 カプセル剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		ザジデンカプセル ザジテンシロップ ザジテンドライシロップ
					エバスチン 内-1	錠剤		エバステル錠
					ロラタジン 内-1 内-3,	錠剤 ドライシロップ剤		クラリチン錠 クラリチンドライシロップ
					デスロラタジン 内-1	錠剤		デザレックス錠
					ビラスチン 内-1	錠剤		ビラノア錠、OD錠
					ルバタジンフル酸塩 内-1	錠剤		ルバファイン錠
	配合剤(ケミカルメディエータ受容体拮抗作用)	抗ヒスタミン作用／α交感神経刺激作用		配合剤	フェキソフェナジン塩酸塩／ 塩酸ゾイドエフェドリン	内-1	錠剤	ディレグラ配合錠
アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患／気管支喘息	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	ヒスタミン遊離抑制作用／ロイコトリエン遊離抑制作用			トラニラスト 内-2 内-1 内-4	細粒剤 カプセル剤 ドライシロップ剤		リザベン細粒 リザベンカプセル リザベンドライシロップ
					ペミロラストカリウム 内-1 内-4	錠剤 ドライシロップ剤		アレギーサール錠 アレギーサルドライシロップ
		ロイコトリエン遊離抑制作用			イブジラスト 内-1	カプセル剤		ケタスカプセル
アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患、気管支喘息	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	インターロイキン産生抑制作用			スプラタストトシリ酸塩 内-1 内-4	カプセル剤 ドライシロップ剤		アイピー・ディカプセル アイピー・ディドライシロップ
アレルギー性鼻炎／気管支喘息	ケミカルメディエータ拮抗作用	ロイコトリエン受容体拮抗作用			ブランルカスト水和物 内-1 内-1 内-4	カプセル剤 錠剤 ドライシロップ剤		オノンカプセル ブランルカスト錠 オノンドライシロップ
					モンテルカストナトリウム 内-1 内-5 内-2	錠剤 チュアブル 細粒剤		シングレア錠 シングレアチュアブル錠
気管支喘息	ケミカルメディエータ合成阻害作用	トロンボキサンA2受容体拮抗作用			ラマトロバン 内-1	錠剤		ラマトロバン錠
					セラトロダスト 内-2 内-1	顆粒剤 錠剤		プロニカ颗粒 プロニカ錠
アレルギー性皮膚疾患	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	抗プラスミン作用			オザグレル塩酸塩水和物 内-1	錠剤		ベガ錠 ドメナン錠
					トラネキサム酸 内-2 内-2 内-1 内-1 内-3,	細粒剤 散剤 錠剤 カプセル剤 シロップ剤		ブレタスミン細粒 トランサミン散 トランサミン錠 トランサミンカプセル トランサミンシロップ

		スギ花粉症(減感作療法) ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎(減感作療法)	特異的減感作作用			スギ花粉エキス コナヒヨウヒダニエキス原末及びヤケヒヨウヒダニエキス原末 コナヒヨウヒダニ抽出エキス及びヤケヒヨウヒダニ抽出エキス	内-5 内-5 内-5	舌下錠 舌下錠 舌下錠		シダキュアスギ花粉舌下錠 アシテアダニ舌下錠 ミティキュアダニ舌下錠	
		遺伝性血管性浮腫の急性発作の発症抑制	選択的血漿カリクレイン阻害作用			ペロトラルスタッフ塩酸塩	内-1	カセル剤		オラデオカブセル	
		アトピー性皮膚炎	チロシンキナーゼ阻害作用	ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害作用		バリシチニブ ウパダシチニブ水和物 アブロシチニブ	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		オルミエント錠 リンヴォック錠 サイバインコ錠	
2	アレルギー用薬	アレルギー性鼻炎／アレルギー性皮膚炎／慢性蕁麻疹	ケミカルメディエータ拮抗作用			ジフェンヒドラミン塩酸塩 プロメタジン塩酸塩 クロルフェニラミンマレイン酸塩	注-1 注-1 注-1	注射薬 注射薬 注射薬		レスミン注射液 ヒベルナ注 ボララミン注	
		配合剤(ケミカルメディエータ拮抗作用)	抗ヒスタミン作用+催眠鎮静作用		配合剤	ジフェンヒドラミン塩酸塩/臭化カルシウム	注-1	注射薬		レスカルミン注	
		アレルギー性皮膚炎／蕁痺	ケミカルメディエータ遊離抑制作用	ホスホリバーゼA2阻害作用		グリチルリチン、グリシン、システィン配合剤	注-1	注射薬		強力ネオミノファーゲンシー静注	
		蕁麻疹、蕁痺	抗プラスミン作用			トラネキサム酸	注-1	注射薬		トランサミン注	
		アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎	ケミカルメディエータ受容体調節作用	好酸球浸潤抑制作用		ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	注-1	注射薬		ノイロトロピン注射液	
		気管支喘息	抗IgE作用			オマリズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		ゾレア皮下注シリジ	
			抗IL-5作用			メボリズマブ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		ヌーカラ皮下注用 ヌーカラ皮下注(シリジ、ベン)	
			抗IL-5受容体作用			ベンラリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ファセンラ皮下注	
			胸腺間質性リンパ球新生因子(TSLP)阻害作用			テゼペルマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		テゼスバイア皮下注	
		スギ花粉症(減感作療法)	特異的減感作作用			標準化スギ花粉エキス	注-1	注射薬		治療用標準化アレルゲンエキス皮下注「ト	
		気管支喘息(減感作療法)(ブタクサ花粉)アレルギー性鼻炎				アレルゲン治療エキス	注-1	注射薬		治療用アレルゲンエキス皮下注「トリイ」	
		ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎、気管支喘息(減感作療法)				コナヒヨウヒダニエキス及びヤケヒヨウヒダニエキス	注-1	注射薬		治療用ダニアレルゲンエキス皮下注「トリイ」	
		アトピー性皮膚炎	IL-4/IL-13シグナル伝達阻害作用			デュピルマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		デュピクセント皮下注(シリジ、ベン)	
			IL-13シグナル伝達阻害作用			トラロキヌマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		アドトラーザ皮下注シリジ	

		アトピー性皮膚炎に伴うそう痒 (既存治療で効果不十分な場合に限る)	IL-31シグナル伝達阻害作用			ネモリズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		ミチーガ皮下注用シリジ	
		遺伝性血管性浮腫	ブラジキニン受容体拮抗作用			イカチバント酢酸塩	注-2	キット		フィラジル皮下注シリジ	
		遺伝性血管性浮腫の急性発作の発症抑制	血漿カリクレイン阻害作用			ラナデルマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		タクサイロ皮下注シリジ	
3	アレルギー用薬	アレルギー性鼻炎	ケミカルメディエータ受容体拮抗作用	抗ヒスタミン作用		エメダスチンマル酸塩	外-5	貼付剤		アレサガテープ	

611-615・619・621-624・629 主として一般細菌に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	主として一般細菌に作用するもの	主として γ ハム陽性菌 (G+) に作用	細胞壁合成阻害作用			ペニシリン系	ペンジルペニシリンベンザチン グアルコペプタイド系	内-2 内-2	顆粒剤 散剤		バイシン G 塩酸パンコマイシン	
		RNAポリメラーゼ阻害作用					フィタキソマイシン	内-1	錠剤		ダフクリア錠	
		蛋白合成阻害作用				リンコマイシン系	クリンタマイシン塩酸塩 リンコマイシン塩酸塩	内-1 内-1	カプセル剤		ダラシン リンコシン	
		VRE/MRSAに作用	蛋白合成阻害作用			マクロライド系	アセチルスピラマイシン	内-1	錠剤		アセチルスピラマイシン	
		MRSAに作用				オキサゾリジノン系	リネゾリド テゾリドリドリン酸エチル	内-1 内-1	錠剤		ザイボックス シベクトロ錠	
	主として γ ハム陰性菌 (G-) に作用	細胞膜機能障害作用				ボリペプタイド系	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム ボリミキシンB硫酸塩	内-2 内-1	散剤 錠剤		コリマイシンS メタコリマイシン	
	主として γ ハム陽性菌 (G+)/ γ ハム陰性菌 (G-) に作用	蛋白合成阻害作用				アミノグリコシド系	カナマイシン硫酸塩	内-1	カプセル剤		カナマイシン	
		細胞壁合成阻害作用				ペニシリン系(1)	アンピシリン アモキシリン水和物	内-1 内-1 内-2	カプセル剤 錠剤 細粒剤		ビクシリン アモリン	
						ペニシリン系(2)	バクシリン塩酸塩 スルタミシントシリ酸塩 スルタミシントシリ酸塩(小)	内-1 内-2	錠剤 細粒剤		ベングローブ ユナシン	
						セフム系(1)	セファレキシ	内-1 内-2 内-1 内-3 内-4	錠剤 顆粒剤 カプセル剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		ケフレックス	
						セファレキシ(小)	内-4	ドライシロップ剤				
						セファクロル	内-1 内-2	カプセル剤 顆粒剤		ケフラール		
						セファクロル(小)	内-2	細粒剤				
						セフロキサン(小)	内-4	ドライシロップ剤		オラスボア		
						セフム系(2)	セフロキシムアキセチル	内-1	錠剤		オラセフ	
						セフム系(3)	セフロドキシムロキセチル セフロドキシムロキセチル(小)	内-1 内-4	錠剤 ドライシロップ剤		バナン	
						セフィギシム	内-1	カプセル剤		セフスパン		
						セフィギシム(小)	内-2	細粒剤				
						セテラムビホキシル	内-1	錠剤		トミロン		
						セテラムビホキシル(小)	内-2	細粒剤				
						セブジニル	内-1	カプセル剤		セフゾン		
						セブジニル(小)	内-2	細粒剤				

					セフジ [®] トレニ [®] ボ [®] キシル セフジ [®] トレニ [®] ボ [®] キシル(小) セフカベ [®] ンビ [®] ボ [®] キシル塩酸塩 セフカベ [®] ンビ [®] ボ [®] キシル塩酸塩(小)	内－1 内－2	錠剤 細粒剤		マイクト
				ヘ [®] ネム系	ファロ [®] ヘ [®] ネムナトリウム ファロ [®] ヘ [®] ネムナトリウム(小)	内－1 内－4	錠剤 ドライシップ [®] 剤	ファロム	
				カルバ [®] ヘ [®] ネム系	テビ [®] ヘ [®] ネム ピ [®] ボ [®] キシル	内－2	細粒剤	オラペネム	
				ホスホマイシン系	ホスホマイシンカルシウム ホスホマイシンカルシウム(小)	内－1 内－1 内－4	錠剤 カプセル剤 ドライシップ [®] 剤	ホスマシン	
配合剤（細胞壁合成阻害作用）				配合剤	アモキシシリン/クラブ [®] ラン酸カリウム アモキシシリン/クラブ [®] ラン酸カリウム(小) アビ [®] シリン/クロキサリントナトリウム	内－1 内－4	錠剤 ドライシップ [®] 剤	オーグメンチン クラバモックス	
				サルファ剤	スルファメトキサゾ [®] ール スルファメトキサゾ [®] ール	内－2 内－2	末剤 末剤	シノミン	
				配合剤（葉酸合成阻害作用+葉酸活性阻害作用）	スルファメトキサゾ [®] ール/トリメトブリム	内－1 内－2	錠剤 顆粒剤	バクタ	
主としてグラム陽性菌(G+) / マイコ [®] ラ [®] ムに作用	蛋白合成阻害作用			マクロライド系(1)	エリスロマイシン エリスロマイシンエチルコハク酸エステル エリスロマイシンステアリン酸塩	内－1 内－2 内－4	錠剤 顆粒剤 ドライシップ [®] 剤	アイロタイシン エリスロシン エリスロシン	
				マクロライド系(2)	クラリスロマイシン クラリスロマイシン(小)	内－1 内－1 内－4	錠剤 錠剤 ドライシップ [®] 剤	クラリシッド、クラリス	
				マクロライド系(3)	ロキシロマイシン アンスロマイシン水和物 アンスロマイシン水和物(小)	内－1 内－1 内－2	錠剤 錠剤 カプセル剤 細粒剤	ルリッド ジスロマック	
				マクロライド系(4)	ジョサマイシン ジョサマイシンフロビ [®] ラン酸エステル(小)	内－1 内－4 内－4	錠剤 カプセル剤 ドライシップ [®] 剤	ジョサマイシン ジョサマイ	
	蛋白合成阻害作用			クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール	内－1	錠剤	クロロマイセチン	
				テトラサイクリン系(1)	テトラサイクリン塩酸塩 デ [®] メチルクロロテト [®] マイシン塩酸	内－1 内－1	カプセル剤 カプセル剤	アクロマイシン レダマイシン	
				テトラサイクリン系(2)	ミノサイクリン塩酸塩 ミノサイクリン塩酸塩(小) ドキシサイクリン塩酸塩	内－1 内－1 内－2 内－1	錠剤 カプセル剤 顆粒剤 錠剤	ミノマイシン ビブラマイシン	
	核酸(DNA)合成阻害作用			キノロン系	ノルフロキサン ノルフロキサン(小) ロメフロキサン塩酸塩 オフロキサン シプロフロキサン塩酸塩 ブルリフロキサン	内－1 内－1 内－1 内－1 内－1 内－1	錠剤 錠剤 錠剤 カプセル剤 錠剤 錠剤	バクシダール ロメバクト タリビット シプロキサン スオード	

レボフロキサン水和物	内-1 内-2 内-3	錠剤 細粒剤 液剤		クラビット
トスフロキサシル酸塩水和物	内-1 内-2	錠剤 錠小児用 細粒剤		オゼックス
モキシフロキサン塩酸塩	内-1	錠剤		アベロックス
ガレノキサンメル酸塩水和物	内-1	錠剤		ジェニナック
シタフロキサン水和物	内-1 内-2	錠剤 細粒剤		グレースピット
ラスクフロキサン塩酸塩	内-1	錠剤		ラスピック

2	主として一般細菌に作用するもの	主として β -乳球菌(G+)に作用	細胞壁合成阻害作用	β -内酰胺系	β -ラクタム系	β -ラクタム系	注-1	注射薬	ペニシリンGカリウム	
			蛋白合成阻害作用		リンコマイシン系	β -ラクタム系	注-2	キット		
		M R S Aに作用	細胞壁合成阻害作用	β -内酰胺系	リソママイシン塩酸塩	リソママイシン塩酸塩	注-1	注射薬	リソママイシン	
			蛋白合成阻害作用		クリンダマイシン塩酸エチル	クリンダマイシン塩酸エチル	注-1 注-2	注射薬 キット	ダラシン	
			細胞膜脱分極作用		タゴシッド	タゴシッド	注-1	注射薬		
			蛋白合成阻害作用		バソコマイシン塩酸塩	バソコマイシン塩酸塩	注-1	注射薬	塩酸バソコマイシン	
		V R E / M R S Aに作用	細胞壁合成阻害作用	β -内酰胺系	ハベカシン	ハベカシン	注-1	注射薬	ハベカシン	
			蛋白合成阻害作用		キュビシン静注用	キュビシン静注用	注-1	注射薬		
			蛋白合成阻害作用		シベクトロ点滴静注用	シベクトロ点滴静注用	注-1	注射薬		
			蛋白合成阻害作用		ザイボックス	ザイボックス	注-1	注射薬		
	主として β -乳球菌(G-)に作用	細胞壁合成阻害作用		β -内酰胺系	アズtreオム	アズtreオム	注-1	注射薬	アザクタム	
		配合剤(βラクタマーゼ阻害作用+細胞壁合成阻害作用+不活性化阻害作用)		配合剤	レバクタム/イミペネム/シラストチソナトリウム	レバクタム/イミペネム/シラストチソナトリウム	注-1	注射薬	レカルブリオ配合点滴静注用	
		細胞膜機能障害作用		ポリペプタイド系	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	注-1	注射薬	オルドレブ点滴静注用	
		蛋白合成阻害作用		β -内酰胺系	トブライシン	トブライシン	注-1	注射薬	トブライシン	
					アセトアミノフェン	アセトアミノフェン	注-1	注射薬	硫酸アミカシン	
					イセバマイシン塩酸塩	イセバマイシン塩酸塩	注-1	注射薬	エクサシン	
					(アミサイクリト系)	スルタナマイシン塩酸塩	スルタナマイシン塩酸塩	注-1	注射薬	トロビシン
					グリシルサイクリン系	チガサイクリン	チガサイクリン	注-1	注射薬	タイガシル点滴静注用
		蛋白変性作用		ヘキサミン系	ヘキサミン	ヘキサミン	注-1	注射薬	ヘキサミン	
	主として β -乳球菌(G+)/ β -乳球菌(G-)に作用	細胞壁合成阻害作用		β -内酰胺系(1)	アンピシリントリウム	アンピシリントリウム	注-1	注射薬	ビクシリソ	
		配合剤(細胞壁合成阻害作用)		配合剤	アンピシリントリウム/クロキサリソ	アンピシリントリウム/クロキサリソ	注-1	注射薬	ビクシリソS	
					ビペラシルトリウム	ビペラシルトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット	ペントシリソ	
				セフム系(1)	セファゾリントリウム	セファゾリントリウム	注-1 注-2	注射薬 キット	セファメジンα	
					セファロチントリウム	セファロチントリウム	注-1	注射薬	ケフリン	
				セフム系(2)	セフォチアム塩酸塩	セフォチアム塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット	パンスポリン	

セフム系(3)	セフメキシム塩酸塩	注-1	注射薬		ベストコール
	セフオタキシムナトリウム	注-1	注射薬		クラフォラン
	セフトリアキソナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		ロセフイン静注用 ロセフイン点滴静 注用パック
セフム系(4)	セフエム塩酸塩	注-1	注射薬		セフェビム
	セフオゾーブラン塩酸塩	注-1 注-2	注射薬 キット		ファーストシン
	セフタジジム	注-1	注射薬		セフタジジム
	セフミノクサナトリウム	注-1	注射薬		メイセリン
	セフメタゾールナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		セフメタゾン
	フルマリン	注-1 注-2	注射薬 キット		
セフム系(6)	ラタキセナトリウム	注-1	注射薬		
	ホモキセナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		
ホスミシン系	ホスミシンナトリウム	注-1	注射薬		ホスミシン
	カルバヘム系	メロヘム三水和物	注-1 注-2	注射薬 キット	メロペン
	ヒアベヘム	注-1 注-2	注射薬 キット		オメガシン点滴用 0.3g オメガシン点滴用 0.3gパック
	トリベヘム水和物	注-1 注-2	注射薬 キット		フィニパックス点 滴用0.25% フィニパックス キット点滴用0. 25%
	配合剤	イミヘム/シラスタン	注-1 注-2	注射薬 キット	チエナム
	ハニベヘム/ヘミブロン	注-1	注射薬		カルベニン
	配合剤	スルバクタム/アンビシリ	注-1 注-2	注射薬 キット	ユナシン-S ユナシン-Sキッ ト静注用
	スルバクタム/セフォヘラゾン	注-1 注-2	注射薬 キット		スルベラゾン セフォペラゾンナ トリウム・スルバ クタムナトリウム
	タゾバクタムナトリウム/ヒベラン リントナトリウム	注-1 注-2	注射薬 キット		ゾシン
	タゾバクタムナトリウム/セフトゾン硫酸塩	注-1	注射薬		ザバクサ
キノン系	シプロキサン	注-1	注射薬		シプロキサン
	バスプロキサンメシル酸塩	注-2	キット		バシル/バズクロ
	レボプロキサン水和物	注-1 注-2	注射薬 キット		クラビット
	ラスクロキサン塩酸塩	注-2	キット		ラスピック
アミノケリコント系	ゲンタマイシン硫酸塩	注-1	注射薬		ゲンタシン
	ジペガシン硫酸塩	注-1	注射薬		パニマイシン

		主として γ -ラム陽性菌(G+)/マイコ β -ラヌマに作用	蛋白合成阻害作用		マクロライド系	エリスロマイシンラクトビ β -ホ酸塩	注-1	注射薬		エリスロシン	
		主として γ -ラム陽性菌(G+)/ γ -ラム陰性菌(G-) /リケチヤ/クラミジアに作用	蛋白合成阻害作用		クロラムフェニコール系	クロラムフェニコールコハク酸エステルナトリウム	注-1	注射薬		ジスロマック点滴静注用	
					テトラサイクリン系	ミノサイクリン塩酸塩	注-1	注射薬		クロロマイセチンサクシネット	
										ミノマイシン	
3	主として一般細菌に作用するもの	主として γ -ラム陽性菌(G+)/ γ -ラム陰性菌(G-)に作用	細胞壁合成阻害作用		セフム系	セフチゾキシムナトリウム	外-6	坐剤		エボセリン	
		囊胞性線維症における緑膿菌による呼吸器感染に伴う症状の改善	蛋白合成阻害作用		アミノケリコント系	トブラマイシン	外-2	吸入液		トービイ吸入液	

616 主として抗酸菌に作用するもの

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き	
1	主として抗酸菌に作用するもの	結核菌 肺結核及びその他の結核症、M A C 症を含む非結核性抗酸菌症、ハンセン病 結核症、M A C 症を含む非結核性抗酸菌症、HIV感染患者における播種性M A C 症の発症抑制 らい菌	細胞壁合成阻害作用				サイクロセリン	内-1	カプセル剤		サイクロセリン		
			葉酸合成阻害作用				アルミニアミノサリチル酸カルシウム ハラミノサリチル酸カルシウム	内-2	顆粒剤		アルミニニッパスカルシウム		
			ミコール酸合成阻害作用					内-2	顆粒剤		ニッパスカルシウム		
							イソニアジド	内-1	錠剤		イスコチン		
							イソニアジドメタンスルホン酸ナトリウム	内-2 内-1	末剤 錠剤		ネオイスコチン		
							エチオミド	内-1	錠剤		ツベルミン		
							デラマニド	内-1	錠剤		デルティバ錠		
			アデノシン5'-三リン酸(ATP)合成酵素阻害作用				ベダキリンフマル酸塩	内-1	錠剤		サチュロ錠		
			核酸(RNA)合成阻害作用				エタンブトール塩酸塩	内-1	錠剤		エサンブトール		
			細胞内pH低下作用				ビラジナミド	内-2	末剤		ピラマイド		
			核酸(RNA)合成阻害作用				リファンビシン	内-1	カプセル剤		リファジン		
							リファブチン	内-1	カプセル剤		ミコブテイン		
			核酸(DNA)合成阻害作用				クロファジミン	内-1	カプセル剤		ランブレン		
2	主として抗酸菌に作用するもの	結核菌	蛋白合成阻害作用				アミノケリコド系	ストレptomycin硫酸塩	注-1	注射薬		硫酸ストレプトマイシン	
							カナマイシン硫酸塩	注-1	注射薬		硫酸カナマイシン		
							エンピオマイシン硫酸塩	注-1	注射薬		ツベラクチン		
			ミコール酸合成阻害作用				イソニアジド	注-1	注射薬		イスコチン		
3	主として抗酸菌に作用するもの	M A C による肺非結核性抗酸菌症	蛋白合成阻害作用				アミノケリコド系	アミカシン硫酸塩(リボソーム製剤)	外-2	吸入剤		アリケイス吸入液	

617 主として真菌に作用するもの

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	主として真菌に作用するもの	カジダ	細胞膜機能障害作用			ホリエン系	アムホテリンB(小)	内-4	シロップ剤		ファンギゾン	
			細胞膜合成阻害作用			イミダゾール系	ミコナゾール	内-4	ゲル		フロリード	
		カジダ、真菌	細胞膜合成阻害作用			トリアゾール系	フルコナゾール	内-1 内-3, 4	カプセル剤 ドライシロップ剤		ジフルカン ジフルカンドライシロップ	
						ホリコナゾール	内-1 内-3, 4	錠剤 ドライシロップ剤		ブイフェンド錠 ブイフェンドドライシロップ		
						ホサコナゾール	内-1	錠剤		ノクサフィル		
						イブコナゾニウム硫酸塩	内-1	カプセル剤		クレセンバカプセル		
			核酸(DNA)合成阻害作用			ヒリミジン系	フルシシン	内-1	錠剤		アンコチル	
			カジダ、皮膚糸状菌	細胞膜合成阻害作用		アリルアミン系	テルビナフィン塩酸塩	内-1	錠剤		ラミシール	
			カジダ、真菌、皮膚糸状菌	細胞膜合成阻害作用		トリアゾール系	イトラコナゾール	内-1 内-3	カプセル剤 錠剤 液剤		イトリゾール	
			皮膚糸状菌				ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	内-1	カプセル剤		ネイリンカプセル	
		ニューモシスチス・イロベチ	ミトコンドリア電子伝達系阻害作用				アトバコン	内-3	液剤		サムチレール内用懸濁液	
2	主として真菌に作用するものの	カジダ、真菌	細胞膜機能障害作用			ホリエン系	アムホテリンB	注-1	注射薬		ファンギゾン	
			細胞膜合成阻害作用			イミダゾール系	ミコナゾール	注-1	注射薬		アムビゾーム点滴静注用	
						トリアゾール系	フルコナゾール	注-1	注射薬		フロリード	
							ホスフルコナゾール	注-1	注射薬		ジフルカン静注液	
							ホリコナゾール	注-1	注射薬		ブロジフ注射液100	
							ホサコナゾール	注-1	注射薬		ノクサフィル点滴静注	
							イブコナゾニウム硫酸塩	注-1	注射薬		クレセンバ点滴静注用	
			細胞壁合成阻害作用			カンドライン系	ミカファンギンナトリウム	注-1	注射薬		ファンガード点滴	
							カスボファンギン酢酸塩	注-1	注射薬		カンサイダス点滴静注用	

625 ウィルスに作用するもの

内注外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	ウイルスに作用するもの	ヘルペスウイルス	核酸(DNA)合成阻害作用	核酸型ポリメラーゼ阻害作用			アスクロビル	内-1 内-2 内-3 内-4	錠剤 顆粒剤 シロップ剤 ドライシロップ剤		ゾビラックス	
							パンクロビル塩酸塩	内-1 内-2	錠剤 顆粒剤		バルトレックス	
							ファムクロビル	内-1	錠剤		ファムビル錠	
							アメナメビル	内-1	錠剤		アメナリーフ錠	
	サイトメガロウイルス		核酸(DNA)合成阻害作用				パルガンシクロビル塩酸塩	内-1 内-3, 4	錠剤 ドライシロップ剤		バリキサ錠 バリキサドライシロップ	
							レテルモビル	内-1	錠剤		プレバイミス錠	
	B型肝炎ウイルス		HBV逆転写酵素阻害/HBV DNA鎖伸長阻止作用				メクレオンド系	ミブジン	錠剤		ゼフィックス錠	
							エテルヒル水和物	内-1	錠剤		バラクルード錠	
			HBV DNA合成阻害作用				テノホビル ジソプロキシルフルマル酸塩	内-1	錠剤		テノゼット錠	
							テノホビル アラフェナミドフルマル酸塩	内-1	錠剤		ベムリディ錠	
	C型肝炎ウイルス		抗HCV作用				リバピリン	内-1	カプセル剤		レベトールカプセル	
			配合剤(HCV NS5A複製複合体阻害作用+HCV NS3-4Aプロテアーゼ選択的阻害作用)			配合剤	グレカフレビル水和物/ピブレンタスピル	内-1 内-2	錠剤 顆粒		マヴィレット配合錠 マヴィレット配合顆粒	
			配合剤(HCV NS5A複製複合体阻害作用+HCV NS5Bポリメラーゼ阻害作用)			配合剤	レジパスビル アセトン付加物/ソホスビル ソホスビル/ベルバタスピル	内-1	錠剤		ハーボニー配合錠 エブクルーサ配合錠	

インフルエンザウイルス	M2蛋白機能阻害作用				アマンダン塩酸塩	内-1 内-2	錠剤 細粒剤		シンメトレル		
	ノイロニガーゼ阻害作用				オルタミビル塩酸塩	内-1 内-4	カプセル剤 ドライシロップ剤		タミフル タミフルドライシリップ		
	キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害作用				パロキサビル マルボキシル	内-1	錠剤		ゾフルーザ錠		
ヒト免疫不全ウイルス	HIV逆転写酵素阻害作用				エクリオンド系	ジドブジン ラミブジン アバカビル硫酸塩 テノホビル ジソブロキシルフル酸塩 エムトリシタビン	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	カプセル剤 錠剤 錠剤 錠剤 カプセル剤	レトロビル エビビル ザイアジエン ビリアード錠 300mg エムトリバカプセル 200mg		
	配合剤 (HIV逆転写酵素阻害作用)				配合剤	ジドブジン/ラミブジン ラミブジン/アバカビル硫酸塩 テノホビル ジソブロキシルフル酸塩/エムトリシタビン エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミドフル酸塩 リルビビリン塩酸塩/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミドフル酸塩	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤		コンビビル エブジコム錠 ツルバダ錠 デシコビ配合錠 オデフシ配合錠	
	HIV逆転写酵素阻害作用				非エクリオンド系	セビビン エフアビレンツ エトドビリン リルビビリン塩酸塩 ドラビリン	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤	ビラミューン ストックリン インテレンス錠 エジュラント錠 ピフェルトロ錠		
	HIVプロテアーゼ阻害作用					リトナビル ホスアンプロナヒルカルシウム水和物 ダルナビル エタノール付加物 ダルナビル エタノール付加物 アザナビル硫酸塩	内-1 内-1 内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤 錠剤 カプセル剤	ノービア レクシウア錠 700 ブリジスタ錠 ブリジスタナイブ錠 レイアタツカブセル 150mg		
	配合剤 (HIVプロテアーゼ阻害作用)	HIVプロテアーゼ阻害作用+活性物質代謝拮抗作用			配合剤	ヒトカビル/リトナビル ダルナビル エタノール付加物/コビシスタット	内-1 内-3 内-1	錠剤 液剤 錠剤	カレトラ ブレジコビックス配合錠		
	配合剤 (HIVプロテアーゼ阻害作用+活性物質代謝拮抗作用+エクリオンド系HIV逆転写酵素阻害作用)				配合剤	ダルナビル エタノール付加物/コビシスタット/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミドフル酸塩	内-1	錠剤	シムツーザ配合錠		

		HIVインテグラーゼ阻害作用			ラルテグラビルカリウム ドルテグラビルナトリウム カボテグラビルナトリウム	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		アイセントレス錠 テビケイ錠 ボカブリア錠	
		配合剤 (HIVインテグラーゼ阻害作用+ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用)		配合剤	ドルテグラビルナトリウム／ラミブジン ドルテグラビルナトリウム／アバカビル硫酸塩／ラミブジン ビクテグラビルナトリウム／エムトリシタビン／テノホビル アラフェナミドフマル酸塩	内-1 内-1 内-1	錠剤 錠剤 錠剤		ドウベイト配合錠 トリーメク配合錠 ビクタルビ配合錠	
		配合剤 (HIVインテグラーゼ阻害作用+活性物質代謝拮抗作用+ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用)		配合剤	エルピテグリビル/コビシタット/エムリシタビン/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩	内-1	錠剤		ゲンボイヤ配合錠	
		配合剤 (HIVインテグラーゼ阻害作用+非ヌクレオシド系HIV逆転写酵素阻害作用)		配合剤	ドルテグラビルナトリウム／リルビビリン塩酸塩	内-1	錠剤		ジャルカ配合錠	
	SSPEウイルス	核酸(RNA)合成阻害作用			イソシブランベクス	内-1	錠剤		イソプリノシン	
	SARS-CoV-2	3CLプロテアーゼ阻害作用			モルヌビラビル ニルマトレルビル・リトナビル エンシトレルビル フマル	内-1 内-1 内-1	カプセル剤 錠剤 錠剤		ラゲブリオカブセ パキロビッドパック ゾコーパ錠	
	CCR5指向性HIV-1	CCケカイン受容体5 (CCR5) 阻害作用			マテビウ	内-1	錠剤		シーエルセントリ錠	
2 ウイルスに作用するもの	ヘルペスウイルス	核酸(DNA)合成阻害作用			アシクヒル ビタラビン	注-1 注-2	注射薬 キット		ゾビラックス	
	サイトメガロウイルス	核酸(DNA)合成阻害作用			ガソンクヒル塩酸塩 ホスカネットドリウム水和物	注-1 注-1	注射薬 注射薬		デノシン ホスカビル	
	サイトメガロウイルスター ミナーゼ阻害作用				レテルモビル	注-1	注射薬		ブレバイス点滴 静注	
	RSウイルス	タンパク質合成阻害作用		ヒト/マウス chimera型モノクロナル抗体	バリビスマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		シナジス筋注用50mg	
	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症	リラミニダーゼ阻害作用			ベラミビル水和物	注-1	注射薬		ラビアクタ点滴用 バイアル ラビアクタ点滴用 バッグ	
	SARS-CoV-2	RNA依存性RNAポリメラーゼ阻害作用			レムデシビル	注-1	注射薬		ベクルリー点滴静注用	
	ヒト免疫不全ウイルス	HIVインテグラーゼ阻害作用 HIV逆転写酵素阻害作用		カボテグラビル リルビビリン	注-1 注-1	注射薬 注射薬		ボカブリア水懸筋注 リカムビス水懸筋注		

3	ウイルスに作用するもの	インフルエンザウイルス	ノイラミニターゼ 阻害作用				サナミビル水和物 ラニナミビルオクタン酸エストル水和物	外-2 外-2 外-9	吸入剤 吸入剤 吸入剤(キット)	リレンザ イナビル吸入懸濁用 イナビル吸入粉末剤	
---	-------------	-------------	---------------	--	--	--	--------------------------------	-------------------	------------------------	--------------------------------	--

631-633 ワクチン類、毒素及びトキソイド類、抗毒素類

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	ワクチン類	肺炎球菌感染症の予防	抗肺炎球菌抗体産生作用				肺炎球菌ワクチン	注-1 注-2	注射薬 キット		ニューモバックスNP ニューモバックスNPシリジン	
		狂犬病の予防	抗狂犬病ウイルス抗体産生作用				乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	注-1 注-1	注射薬 注射薬		組織培養不活性化狂犬病ワクチン ラビピュール筋注用	
		B型肝炎の予防	抗HBs抗体産生作用				組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来） 組換え沈降B型肝炎ワクチン（チャイニーズ・ハムスター卵巣細胞由来）	注-1 注-2 注-1	注射薬 キット 注射薬		ヘブタバックス-II ヘブタバックス-II水性懸濁注シリジン r-HBワクチン	
		侵襲性髄膜炎菌感染症の予防	抗髄膜炎菌抗体産生作用				4価髄膜炎菌ワクチン（ジフテリアトキソイド結合体） 4価髄膜炎菌ワクチン（破傷風トキソイド結合体）	注-1 注-1	注射薬 注射薬		メナクトラ筋注 メンクアッドフィ筋注	
		破傷風の予防	抗破傷風菌抗体産生作用				沈降破傷風トキソイド	注-1	注射薬		沈降破傷風トキソイド	
	毒素及びトキソイド類 抗毒素類	ジフテリアの治療	ジフテリア毒素の中和作用				乾燥ジフテリアウマ抗毒素	注-1	注射薬		乾燥ジフテリア抗毒素	
		破傷風の治療・予防	破傷風毒素の中和作用				乾燥破傷風ウマ抗毒素	注-1	注射薬		乾燥破傷風ウマ抗毒素	
		ボツリヌス感染症の治療・予防	ボツリヌス毒素の中和作用				乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	注-1	注射薬		乾燥A, B, E, Fボツリヌスウマ抗毒素	
		はぶ咬傷治療	はぶ毒素の中和作用				乾燥はぶウマ抗毒素	注-1	注射薬		乾燥はぶウマ抗毒素	
		まむし咬傷治療	まむし毒素の中和作用				乾燥まむしウマ抗毒素	注-1	注射薬		乾燥まむしウマ抗毒素	
		クロストリジウム・ディフィシル感染症の再発抑制	クロストリジウム・ディフィシル産生トキシンBの中和作用				ベズロトクスマブ（遺伝子組換え）	注-1	注射薬		ジーンプラバ点滴静注	

634 輸血用血液製剤・血漿分画製剤・血球由来製剤

内注外 分類名 区分	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2 輸血用血液製剤	輸血適応症	全血液成分の補充			全血製剤	人全血液	注-1	注射薬		人全血液-LR「日赤」	
	血中赤血球不足 (貧血症等)	赤血球の補充				人全血液(放射線照射)	注-1	注射薬		照射人全血液-LR「日赤」	
	血漿成分による副作用を避ける場合の輸血	赤血球の補充			赤血球製剤	人赤血球濃厚液	注-1	注射薬		赤血球濃厚液-LR「日赤」	
						解凍人赤血球濃厚液	注-1	注射薬		解凍赤血球-LR「日赤」	
					合成血製剤	人赤血球濃厚液(放射線照射)	注-1	注射薬		照射赤血球濃厚液-LR「日赤」	
	ABO型血液型不適合による新生児溶血性疾患	赤血球の補充				解凍人赤血球濃厚液(放射線照射)	注-1	注射薬		照射解凍赤血球-LR「日赤」	
	血小板減少症	血小板の補充			血小板製剤	洗浄人赤血球浮遊液	注-1	注射薬		洗浄赤血球-LR「日赤」	
血漿分画製剤	抗HLA抗体陽性血小板減少症	血小板の補充				洗浄人赤血球浮遊液(放射線照射)	注-1	注射薬		照射洗浄赤血球-LR「日赤」	
	循環血漿量減少の改善				血漿製剤	合成血	注-1	注射薬		合成血-LR「日赤」	
	低アルブミン血症	循環血漿量の確保				合成血(放射線照射)	注-1	注射薬		照射合成血-LR「日赤」	
	ウイルス性疾患の予防	抗体活性	抗原中和作用		アルブミン製剤	人血小板濃厚液	注-1	注射薬		濃厚血小板	
	重症感染症における抗生物質との併用	抗体活性	抗原中和作用/貪食増強作用/免疫調整作用			人血小板濃厚液(放射線照射)	注-1	注射薬		照射濃厚血小板	
					グロブリン製剤	人血小板濃厚液HLA	注-1	注射薬		濃厚血小板HLA	
						人血小板濃厚液HLA(放射線照射)	注-1	注射薬		照射濃厚血小板HLA	
					血漿製剤	新鮮凍結人血漿	注-1	注射薬		新鮮凍結血漿-LA「日赤」	
						加熱人血漿たん白	注-1	注射薬		プラスマート／プラスマプロテインフラクション	
					アルブミン製剤	人血清アルブミン	注-1	注射薬		アルブミン	
						人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ガンマグロブリン	
					グロブリン製剤	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	注-1	注射薬		献血ベニロン-I静注用	
						乾燥ポリエチレンギリコール処理人免疫グロブリン	注-1	注射薬		献血グロベニン-I静注用	
					グロブリン製剤	ポリエチレンギリコール処理人免疫グロブリン	注-1	注射薬		献血ヴェノグロブリンIH静注	
						pH4処理酸性人免疫グロブリン	注-1	注射薬		日赤ポリグロビンN静注	
					グロブリン製剤	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ガンマガード静注用	
						pH4処理酸性人免疫グロブリン(皮下注射)	注-1	注射薬		ハイゼントラ皮下注	

				pH4処理酸性人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ビリヴィジエン静注
破傷風の発症予防・症状軽減	抗破傷風抗体活性	破傷風毒素中和作用		抗破傷風グロブリン製剤 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	注-1	注射薬		
				抗破傷風人免疫グロブリン	注-1	注射薬		テタガムP筋注シリンジ
				ポリエチレングリコール 処理抗破傷風人免疫グロブリン	注-1	注射薬		テタノブリン-IH
B型肝炎発症予防	抗HBs抗体活性	HBV中和作用		抗HBsグロブリン製剤 乾燥抗HBs人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ヘプスブリン/乾燥HBグロブリン
				抗HBs人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ヘパトセラ-/抗HBs人免疫グロブリン
				乾燥ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	注-1	注射薬		ヘプスブリン-I
母体血中での抗D抗体の產生抑制	抗D抗体抑制作用	抗D抗体產生抑制作用		抗Dグロブリン製剤 乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	注-1	注射薬		乾燥抗D人免疫グロブリン
血液凝固因子障害に基づく出血	止血作用	血液凝固第VIII因子の補充		血液凝固第VIII因子 血液濃縮人血液凝固第VIII因子	注-1	注射薬		クロスエイトMC静注用 コンコエイト-HT コンファクトF注射用
				ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	注-2	キット		アドベイト静注用キット
				ツロクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ノボエイト静注用
				エフラロクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イロクテイト静注用
				オクトコグ ベータ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		コバールトリイ静注用
				ルリオクトコグ アルファペゴル(遺伝子組換え)	注-2	キット		アディノベイト静注用キット
				ロノクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		エイスチラ静注用
				ダモクトコグアルファペゴル(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ジビイ静注用
				ツロクトコグ アルファペゴル(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イスパロクト静注用
				シモクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ヌーアック静注用
		血液凝固第VIII因子の補因子機能の代替		活性型血液凝固第IX因子と血液凝固第X因子に対するヒト化二重特異性抗体 エミシズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ヘムライプラ皮下注
		血液凝固第VIII、IX因子迂回作用		血液凝固抗体迂回活性複合体製剤 乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	注-1	注射薬		ファイバ静注用
				活性化人血液凝固第VII因子、人血液凝固第X因子 乾燥濃縮人血液凝固第X因子加活性化第VII因子	注-1	注射薬		バイクロット配合静注用
				血液凝固第VII因子製剤 エフタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		注射用ノボセブン

		血液凝固第IX因子の補充		血液凝固第IX因子製剤 X因子 ノナコグアルファ(遺伝子組換え) エフトレノナコグ アルファ(遺伝子組換え) アルブトレベノナコグ アルファ(遺伝子組換え) ノナコグ ベータ ベゴル(遺伝子組換え)	乾燥濃縮人血液凝固第I因子 注-1 注射薬 ノバクト-M/クリスマシン-M ベネフィクス オルブロリクス静注用 イデルビオン静注用 レフィキシア静注用		
				血液凝固第IX因子複合体製剤 乾燥人血液凝固第IX因子複合体	ヒト血漿由来乾燥血液凝固第XIII因子 注-1 注射薬 PPSB-HT		
				血液凝固第XIII因子 血液凝固第XIII因子Aサブユニットの補充 フィブリノーゲンの補充	血液凝固第XIII因子Aサブユニット カトリデカコグ(遺伝子組換え) フィブリノーゲン製剤 乾燥人フィブリノーゲン	注-1 注射薬 ノボサーティーン静注用 フィブリノーゲン-HT	
	von Willebrand病患者における出血傾向の抑制	止血作用	von Willebrand因子の補充	von Willebrand因子 ボニコグ アルファ(遺伝子組換え)	ボニコグ アルファ(遺伝子組換え) 注-1 注射薬 ポンベンディ静注用		
	ビタミンK拮抗薬投与中の患者における出血	止血作用	血液凝固第II、第VII、第IX、第X因子の補充	人プロトロンビン複合体製剤 乾燥濃縮人プロトロンビン複合体	乾燥濃縮人プロトロンビン 注-1 注射薬 ケイセントラ静注用		
	アンチトロンビン欠乏・低下症	血栓形成抑制作用	トロンビン活性阻害作用	アンチトロンビン製剤 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII アンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII 注-1 注射薬 ノンスロン、ノイアート		
	先天性プロテインC欠乏症による深部静脈血栓症等	血栓形成局所で抗凝固作用、線溶亢進作用	活性化プロテインCの補充	活性化プロテインC製剤 乾燥濃縮人活性化プロテインC	活性化プロテインC 注-1 注射薬 注射用アナクトC		
	遺伝性血管性浮腫の急性発作	血管透過性亢進の抑制作用	活性化補体第1成分阻止作用	C1インアクチベータ製剤 乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	C1インアクチベータ 注-1 注射薬 ペリナートP、ペリナート皮下注入2000		
	ヘモグロビン血症・尿症	遊離ヘモグロビンの処理作用	ハブトグロビン-ヘモグロビン複合体の生成	ハブトグロビン製剤 人ハブトグロビン	ハブトグロビン 注-1 注射薬 ハブトグロビン		
	気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚疾患	配合剤(好酸球浸潤抑制作用)	ヒスタミン耐性獲得作用+ヒスタミン遊離抑制作用	配合剤 ヒスタミン加人免疫グロブリン(乾燥)	ヒスタミン加人免疫グロブリン(乾燥) 注-1 注射薬 ヒスタグロビン		
	重症α1-アンチトリプシン欠乏症	肺組織における不適切なタンパク質分解の抑制	ヒトα1-プロティナーゼイニヒビターの補充	ヒトα1-プロティナーゼイニヒビター製剤 ヒトα1-プロティナーゼイニヒビター	ヒトα1-プロティナーゼイニヒビター 注-1 注射薬 リンスパッド点滴静注用		
血球由来製剤	急性ポルフィリン症患者における急性発作症状の改善	δ-アミノレブリン酸合成酵素活性阻害作用		ヒトヘミン製剤 ヘミン	ヒトヘミン 注-1 注射薬 ノーモサング点滴静注		

639 インターフェロン類

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	インターフェロン類	ウイルス性肝炎	抗ウイルス作用	ウイルス蛋白合成阻害作用、免疫賦活作用		天然型インターフェロンアルファ	インターフェロン アルファ(NAMALW A)	注-2	キット		スマフェロン	
						遺伝子組換え型ペゲインターフェロンア ルファ	ペゲインターフェロン アルファー-2a(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ペガシス皮下注90 μg	
						天然型インターフェロンベータ	インターフェロン ベータ	注-1	注射薬		フェロン／IFN β	
	多発性硬化症の再発予防	症状進行抑制作用	T細胞サブレーザー機能改善/インターフェロンγ産生抑制作用		遺伝子組換え型インターフェロンベータ	インターフェロン ベーター-1b(遺伝子組換え)	インターフェロン ベーター-1b(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ベタフェロン皮下注	
						インターフェロン ベーター-1a(遺伝子組換え)	インターフェロン ベーター-1a(遺伝子組換え)	注-2	キット		アボネックス筋注用	
						遺伝子組換え型インターフェロンガンマ	インターフェロン ガンマ-1a(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イムノマックス-γ/ピオガンマ	
						インターロイキン2製剤	テセロイキン(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		イムネース	

639 その他の生物学的製剤

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
2	その他の生物 学的製剤	再生不良性貧血	免疫抑制作用	T細胞抑制作用		ワサギ免疫グロブリン製剤	抗ヒト胸腺細胞ワサギ免疫グロブリ ン	注-1	注射薬		サイモグロブリン点滴静注用	
		腎移植に伴なう拒否反応	腎移植に伴なう拒否反応	T細胞抑制作用	ヒト／マウスキーラ型モノクロナール 抗体		バシリキシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		シムレクト静注用20mg	
		発作性夜間ヘモグロビン尿症	ヒト補体蛋白(hc5)と結合することによりC5の開裂を阻害し、C5b-9の生成を				エクリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		シムレクト小児用静注用10mg	
		寒冷凝集素症	ヒト補体第1成分s サブコンポーネント(C1s)と結合することによりC1sの開裂を阻害し、古典的補体経路の活性化を阻害				ラブリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ソリリス点滴静注 ユルトミリス点滴静注、同H点滴静注	
		視神經脊髄炎スペクトラム障害(視神經脊髄炎を含む)の再発予防	免疫調節作用	IL-6シグナル伝達阻害作用	ヒト化抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体		サトラリズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		エンスプリング皮下注シリンジ	
		全身型重症筋無力症	内因性IgGのFcRnへの競合阻害することにより、内因性IgGのリサイクルを阻害	CD19結合による細胞障害作用	遺伝子組換えヒト化モノクローナル抗体		イネビリズマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ユブリズナ点滴静注	
					遺伝子組換えヒトIgG1 Fc ドメイン類縁体		エフガルチギモドアルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		ウイフガート点滴静注	

641 原虫に作用するもの

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	原虫に作用するもの	マラリア原虫	核酸(DNA)障害作用			キニーネ製剤	キニーネエチル炭酸エステル キニーネ塩酸塩 キニーネ硫酸塩	内-2 内-2 内-2	末剤 末剤 末剤		エチル炭酸キニーネ 塩酸キニーネ 硫酸キニーネ	
			ヘム重合阻害作用				メフロキン塩酸塩	内-1	錠剤		メファキン「エスエス」錠275	
	配合剤(原虫に作用するもの)	マラリア原虫	ミトコンドリア電子伝達系阻害作用+ジヒドロ葉酸レダクターゼ阻害作用 反応性代謝物産生+ヘム重合阻害作用			配合剤	アトバコン／プログアニル塩酸塩 アルテメテル／ルメファントリリン	内-1 内-1	錠剤 錠剤		マラロン配合錠 マラロン小児用配合錠 リアメット配合錠	
原虫に作用するもの	トリコモナス原虫		核酸(DNA)障害作用				メトロニダゾール チニダゾール	内-1 内-1	錠剤 錠剤		フラジール ハイシジン	
	腸管アメーバ		蛋白合成阻害作用				パロモマイシン硫酸塩	内-1	カプセル剤		アメバロモカブセル	
	三日熱マラリア及び卵形マラリア		休眠体原虫に対するミトコンドリア電子伝達系阻害作用、活性酸素による酸化的損傷作用				ブリマキンリン酸塩	内-1	錠剤		ブリマキン錠15mg「サノフィ」	
	トキソプラズマ		蛋白合成阻害作用				スピラマイシン	内-1	錠剤		スピラマイシン錠150万単位「サノフィ」	
2	原虫に作用するもの	ニュモシスチス・カリニ	グルコース代謝抑制作用				ベンタミジンイセチオン酸塩	注-1	注射薬		ベナンバックス	
		偏性嫌気性菌/アメーバ赤痢	核酸(DNA)障害作用				メトロニダゾール	注-1	注射薬		アネメトロ点滴静注液	
	配合剤(原虫に作用するもの)	ニュモシスチス・カリニ	葉酸合成阻害作用 +葉酸活性抑制作用			配合剤	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	注-1	注射薬		パクトラミン	

642 寄生虫に作用するもの

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	寄生虫に作用するもの	吸虫	膜構造不安定化作用				ブ'ラジ'カンテル	内-1	錠剤		ビルトリシド錠	
		回虫	運動性消失作用			サントニ系	サントニ	内-2	末剤		サントニ原末	
		フィラリア	酸素消費抑制作用			ビ'ヘ'ラジ'ン	ジ'エチルカルバ'マジ'ンケン 酸塩	内-1	錠剤		スパトニン錠	
		包虫	微小管形成阻害作用			ペ'ンズ'イミタ'ゾ'ール系	アルペ'ンタ'ゾ'ール	内-1	錠剤		エスカゾール錠	
		糞線虫	細胞膜過分極作用			アペ'ルメクチ'ン系	イペ'ルメクチ'ン	内-1	錠剤		ストロメクトール錠	
		鞭虫	微小管形成阻害作用			ペ'ンズ'イミタ'ゾ'ール系	メ'ンタ'ゾ'ール	内-1	錠剤		メベンダゾール錠	
		蟇虫、回虫、鉤虫、条虫	蛋白凝固作用			チモール系	チモール	内-2	末剤		チモール	
		蟇虫、回虫、鉤虫、東洋毛様線虫	神經-筋伝達遮断作用				ビ'ランテルバ'モ酸塩	内-1	錠剤		コンバントリン錠	
								内-4	ドライクロップ剤		コンバントリンドライシロップ	
3	寄生虫に作用するもの	疥癬虫	神經遮断作用	細胞膜脱分極作用		ビレスロイド系	フェノトリン	外-1	ローション剤		スミスリンローション	

721・729・799 造影用剤 (放射性医薬品を除く)

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き					
1	造影用剤	消化管造影					アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	内-3	液剤	経口投与又は注腸	ガストログラフィン						
							硫酸バリウム	内-3	液剤	経口投与又は注	バリトップゾル						
							クエン酸鉄アンモニウム	内-2	散剤	溶解し服用	フェリセルツ						
							塩化マンガン四水和物	内-3	液剤	経口投与	ポースデル						
		消化管造影補助	発泡作用			糖類	D-ソルビトール	内-3	液剤	X線造影剤に添加し服用	D-ソルビトール液						
								内-2	散剤		D-ソルビトール						
		配合剤(消化管造影補助) 胃内視鏡検査における胃内粘液の溶解除去 大腸コンピューター断層撮像の補助	蛋白分解作用			配合剤	炭酸水素ナトリウム／酒石酸	内-2	顆粒	経口投与	ガストラストK						
							プロナーゼ	内-2	散剤	水に溶かし経口投与	プロナーゼMS						
							硫酸バリウム	内-3	液剤	経口投与	コロンフォート内用懸濁液						
2	造影用剤	尿路・血管造影 子宮卵管、関節、脊髄撮影 胆のう・胆管造影 リンパ、子宮卵管撮影 脳・脊髄、軀幹部・四肢の造影 肝臓造影 肝腫瘍性病変の造影 心エコー図検査における造影				イオン性	イオタラム酸ナトリウム	注-1	注射薬		コンレイ400注						
							イオタラム酸メグルミン	注-1	注射薬		DIPコンレイ注						
							アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	注-1	注射薬	適宜点滴静注など	ウログラフィン60%						
							イオバミドール	注-1 注-2	注射薬キット		イオバミロン注						
							イオヘキソール	注-1 注-2	注射薬キット		オムニパーク140 オムニパーク240シリンジ						
							イオベルソール	注-1 注-2	注射薬キット		オブチレイ160 オブチレイ240シリンジ						
							イオメプロール	注-1 注-2	注射薬キット		イオメロン300 イオメロン300シリンジ						
							イオプロミド	注-1 注-2	注射薬キット		プロスコープ150 プロスコープ300シリンジ						
							イオジキサノール	注-1	注射薬		ビジパーク						
							非イオン性	イオトロラン	注-1	注射薬	撮影部位に投与	イソビスト					
							イオトロクス酸メグルミン	注-1	注射薬	点滴静注	ビリスコビンDIC50						
							ヨード代謝シガ油脂脂肪酸エチルエステル	注-1	注射薬	末梢リバ管内に注入ほか	リビオドールウルトラフルイド						
							ガドテル酸メグルミン	注-2	キット		マグネスコープシリンジ						
							ガドジアミド水和物	注-1 注-2	注射薬キット	静注	オムニスキヤン オムニスキヤンシリンジ						
							ガドテリドール	注-1	注射薬	静注	プロハンス注						
							ガドブロトール	注-2	キット	静注	プロハンス静注シリンジ ガドビスト静注1.0mol/Lシリンジ						
							フェルカルボトラン	注-1	注射薬	静注	リゾビスト						
3	造影用剤	脳血流の測定				超常磁性酸化鉄コロイド	ガドキセト酸ナトリウム	注-1	注射薬	静注	EOB・ブリモビスト						
		注腸消化管造影	共振作用				ペルフルブタン	注-1	注射薬	静注	ソナゾイド						
			配合剤(消失作用)			配合剤	ガラクトース／バルミチン酸	注-1	注射薬	静注	レボビスト						
							キセノン吸入剤(非放射性)	外-2	吸入剤	専用吸入装置に装着し使用。吸	ゼンコールド						
							アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン	外-7	液剤	注腸	ガストログラフィン						
							硫酸バリウム	外-7	液剤	注腸	バリエネマLC						

722 検査用試薬・729診断用薬

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	検査用試薬・ 診断用薬	脅外分泌機能検査					ベンチロミド	内-3	液剤		脅外分泌機能検査用PFD 内服液	
		下垂体ACTH分泌予備能の測定	ACTH分泌作用				メチラボン	内-1	カプセル剤		メビロンカプセル	
		糖尿病診断時の糖負荷試験	インスリン分泌作用				デンブン部分加水分解物液	内-3	液剤		トレーランG液	
		ヘリコバクター・ピロリの感染診断					尿素(13C)	内-1	錠剤		ユーピット錠	
		悪性神経膠腫の腫瘍摘出術中における腫瘍 組織の可視化	腫瘍細胞内への蓄積				アミノレブリン酸塩酸塩	内-2	末剤		アラベル内用剤 アラグリオ内用剤	
		経尿道的膀胱腫瘍切除術時における筋層非 浸潤性膀胱癌の可視化	腫瘍細胞内への蓄積				アミノレブリン酸塩酸塩	内-2	顆粒剤		アラグリオ顆粒剤分包	
2	検査用試薬・ 診断用薬	下垂体LH分泌機能検査	視床下部作用	ゴナドトロピン分泌作用			ゴナドレリン酢酸塩	注-1	注射薬		LH-RH注射液タナベ	
		下垂体TSH分泌機能検査／下垂体プロラクチ ン分泌機能検査		TSH、プロラクチン分泌作用			酒石酸プロチレリン	注-1	注射薬		ヒルトニン注射液	
		副腎皮質機能検査		ACTH分泌作用			プロチレリン	注-1	注射薬		TRH注射液タナベ	
		下垂体機能検査	視床下部作用	成長ホルモン分泌刺激作用			テトラコサクチド酢酸塩	注-1	注射薬			
		成長ホルモン分泌不全症の診断					アルギニン塩酸塩	注-1	注射薬		アルギニン注「モリシタ」	
		成長ホルモン分泌機能検査、インスリノーマ診 断、肝糖原検査	グリコーゲン分解および糖新生作用	アデニル酸シクラーゼ活性化 作用			ブラルモレリン塩酸塩	注-1	注射薬		注射用GHRP科研100	
		視床下部・下垂体・副腎皮質系ホルモン分泌 機能検査	ACTH分泌作用	ACTHおよび副腎皮質糖質ス テロイドホルモン分泌作用			グルカゴン	注-1	注射薬			
		結核診断検査	ツベルクリン反応				コルチコレリン(ヒト)	注-1	注射薬		ヒトCRH注「ミツビシ」	
		Ellsworth-Howard試験(副甲状腺機能検 査)					精製ツベルクリン	注-1	注射薬		一般／確認診断用精製ツ ベルクリン(PPD)	
		肝機能検査	肝排泄作用				テリバラチド酢酸塩	注-1	注射薬		ヒトPTH注(旭化成)	
		腎機能検査	尿中排泄作用				インドシアニングリーン	注-1	注射薬		ジアグノグリーン注	
							インジゴカルミン	注-1	注射薬		インジゴカルミン注第一	
							パラアミノ馬尿酸ナトリウム	注-1	注射薬		パラアミノ馬尿酸ソーダ注 射液10%	
							フェノールスルホンフタレイ ン	注-1	注射薬		フェノールスルホンフタレイ ン注第一	
		重症筋無力症の診断、筋弛緩剤投与後の遷 延性呼吸抑制の作用機序の鑑別診断	コリンエステラーゼ阻害作用				イヌリン	注-1	注射薬		イヌリード注	
		アレルギー性疾患のアレルゲンの確認	アレルギー反応				エドロホニウム塩化物	注-1	注射薬		アンチレクス	
		アレルゲンによる皮膚反応の陽性対照					診断用アレルゲンエキス	注-1	注射薬		診断用アレルゲンエキス 「トリヰ」	
		ぶどう膜・網膜・視神經等の疾患の診断					診断用コナヒヨウヒダニエキ ス及びヤケヒヨウヒダニエキ ス	注-1	注射薬		スクラッヂダニアレルゲン エキス「トリイ」	
		網脈絡膜血管の造影					ヒスタミンニ塩酸塩	注-1	注射薬		アレルゲンスクラッヂエキ ス陽性対照液「トリイ」ヒス タミンニ塩酸塩	
		褐色細胞腫の診断	エピネフリンによる昇圧遮断 作用	α 受容体遮断作用			フルオレセイン	注-1	注射薬		フルオレサイト注射液1号	
		コンピューター断層撮影による冠動脈造影に おける高心拍数時の冠動脈描出能の改善		選択的 β 1受容体遮断作用			インドシアニングリーン	注-1	注射薬		オフサグリーン静注用	
							フェントラミンメシル酸塩	注-1	注射薬		レギチーン注射液	
							ランジオロール塩酸塩	注-1	注射薬		コアベータ静注用	

3	検査用試薬・ 診断用薬	アレルギー性皮膚疾患のアレルゲンの確認	アレルギー反応				パッチテスト用アレルゲン	外			パッチテスト試薬、パッチ テストバネル(S)	
		外眼部・前眼部及び涙器疾患の検査					フルオレセインナトリウム	外			フルオル試験紙	
		気道過敏性検査	アセチルコリン受容体刺激作用				メタコリン塩化物	外			プロボコリン吸入粉末溶解 用 ケンプラン吸入粉末溶解 用	

229-799 その他に分類されない治療を主目的としない医薬品

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品	線引き
1	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	ニコチン依存症の喫煙者に対する禁煙の補助	$\alpha 4\beta 2$ ニコチン受容体部分作動作用				バレニクリン酒石酸塩	内-1	錠剤		チャンピックス	
		上部消化管内視鏡検査における胃蠕動運動の抑制	胃の蠕動運動抑制作用				/メントール	内-3	液剤		ミンクリア内用散布液0.8%	
2	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	心臓外科手術時心筋保護	配合剤(心筋保護作用)			配合剤	塩化ナトリウム・塩化カリウム配合剤	注-1	注射薬		ミオテクター	
		心筋血流シンチグラフィによる心臓疾患の診断を行う場合の負荷誘導	血管拡張作用				アデノシン	注-1	注射薬		アデノスキャン注60mg	
		分化型甲状腺癌で甲状腺全摘又は準全摘術を施行された患者における、放射性ヨウ素シンチグラフィーと血清サイログロブリン(Tg)試験の併用又はTg試験単独による診断の補助	甲状腺由来細胞へのヨウ素摂取促進作用並びに甲状腺ホルモン及びTg産生促進作用				ヒトチロトロビン アルファ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		タイロゲン筋注用	
3	その他に分類されない治療を主目的としない医薬品	外科用接着	重合硬化作用				シアノアクリレート液	外-1	液剤		アロンアルファA「三共」	
		癒着防止	癒着防止作用				ゼラチン	外-5	貼付剤		ゼルフィルム	
		組織接着	配合剤(フィブリソゲン塊生成作用)			配合剤	フィブリノゲン加第XIII因子 フィブリノゲン配合剤	外-9 外-5	キット 貼付剤		ベリプラスTP コンビセット タコシール	
		吸入用呼吸器官用剤の溶解剤	界面活性作用				チロキサポール	外-2	吸入剤		アレペール	
		禁煙の補助	ニコチン経皮吸収による禁煙時の離脱症状軽減作用				ニコチン	外-5	貼付剤		ニコチネル	

811 あへンアルカロイド系製剤・812 コカアルカロイド系製剤

内注外区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	アヘンアルカロイド系製剤	激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管ぜん動運動の抑制	鎮痛作用	消化管平滑筋を収縮、胃及び腸管運動抑制作用			アヘン	内-2 内-2 内-3	末剤 散剤 液剤		アヘン末 アヘン散 アヘンチンキ	
		激しい咳嗽発作における鎮咳／肺結核、急・慢性気管支炎、肺がん、塵肺時等の鎮咳	鎮咳作用	咳嗽中枢に対する抑制作用			コテインリン酸塩	内-2 内-2 内-1	末剤 散剤 錠剤		リン酸コデイン リン酸コデイン10倍散 リン酸コデイン錠	
		癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			モルヒネ塩酸塩	内-2 内-1 内-1 内-3	末剤 錠剤 カプセル剤 液剤		塩酸モルヒネ	
		次の呼吸器疾患に伴う咳嗽：肺結核、急・慢性気管支炎、肺がん、塵肺、感冒	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			オキシメテバノール	内-1	錠剤		メテバニール錠	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静、激しい咳嗽発作における鎮咳、激しい下痢症状の改善及び手術後等の腸管ぜん動運動の抑制	配合剤(鎮痛作用)	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		配合剤	アヘン／トコン	内-2	散剤		ドーフル散	

2	アヘンアルカロイド系製剤	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい、中等度から高度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			モルヒネ塩酸塩	注-1 注-2	注射薬キット		塩酸モルヒネ注射液	
							アヘンアルカロイド塩酸塩	注-1	注射薬		オピアル注射液	
							オキシコドン塩酸塩水和物	注-1	注射薬		オキファスト注	
							ヒドロモルファン塩酸塩	注-1	注射薬		ナルペイン注	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	配合剤(鎮痛作用+鎮咳作用)	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用+副交感神経抑制作用		配合剤	アヘンアルカロイド／スコボラミン臭化水素酸塩	注-1	注射薬		パンスコ注	
						配合剤	アヘンアルカロイド／アトロピン硫酸塩	注-1	注射薬		パンアト注射液	
						配合剤	モルヒネ塩酸塩／アトロビン硫酸塩	注-1	注射薬		モヒアト注射液	
						配合剤	オキシコドン塩酸塩／ヒドロコタルニン塩酸塩	注-1	注射薬		バビナール注「タケダ」	
		激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	配合剤(鎮痛作用+鎮咳作用)	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用+鎮咳作用		配合剤	オキシコドン塩酸塩／ヒドロコタルニン塩酸塩／アトロビン硫酸塩	注-1	注射薬		バビナール・アトロビン注	
3	アヘンアルカロイド系製剤	癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			モルヒネ塩酸塩	外-6	坐剤		アンベック坐剤	
	コカアルカロイド系製剤	表面麻酔	局所麻酔作用	神経における活動電位の伝導抑制作用			コカイン塩酸塩	外-1	末剤		塩酸コカイン「シオノギ」	

821 合成麻薬

内注外 区分	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分名	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	合成麻薬	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい	鎮痛・鎮けい作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		フェニルビペリジン系	ベチジン塩酸塩	内-2	末剤		オピスタン原末	
		強オピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ビペリジン系	フェンタニルクエン酸塩	内-5	パックル		イーフェンパックル錠	
		他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛 中等度から高度の疼痛を伴う各種癌	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用			メサドン塩酸塩	内-1	錠剤		メサペイン錠	
2	合成麻薬	激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい／麻醉前投薬、麻酔の補助	鎮痛・鎮けい作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		フェニルビペリジン系	ベチジン塩酸塩	注-1	注射薬		オピスタン注射液	
			鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ビペリジン系	フェンタニルクエン酸塩	注-1	注射薬		フェンタネスト	
		全身麻酔の導入及び維持における鎮痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ビペリジン系	レミフェンタニル塩酸塩	注-1	注射薬		アルチバ	
		(1)激しい疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮けい (2)麻酔前投薬 (3)麻酔の補助	配合剤(鎮痛・鎮けい作用＋呼吸抑制防止作用)	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		配合剤	ベチジン塩酸塩／レバロルファン酒石酸塩	注-1	注射薬		ペチロルファン配合注	
3	合成麻薬	癌性疼痛	鎮痛作用	求心性痛覚伝導路抑制作用／下行性痛覚抑制系賦活による鎮痛作用		ビペリジン系	フェンタニル	外-5	貼付剤		デュロテップパッチ	
								外-5	貼付剤		ワンドュロパッチ	
							フェンタニルクエン酸塩	外-5	貼付剤		フェントステープ	

リウマチ治療用剤

内注 外区	分類名	主な適応症	薬理作用1	薬理作用2	薬理作用3	組成・構造	成分	剤形区分	剤形	用法	主な製品名	線引き
1	リウマチ治療用剤	慢性関節リウマチ	免疫調節作用				アクタリット	内-1	錠剤		オークル錠, モーバー錠	
							ブシラミン	内-1	錠剤		リマチル	
							D-ペニシラミン	内-1	カプセル剤		メタルカプターゼ	
							メトレキサート	内-1 内-1	カプセル剤 錠剤		リウマトレックスカプセル	
							サラゾスルファビリジン	内-1	錠剤		アザルフィジンEN	
							ミゾリビン	内-1	錠剤		フレディニン錠	
				ジヒドロオロテートヒドロケナーゼ阻害作用		イソキサゾール系	レフルノミド	内-1	錠剤		アラバ錠10mg	
							イグラチモド	内-1	錠剤		ケアラム錠	
				チロシンキナーゼ阻害作用	ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害作用		トファシチニブクエン酸塩 バリシチニブ	内-1 内-1	錠剤 錠剤		ゼルヤンツ錠 オルミエント錠	
							ベフィンチニブ臭化水素酸塩	内-1	錠剤		スマイラフ錠	
							ウパダシチニブ水和物	内-1	錠剤		リンヴォック錠	
							フィルゴチニブマレイン酸塩	内-1	錠剤		ジセレカ錠	

2	リウマチ治療用剤	関節リウマチ	免疫調節作用				金チオリンゴ酸ナトリウム	注-1	注射薬		シオゾール	
							メトトレキサート	注-2	キット		メトジェクト皮下注(シリジング)	
		関節リウマチ(既存治療で効果不十分な場合に限る)	免疫調節作用	TNF阻害作用	TNF α 阻害作用	ヒト/マウスキメ型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体(糖タンパク質)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	注-1	注射薬		レミケード点滴静注用100	
						ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体(糖タンパク質)	アダリムマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	皮下注	ヒュミラ皮下注(シリジ、ペン)	
						ヒト型ヒトTNF α IgG1モノクローナル抗体	ゴリムマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット	皮下注	シンボニー皮下注(シリジ、オートインジェクター)	
						ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体のFab'断片の誘導体	セルトリズマブベゴル(遺伝子組換え)	注-2	キット		シムジア皮下注(シリジ、オートクリックス)	
						一本鎖ヒト化抗ヒトTNF α モノクローナル抗体	オゾラリズマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		ナゾラ皮下注シリジ	
				IL-6シグナル伝達阻害作用	TNF α 及びLT α 阻害作用	ヒト型可溶性TNFレセプターフusion蛋白	エタネルセプト(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		エンブレル皮下注用 エンブレル皮下注(シリジ、ペン、クリックワイス用)	
						ヒト型抗ヒトIL-6レセプターモノクローナル抗体	トリズマブ(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		アクテムラ点滴静注用 アクテムラ皮下注(シリジ、オートインジェクター)	
						サリルマブ(遺伝子組換え)	注-2	キット		ケブザラ皮下注(シリジ、オートインジェクター)		
				T細胞選択性的共刺激調節作用		ヒト型可溶性CTLA4-IgG1融合蛋白	アバセプト(遺伝子組換え)	注-1 注-2	注射薬 キット		オレンシア点滴静注用 オレンシア皮下注シリジ	

DPCにおける高額な新規の医薬品等への対応について

- 新規に薬価収載された医薬品等については、DPC/PDPSにおける診療報酬点数表に反映されないことから、一定の基準に該当する医薬品等を使用した患者については、包括評価の対象外とし、次期診療報酬改定までの間、出来高算定することとしている。
包括評価の対象外とするか否かは個別DPC（診断群分類）毎に判定し、また、前年度に使用実績のない医薬品等は、当該医薬品等の標準的な使用における薬剤費（併用する医薬品含む）の見込み額が、使用していない症例の薬剤費の84%tileを包括評価の対象外とすることとしている。
- 令和5年2月24日及び3月27日に新たに効能又は効果及び用法又は用量が追加された医薬品、令和5年3月3日に公知申請が受理された医薬品並びに令和5年5月24日に薬価収載を予定している医薬品等のうち以下に掲げるものは、上記基準に該当する。よって、これらの薬剤を使用した患者であって当該薬剤に対応する診断群分類に該当するものについては、次期診療報酬改定までの間、出来高算定することとしてはどうか。

区分	銘柄名	成分名	規格単位	薬価	効能効果	用法用量	1回投与当たりの標準的な費用(A)	出来高算定対象		平均在院日数を加味した1入院当たり標準的費用	包括範囲薬剤の84%tile値
								診断群分類番号	(告示)番号	仮想投与回数(日数)(B)	標準的費用(A×B)
一変	リンヴォック錠7.5mg リンヴォック錠15mg	ウパダシチニブ水和物	7.5mg1錠 15mg1錠	2,594.6円 5,089.2円	既存治療で効果不十分なX線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎	通常、成人にはウパダシチニブとして15mgを1日1回経口投与する。	5,089.2円/回	070330 脊椎感染（感染を含む。）			
								070330xx99x0xx	2992	33.00回	167,944円
								070330xx97x0xx	2994	46.00回	234,103円
一変	イムブルビカカプセル 140mg	イブルチニブ	140mg1カプセル	10,409.5円	マントル細胞リンパ腫	・未治療の場合 ベンダムスチン塩酸塩及びリツキシマブ（遺伝子組換え）との併用において、通常、成人にはイブルチニブとして560mgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	41,638.0円/回 このほかに併用薬の費用がかかる。	130030 非ホジキンリンパ腫			
								130030xx99x6xx	3613	15.00回	824,839円
								130030xx97x60x	3627	34.00回	1,816,230円
								130030xx97x61x	3628	67.00回	3,390,553円
一変	テクネフチン酸キット	フイチン酸ナトリウム	1回分	2,592円	子宮頸癌、子宮体癌、頭頸部癌におけるセンチネルリンパ節の同定及びリンパシンチグラフィ 外陰癌におけるセンチネルリンパ節の同定及びリンパシンチグラフィ	通常、成人には得られたフイチン酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液を、次表に従い、適宜分割して投与し、2時間以上に亘るガム線検出用のフローブで被検部を走査することにより、センチネルリンパ節を同定する。また、必要に応じガムカメラで被検部を撮像することによりリンパシンチグラムをとる。なお、投与から検査実施までの時間等により適宜増減する。 【疾患】 乳癌、 悪性黒色腫、 外陰癌 【投与部位】 腫瘍近傍の 皮下又は皮内 【投与量】 18.5~111MBq	2,592円/回 このほかに ^{99m} Tc製剤の費用がかかる。	12002x 子宮頸・体部の悪性腫瘍			
								子宮頸癌	38~111MBq		
								子宮頸部又は 腫瘍近傍の粘膜下			
								子宮体癌	38~111MBq		
								子宮腔部の粘膜下 又は腫瘍近傍の 子宮内膜下			
								頭頸部癌 (甲状腺癌を除く)	18.5~111MBq		
								12002xxx03x0xx	3475	1.00回	3,656円
								12002xxx02x0xx	3476	1.00回	3,656円
											1,840円

区分	銘柄名	成分名	規格単位	薬価	効能効果	用法用量	1回投与当たりの標準的な費用(A)	出来高算定対象		平均在院日数を加味した1入院当たり標準的費用	包括範囲薬剤の84%tile値		
								診断群分類番号	(告示)番号	仮想投与回数(日数)(B)			
一変	ペマジール錠4.5mg	ペミガチニブ	4.5mg1錠	25,631.2円	FGFR1融合遺伝子陽性の骨髄性又はリンパ性腫瘍	通常、成人には、ペミガチニブとして1日1回13.5mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	76,893.6円/回	130010 急性白血病 130020 ホジキン病 130030 非ホジキンリンパ腫 130050 骨髄増殖性腫瘍 130060 骨髄異形成症候群	130010xx99x2xx	3579	12.00回	922,723円	259,410円
								130010xx97x2xx	3590	41.00回	3,152,638円	763,008円	
								130020xx99x3xx	3602	15.00回	1,153,404円	128,516円	
								130020xx97x3xx	3605	31.00回	2,383,702円	294,589円	
								130030xx99x2xx	3609	28.00回	2,153,021円	100,784円	
								130030xx99x3xx	3610	17.00回	1,307,191円	236,966円	
								130030xx97x2xx	3621	52.00回	3,998,467円	583,226円	
								130030xx97x3xx	3622	33.00回	2,537,489円	536,102円	
								130050xx99x2xx	3648	17.00回	1,307,191円	428,690円	
								130050xx97x2xx	3653	31.00回	2,383,702円	513,940円	
								130060xx97x3xx	3660	36.00回	2,768,170円	658,247円	
新薬(1)	ドブテレット錠20mg	アバトロンボパグマレイン酸塩	20mg1錠	7,106.6円	待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善	通常、成人には、アバトロンボパグとして以下の用量を1日1回、5日間食後に経口投与する。投与開始前の血小板数が40,000/ μL 以上50,000/ μL 未満：40mg投与開始前の血小板数が40,000/ μL 未満：60mg	14,213.2円/回	全診断群分類					
								「待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善」は、対象DPCが特定出来ないため、全包括診断群分類の包括範囲薬剤費を用いて判定を行った。					
新薬(2)	オファコルカプセル50mg	コール酸	50mg1カプセル	12,596.0円	先天性胆汁酸代謝異常症	通常、1日量として5～15mg/kgを1回又は数回に分けて食事中に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減すること。	37,788.0円/回	100335 代謝障害（その他）					
								100335xx99x00x	3267	11.00回	415,668円	32,918円	
								100335xx99x01x	3268	21.00回	793,548円	69,964円	
								100335xx99x10x	3269	21.00回	793,548円	111,580円	
								100335xx99x11x	3270	32.00回	1,209,216円	167,315円	
								100335xx97x0xx	3271	24.00回	906,912円	91,393円	
								100335xx97x1xx	3272	58.00回	2,191,704円	418,603円	
新薬(3)	ヴィアレップ配合持続皮下注	ホスレボドバ／ホスカルビドバ水和物	10mL1瓶	13,277円	レボドバ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないバーキンソン病の症状の日内変動(wearing-off現象)の改善	本剤投与前の経口レボドバ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与する。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。なお、必要に応じて持続投与中に追加投与を行うことができる。通常、成人には、本剤を0.15～0.69mL/時間（レボドバ換算量として約26～117mg/時間）で持続投与する。負荷投与を行なう場合は本剤0.6～2.0mL（レボドバ換算量として約100～350mg）を投与する。追加投与は本剤を1回あたり0.1～0.3mL（レボドバ換算量として約17～51mg）で投与する。本剤の投与量は症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL（レボドバ換算量として2840mg）を超えないこと。	13,277円/回	010160 バーキンソン病					
								010160xx99x00x	1734	19.00回	252,263円	53,813円	
								010160xx99x01x	1735	34.00回	451,418円	139,711円	
								010160xx99x10x	1736	21.00回	278,817円	131,650円	
								010160xx99x11x	1737	45.00回	597,465円	250,520円	
								010160xx97x00x	1739	23.00回	305,371円	79,318円	
								010160xx97x01x	1740	53.00回	703,681円	216,012円	
								010160xx97x1xx	1741	60.00回	796,620円	368,444円	

区分	銘柄名	成分名	規格単位	薬価	効能効果	用法用量	1回投与当たりの標準的な費用(A)	出来高算定対象		平均在院日数を加味した1入院当たり標準的費用	包括範囲薬剤の84%tile値		
								診断群分類番号	(告示)番号	仮想投与回数(日数)(B)	標準的費用(A×B)		
新薬(5)	オンボ一点点静注300mg	ミリキズマブ(遺伝子組換え)	300mg15mL1瓶	192,332円	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)	通常、成人にはミリキズマブ(遺伝子組換え)として、1回300mgを4週間隔で3回(初回、4週、8週)点滴静注する。なお、12週時に効果不十分な場合はさらに1回300mgを4週間隔で3回(12週、16週、20週)投与することができる。また、ミリキズマブ(遺伝子組換え)皮下投与用製剤による維持療法中に効果が減弱した場合には、1回300mgを4週間隔で3回点滴静注することができる。	192,332円/回	060185 潰瘍性大腸炎	060185xx99x0xx 060185xx99x1xx 060185xx97x0xx 060185xx97x1xx 060185xx0100xx 060185xx0101xx 060185xx0110xx 060185xx0111xx	2766 2767 2772 2773 2777 2778 2779 2780	1.00回 2.00回 1.00回 2.00回 1.00回 2.00回 1.00回 2.00回	192,332円 384,664円 192,332円 384,664円 192,332円 384,664円 192,332円 384,664円	43,212円 181,208円 74,584円 333,361円 35,855円 213,576円 84,217円 305,846円
新薬(6)	オンボー皮下注100mg オートインジェクター オンボー皮下注100mg シリンジ	ミリキズマブ(遺伝子組換え)	100mg1mL1キット 100mg1mL1筒	126,798円 126,798円	中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限る)	ミリキズマブ(遺伝子組換え)点滴静注製剤による導入療法終了4週後から、通常、成人にはミリキズマブ(遺伝子組換え)として1回200mgを4週間隔で皮下投与する。	253,596円/回	060185 潰瘍性大腸炎	060185xx99x0xx 060185xx99x1xx 060185xx99x5xx 060185xx97x0xx 060185xx97x1xx 060185xx0100xx 060185xx0101xx 060185xx0110xx 060185xx0111xx	2766 2767 2771 2772 2773 2777 2778 2779 2780	1.00回 2.00回 2.00回 1.00回 2.00回 1.00回 2.00回 1.00回 2.00回	253,596円 507,192円 507,192円 253,596円 74,584円 333,361円 253,596円 35,855円 213,576円 84,217円 507,192円 305,846円	
新薬(7)	バリンジック皮下注2.5mg バリンジック皮下注10mg バリンジック皮下注20mg	ペグバリアーゼ(遺伝子組換え)	2.5mg0.5mL1筒 10mg0.5mL1筒 20mg1mL1筒	61,606円 64,155円 65,468円	フェニルケトン尿症	通常、成人にはペグバリアーゼ(遺伝子組換え)として1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与する。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、以下の漸増法に従い、段階的に增量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に增量できるが、最大用量は60mgである。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。 1日1回20mgまでの漸増法 【用量・投与頻度】 2.5mgを週1回投与 2.5mgを週2回投与 10mgを週1回投与 10mgを週2回投与 10mgを週4回投与 10mgを1日1回投与 20mgを1日1回投与	(5週間以上) 61,606円/回 (6~9週間以上) 64,155円/回 (それ以後) 65,468円/回	100335 代謝障害(その他)	100335xx99x00x 100335xx99x01x 100335xx99x10x 100335xx99x11x 100335xx97x0xx 100335xx97x1xx	3267 3268 3269 3270 3271 3272	2.00回 3.00回 3.00回 6.00回 4.00回 15.00回	123,212円 184,818円 184,818円 369,636円 246,424円 947,031円	32,918円 69,964円 111,580円 167,315円 91,393円 418,603円
新薬(8)	ペスレミ皮下注250μgシリンジ ペスレミ皮下注500μgシリンジ	ロベグインターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え)	250μg0.5mL1筒 500μg1mL1筒	297,259円 565,154円	真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限る)	通常、成人には、ロベグインターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え)(インターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え))として1回100μg(他の細胞減少療法薬を投与中の場合は50μg)を開始用量とし、2週に1回皮下投与する。患者の状態により適宜増減するが、增量は50μgずつ行い、1回500μgを超えないこと。	297,259円/回	130050 骨髄増殖性腫瘍	130050xx99x2xx 130050xx99x4xx 130050xx97x2xx 130050xx97x4xx	3648 3650 3653 3654	2.00回 2.00回 3.00回 3.00回	594,518円 594,518円 891,777円 891,777円	428,690円 336,848円 513,940円 834,392円

区分	銘柄名	成分名	規格単位	薬価	効能効果	用法用量	1回投与当たりの標準的な費用(A)	出来高算定対象		平均在院日数を加味した1入院当たり標準的費用	包括範囲薬剤の84%tile値		
								診断群分類番号	(告示)番号				
新薬 (11)	コムレクス耳科用液 1.5%	レボフロキサシン水和物	1.5%5mL1瓶	1,584.5円	〈適応菌種〉 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、綠膿菌、アシネトバクター属 〈適応症〉 外耳炎、中耳炎	通常、1回6～10滴を1日2回点耳する。点耳後は約10分間の耳浴を行う。なお、症状により適宜回数を増減する。	1,584.5円/回	030430 渗出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	030430xx97xxxx	1929	1.00回	1,585円	1,390円
新薬 (12)	ネキソブリッド外用ゲル 5g	バイナップル茎搾汁精製物	5g1瓶 (混合用ゲル付)	162,995.9円	深達性II度又はIII度熱傷における壞死組織の除去	混合用ゲルの容器に凍結乾燥品全量を加えて混合し、本剤を調製する。本剤を熱傷創に適量塗布し、4時間後に除去する。	162,995.9円/回	161000 热傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	161000x199x0xx	4021	1.00回	162,996円	41,545円
								161000x197x0xx	4022	1.00回	162,996円	87,004円	
								161000x102x0xx	4023	1.00回	162,996円	64,718円	
								161000x101x0xx	4024	1.00回	162,996円	158,560円	
								161000x299x0xx	4026	1.00回	162,996円	82,994円	

※ (参考) 現行のいわゆる「高額薬剤判定」の運用方法について

- 新たに保険収載・効能追加となった高額薬剤については、医療の技術革新の導入が阻害されないよう、一定の基準に該当する薬剤を使用した患者については、当該薬剤の十分な使用実績データが収集され DPC 包括評価が可能となるまでの期間、包括評価の対象外としている（以下、当該対応を「高額薬剤判定」という。）。
- 「高額薬剤判定」は、包括評価の対象外となる薬剤および当該薬剤が使用される診断群分類を告示するいわゆる「高額薬剤告示」への追加および診断群分類の定義（傷病名・手術・処置等）を定める「定義告示」への追加の 2 つの作業からなり、新薬の薬価収載に合わせ、年 4 回実施している（なお、緊急に薬価収載された新薬については、必要に応じて追加的な判定作業を実施する）。
- 高額薬剤判定の具体的な作業は次の通り。

【高額薬剤告示への追加】

- 新たに保険適用される以下の医薬品について、その効能・効果から当該医薬品を使用する可能性のある 診断群分類（14 桁コード）を抽出する。
 - ① 新薬
 - ② 効能効果・用法用量の一部変更（薬事・食品衛生審議会で審査・報告されたもの）
 - ③ 事前評価済公知申請
- 各診断群分類について、該当医薬品を入院初日から退院まで添付文書に記載された用法・用量に従って投与した場合の投与回数（仮想投与回数）から、当該医薬品の 1 入院あたり薬剤費を算出する。
- 当該 1 入院あたりの薬剤費が、各診断群分類で使用されている 1 入院あたり薬剤費の 84%tile 値を超えている場合、当該医薬品を高額薬剤として指定する。

【定義告示への追加】

- 類似薬効比較方式で算定された新薬であり、当該算定の際の比較薬が該当する診断群分類の定義テーブルにおいて分岐として定義されている場合は、当該新薬を定義テーブルに追加する。

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤 の追加に係る取扱いについて

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る取扱いについて(案)

これまでの経緯

- 「在宅自己注射指導管理料の対象薬剤」及び「保険医が投薬することができる注射薬の対象薬剤」については、平成28年8月24日の中医協総会において承認された「在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準について」を踏まえ、新医薬品は原則薬価収載時に、新医薬品以外の医薬品は診療報酬改定にあわせて、中医協において追加を検討してきた。
- 令和2年12月23日の中医協総会において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による受診控えが患者のQOL低下や生命予後の短縮を招きうること等を踏まえ、新型コロナウイルスの感染が拡大している間、新医薬品以外の医薬品についても、対象薬剤の要件を満たし、学会からの要望があった場合については、原則として、新医薬品の薬価収載の時期に合わせて追加を検討することとされた。なお、その議論の際には、当該取扱いについては、新型コロナウイルスの感染が拡大している間に限定しない取扱いとするべきではないかとの意見もあった。
- 上記の取扱いの下で、関係学会からの追加要望を踏まえた中医協での検討を経て、これまでに13品目の新医薬品以外の医薬品が追加されてきた。こうした中、新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日より感染症法上の位置付けが5類へと変更されたところ。



対応(案)

- より有用性の高い新しい治療法へのアクセスを速やかに確保する観点から、運用基準における、新医薬品以外の医薬品の追加時期の取扱いについて「新型コロナウイルスの感染が拡大している間」に限らず、新医薬品と同様の取扱いとしてはどうか。

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準(案)

現行	見直し後(案)
<p>2 対象への追加時期</p> <p>(1) <u>新医薬品</u>のうち、14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせ対象薬剤に追加することを検討する。</p> <p>(2) <u>新医薬品</u>のうち、14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、原則、投与期間が14日間と制限されていることを踏まえ（※）、事実上、14日以内毎に医療機関を受診することとなるため、14日を超える投薬が可能になった後に、<u>在宅自己注射指導管理料の対象薬剤</u>に追加することを検討する。</p> <p>※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される。</p> <p>(3) <u>新型コロナウイルスの感染が拡大している間、新医薬品以外の医薬品について、対象薬剤の要件を満たす場合であって、学会からの要望があった場合については、(1)に準じて、原則として、新医薬品の薬価収載の時期にあわせて追加することを検討する。</u></p>	<p>2 対象への追加時期</p> <p>(1) 14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせ対象薬剤に追加することを検討する。</p> <p>(2) 14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、14日を超える投薬が可能な場合であって（※）、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせ対象薬剤に追加することを検討する。</p> <p>※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される。</p> <p>(3) 削除</p>

(参考資料)

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る取扱いについて

中医協 総-3

2. 12. 23

- 「在宅自己注射指導管理料の対象薬剤」及び「保険医が投薬することができる注射薬の対象薬剤」への追加に当たっては、「在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準について」を踏まえ、新医薬品は、原則薬価収載に合わせ、新医薬品以外の医薬品は診療報酬改定にあわせて、中医協において追加を検討している。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の現状において、新医薬品以外の医薬品についても、受診控えが患者のQOL低下や生命予後の短縮を招きうること等から、早期に在宅自己注射指導管理料の対象とするよう要望がある。



- 運用基準のうち、「対象への追加時期について」を以下のとおりとすることとしてはどうか。

2 対象への追加時期

- (1) 新医薬品のうち、14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせて対象薬剤に追加することを検討する。
- (2) 新医薬品のうち、14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、原則、投与期間が14日間と制限されていることを踏まえ(※)、事実上、14日以内毎に医療機関を受診することとなるため、14日を超える投薬が可能になった後に、在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に追加することを検討する。
- (3) **新型コロナウイルスの感染が拡大している間、新医薬品以外の医薬品について、対象薬剤の要件を満たす場合であって、学会からの要望があった場合については、(1)に準じて、原則として、新医薬品の薬価収載の時期にあわせて追加することを検討する。**

※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される。

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準

平成28年8月24日 中央社会保険医療協議会総会承認
令和2年12月23日 改正案承認

1 対象薬剤

(1) 対象薬剤の要件

補充療法等の頻回投与又は発作時に緊急投与が必要で、かつ、剤形が注射によるものでなければならぬもので、以下のいずれも満たすもの。

(ア) 関連学会等のガイドライン等において、在宅自己注射を行うことについての診療上の必要性が確認されているもの。

(イ) 医薬品医療機器法上の用法・用量として、維持期における投与間隔が概ね4週間以内のもの。

(ウ) 上記を踏まえ、在宅自己注射指導管理料対象薬剤への追加の要望があるもの。

なお、学会からの要望書については、下記①～④までの事項が記載されているものであること。

① 自己注射の安全性の確認

② 自己注射の対象となる患者の要件

③ 使用にあたっての具体的な留意点（廃棄物の適切な処理方法を含む使用法の指導、病状の確認頻度、予想される副作用への対応等）

④ 頻回投与や長期間の治療が必要になる理由

(エ) 発作時に緊急投与が必要な薬剤及び補充療法に使用する薬剤については、上記(ア)～(ウ)に加え、要望書を提出した学会以外の学会の意見を確認する等、診療上の必要性について十分な確認がなされていること。

(2) バイオ後続品の追加

先行バイオ医薬品が在宅自己注射指導管理料の対象となっているバイオ後続品については、当分の間、個別品目毎に中医協において審議する。

(3) 既存の対象薬剤の再評価

既に対象となった薬剤については、その使用状況等を踏まえ、定期的に見直すこととし、中医協において審議する。

2 対象への追加時期

(1) 新医薬品のうち、14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期に合わせて対象薬剤に追加することを検討する。

(2) 新医薬品のうち、14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、原則、投与期間が14日間と制限されていることを踏まえ（※）、事实上、14日以内毎に医療機関を受診することとなるため、14日を超える投薬が可能になった後に、在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に追加することを検討する。

※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される

(3) 新型コロナウイルスの感染が拡大している間、新医薬品以外の医薬品について、対象薬剤の要件を満たす場合であって、学会からの要望があった場合については、(1)に準じて、原則として、新医薬品の薬価収載の時期にあわせて追加することを検討する。

3 その他

(1) 保険医が投薬することができる注射薬の対象薬剤への追加に当たっても、本運用基準を準用する。

(2) 本運用基準は、平成30年5月23日より適用する。

保険医が投与することのできる注射薬について

- 保険医が投与することのできる注射薬は「療担規則第二十条第二号ト及び療担基準第二十条第三号トの厚生労働大臣が定める保険医が投与することができる注射薬」として定められている。
- また、在宅医療において、投与の対象となる注射薬について、厚生労働大臣の定める注射薬として定められている。

医師が医療機関又は在宅等で使用できる注射薬

在宅で、医師の指示の下、看護師等が投与可能な注射薬

療担規則及び療担基準：保険医の投与することのできる注射薬

在宅自己注射指導管理料の対象となる注射薬

特掲診療料の施設基準等：在宅自己注射指導管理料等に規定する注射薬

**保険医が投与することができる注射薬
(処方箋を交付することができる注射薬)**

及び

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤の追加について（案）

- 在宅自己注射の対象薬剤に係る運用基準（令和2年12月23日中医協総会において承認）及び学会からの要望書等を踏まえ、以下の薬剤について、保険医が投与することができる注射薬及び在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に追加してはどうか。

1. ネモリズマブ（遺伝子組換え）

【販売名】

ミチーガ皮下注用60mgシリンジ

【効能・効果】

アトピー性皮膚炎に伴うそう痒（既存治療で効果不十分な場合に限る）

【用法・用量】

通常、成人及び13歳以上的小児にはネモリズマブ（遺伝子組換え）として1回60mgを4週間の間隔で皮下投与する。

【薬理作用】

ネモリズマブは、ヒト化抗ヒトIL-31受容体A（IL-31RA）モノクローナル抗体であり、IL-31と競合的にIL-31RAに結合することにより、IL-31の受容体への結合及びそれに続く細胞内へのシグナル伝達を阻害し、そう痒を抑制する。

【主な副作用】

アトピー性皮膚炎、皮膚感染症（ヘルペス感染、蜂巣炎、膿瘍疹、二次感染等）、上気道炎、脱毛症、紅斑、蕁麻疹、中毒疹、ざ瘡、湿疹、尋常性疣贅、自家感作性皮膚炎、落屑、注射部位反応（内出血、紅斑、腫脹等）等

【承認状況】

令和4年3月 薬事承認

2. ラナデルマブ（遺伝子組換え）

【販売名】

タクザイロ皮下注300mgシリンジ

【効能・効果】

遺伝性血管性浮腫の急性発作の発症抑制

【用法・用量】

通常、成人及び12歳以上的小児には、ラナデルマブ（遺伝子組換え）として1回300mgを2週間隔で皮下注射する。なお、継続的に発作が観察されず、症状が安定し

ている場合には、1回300mgを4週間隔で皮下注射することもできる。

【薬理作用】

本剤は活性化された血漿カリクレインの基質切断活性に対する阻害薬であり、遺伝性血管性浮腫の急性発作の原因となるブラジキニンの過剰な放出を抑制する。

【主な副作用】

注射部位反応（疼痛、紅斑、内出血、不快感、血腫、出血、そう痒感、腫脹、硬結、異常感覚、反応、熱感、浮腫、発疹）、浮動性めまい 等

【承認状況】

令和4年3月 薬事承認

3. ホスレボドパ・ホスカルビドパ水和物配合剤

【販売名】

ヴィアレブ配合持続皮下注

【効能・効果】

レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善

【用法・用量】

本剤投与前の経口レボドパ量に応じて1時間あたりの注入速度を設定し、24時間持続皮下投与する。患者がオフ状態で本剤の投与を開始する場合には、持続投与開始前に負荷投与を行う。なお、必要に応じて持続投与中に追加投与を行うことができる。

通常、成人には、本剤を0.15～0.69mL/時間（レボドパ換算量として約26～117mg/時間）で持続投与する。負荷投与を行う場合は本剤0.6～2.0mL（レボドパ換算量として約100～350mg）を投与する。追加投与は本剤を1回あたり0.1～0.3mL（レボドパ換算量として約17～51mg）で投与する。

本剤の投与量は症状により適宜増減するが、1日総投与量は16.67mL（レボドパ換算量として2840mg）を超えないこと。

【薬理作用】

プロドラッグであるホスレボドパはホスファターゼによりレボドパに速やかに変換される。ドバミンの前駆体であるレボドパは、血液脳関門を通過し、脳内でドバミンに変換され、レボドパがパーキンソン病の症状を軽減すると考えられる。レボドパは末梢でドバ脱炭酸酵素（DDC）及びカテコール-O-メチルトランスフェラーゼ（COMT）により大部分が代謝されるため、代謝酵素阻害剤を併用しない場合、脳内に取り込まれるレボドパ量はごくわずかである。

また、プロドラッグであるホスカルビドパはホスファターゼによりカルビドパに速やかに変換される。カルビドパは末梢性ドバ脱炭酸阻害薬である。カルビドパの脱炭酸酵素阻害活性は脳外組織に限定されるため、カルビドパとレボドパとの併用投与によって、カルビドパは末梢におけるレボドパの脱炭酸化を阻害し、脳内に移行するレボドパ量を増加させ、また、レボドパの脱炭酸反応に起因する末梢作用（悪

心、嘔吐など) を軽減する。

【主な副作用】

悪性症候群、幻覚、錯乱、抑うつ、溶血性貧血、血小板減少症、突発的睡眠、悪性黒色腫、閉塞隅角縁内障、注入部位感染、ジスキネジア、浮動生めまい、オノオフ現象、恶心、注入部位紅斑、注入部位結節、注入部位浮腫、注入部位疼痛、体重減少 等

【承認状況】

令和4年12月 薬事承認

4. ペグバリアーゼ（遺伝子組換え）

【販売名】

パリンジック皮下注2.5mg、同皮下注10mg、同皮下注20mg

【効能・効果】

フェニルケトン尿症

【用法・用量】

通常、成人にはペグバリアーゼ（遺伝子組換え）として1日1回20mgを維持用量とし、皮下投与する。ただし、週1回2.5mgを開始用量として、以下の漸増法に従い、段階的に增量する。1日1回20mgを一定期間投与しても効果が不十分な場合は、40mg又は60mgに段階的に增量できるが、最大用量は60mgである。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。

1日1回20mgまでの漸増法

用量・投与頻度	投与期間
2.5mgを週1回投与	4週間以上
2.5mgを週2回投与	1週間以上
10mgを週1回投与	1週間以上
10mgを週2回投与	1週間以上
10mgを週4回投与	1週間以上
10mgを1日1回投与	1週間以上
20mgを1日1回投与	-

【薬理作用】

本剤は、遺伝子組換えフェニルアラニンアンモニアリアーゼ類縁体であり、テトラヒドロビオブテリン非依存的にフェニルアラニンをアンモニア及びケイ皮酸に代謝する。

【主な副作用】

過敏症反応(アナフィラキシー、蕁麻疹、発疹、呼吸困難、血清病、血管浮腫等)、注射部位反応(紅斑、発疹、そう痒症、硬結、変色等)、関節痛、補体因子C3低下、補体因子C4低下、CRP上昇、低フェニルアラニン血症、頭痛、浮動性めまい、咳嗽、

腹痛、恶心、嘔吐 等

【承認状況】

令和5年3月 薬事承認

- また、在宅自己注射の対象薬剤に係る運用基準（令和2年12月23日中医協総会において承認）及び学会からの要望書等を踏まえ、以下の薬剤について、保険医が投与することができる注射薬の対象薬剤に追加してはどうか。

1. パビナフスプ アルファ（遺伝子組換え）

【販売名】

イズカーゴ点滴静注用10mg

【効能・効果】

ムコ多糖症Ⅱ型

【用法・用量】

通常、パビナフスプ アルファ（遺伝子組換え）として、1回体重1kgあたり2.0mgを週1回、点滴静注する。

【薬理作用】

本剤は、末梢組織・臓器では、主にカチオン非依存性マンノース-6-リン酸受容体とトランスフェリン受容体1(TfR)を介して細胞内に取り込まれた後、ライソゾームへ運ばれ、蓄積したGAGを分解する。また、TfRを介したトランスサイトシス3)によって血液脳関門(BBB)を通過し、脳実質の細胞についても、末梢組織と同様にカチオン非依存性マンノース-6-リン酸受容体とTfRを介して取り込まれた後、蓄積したGAGを分解する。

【主な副作用】

アナフィラキシー、蕁麻疹、発熱、悪寒 等

【承認状況】

令和3年3月 薬事承認

2. アバルグルコシダーゼ アルファ（遺伝子組換え）

【販売名】

ネクスピアザイム点滴静注用100mg

【効能・効果】

ポンペ病

【用法・用量】

通常、アバルグルコシダーゼ アルファ（遺伝子組換え）として、遅発型の患者には1回体重1kgあたり20mgを、乳児型の患者には1回体重1kgあたり40mgを隔週点滴

静脈内投与する。

【薬理作用】

本剤はALGLUを改変した遺伝子組換えヒト酸性 α -グルコシダーゼであり、マンノース-6-リン酸(M6P)受容体を介した横隔膜及び他の骨格筋への取込みの増大を目的として、ALGLU上の酸化シアル酸残基にM6Pを結合させたものである。細胞内に取込まれた本剤はライソゾーム中グリコーゲンの α -1,4-及び α -1,6-グリコシド結合を加水分解することにより、グリコーゲンを分解し、組織損傷を改善する。

【主な副作用】

悪寒、頭痛、恶心、そう痒症、発疹、蕁麻疹、咳嗽、筋痙攣、アナフィラキシー等

【承認状況】

令和3年9月 薬事承認

(参考) 関連する告示及び通知等（抜粋）

◎ 保険医療機関及び保険医療養担当規則（昭和 32 年厚生省令第 15 号）（抄）

第二十条 医師である保険医の診療の具体的方針は、前十二条の規定によるほか、次に掲げるところによるものとする。

一 （略）

二 投薬

イ～ヘ （略）

ト 注射薬は、患者に療養上必要な事項について適切な注意及び指導を行い、厚生労働大臣の定める注射薬に限り投与することができることとし、その投与量は、症状の経過に応じたものでなければならず、厚生労働大臣が定めるものについては当該厚生労働大臣が定めるものごとに一回十四日分、三十日分又は九十日分を限度とする。

三～七 （略）

◎ 高齢者の医療の確保に関する法律の規定による療養の給付等の取扱い及び担当に関する基準（昭和 58 年厚生省告示第 14 号）（抄）

第二十条 医師である保険医の診療の具体的方針は、第十二条から前条までの規定によるほか、次に掲げるところによるものとする。

一・二 （略）

三 投薬

イ～ヘ （略）

ト 注射薬は、患者に療養上必要な事項について適切な注意及び指導を行い、別に厚生労働大臣の定める注射薬に限り投与することができることとし、その投与量は、症状の経過に応じたものでなければならない、別に厚生労働大臣が定めるものについては当該別に厚生労働大臣が定めるものごとに一回十四日分、三十日分又は九十日分を限度とする。

四～八 （略）

◎ 療担規則及び薬担規則並びに療担基準に基づき厚生労働大臣が定める掲示事項等（平成 18 年厚生労働省告示第 107 号）（抄）

第十 厚生労働大臣が定める注射薬等

一 療担規則第二十条第二号ト及び療担基準第二十条第三号トの厚生労働大臣が定める保険医が投与することができる注射薬

インスリン製剤、ヒト成長ホルモン剤、遺伝子組換え活性型血液凝固第VII因子製剤、乾燥濃縮人血液凝固第X因子加活性化第VII因子製剤、乾燥人血液凝固第VIII因子製剤、遺伝子組換え型血液凝固第VIII因子製剤、乾燥人血液凝固第IX因子製剤、遺伝子組換え型血液凝固第IX因子製剤、活性化プロトロンビン複合体、乾燥人血液凝固因子抗体巡回活性複合体、性腺刺激ホルモン放出ホルモン剤、性腺刺激ホルモン製剤、ゴナドトロピン放出ホルモン誘導体、ソマトスタチナノログ、顆粒球コロニー形成刺激因子製剤、自己連続携行式腹膜灌流用灌流液、在宅中心静脈栄養法用輸液、インターフェロンアルファ製剤、インターフェロンベータ製剤、ブプレノルフィン製剤、抗悪性腫瘍剤、グルカゴン製剤、グルカゴン様ペプチド-1受容体アゴニスト、ヒトソマトメジンC製剤、人工腎臓用透析液（在宅血液透析を行っている患者（以下「在宅血液透析患者」という。）に対して使用する場合に限る。）、血液凝固阻止剤（在宅血液透析患者に対して使用する場合に限る。）、生理食塩水（在宅血液透析患者に対して使用する場合及び本号に掲げる注射薬を投与するに当たりその溶解又は希釈に用いる場合に限る。）、プロスタグラミンI₂製剤、モルヒネ塩酸塩製剤、エタネルセプト製剤、注射用水（本号に掲げる注射薬を投与するに当たりその溶解又は希釈に用いる場合に限る。）、ペゲビソマント製剤、スマトリプタン製剤、フェンタニルクエン酸塩製剤、複方オキシコドン製剤、ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム製剤、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム製剤、デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム製剤、プロトンポンプ阻害剤、H₂遮断剤、カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム製剤、トラネキサム酸製剤、フルルビプロフェンアキセチル製剤、メトクロプラミド製剤、プロクロルペラジン製剤、ブチルスコポラミン臭化物製剤、グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリシン・L-システィン塩酸塩配合剤、アダリムマブ製剤、エリスロポエチン（在宅血液透析又は在宅腹膜灌流を行っている患者のうち腎性貧血状態にあるものに対して使用する場合に限る。）、ダルベポエチン（在宅血液透析又は在宅腹膜灌流を行っている患者のうち腎性貧血状態にあるものに対して使用する場合に限る。）、テリパラチド製剤、アドレナリン製剤、ヘパリンカルシウム製剤、オキシコドン塩酸塩製剤、アポモルヒネ塩酸塩製

剤、セルトリズマブペゴル製剤、トリリズマブ製剤、メトレレプチン製剤、アバタセプト製剤、pH 4 处理酸性人免疫グロブリン（皮下注射）製剤、電解質製剤、注射用抗菌薬、エダラボン製剤（筋萎縮性側索硬化症患者に対して使用する場合に限る。）、アスホターゼ アルファ製剤、グラチラマー酢酸塩製剤、脂肪乳剤、セクキヌマブ製剤、エボロクマブ製剤、プロダルマブ製剤、アリロクマブ製剤、ベリムマブ製剤、イキセキズマブ製剤、ゴリムマブ製剤、エミシズマブ製剤、イカチバント製剤及びサリルマブ製剤、デュピルマブ製剤、ヒドロモルフォン塩酸塩製剤、インスリン・グルカゴン様ペプチドー1 受容体アゴニスト配合剤、ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム製剤、遺伝子組換えヒト von Willebrand 因子製剤、プロスマブ製剤、アガルシダーゼ アルファ製剤、アガルシダーゼ ベータ製剤、アルグルコシダーゼ アルファ製剤、イデュルスルファーゼ製剤、イミグルセラーゼ製剤、エロスルフアーゼ アルファ製剤、ガルスルファーゼ製剤、セベリパーゼ アルファ製剤、ベラグルセラーゼ アルファ製剤、ラロニダーゼ製剤、メポリズマブ製剤、オマリズマブ製剤（季節性アレルギー性鼻炎の治療のために使用する場合を除く。）、テデュグルチド製剤、サトラリズマブ製剤、ビルトランセン製剤、レムデシビル製剤、ガルカネズマブ製剤、オファツムマブ製剤、ボソリチド製剤、エレヌマブ製剤、アバロパラチド酢酸塩製剤、カプラシズマブ製剤、濃縮乾燥人C1-インアクチベーター製剤、フレマネズマブ製剤（四週間に一回投与する場合に限る。）、メトトレキサート製剤、チルゼパチド製剤及びビメキズマブ製剤（四週間に一回投与する場合に限る。）

二 (略)

◎ 特掲診療料の施設基準等（平成20年厚生労働省告示第63号）（抄）

第四 在宅医療

六 在宅自己注射指導管理料、間歇注入シリンジポンプ加算、持続血糖測定器加算及び注入器用注射針加算に規定する注射薬

別表第九に掲げる注射薬

別表第九 在宅自己注射指導管理料、間歇注入シリンジポンプ加算、持続血糖測定器加算及び注入器用注射針加算に規定する注射薬

インスリン製剤
性腺刺激ホルモン製剤
ヒト成長ホルモン剤
遺伝子組換え活性型血液凝固第VII因子製剤
遺伝子組換え型血液凝固第VIII因子製剤
遺伝子組換え型血液凝固第IX因子製剤
乾燥濃縮人血液凝固第X因子加活性化第VII因子製剤
乾燥人血液凝固第VIII因子製剤
乾燥人血液凝固第IX因子製剤
顆粒球コロニー形成刺激因子製剤
性腺刺激ホルモン放出ホルモン剤
ソマトスタチナログ
ゴナドトロピン放出ホルモン誘導体
グルカゴン製剤
グルカゴン様ペプチドー1受容体アゴニスト
ヒトソマトメジンC製剤
インターフェロンアルファ製剤
インターフェロンベータ製剤
エタネルセプト製剤
ペグビソマント製剤
スマトリプタン製剤

グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリシン・L-システイン塩酸塩配合剤
アダリムマブ製剤
テリパラチド製剤
アドレナリン製剤
ヘパリンカルシウム製剤
アポモルヒネ塩酸塩製剤
セルトリズマブペゴル製剤
トシリズマブ製剤
メトレレプチン製剤
アバタセプト製剤
pH 4 処理酸性人免疫グロブリン（皮下注射）製剤
アスホターゼ アルファ製剤
グラチラマー酢酸塩製剤
セクキヌマブ製剤
エボロクマブ製剤
ブロダルマブ製剤
アリロクマブ製剤
ベリムマブ製剤
イキセキズマブ製剤
ゴリムマブ製剤
エミシズマブ製剤
イカチバント製剤
サリルマブ製剤
デュピルマブ製剤
インスリン・グルカゴン様ペプチド-1受容体アゴニスト配合剤
ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム製剤
遺伝子組換えヒトvon Willebrand因子製剤
プロスマブ製剤
メポリズマブ製剤
オマリズマブ製剤
テデュグルチド製剤
サトラリズマブ製剤
ガルカネズマブ製剤
オファツムマブ製剤
ボソリチド製剤
エレヌマブ製剤
アバロパラチド酢酸塩製剤
カプラシズマブ製剤
濃縮乾燥人C1-インアクチベーター製剤
フレマネズマブ製剤
メトレキサート製剤
チルゼパチド製剤
ビメキズマブ製剤

◎ 在宅自己注射を実施するに当たっての留意事項（保医発第0427002号 平成17年4月27日）

患者に対する注射は、医師等の有資格者が実施することが原則であるが、在宅自己注射を実施するに当たっては、以下の点に留意すること。

- (1) 在宅自己注射に係る指導管理は、当該在宅自己注射指導管理料の算定の対象である注射薬の適応となる疾患の患者に対する診療を日常の診療において行っており、十分な経験を有する医師が行うこと。
- (2) 在宅自己注射の導入前には、入院又は週2回若しくは3回以上の外来、往診若しくは訪問診療により、医師による十分な教育期間を取り、十分な指導を行うこと。
- (3) かかりつけ医師と異なる医師が在宅自己注射に係る指導管理を行う場合には、緊急時の対応等について当該かかりつけ医師とも十分な連携を図ること。
- (4) 在宅自己注射の実施に伴う廃棄物の適切な処理方法等についても、併せて指導を行うこと。



一般社団法人日本小児アレルギー学会

Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

<https://www.jspaci.jp/>

令和4年11月18日

厚生労働大臣
加藤 勝信 殿

書類送付のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申しあげます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

この度、当学会より下記要望書を提出させていただきます。ご査収の上よろしくお取り計らいくださいますようお願い申しあげます。

敬具

記

- ネモリズマブの在宅医療における自己注射保険適用の要望書

以上

一般社団法人 日本小児アレルギー学会
理事長 吉原 重美
(獨協医科大学医学部小児科学 教授)

2022年11月18日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

一般社団法人 日本小児アレルギー学会

理事長 吉原 重義



ネモリズマブの在宅医療における自己注射保険適用の要望書

アトピー性皮膚炎は、乳児期あるいは幼児期から発症する患者が多く、小児期までに寛解することもある一方、寛解することなく再発を繰り返し、成人まで持続することがあります。主な症状はそう痒のある湿疹を主病変とする慢性の皮膚疾患であり、皮膚疾患の中でも患者のQOLを大きく損なう疾患の1つです。アトピー性皮膚炎の患者は、痒みに対して過敏であり、更には情動と相関して無意識的に起こる搔破行動が定期的に長時間繰り返されています。持続的な搔破は、皮膚炎の悪化や苔癬化、痒疹結節等の慢性的な経過の要因となります。青年期において、持続する痒みは睡眠障害や集中力の低下をもたらし学力の低下、うつなど精神的負担から対人関係へ影響するなど患者、家族の大きな疾病負荷となっています。

ネモリズマブ（遺伝子組換え）製剤は、そう痒を誘発する主なサイトカインであるインターロイキン31(IL-31)の受容体(IL-31RA)に対して高い特異性及び親和性で結合する遺伝子組換えヒト化抗ヒトIL-31RAモノクローナル抗体です。臨床成績からアトピー性皮膚炎のそう痒、皮膚症状に対する高い有効性と良好な安全性プロファイルを有することが示唆されており、2022年3月にIL-31によるシグナル伝達を阻害する新規作用機序の薬剤として、「アトピー性皮膚炎に伴うそう痒（既存治療で効果不十分な場合に限る）」の効能・効果で承認されました。

本剤は自己注射可能なデュアルチャンバーシリンジ（凍結乾燥製剤と注射用水が一体となったプレフィルドシリンジ）であり、4週間に1回の皮下投与が必要です。

しかし、アトピー性皮膚炎に伴うそう痒に対する本剤の効果を持続させるためには定期的かつ長期的な継続投与が必要となります。また、専門医による診察及び生物学的製剤による治療を受ける事が可能な施設数には限りがあり、遠方から受診している患者も多くいます。特に青年期は、学業やクラブ活動等、社会生活における活動性が高く、短い受診間隔で受診することが困難な年代です。

思春期以降のアトピー性皮膚炎の特徴として、顔面、頸部、胸部、背部など上半身に皮疹が強い傾向がみられ、皮疹が顔面から頸部に顕著である顔面型や、瘙痒の強い丘疹が体幹、四肢に多発する痒疹型の皮疹を呈する場合、全身に拡大して紅皮症にいたる重症例もあります。症状の悪化因子として、夏季の紫外線や汗、冬季における乾燥など様々な因子

が皮膚症状の悪化に関連するとされており、外出することが患者の肉体的、精神的なストレスの要因となることもあります。更に重症患者においては、QOLが大きく障害されており、皮膚の炎症が持続したことによる皮膚の苔癬化、搔破痕等の整容的側面、強いかゆみによる睡眠障害など、心理社会的ストレス、精神的負担から定期的な受診が困難な患者もあります。このような課題に対し、本剤の在宅自己注射の保険適用によって、定期的、継続的な治療が可能となり、患者及び医療従事者双方の負担軽減につながるとともに、治療を継続するための選択肢を広げるものとなります。

本剤は、国内での長期投与試験にて自己注射の実績があり、自己注射時の安全性について現時点で特段の問題は示唆されておりませんが、アトピー性皮膚炎の治療ではそう痒と皮膚病変に対する薬物治療の継続が重要であるため、抗炎症外用薬、保湿剤が適切に使用できている患者が在宅自己注射の対象となります。加えて、医師が皮膚症状を注意深く観察したうえで、医師がその妥当性を慎重に検討し、患者、保護者に対して自己投与の方法、廃棄物の適切な処理方法、本剤投与による危険性と対処法について患者が理解し、本剤投与後に副作用の発現が疑われる場合は、医療施設へ連絡するよう患者に指導を行う等、十分な教育、指導を行い患者自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下、実施することが要件になると考えられます。

製造販売業者からは患者の安全性に細心の注意を払うべく、自己注射適用後の皮膚症状の悪化、感染症等の本剤の副作用が疑われる場合など、自己注射の継続が困難な状況となった際には、直ちに自己注射を中止させ、医師の管理下で慎重に観察する等の適切な処置を行うよう注意喚起を行うとともに、患者教育資材等を用意し適正使用情報の提供を行うことで、安全対策を実施するとの報告を受けています。

患者の指導にあたっては、自己注射の手技に関する指導とともに、症状の確認のため最長でも3か月に1度は来院すべきこと、本剤投与後に副作用の発現が疑われる場合、普段と異なる症状がみられた場合は医療機関へ連絡すべきことなど、十分な説明及び指導を行う予定です。また、使用済みの注射器の不適切な廃棄などが生じないよう、患者に対してすべての器具の安全な廃棄方法に関する指導の徹底を行うとともに、使用済みの注射器の廃棄容器を用意するとの報告も受けています。

併せて、一昨年の新型コロナウイルス（COVID-19）の感染以降、感染を懸念し医療機関に受診することをリスクと考えためらう実態もあります。本剤に対する在宅自己注射の保険適用は、治療を継続するための選択肢を広げるものになります。

以上の理由から、本会は、本剤による治療を必要とする患者に対して、適切な治療選択を提供するために、在宅自己注射の早期適用を強く要望いたします。

2022年9月16日

厚生労働省
保健局 医療課 御中

公益社団法人 日本皮膚科学会

書類の送付について

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は大変お世話になっております。

さて、下記書類を送付いたします。よろしくお取り計らいください。
ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

* ネモリズマブの在宅医療における自己注射保険適用の要望書について・・・1部

以上

公益社団法人 日本皮膚科学会
学術部 学術チーム
小林 美和
TEL : 03-3811-5099
e-mail : kobayashi@dermatol.or.jp

第 DB2209-0156 号
2022 年 9 月 16 日

厚生労働大臣
加藤 勝信 殿

公益社団法人日本皮膚科学会

理事長 天谷 雅行



ネモリズマブの在宅医療における自己注射保険適用の要望書

アトピー性皮膚炎は、増悪と軽快を繰り返すそう痒のある湿疹を主病変とする慢性の皮膚疾患であり、皮膚疾患の中でも患者の QOL を大きく損なう疾患の 1 つです。アトピー性皮膚炎の患者は、痒みに対して過敏であり、更には情動と相関して無意識的に起こる搔破行動が定期的に長時間繰り返されています。持続的な搔破は、皮膚炎の悪化や苔癬化、痒疹結節等の慢性的な経過の要因となります。また、痒みは睡眠障害や集中力の低下をもたらし、患者の QOL を著しく低下させることができます。

ネモリズマブ（遺伝子組換え）製剤は、そう痒を誘発する主なサイトカインであるインターロイキン 31 (IL-31) の受容体 (IL-31RA) に対して高い特異性及び親和性で結合する遺伝子組換えヒト化抗ヒト IL-31RA モノクローナル抗体です。臨床成績からアトピー性皮膚炎のそう痒、皮膚症状に対する高い有効性と良好な安全性プロファイルを有することが示唆されており、2022 年 3 月に IL-31 によるシグナル伝達を阻害する新規作用機序の薬剤として「アトピー性皮膚炎に伴うそう痒（既存治療で効果不十分な場合に限る）」を適応症として承認されました。

本剤は自己注射可能なデュアルチャンバーシリンジ（凍結乾燥製剤と注射用水が一体となったプレフィルドシリンジ）であり、4 週間に 1 回の皮下投与が必要です。

しかし、アトピー性皮膚炎に伴うそう痒に対する本剤の効果を持続させるためには定期的かつ長期的な継続投与が必要となります。また、専門医による診察及び生物学的製剤による治療を受ける事が可能な施設数には限りがあり、遠方から受診している患者も多くいます。加えて本剤の対象患者は 13 歳以上の小児から成人で、学生層から仕事も持つ 40～50 歳の働き盛りの世代まで幅広い年齢層であり、社会生活における活動性が高く、長期間の治療で定期的に受診することが困難な年代です。

また、アトピー性皮膚炎の悪化因子として、夏季の紫外線や汗、冬季における乾燥など様々な因子が皮膚症状の悪化に関連するとされており、外出することが患者の肉体的、精神的なストレスの要因となることもあります。更にアトピー性皮膚炎の重症患者においては、長い罹病期間から QOL が大きく障害されており、皮膚の炎症が持続したことによる皮膚の苔癬化、搔破痕等の整容的側面、強いかゆみによる睡眠障害など、心理社会的ストレス、精

精神的負担から定期的な受診が困難な患者もいます。このような課題に対し、本剤の在宅自己注射の保険適用によって、定期的、継続的な治療が可能となり、患者及び医療従事者双方の負担軽減につながるとともに、治療を継続するための選択肢を広げるものとなります。

本剤は、国内での長期投与試験にて自己注射の実績があり、自己注射時の安全性について現時点で特段の問題は示唆されておりませんが、アトピー性皮膚炎の治療ではそう痒と皮膚病変に対する薬物治療の継続が重要であるため、抗炎症外用薬、保湿剤が適切に使用できている患者が在宅自己注の対象となります。すなわち、医師が皮膚症状を注意深く観察し、自己注射による治療の適応が妥当と判断され、かつ医療従事者が患者に対して十分な教育訓練を実施した上で、患者が自己注射の方法と本剤投与による副作用リスクと対処法を十分に理解し、患者自身で確実に自己注射ができると確認できた患者を想定しております。製造販売業者からは患者の安全性に細心の注意を払うべく、自己注射適用後の皮膚症状の悪化、感染症等の本剤の副作用が疑われる場合や、自己注射の継続が困難な状況となった場合には、直ちに自己注射を中止させ、医師の管理下で慎重に観察する等の適切な処置を行う注意喚起を行うとともに、在宅自己注射時における適正使用のために資材等の安全対策を実施するとの報告を受けています。

患者の指導にあたっては、自己注射の手技に関する指導とともに、症状の確認のため最長でも 3 か月に 1 度は来院すべきこと、本剤投与後に副作用の発現が疑われる場合、普段と異なる症状がみられた場合は医療機関へ連絡すべきことなど、十分な説明及び指導を行う予定です。また、使用済みの注射器の不適切な廃棄などが生じないよう、患者に対してすべての器具の安全な廃棄方法に関する指導の徹底を行うとともに、使用済みの注射器の廃棄容器を用意するとの報告も受けています。

併せて、一昨年の新型コロナウイルス (COVID-19) の感染拡大以降、感染を懸念し医療機関に受診することをリスクと考えためらう実態もあります。本剤に対する在宅自己注射の保険適用は、治療を継続するための選択肢を広げるものになります。

以上の理由から、本会は、本剤による治療を必要とする患者に対して、適切な治療選択を提供するために、在宅自己注射の早期適用を強く要望いたします。

2022年11月30日

厚生労働省
保険局 医療課 御中

公益社団法人 日本皮膚科学会

書類の送付について

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は大変お世話になっております。

さて、下記書類を送付いたします。よろしくお取り計らいください。
ご不明の点がありましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

* ラナデルマブ（販売名：タクザイロ®）自己注射保険適用の要望について・・・1部

以上

公益社団法人 日本皮膚科学会
学術部 学術チーム
小林 美和
TEL : 03-3811-5099
e-mail : kobayashi@dermatol.or.jp

第 DB2211-0220 号
令和4年11月18日

厚生労働大臣
加藤 勝信 殿

公益社団法人 日本皮膚科学会
理事長 天谷 雅彦



一般社団法人 日本アレルギー学会
理事長 海老澤 元宏



一般社団法人 日本補体学会
会長 井上 徳光



ラナデルマブ（販売名：タクザイロ[®]）自己注射保険適用の要望書

遺伝性血管性浮腫(Hereditary angioedema:HAE)は、突然皮下、粘膜に浮腫を生じる疾患です。症状は全身に起こりますが、特に気道浮腫を起こした場合に、適切に治療されなければ窒息の危険性があり、その致死率は30%に及ぶとされています¹。2022年に発売されたラナデルマブ（タクザイロ[®]）は、HAEの急性発作の発症抑制を効能効果とする皮下注射投与製剤であり、現在、世界50カ国以上で販売され多くのHAE専門医から有用性を認められています。また、本邦の臨床試験²においては自己注射による投与も実施されておりますが、明らかな安全性上の懸念は認められませんでした³。

HAEが遺伝性疾患である性質上、患者は生涯にかけて疾患と付き合っていく必要があり、長期予防治療が必要な患者にとって年余にわたり治療が継続されることが想定されます。一方、本剤は有効性の維持のために月1-2回の皮下注射の用法が設定されているため、現在は皮下注射の処置のために、患者は月1-2回の通院を必要とされております。頻回の通院は治療の継続に対する大きなハードルになっており、生涯にわたり治療が続くことを考慮すると、患者の負担軽減のための方法が求められます。

医療従事者より自己注射手技、医療廃棄物の処理等について十分な指導を受け、加えて定期通院時に主治医が注射部位反応や中和抗体の産生等を適切に監督できる患者に対し、本剤の在宅自己注射を適用することで、患者の負担を大幅に軽減することが

期待できます。また、HAE 発作に対するオンデマンド治療薬イカチバント（商品名フィラジル[®]）がすでに在宅自己注射の適用を受けており、本製剤も同様に在宅自己注射の承認を受けられましたら、双方の製剤を使用する患者の Quality of Life の向上に大きく貢献すると考えます。

これらの状況を鑑み、在宅医療におけるラナデルマブ（タクザイロ[®]）の在宅自己注射に対する保険適用を強く要望いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

¹ 大澤勲編；難病 遺伝性血管性浮腫 HAE 医薬ジャーナル社 p77

² 武田薬品工業株式会社 タクザイロ皮下注 300mg シリンジ インタビューフォーム

³ 審議結果報告書 タクザイロ皮下注 300mg シリンジ 医薬・生活衛生局医薬品審査管理課

令和5年2月20日



厚生労働大臣

加藤 勝信 殿

一般社団法人 日本神経学会

代表理事 西山 和利

**要望書****ヴィアレブ配合持続皮下注の在宅自己注射保険適用に関する要望書**

ヴィアレブ配合持続皮下注（以下、本剤）による治療を必要とする進行期パーキンソン病患者に対して、以下の状況を総合的に勘案し、本剤の在宅医療における自己注射に保険適用が行われますよう、要望いたします。

パーキンソン病は、脳内ドパミンが漸減することにより、動作緩慢、筋強剛、振戦などの運動症状が発現する疾患であり、指定難病に認定されています。経口薬で症状が十分にコントロールできない進行期パーキンソン病における現在の治療選択肢は入院を伴う外科的処置^{*}を要する侵襲性の高い治療法に限られます。一方で既存の経口薬だけでは改善が困難な、朝の無動[†]や睡眠障害といった患者や介護者の日常生活に強い影響を与える症状の改善に対するニーズは少なからず存在します。本剤は、外科的手術を必要としない24時間持続皮下注射剤であり、既存治療におけるアンメットニーズを満たすことが期待されるため、本学会から令和4年12月14日付で本剤及び本剤と組み合わせて使用するデバイス（ABBV-951治療システム）の遅滞ない薬事承認・保険適用並びに適切な診療報酬上の評価に関する要望書[‡]を厚生労働大臣宛に提出しています。すでに本邦において、本剤は、2022年12月に「レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動（wearing-off現象）の改善」を効能又は効果として製造販売承認されました。

頻回投与や長期間の治療が必要になる理由

本剤は少なくとも3日に1回は投与部位を変更する必要がある他、必要に応じて任意のタイミングで投与部位を変更することもあるため、24時間持続皮下注射を継続するには、在宅自己注射が必須です。また、パーキンソン病は、現時点では根本的な治療法がない慢性かつ進行性の消耗性疾患であり、長期間の治療が必要となります。

自己注射の対象患者

本剤の対象患者は、進行期パーキンソン病患者であり、かつパーキンソン病治療に精通し本剤の投与システムについて十分な知識のある医師又はその指導の下で、本投与システムの使用が適切と判断される患者です。

* 二つの治療選択肢のうち、デュオドーパでは胃瘻の造設、脳深部刺激療法（DBS）では脳内への電極と胸部皮下への刺激装置の埋め込み

† 身体の可動性の低下（アキネジアとも言う）

‡ 要望書 ABBV-951治療システムの遅滞ない薬事承認・保険適用並びに適切な診療報酬上の評価について（令和4年12月14日付）

自己注射の安全性

本剤は24時間持続皮下注射剤であり、在宅自己注射を前提として開発されました。実際に、海外及び本邦で実施された本剤の全ての第Ⅲ相臨床試験では、進行期パーキンソン病患者又は介護者による在宅自己注射が行われ、本剤の安全性が確認されています。

使用にあたっての具体的な留意点

本剤の投与は、臨床試験において安全性が確認され、2022年11月に製造販売承認されている専用の投与システム（ヴィアフューザー皮下投与システム）を用いて行います。また、注入部位関連有害事象の管理のための適切な注入方法や有害事象が発生した場合の対処方法、症状等に応じた適切な受診頻度、問題が生じた際の速やかな医療機関への連絡や使用済みの構成品の安全な廃棄方法等について医療従事者から患者・介護者へ継続的に丁寧かつ十分な教育・指導を行うことが重要となります。製造販売業者からは、医療従事者及び患者・介護者向けに、在宅自己注射時の適正使用のための資材を用意すると報告を受けています。

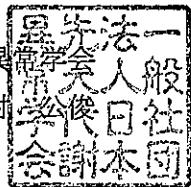
本剤は、外科的手術を必要としない24時間持続皮下注射剤であり、既存治療におけるアンメットニーズを満たすことから、本邦の進行期パーキンソン病の新たな治療選択肢として期待されます。本剤の使用にあたっては、在宅自己注射が必須であることから、本剤の在宅自己注射保険適用を要望いたします。

以上

2023年2月16日

厚生労働省 保険局
保険局長 伊原 和人 殿

日本先天代謝異常学会
理事長 中村



ペグバリアーゼ（遺伝子組換え）の在宅自己注射に関する
保険適用の要望書

フェニルケトン尿症（以下、PKU）は、体内でフェニルアラニン（以下、Phe）を分解できないことが原因の常染色体潜性（劣性）遺伝性の希少疾患であり、フェニルアラニン水酸化酵素（以下、PAH）をコードする遺伝子の変異が原因となります。日本では PKU は難病指定されており、新生児マススクリーニング対象疾患等診療ガイドライン（2019 年）には、PKU の発症率はおよそ 70,000 人に 1 人であり、年間約 20 人の新たな患者が発生しているとされています。

PKU の病態生理は、Phe 濃度の上昇によりヒト及び動物の脳細胞に直接毒性を及ぼしてタンパク質合成を阻害し、髓鞘を構成するタンパク質の正常な形態に影響を与え、大脳皮質における樹状突起やシナプスの発達を停止・遅延させることが多数のエビデンスにより示されています。PKU 患者における血中 Phe 濃度のコントロール不良は、実行機能不全、鬱病、不安症、気分及び注意持続能力への悪影響を含む、重度の行動及び精神医学的问题と関連しており、患者の生活の質に悪影響を及ぼします。PKU 患者は一般の方と比較して精神・神経症状の有病率が高く、遂行機能障害も多いことから、重度の疾病負荷を経験します。

PKU 患者に対する治療法は限られており、食事療法による厳格な Phe 摂取制限、補助薬としてサプロテリンが使用されています。食事療法の長期の維持が困難であること、サプロテリンの有効性が一部の患者集団に限定されること、及びサプロテリンを服用しても血中 Phe 濃度を十分に下げることが困難である PKU 患者がいることから、コントロール不良な PKU 患者に対する新たな治療法は大きなアンメットメディカルニーズがあります。

PKU の新規治療薬として現在国内申請中のペグバリアーゼ（遺伝子組換え）（以下、本剤）は PKU 患者の血中 Phe 濃度を低下させるための自己注射可能な皮下投与による酵素代替療法として開発されました。本剤は、PAH とは違い血漿中で活性を有し Phe を分解します。臨床試験では、血中 Phe 濃度のコントロール不良な被験者において、本剤投与により血中 Phe 濃度の有意かつ持続的な減少が達成されました。また、安全性においては、注射部位反応、関節痛、過敏症反応及び急性全身性過敏反応などが認められましたが、本剤は忍容性の観点から許容可能な安全性プロファイルを有することが示されています。

本剤の投与が開始された後は、血中 Phe 濃度を目標範囲内にコントロールし続けるために、本剤が継続的に投与されることが予想されています。投与経路は皮下注射であり、投与頻度は週 1 回投与から開始し、維持期（投与開始後 9 週目以降）には毎日投与となる予定です。従って、本剤の投与のための毎日の通院は、PKU 患者に大きな負担を強いることになります。

本剤の開発を行った製薬会社の複数の臨床試験では、登録された全ての症例（日本人症例を含む）にお

いて、在宅自己注射が実施されました。また、米国および欧州ではすでに実臨床において在宅自己注射が行われております。

本剤の在宅自己注射にあたっては、事前に、PKU 患者に対し専門医をはじめとする医療従事者から、適切な薬剤の管理、投与方法や投与タイミング、廃棄物の処理方法等を十分に説明・指導し、きちんと理解しているかを確認することで、適正かつ安全に実施していただくことが可能であると考えます。また、本剤の製造販売業者が自己注射に関する患者向けの適正使用ガイド（投与ガイド）、患者向け医薬品ガイド、使用手順書、自己注射トレーニング動画、及び自己注射トレーニングキット等を準備していると聞いております。

以上を鑑み、日本先天代謝異常学会はペグバリアーゼ（遺伝子組換え）の在宅自己注射保険適用を強く要望するものであります。何卒、宜しくお願い申し上げます。

以上

令和5年4月6日

厚生労働大臣
加藤 勝信 殿

一般社団法人日本先天代謝異常学会

理事長 中村 公俊



ライソゾーム病に対する2種類の酵素製剤「パビナフスプ アルファ」と「アバルグルコシダーゼ アルファ」を「保険医が投与することができる注射薬の対象薬剤」へ追加することの要望

ライソゾーム病は、細胞内小器官の一つであるライソゾームに局在する加水分解酵素(以下ライソゾーム酵素)の先天的な欠損を原因とする遺伝性疾患である。酵素活性の欠損により、未分解の中間代謝産物が体内に蓄積し、様々な症状が年齢とともに重篤化する進行性の疾患である。

ライソゾーム病に対する酵素補充療法は、欠損しているライソゾーム酵素を定期的に体外から投与することで症状の進行を抑制する治療法である。酵素補充療法は、毎週もしくは隔週に1回、1から4時間の点滴静注による投与を一生涯続ける必要がある。この定期的な投与のための通院を一生涯続けることの負担は少なくなく、特に病態が進行し、歩行障害、寝たきりや呼吸管理などの高度の障害を有する患者においては本人、保護者、介護者の負担はさらに大きくなる。

また、新型コロナウイルス流行下においても、患者は酵素補充療法のために定期的な専門施設への通院を余儀なくされているが、多くのライソゾーム病患者は呼吸・循環器系の合併症を有しており、若年患者でも新型コロナウイルス感染症のハイリスク患者と考えられる。市中感染が流行する時期では、通院のための移動や医療機関における感染リスクを懸念する患者も多い。

以上のような状況を鑑みて、令和3年1月に本学会からライソゾーム病8疾患に対する11酵素製剤を「保険医が投与することができる注射薬の対象薬剤」へ追加することの要望を行った(資料1)。その後、令和3年3月にこれらの製剤の追加が承認され、在宅医療での投与が可能となった。

さらに、ライソゾーム病に対する以下の酵素製剤2剤が薬事承認され、すでに治療に使用されている。

疾患名	薬剤名
ムコ多糖症II型	パビナフスプ アルファ (令和3年3月 製造販売承認)
ポンペ病	アバルグルコシダーゼ アルファ (令和3年9月 製造販売承認)

ライソゾーム病患者への酵素補充療法における注意点として、酵素製剤の投与に伴う投与関連反応(発熱、発疹、アナフィラキシー)の出現がある。したがって、在宅での酵素補充療法にあたっては、一定期間の酵素補充療法を医療機関で実施し、投与関連反応が適切に制御され、安全な投与が可能であることを厳密に確認できた患者を対象とすることが重要と考える。

既に承認された11酵素製剤による酵素補充療法においては、投与関連反応を呈さな

い、あるいは適切な前投薬などで制御可能な患者を対象としており、在宅治療の導入後は投与時関連反応などによる大きな安全性の問題は生じていない。今回、追加を要望する2製剤は、すでに承認された酵素製剤と比較して、薬剤の保存、調整、投与法に関する違いはなく、また安全性に関する特段の有害事象や懸念点は報告されておらず、これまでと同様に安全に注意を払うことによって、在宅治療への導入は可能と考える。また日本先天代謝異常学会と日本在宅医療連合学会は、ライソゾーム病患者に対する在宅酵素補充療法の実施にあたって、マニュアル共同して作成した（資料2）。

上記に鑑み、新たな2酵素製剤を「保険医の投与することができる注射薬」に加えることを強く要望する次第である。

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準

平成 28 年 8 月 24 日
中央社会保険医療協議会 総会
承 認
令和 2 年 12 月 23 日
改 正 案 承 認

1 対象薬剤

(1) 対象薬剤の要件

補充療法等の頻回投与又は発作時に緊急投与が必要で、かつ、剤形が注射によるものでなければならないもので、以下のいずれも満たすもの。

(ア) 関連学会等のガイドライン等において、在宅自己注射を行うことについての診療上の必要性が確認されているもの。

(イ) 医薬品医療機器法上の用法・用量として、維持期における投与間隔が概ね 4 週間以内のもの。

(ウ) 上記を踏まえ、在宅自己注射指導管理料対象薬剤への追加の要望があるもの。

なお、学会からの要望書については、下記①～④までの事項が記載されているものであること。

① 自己注射の安全性の確認

② 自己注射の対象となる患者の要件

③ 使用にあたっての具体的な留意点（廃棄物の適切な処理方法を含む使用法の指導、病状の確認頻度、予想される副作用への対応等）

④ 頻回投与や長期間の治療が必要になる理由

(エ) 発作時に緊急投与が必要な薬剤及び補充療法に使用する薬剤以外の薬剤については、上記（ア）～（ウ）に加え、要望書を提出した学会以外の学会の意見を確認する等、診療上の必要性について十分な確認がなされていること。

(2) バイオ後続品の追加

先行バイオ医薬品が在宅自己注射指導管理料の対象となっているバイオ後続品については、当分の間、個別品目毎に中医協において審議する。

(3) 既存の対象薬剤の再評価

既に対象となった薬剤については、その使用状況等を踏まえ、定期的に見直すこととし、中医協において審議する。

2 対象への追加時期

- (1) 新医薬品のうち、14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1日の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせて対象薬剤に追加することを検討する。
- (2) 新医薬品のうち、14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、原則、投与期間が14日間と制限されていることを踏まえ（※）、事実上、14日以内毎に医療機関を受診することとなるため、14日を超える投薬が可能になった後に、在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に追加することを検討する。
※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される
- (3) 新型コロナウイルスの感染が拡大している間、新医薬品以外の医薬品について、対象薬剤の要件を満たす場合であって、学会からの要望があった場合については、(1)に準じて、原則として、新医薬品の薬価収載の時期にあわせて追加することを検討する。

3 その他

- (1) 保険医が投薬することができる注射薬の対象薬剤への追加に当たっても、本運用基準を準用する。
- (2) 本運用基準は、令和2年12月23日より適用する。

在宅自己注射指導管理料の対象薬剤に係る運用基準（案）

平成 28 年 8 月 24 日
中央社会保険医療協議会 総会
承 認
令和 5 年 5 月 17 日
改 正 案

1 対象薬剤

（1）対象薬剤の要件

補充療法等の頻回投与又は発作時に緊急投与が必要で、かつ、剤形が注射によるものでなければならないもので、以下のいずれも満たすもの。

（ア）関連学会等のガイドライン等において、在宅自己注射を行うことについての診療上の必要性が確認されているもの。

（イ）医薬品医療機器法上の用法・用量として、維持期における投与間隔が概ね 4 週間以内のもの。

（ウ）上記を踏まえ、在宅自己注射指導管理料対象薬剤への追加の要望があるもの。

なお、学会からの要望書については、下記①～④までの事項が記載されているものであること。

① 自己注射の安全性の確認

② 自己注射の対象となる患者の要件

③ 使用にあたっての具体的な留意点（廃棄物の適切な処理方法を含む使用法の指導、病状の確認頻度、予想される副作用への対応等）

④ 頻回投与や長期間の治療が必要になる理由

（エ）発作時に緊急投与が必要な薬剤及び補充療法に使用する薬剤以外の薬剤については、上記（ア）～（ウ）に加え、要望書を提出した学会以外の学会の意見を確認する等、診療上の必要性について十分な確認がなされていること。

（2）バイオ後続品の追加

先行バイオ医薬品が在宅自己注射指導管理料の対象となっているバイオ後続品については、当分の間、個別品目毎に中医協において審議する。

(3) 既存の対象薬剤の再評価

既に対象となった薬剤については、その使用状況等を踏まえ、定期的に見直すこととし、中医協において審議する。

2 対象への追加時期

(1) 医薬品のうち、14日未満の間隔で注射を行う医薬品については、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせ対象薬剤に追加することを検討する。

(2) 14日以上の間隔をあけて注射を行う医薬品については、14日を超える投薬が可能な場合であって（※）、1の内容を満たす場合は、原則、薬価収載の時期にあわせ対象薬剤に追加することを検討する。

※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される。

(3) 削除

※ 新医薬品については、原則、薬価への収載の日の属する月の翌月の初日から起算して1年が経過するまでの間、投薬期間が14日に制限される。

3 その他

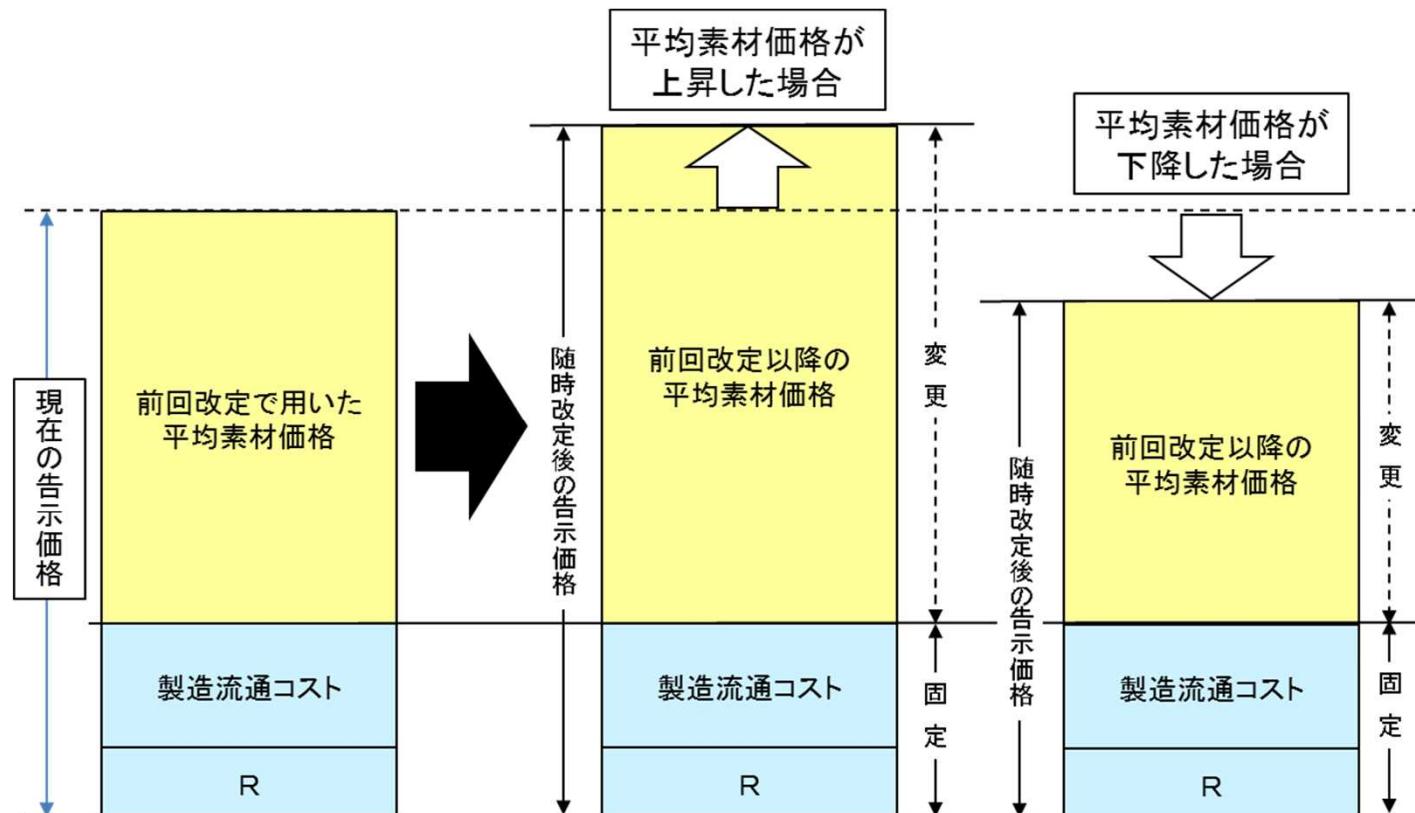
(1) 保険医が投薬することができる注射薬の対象薬剤への追加に当たっても、本運用基準を準用する。

(2) 本運用基準は、令和5年5月17日より適用する。

歯科用貴金属価格の随時改定について

中医協総 - 5
5 . 5 . 17

歯科用貴金属価格の随時改定は、変動幅にかかわらず、平均素材価格に応じて診療報酬改定時以外に4月、7月、10月、1月に見直しを行うもの。



※平均素材価格は金、銀、パラジウムのそれぞれの取引価格平均値に含有比率を乗じて算出
※平均素材価格の算出には前回改定以降、改定2カ月前までの期間の取引価格を用いる

歯科用貴金属価格の隨時改定について

	告示価格(円)			X及びY		試算価格(円)	告示価格案(円)
	①R4年10月 随时改定	②R5年1月 随时改定	③R5年4月 随时改定	④Xの期間 Xの平均値(円)	⑤Yの期間 Yの平均値(円)	⑥R5年7月 随时改定	⑦R5年7月 随时改定
2 歯科铸造用14カラット金合金 インレー用(JIS適合品)	6,493	6,512	6,596	令和5年2月～ 令和5年4月 4,825.0	令和4年11月～ 令和5年1月 4,624.2	6,816.9	6,817
3 歯科铸造用14カラット金合金 鋏用(JIS適合品)	6,476	6,495	6,579	令和5年2月～ 令和5年4月 4,825.0	令和4年11月～ 令和5年1月 4,624.2	6,799.9	6,800
4 歯科用14カラット金合金鋏用線(金58.33%以上)	6,626	6,645	6,729	令和5年2月～ 令和5年4月 4,825.0	令和4年11月～ 令和5年1月 4,624.2	6,949.9	6,950
5 歯科用14カラット合金用金ろう(JIS適合品)	6,453	6,472	6,556	令和5年2月～ 令和5年4月 4,825.0	令和4年11月～ 令和5年1月 4,624.2	6,776.9	6,777
6 歯科铸造用金銀パラジウム合金(金12%以上JIS適合品)	3,481	3,711	3,391	令和5年2月～ 令和5年4月 2,345.5	令和4年11月～ 令和5年1月 2,631.3	3,076.6	3,077
10 歯科用金銀パラジウム合金ろう(金15%以上JIS適合品)	4,052	4,226	3,994	令和5年2月～ 令和5年4月 2,255.4	令和4年11月～ 令和5年1月 2,449.1	3,780.9	3,781
11 歯科铸造用銀合金 第1種(銀60%以上インジウム5%未満JIS適合品)	145	144	151	令和5年2月～ 令和5年4月 60.2	令和4年11月～ 令和5年1月 60.4	150.8	151
12 歯科铸造用銀合金 第2種(銀60%以上インジウム5%以上JIS適合品)	178	177	184	令和5年2月～ 令和5年4月 60.2	令和4年11月～ 令和5年1月 60.4	183.8	184
13 歯科用銀ろう(JIS適合品)	265	265	269	令和5年2月～ 令和5年4月 35.1	令和4年11月～ 令和5年1月 35.2	268.9	269

※1 「試算価格(円)」は、以下の算式により算出される(中医協資料上は小数第1位まで記載)

$$\{ \text{当該機能区分に係る随时改定時前の基準材料価格} \} + \text{補正幅} \times 1.1$$

$$\text{補正幅} = X - Y$$

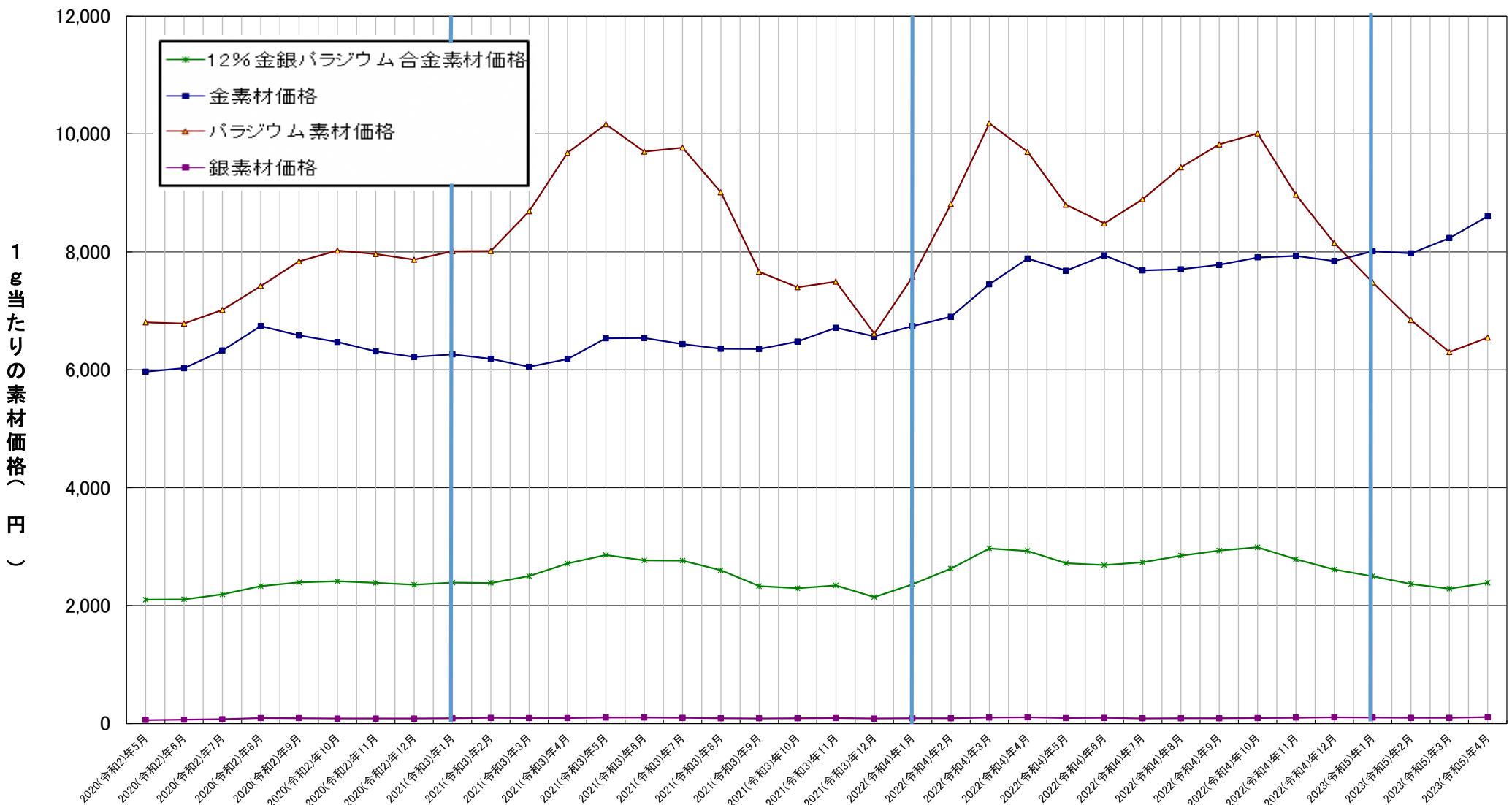
X=当該機能区分の基準材料価格の前回改定以降の平均素材価格 Y=当該機能区分の前回改定で用いた平均素材価格

※2 各項目は1g当たりの価格

※3 1、7、8、9、14、15は削除済みの項目

※4 随時改定:令和4年4月より、変動率によらず、診療報酬改定時以外に1月、4月、7月、10月に告示価格の改正を実施

歯科用貴金属素材価格の変動推移



医療計画について

医療計画について

- 都道府県が、国の定める基本方針に即し、地域の実情に応じて、当該都道府県における医療提供体制の確保を図るために策定するもの。
- 医療資源の地域的偏在の是正と医療施設の連携を推進するため、昭和60年の医療法改正により導入され、都道府県の二次医療圏ごとの病床数の設定、病院の整備目標、医療従事者の確保等を記載。平成18年の医療法改正により、疾病・事業ごとの医療連携体制について記載されることとなり、平成26年の医療法改正により「地域医療構想」が記載されることとなった。その後、平成30年の医療法改正により、「医師確保計画」及び「外来医療計画」が位置付けられることとなった。

計画期間

- 6年間（現行の第7次医療計画の期間は2018年度～2023年度。第8次医療計画の期間は2024年度～2029年度。中間年で必要な見直しを実施。）

記載事項(主なもの)

○ 医療圏の設定、基準病床数の算定

- ・ 病院の病床及び診療所の病床の整備を図るべき地域的単位として区分。

二次医療圏

335医療圏（令和3年10月現在）

【医療圏設定の考え方】

一般的な入院に係る医療を提供することが相当である単位として設定。その際、以下の社会的条件を考慮。

- ・ 地理的条件等の自然的条件
- ・ 日常生活の需要の充足状況
- ・ 交通事情 等

- ・ 国の指針において、一定の人口規模及び一定の患者流入/流出割合に基づく、二次医療圏の設定の考え方を明示し、見直しを促進。

○ 地域医療構想

- ・ 2025年の、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4機能ごとの医療需要と将来の病床数の必要量等を推計。

三次医療圏

52医療圏（令和3年10月現在）

※都道府県ごとに1つ（北海道のみ6医療圏）

【医療圏設定の考え方】

特殊な医療を提供する単位として設定。ただし、都道府県の区域が著しく広いことその他特別な事情があるときは、当該都道府県の区域内に二以上の区域を設定し、また、都道府県の境界周辺の地域における医療の需給の実情に応じ、二以上の都道府県にわたる区域を設定することができる。

○ 5疾病・6事業(※)及び在宅医療に関する事項

※ 5疾病…5つの疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）。

6事業…6つの事業（救急医療、災害時における医療、新興感染症発生・まん延時における医療、べき地の医療、周産期医療、小児医療（小児救急医療を含む。））。

- ・ 疾病又は事業ごとの医療資源・医療連携等に関する現状を把握し、課題の抽出、数値目標の設定、医療連携体制の構築のための具体的な施策等の策定を行い、その進捗状況等を評価し、見直しを行う（PDCAサイクルの推進）。

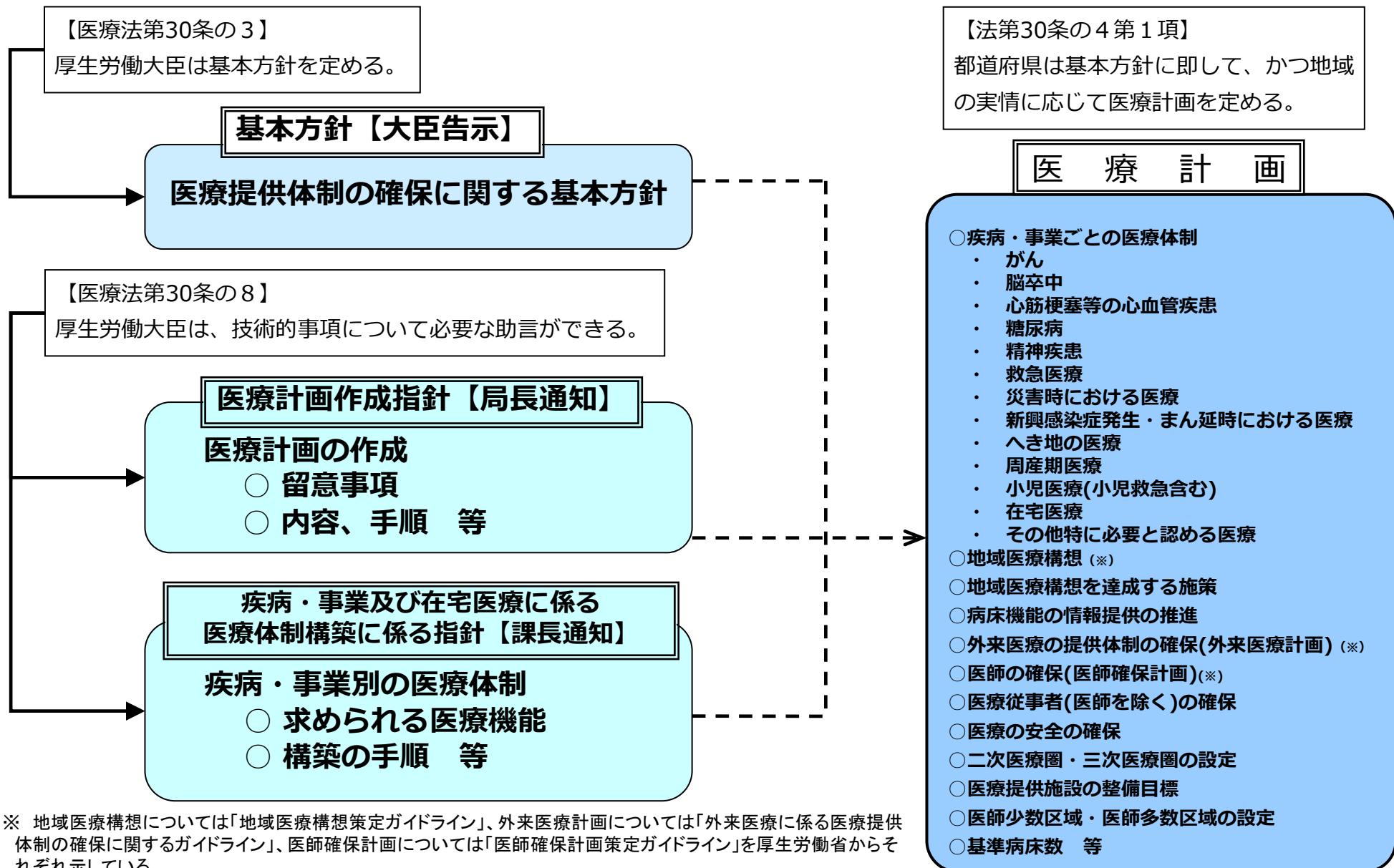
○ 医師の確保に関する事項

- ・ 三次・二次医療圏ごとに医師確保の方針、目標医師数、具体的な施策等を定めた「医師確保計画」の策定（3年ごとに計画を見直し）
- ・ 産科、小児科については、政策医療の観点からも必要性が高く、診療科と診療行為の対応も明らかにしやすいことから、個別に策定

○ 外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項

- ・ 外来医療機能に関する情報の可視化、協議の場の設置、医療機器の共同利用等を定めた「外来医療計画」の策定

医療計画の策定に係る指針等の全体像



医療計画の状況を踏まえた中医協における議論の進め方

医療計画

- 疾病・事業ごとの医療体制
 - ・がん
 - ・脳卒中
 - ・心筋梗塞等の心血管疾患
 - ・糖尿病
 - ・精神疾患
 - ・救急医療
 - ・災害時における医療
 - ・新興感染症発生・まん延時における医療
 - ・へき地の医療
 - ・周産期医療
 - ・小児医療(小児救急含む)
 - ・在宅医療
 - ・その他特に必要と認める医療
- 地域医療構想
- 地域医療構想を達成する施策
- 病床機能の情報提供の推進
- 外来医療の提供体制の確保(外来医療計画)
- 医師の確保(医師確保計画)
- 医療従事者(医師を除く)の確保
- 医療の安全の確保
- 二次医療圏・三次医療圏の設定
- 医療提供施設の整備目標
- 医師少数区域・医師多数区域の設定
- 基準病床数 等

○医療計画の項目のうち、

- 入院医療、外来医療、在宅医療については、それぞれのテーマごとに中医協において医療計画との関係性も踏まえつつ議論することとする。
その際、地域医療構想については、第8次医療計画においても毎年度対応方針の策定率を目標としたPDCAサイクルを通じて推進することとされていることから、その状況も踏まえることとする。
- 6事業(救急医療、災害時における医療、新興感染症発生・まん延時における医療、へき地の医療及び周産期医療、小児医療)のうち新興感染症発生・まん延時における医療については、新型コロナウイルス感染症への対応を含めた感染症に対する医療に関する議論の中で別途取り扱うことし、今回は残りの5事業について議論することとする。
- また、上記6事業を含め、5疾病及び医療の安全の確保等については、今後必要に応じて、個別項目等の議論の中でも取り扱うこととする。

第8次医療計画の策定に向けた検討体制

令和4年3月4日 第7回第8次医療計画等に関する検討会 資料1

- 第8次医療計画の策定に向け、「第8次医療計画等に関する検討会」を立ち上げて検討。
 - 現行の医療計画における課題等を踏まえ、特に集中的な検討が必要な項目については、本検討会の下に、以下の4つのワーキンググループを立ち上げて議論。
 - 新興感染症等への対応に関し、感染症対策（予防計画）に関する検討の場と密に連携する観点から、双方の検討会・検討の場の構成員が合同で議論を行う機会を設定。

第8次医療計画等に関する検討会

- 医療計画の作成指針（新興感染症等への対応を含む 5 疾病 6 事業・在宅医療等）
 - 医師確保計画、外来医療計画、地域医療構想 等

※具体的には以下について検討する

- ・医療計画の総論（医療圏、基準病床数等）について検討
- ・各検討の場、WGの検討を踏まえ、5疾患6事業・在宅医療等について総合的に検討
- ・各WGの検討を踏まえ、地域医療構想、医師確保計画、外来医療計画について総合的に検討

※医師確保計画及び外来医療計画については、これまで「医師需給分科会」で議論してきており、次期計画の策定に向けた議論については、本検討会で議論。

地域医療構想及び 医師確保計画に 関するWG

- 以下に関する詳細な検討
 - ・医師の適正配置の観点を含めた医療機能の分化・連携に関する推進方針
 - ・地域医療構想ガイドライン
 - ・医師確保計画ガイドライン

外来機能報告等に 関するWG

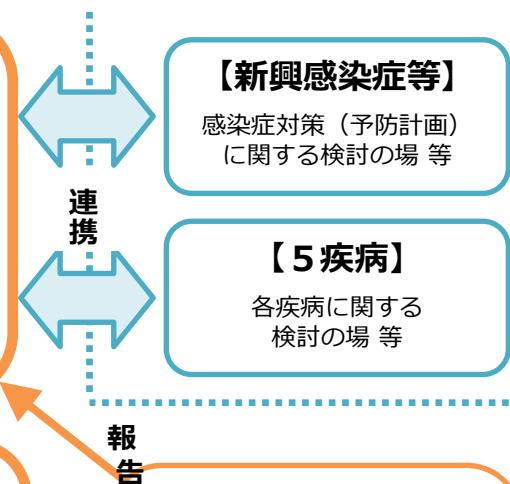
- 以下に関する詳細な検討
 - ・医療資源を重点的に活用する外来
 - ・外来機能報告
 - ・地域における協議の場
 - ・医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関等

在宅医療及び 医療・介護連携に 関するWG

- 以下に関する詳細な検討
・在宅医療の推進
・医療・介護連携の推進等

救急・災害医療 提供体制等に関するWG

- 以下に関する詳細な検討
 - ・第8次医療計画の策定に向けた救急医療提供体制の在り方
 - ・第8次医療計画の策定に向けた災害医療提供体制の在り方 等



- * へき地医療、周産期医療、小児医療については、第7次医療計画の策定に向けた検討時と同様、それぞれ、以下の場で専門的な検討を行った上で、「第8次医療計画等に関する検討会」に報告し、協議を進める予定。

・へき地医療 厚生労働科学研究の研究 ・周産期医療、小児医療 有識者の意見交換

第8次医療計画のポイント①

全体について

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により浮き彫りとなった地域医療の様々な課題に対応するとともに、人口構造の変化への対応を図る。
- ・ 令和3年の医療法改正により新たな事業として新興感染症への対応に関する事項を追加する。
- ・ 第7次計画期間中に追加した「医師確保計画」「外来医療計画」（計画期間はいずれも3年間）についてもそれぞれのガイドラインに基づき第8次医療計画の策定と併せて見直しを行う。その際、二次医療圏の設定について先行して議論を行う。

5 疾病・6事業及び在宅医療について

- ・ 地域の現状や課題に即した施策の検討においてロジックモデル等のツールを活用する。
- ・ 新興感染症の発生・まん延時や災害時等においても必要な医療が提供できる体制の整備を進める。

【がん】がん医療の均てん化に加え、拠点病院等の役割分担と連携による地域の実情に応じた集約化を推進する。

【脳卒中】適切な病院前救護やデジタル技術を活用した急性期診療体制の構築、回復期や維持期・生活期の医療体制の強化に取り組む。

【心血管疾患】回復期及び慢性期の診療体制の強化やデジタル技術の活用等による、急性期から一貫した診療体制の整備に取り組む。

【糖尿病】発症予防、糖尿病及び合併症の治療・重症化予防のそれぞれのステージに重点を置いて取り組むための体制構築を進める。

【精神疾患】患者の病状に応じ、医療、障害福祉・介護その他のサービスを切れ目なく受けられる体制整備を一層推進する。

【救急】増加する高齢者の救急や、特に配慮を要する救急患者を受け入れるために、地域における救急医療機関の役割を明確化する。

【災害】災害拠点病院等における豪雨災害の被害を軽減するため、地域における浸水対策を進める。

【へき地】医師の確保に配慮するとともに、オンライン診療を含む遠隔医療を活用。※改正離島振興法の内容にも留意。

【周産期・小児】保健・福祉分野とも連携し、ハイリスク妊産婦への対応や、医療的ケア児への支援にかかる体制整備を進める。

【在宅医療】「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を位置付け、適切な在宅医療の圏域を設定するとともに、各職種の機能・役割についても明確化する。また、在宅医療に係る医療機関等に対し災害時におけるBCPの策定を支援する。

第8次医療計画のポイント②

地域医療構想について

- これまでの基本的な枠組み（病症の必要量の推計・考え方など）を維持しつつ、毎年度、対応方針の策定率を目標としたPDCAサイクルを通じて地域医療構想を推進することとし、策定率と地域医療構想調整会議における資料や議事録など協議の実施状況について公表を行う等、着実に取組を推進。

※2025年以降の地域医療構想の取組のあり方については、2023～2024年度にかけて、中長期的課題について整理し、検討予定。

外来医療について

- 外来機能報告により得られたデータを活用し、紹介受診重点医療機関となる医療機関を明確化するとともに、地域の外来医療の提供状況について把握し、今後の地域の人口動態・外来患者推計等も踏まえ外来医療提供体制のあり方について検討を行う。

医療従事者の確保について

- 2024年4月に医師の時間外・休日労働の上限規制が施行されることを踏まえ、医療機関における医師の働き方改革に関する取組の推進、地域医療構想に関する取組と連動させ、医師確保の取組を推進。
- 医師確保計画の策定において基礎となる、医師偏在指標について精緻化等を実施。
- 地域医療介護総合確保基金を積極的に活用し、病院と歯科診療所の連携、歯科専門職の確保、薬剤師（特に病院）の確保を進める。
- 特定行為研修修了者その他の専門性の高い看護師の養成と確保を推進する。

医療の安全の確保等について

- 医療事故調査制度運用の要である病院等の管理者の理解をより深めるため、研修の受講を推進する。
- 相談対応の質の向上を図る観点から、医療安全支援センターの相談職員の研修の受講を推進する。

その他の事項

- 地域医療支援病院について、医療計画の見直しの際に必要に応じて責務の追加・見直しを検討するとともに、整備目標を定める際には医療計画における新興感染症への対応に関する事項との連携にも留意する。
- 医療計画の内容のうち、必要な情報についてはわかりやすい形で周知を行い、住民の理解・協力を得られるよう努める。

診療報酬における機能に応じた病床の分類（イメージ）

位置療
付法の
け

一般病床

(R 3.6末医療施設動態・病院報告)

病床数 886,272床
病床利用率 69.8%
平均在院日数 16.1日

DPC/PDPS

1,755施設 481,444床※2
(▲1,736床)

※2 R3.4.1現在

特定機能病院 入院基本料※1

87施設
58,541床 (+366床)
※1 一般病棟に限る

専門病院入院基本料

19施設 6,245床 (+112床)

救命救急入院料

入院料1 187施設 3,593床 (+65)	入院料2 26施設 200床 (+4)	入院料3 80施設 1,639床 (▲27)	入院料4 80施設 891床 (▲11)
-------------------------------	---------------------------	------------------------------	----------------------------

特定集中治療室管理料

ICU 1 141施設 1,487床 (+90)	ICU 2 76施設 867床 (+70)	ICU 3 349施設 2,365床 (▲25)	ICU 4 62施設 565床 (▲53)
--------------------------------	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------

ハイケアユニット入院医療管理料

HCU 1 : 621施設 6,153床 (+374床)
HCU 2 : 30施設 309床 (+4床)

脳卒中ケアユニット入院医療管理料

194施設 1,592床 (+113床)

小児特定集中治療室管理料

9施設 100床 (▲16床)

新生児特定集中治療室管理料

NICU 1 80施設 751床 (▲46床)
NICU 2 149施設 885床 (+53床)

総合周産期特定集中治療室管理料

134施設 母児・胎児 857床 (+6床)
新生児 1,755床 (+35床)

新生児治療回復室入院医療管理料

200施設 2,899床 (±0床)

一類感染症患者入院医療管理料

33施設 105床 (±0床)

小児入院 医療管理料	管理料1 80施設 5,436床 (▲2床)	管理料2 182施設 6,308床 (+150床)	管理料3 83施設 2,030床 (▲237床)	管理料4 390施設 8,186床 (+142床)	管理料5 162施設 - (+142床)
---------------	---------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	-------------------------------

有床診療所（一般）

4,623施設 62,118床 (▲2,091床)

精神科救急入院料

入院料1 167施設 10,773床 (+187)
入院料2 5施設 227床 (+100)

精神科急性期治療病棟入院料

入院料1 367施設 16,627床 (+347)
入院料2 8施設 358床 (▲150)

精神病棟

1,150施設 138,818床 (▲4,725床)

精神科救急・合併症入院料

11施設 424床 (+48)

児童・思春期精神科入院

47施設 1,555床 (+64)

結核病棟

167施設 3,414床 (▲491床)

療養病床

(R 3.6末医療施設動態・病院報告)

病床数 285,828床

病床利用率 85.8%

平均在院日数 131.1日

回復期リハビリテーション病棟入院料

入院料1 900施設 59,381床 (+5,870)	入院料2 189施設 10,002床 (+524)	入院料3 351施設 15,543床 (▲3,269)	入院料4 57施設 2,516床 (▲807)	入院料5 51施設 1,939床 (▲245)	入院料6 37施設 1,459床 (▲417床)
--------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------

療養病棟入院基本料

205,572床 (▲4,501床)

介護療養 病床

13,647床

※R 3.6末病院報告

地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料

入院料1 1,313施設 43,362床 (+4,381)	入院料2 1,267施設 41,526床 (▲2,277)	入院料3 50施設 1,308床 (▲21)	入院料4 79施設 1,824床 (+32)
--	--	---------------------------------	---------------------------------

障害者施設等入院基本料

878施設
70,371床 (+102床)

特定一般病棟入院料

入院料1 3施設 96床 (▲42)	入院料2 2施設 79床 (±0)
--------------------------	-------------------------

特殊疾患

病棟入院料1 102施設 5,364床 (▲67床)	病棟入院料2 106施設 7,766床 (+227床)	入院管理料 33施設 466床 (+22床)
-------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------

緩和ケア病棟入院料

入院料1 238施設 4,819床	入院料2 218施設 4,211床
-------------------------	-------------------------

施設基準届出

令和3年7月1日現在
(かっこ内は前年比較)

有床診療所（療養）

512施設 5,193床 (+487床)

精神療養病棟入院料

812施設 89,711床 (▲555)

認知症治療病棟入院料

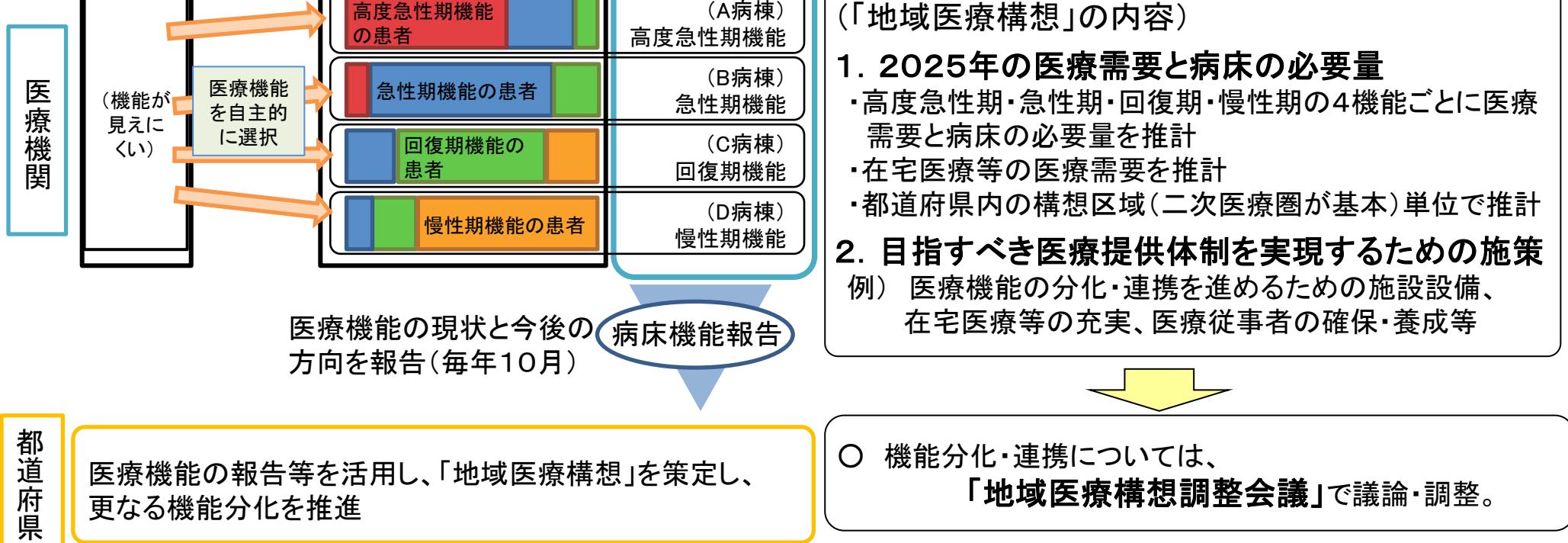
入院料1 550施設 38,154床 (+832)	入院料2 3施設 214床 (▲82)
---------------------------------	---------------------------

地域移行機能強化病棟入院料

32施設 1,336床 (▲99床)

地域医療構想について

- 今後の人ロ減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築するためには、医療機関の機能分化・連携を進めていく必要。
- こうした観点から、各地域における2025年の医療需要と病床の必要量について、医療機能(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)ごとに推計し、「**地域医療構想**」として策定。
その上で、各医療機関の足下の状況と今後の方向性を「**病床機能報告**」により「見える化」しつつ、各構想区域に設置された「**地域医療構想調整会議**」において、病床の機能分化・連携に向けた協議を実施。



病床機能報告制度

第1回	4回	地域	医療	構想	G	資料
に	に	す	る	W		
関	す					
る						
平成30年6月15日						

2-2

- 各医療機関（有床診療所を含む。）は、毎年、病棟単位で、医療機能の「現状」と「今後の方向」を、自ら1つ選択して、都道府県に報告。

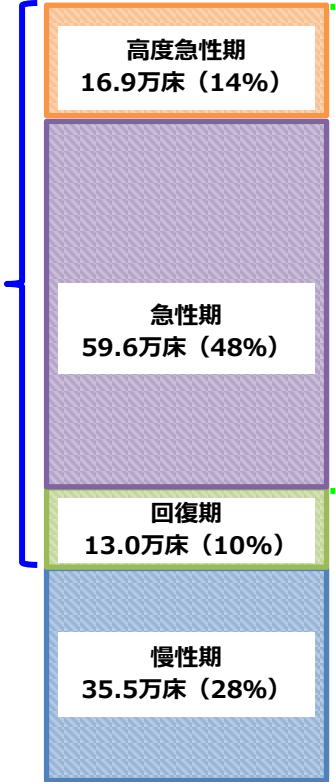
医療機能の名称	医療機能の内容
高度急性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能 ※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例 　救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟
急性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ○ 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。
慢性期機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○ 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

- 回復期機能については、「リハビリテーションを提供する機能」や「回復期リハビリテーション機能」のみではなく、リハビリテーションを提供していないても「急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療」を提供している場合には、回復期機能を選択できることにご留意ください。
- 地域包括ケア病棟については、当該病棟が主に回復期機能を提供している場合は、回復期機能を選択し、主に急性期機能を提供している場合は急性期機能を選択するなど、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択してください。
- 特定機能病院においても、病棟の機能の選択に当たっては、一律に高度急性期機能を選択するのではなく、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択してください。

2021年度病床機能報告について

2015年度病床機能報告
(各医療機関が病棟単位で報告)※6

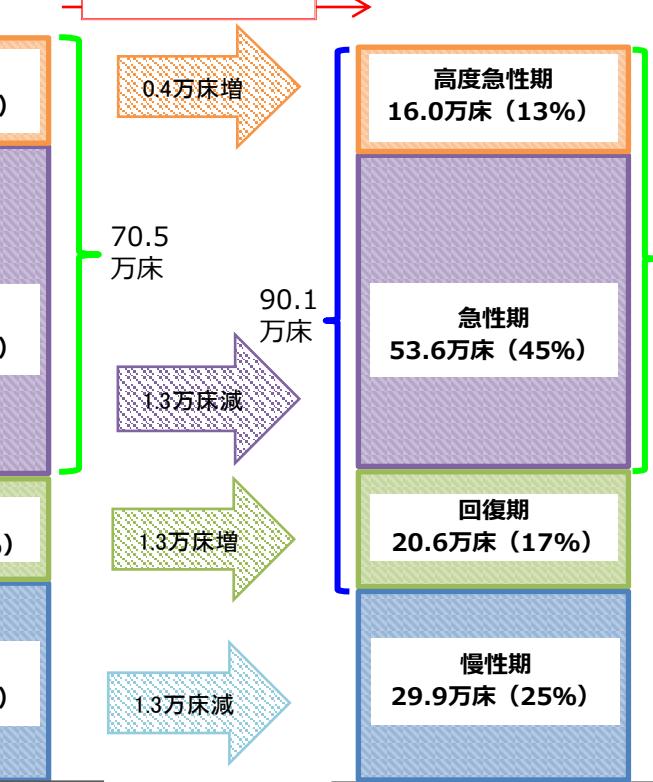
2015年
合計 125.1万床



2021年度病床機能報告
(各医療機関が病棟単位で報告)※6

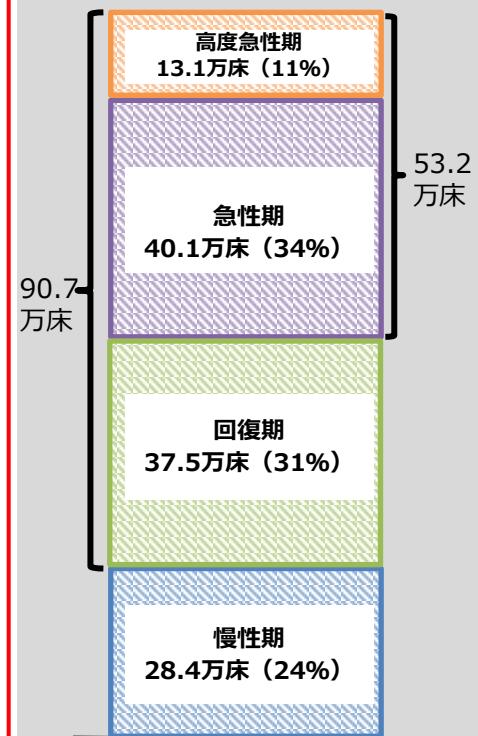
2021年
合計 121.0万床

約0.9万床減
2025年見込
合計 120.1万床^{※1}



地域医療構想における2025年の病床の必要量
(入院受療率や推計人口から算出した2025年の医療需要に基づく推計(平成28年度末時点))※4※6

合計 119.1万床



出典:2021年度病床機能報告

※1:2021年度病床機能報告において、「2025年7月1日時点における病床の機能の予定」として報告された病床数

※2:対象医療機関数及び報告率が異なることから、年度間比較を行う際は留意が必要

(報告医療機関数/対象医療機関数(報告率) 2015年度病床機能報告:13,863/14,538(95.4%)、2021年度病床機能報告:12,484/12,891(96.8%))

※3:端数処理をしているため、病床数の合計値が合わない場合や、機能ごとの病床数の割合を合計しても100%にならない場合がある

※4:平成25年度(2013年度)のNDBのレセプトデータ及びDPCデータ、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成25年(2013年)3月中位推計)』等を用いて推計

※5:高度急性期のうちICU及びHCUの病床数(*):19,645床(参考 2020年度病床機能報告:18,482床)

*救命救急入院料1~4、特定集中治療室管理料1~4、ハイケアユニット管理料1・2のいずれかの届出を行っている届出病床数

※6:病床機能報告の集計結果と将来の病床の必要量は、各構想区域の病床数を機械的に足し合わせたものであり、また、それぞれ計算方法が異なることから、単純に比較するのではなく、詳細な分析や検討を行った上で地域医療構想調整会議で協議を行うことが重要。

特定の機能を有する病棟における病床機能報告の取扱い

第5回地域医療構想
に
関
す
る
W
G
令和4年6月16日

資料2

特定入院料等を算定する病棟については、一般的には、次のとおりそれぞれの機能として報告するものとして取り扱う。
その他の一般入院料等を算定する病棟については、各病棟の実態に応じて選択する。

高度急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能

※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例
救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟



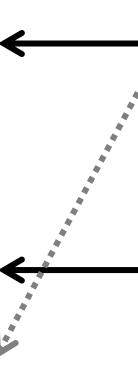
急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能

- 救命救急入院料
- 特定集中治療室管理料
- ハイケアユニット入院医療管理料
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 小児特定集中治療室管理料
- 新生児特定集中治療室管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院医療管理料

回復期機能

- 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。
- 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。



慢性期機能

- 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
- 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

- 地域包括ケア病棟入院料（※）
- 回復期リハビリテーション病棟入院料
- 特殊疾患入院医療管理料
- 特殊疾患病棟入院料
- 療養病棟入院基本料

概要

- 外来医療計画とは、医療法(昭和23年法律第205号)第30条の4第2項第10号の規定に基づく、[医療計画における「外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項」を定めたもの](#)である。
- 都道府県は、二次医療圏その他当該都道府県の知事が適當と認める区域(以下「対象区域」という。)ごとに、[協議の場を設け、関係者との連携を図りつつ協議を行い、その結果を取りまとめ公表](#)。
- 令和元年度中に各都道府県において外来医療計画を策定し、令和2年度から取組を進めている。令和6年度以降は3年毎に外来医療計画を見直すこととしている。

外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項 (法第30条の18の4)

① 外来医師偏在指標を踏まえた外来医療に係る医療提供体制の状況

[診療所の医師の多寡を外来医師偏在指標として可視化](#)。外来医師偏在指標や医療機関のマッピングに関する情報等、開業に当たって参考となるデータを公表し、[新規開業希望者等に情報提供](#)。

② 外来機能報告を踏まえた「医療資源を重点的に活用する外来を地域で基幹的に担う医療機関」(紹介受診重点医療機関)*

③ 外来医療に係る病院及び診療所の機能の分化及び連携の推進

病床機能報告対象医療機関等が都道府県に[外来医療の実施状況を報告\(外来機能報告\)](#)し、「[地域の協議の場](#)」において、[外来機能の明確化・連携に向けて必要な協議](#)。「医療資源を重点的に活用する外来」を地域で基幹的に担う医療機関([紹介受診重点医療機関](#))を明確化。

④ 複数の医師が連携して行う診療の推進

⑤ 医療提供施設の建物の全部又は一部、設備、器械及び器具の効率的な活用

地域ごとの[医療機器の配置状況を可視化](#)し、共同利用を推進。

⑥ その他外来医療に係る医療提供体制を確保するために必要な事項

* 令和4年4月施行

外来医療の協議の場 (外来医療に係る医療提供体制の確保に関するガイドライン)

(区域) 二次医療圏その他当該都道府県の知事が適當と認める区域

(構成員) 診療に関する学識経験者の団体その他の医療関係者、医療保険者その他の関係者

(その他) 地域医療構想調整会議を活用することが可能

在宅医療の体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

- 今後見込まれる在宅医療の需要の増加に向け、地域の実情に応じた在宅医療の体制整備を進める。「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を医療計画に位置付け、適切な在宅医療の圏域を設定する。
 - 在宅療養患者の急変時に適切に対応するための情報共有や連携を進める。また、看取りに際し本人・家族の希望に沿った医療・ケアの提供を進める。平時から在宅医療に係る関係機関の連携体制の構築を進め、災害時における業務継続計画(BCP)の策定を推進する。
 - 医師・歯科医師の定期的な診察と適切な評価に基づく指示による、在宅療養患者への医療・ケアの提供を進める。在宅医療における各職種の機能・役割について明確にする。

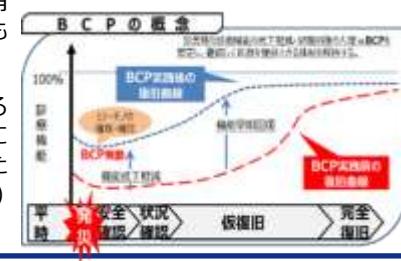
在宅医療の提供体制



- ◆ 国は、都道府県に対し、訪問診療及び訪問看護の必要量の推計等を提供する。都道府県は、国から提供を受けたデータを踏まえ、在宅介護の提供体制も勘案しながら在宅医療の体制整備を進める。
 - ◆ 「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」について、それぞれが担うべき機能や役割を整理する。
 - ◆ 「在宅医療に必要な連携を担う拠点」と「在宅医療・介護連携推進事業」との連携を進める。

急変時・看取り、災害時等における整備体制

- ◆ 在宅医療における急変時対応に関する機関として消防機関や後方支援を行う医療機関を明確化とともに、地域の在宅医療の協議の場への参加を促す。
 - ◆ 災害時においては、各関係機関での連携が重要になることから、「在宅医療に必要な連携を担う拠点」等において平時から連携を進めるとともに、国が策定した手引きや事業等も活用しながら、業務継続計画(BCP)の策定を推進する。



在宅医療における各職種の関わり

- ◆ 訪問看護について、退院に向けた医療機関との共同指導、ターミナルケア等の機能や役割に着目した整備や、事業所間の連携、業務効率化等について取組を進める。
 - ◆ 歯科診療所と後方支援機能を有する歯科医療機関との連携や医科歯科連携の体制構築を進めるとともに、歯科衛生士の機能・役割や訪問歯科診療への関わりについて明確化する。
 - ◆ 多様な病態の患者への対応やターミナルケアへの参画等の観点から、在宅医療に関わる薬剤師の資質向上を図り、麻薬や無菌製剤の調剤、小児在宅、24時間対応が可能な薬局の整備を進め、在宅医療に必要な医薬品等の提供体制を構築する。
 - ◆ 在宅療養患者が居宅において生活機能の回復・維持を図る観点からリハビリテーション提供体制の整備は重要であり、その機能・役割について明確化する。
 - ◆ 在宅療養患者の状態に応じた栄養管理を充実させるために、管理栄養士が配置されている在宅療養支援病院や栄養ケア・ステーション等の活用も含めた訪問栄養食事指導の体制整備が重要であり、その機能・役割について明確化する。

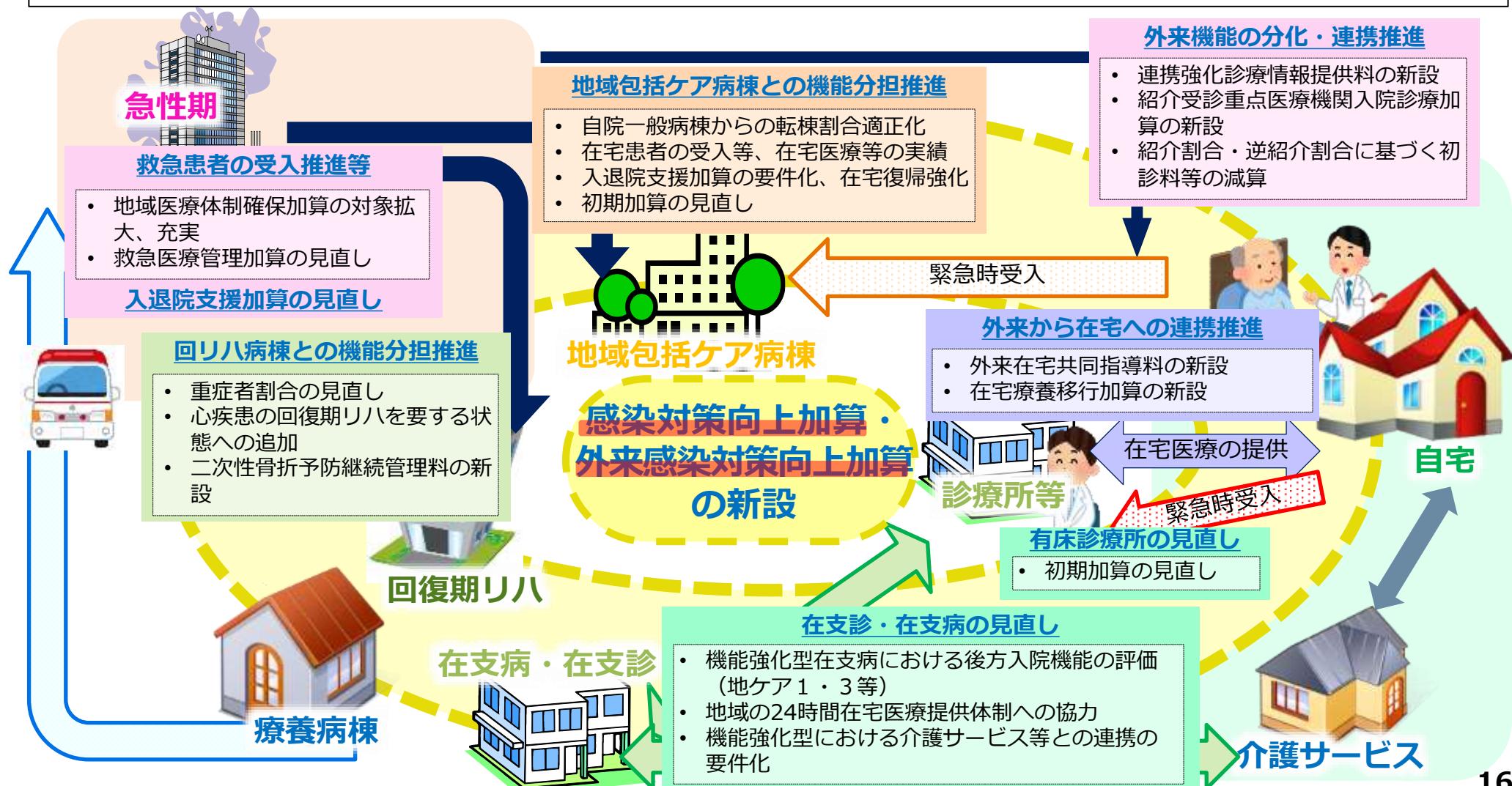
入院から在宅まで切れ目のない医療を提供するための取組①（機能編）

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大において果たした医療機関の役割等も踏まえ、**入院から在宅まで切れ目のない医療**を提供する観点から、提供する医療の対象となる**患者の病態像や医療の内容に着目**し、それらに**見合った適切な評価となるよう、見直し・加算の新設等**を実施。その際、**医療機関の機能に応じた感染対策が実施されるよう、感染対策向上加算1・2・3、外来感染対策向上加算を新設し、取組を推進。**



入院から在宅まで切れ目のない医療を提供するための取組②（連携編）

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大において果たした医療機関の役割等も踏まえ、入院から在宅まで切れ目のない医療を提供する観点から、**感染対策向上加算1・2・3**、**外来感染対策向上加算**において求めている**医療機関間連携**や**回リハ病棟の対象病態の拡大**、**外来在宅共同指導料新設**、**機能強化型在支病の施設基準への地ケア病棟組込み**等の**新たな連携強化の取組も活用**し、医療機関の連携・機能分化を更に推進する取組の評価を実施。

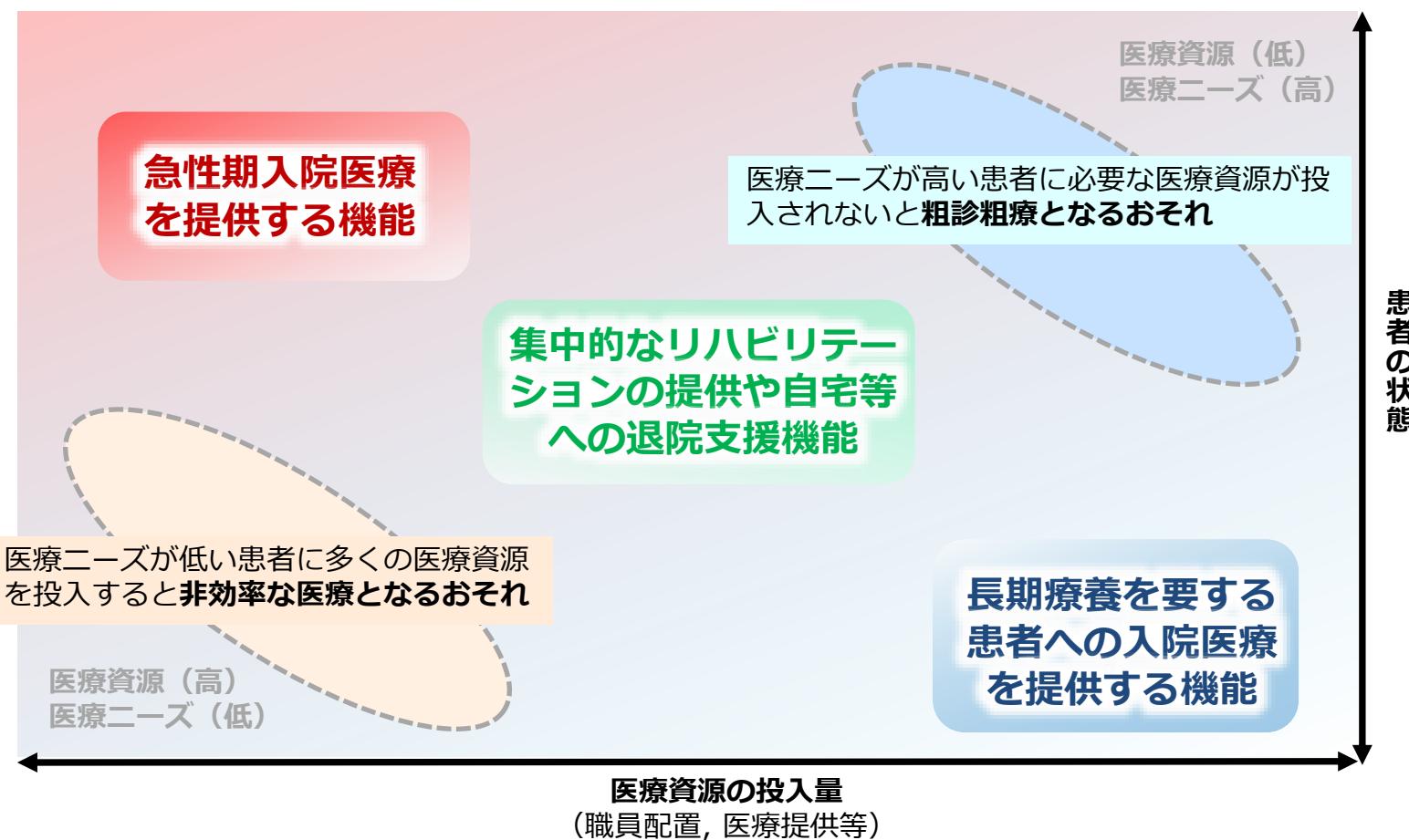


入院医療の評価体系と期待される機能

○ 入院医療の評価は、

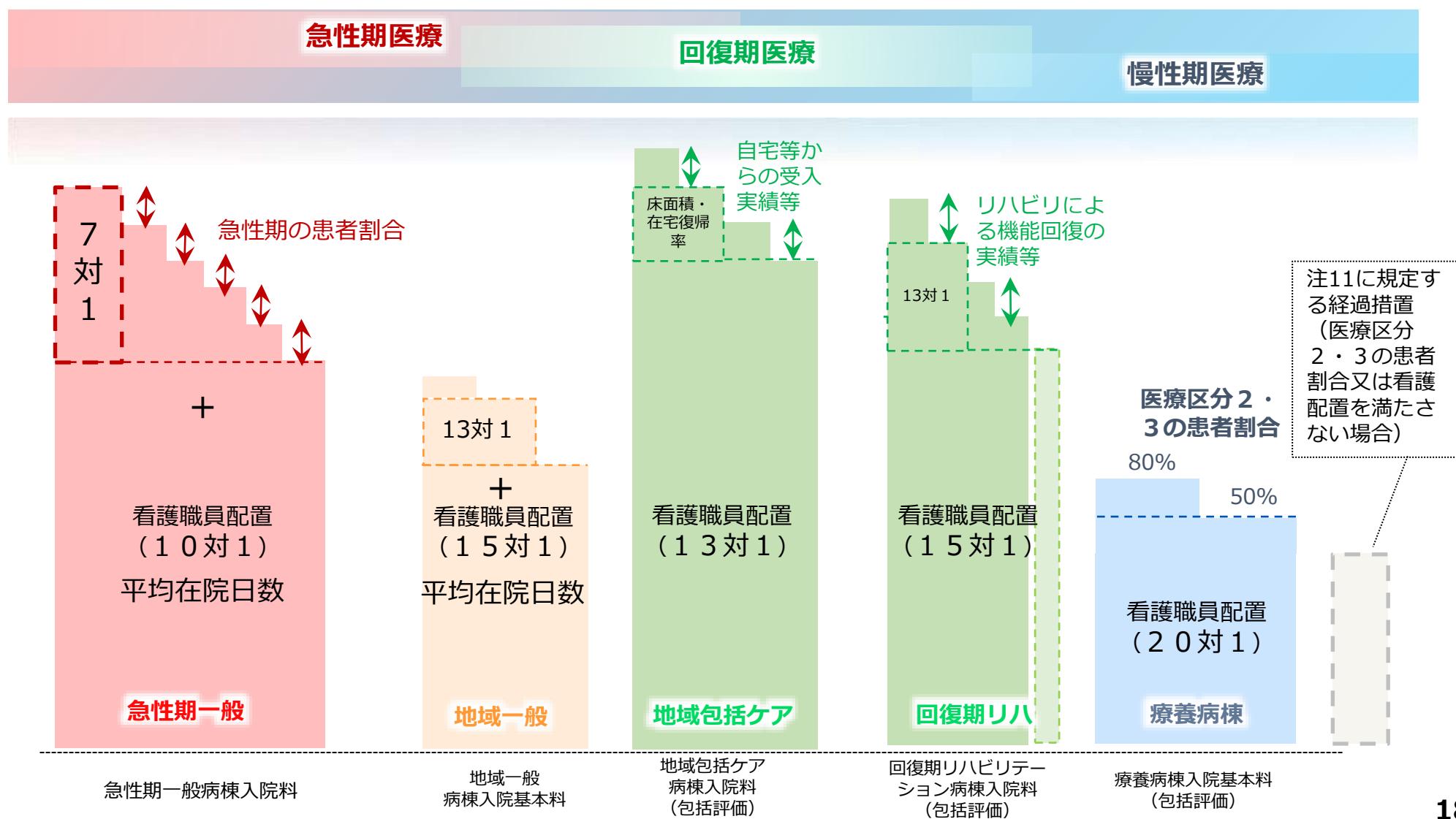
- ・ 個々の患者の状態に応じて、適切に医療資源が投入され、より効果的・効率的に質の高い入院医療が提供されることが望ましいこと
- ・ 患者の状態や医療内容に応じた医療資源の投入がなされないと、非効率な医療となるおそれや、粗診粗療となるおそれがあること

を踏まえ、基本的な医療の評価部分と診療実績に応じた段階的な評価部分との二つの評価を組み合わせた評価体系としている。



入院医療の評価体系と期待される機能（イメージ）

- 入院医療評価体系については、基本的な医療の評価部分と診療実績に応じた段階的な評価部分との二つの評価を組み合わせた評価体系としている。
- ※ 特定機能病院、専門病院、精神病棟、結核病棟、障害者施設等、その他の特定入院料等については、特定の機能や対象患者を想定した入院料のため、下記には含めていない。



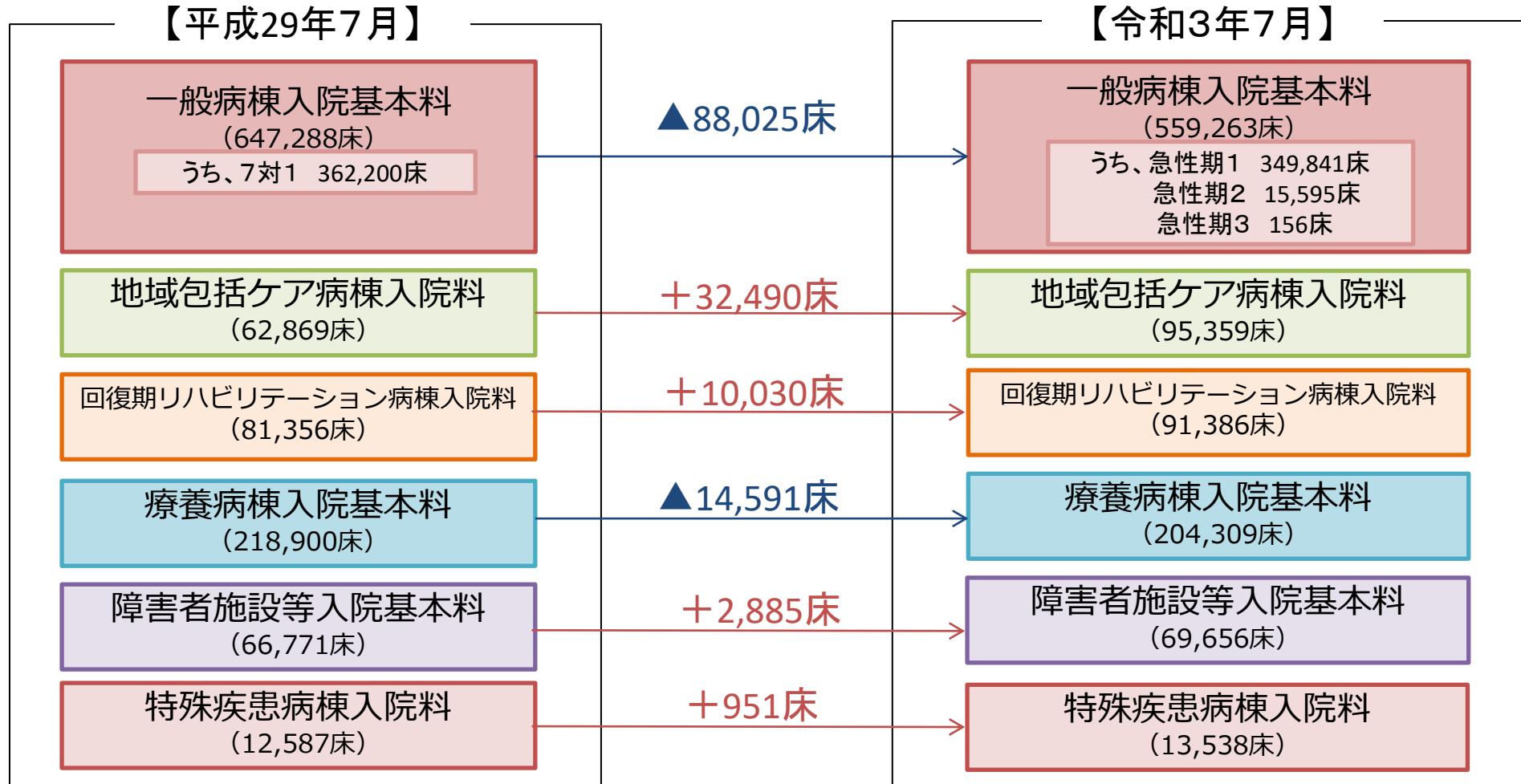
医療提供体制の評価に係る診療報酬改定

- これまで診療報酬では、累次の改定に地域の実情に応じて必要な医療を提供できるよう、各入院基本料等の設定を行うことにより病床機能の分化と連携を推進してきた。さらに平成26年に医療介護総合確保推進法が制定されてからは、地域医療構想の主旨を踏まえつつ、報酬改定毎に施設基準の見直し等を行ってきた。

	一般病棟	地域包括ケア病棟	回復期リハビリテーション病棟
～平成24年	<ul style="list-style-type: none"> ○7対1入院基本料の創設(H18) ○7対1入院基本料の算定要件として一般病棟用の重症度・看護必要度基準の導入(H20) ※該当患者が10%以上 ○施設基準の見直し(H24) <ul style="list-style-type: none"> ・必要度の該当割合基準の引き上げ(15%以上) ・平均在院日数要件の見直し(7対1病棟について19日から18日に短縮、13対1及び15対1病棟における長期療養の適正化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○亞急性入院医療管理料の創設(H16) ○亞急性入院医療管理料を回復期リハビリテーションの実施状況に応じた体系に見直し(H24) 	<ul style="list-style-type: none"> ○回復期リハビリテーション病棟入院料の創設(H12) ○算定要件の拡大(H18)、重症者受入、在宅復帰率の要件を追加(H20) ○入院料1の新設(H24) ※専従常勤で、PT3名以上、OT2名以上、ST1名以上等
○平成26年に医療介護総合確保推進法が成立			
平成26年	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・必要度基準の名称変更及び急性期患者をより評価する項目へ見直し ・平均在院日数要件の見直し(短期滞在3の患者を計算対象から除外、17対1及び10対1病棟における長期療養の適正化) ・在宅復帰率の導入(7対1病棟について75%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料の創設 	<ul style="list-style-type: none"> ○入院料1に体制強化加算を新設 ※専従医師1名以上、3年以上の経験を有する専従のSW1名以上
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・必要度の見直し(侵襲性の高い治療を評価するC項目の新設等項目の見直し及び該当割合基準について25%以上に引き上げ) ・在宅復帰率の見直し(7対1病棟について80%以上に引き上げ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・500床以上の病院等において、届出病棟数を1病棟までとする ・在宅復帰率の退院先に有床診療所を追加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ADLの改善(FIM得点)に基づくアウトカム評価の導入
平成30年	<ul style="list-style-type: none"> ○一般病棟入院基本料(7対1、10対1)を「急性期一般入院基本料」へ再編・統合 ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・必要度の判定基準及び一部項目の見直し、診療実績データ等を用いる「必要度Ⅱ」の新設、該当割合基準の見直し ・在宅復帰率の名称変更及び定義の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価体系の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な評価部分と在宅医療の提供等の診療実績に係る評価部分との組み合わせによる体系に見直し ・在宅医療や介護サービスの提供等を行う医療機関に対する評価の引き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価体系の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・入院料を6区分に見直し ・基本的な医療の評価部分と診療実績に応じた段階的な評価部分を導入
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・必要度の判定基準の見直し、入院の必要性に基づいた一部項目の見直し及び項目見直しに伴う該当割合基準の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・実績要件の見直し ・入退院支援部門の設置を必須とする ・400床以上の場合新規届出を不可とする 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・入院料1及び入院料3におけるリハビリテーション実績指標の見直し ・管理栄養士の配置要件の見直し
令和4年	<ul style="list-style-type: none"> ○急性期充実体制加算の新設 ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・急性期医療の必要性に応じた適切な評価を行う観点に基づく必要度の一部項目の見直し及び項目見直しに伴う該当割合基準の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・救急体制に係る要件の追加 ・重症患者割合の引き下げ ・自院一般病棟からの転棟患者の割合に関する要件の拡大 ・自宅等から入棟した患者割合及び自宅等からの緊急患者の受入数の引き上げ ・在宅復帰率の引き上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ○入院料の再編 <ul style="list-style-type: none"> ・入院料5の廃止 ・特定機能病院リハビリテーション病棟入院料の新設 ○施設基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・重症患者割合の引き上げ

届出病床数の推移について（概要）

- 平成29年7月時点の各入院料の届出病床数と令和3年7月時点の届出病床数を比較したところ、下記のとおりであった。



出典：保険局医療課調べ（各年7月1日現在）

※各年7月1日時点の医療保険届出病床数を保険局医療課において集計して比較。

第8次医療計画における事業

- (1) 救急医療
- (2) 災害時における医療
- (3) へき地の医療
- (4) 周産期医療
- (5) 小児医療

※新興感染症発生・まん延時における医療については今後議論

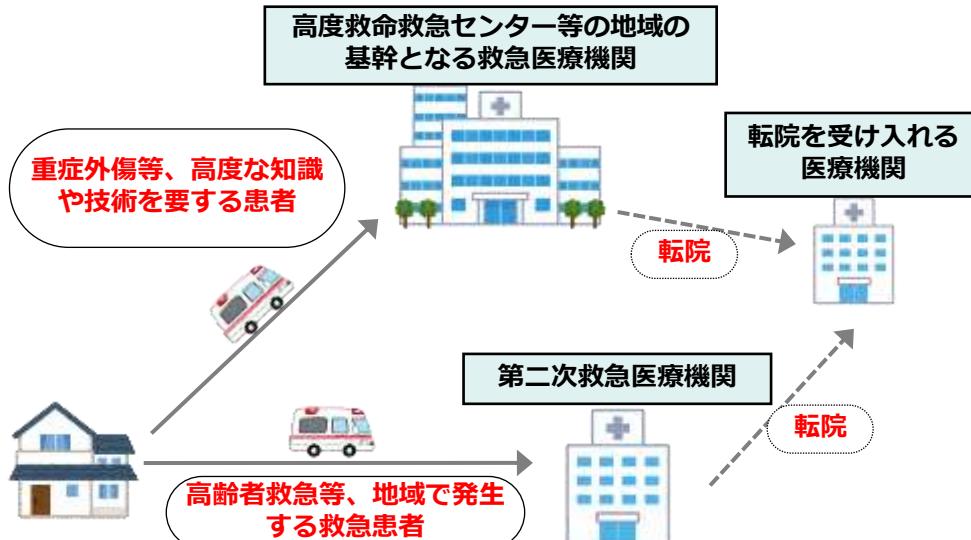
救急医療の体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

- ・ 増加する高齢者の救急搬送や、特に配慮を要する救急患者を受け入れるために、地域における救急医療機関の役割を明確化する。
 - ・ 居宅・介護施設の高齢者が、自らの意思に沿った救急医療を受けられるような環境整備を進める。
 - ・ ドクターヘリについては、より効率的な対応ができるような広域連携体制の構築を進める。ドクターカーについては、全国の様々な運行形態を調査し、地域にとって効果的な活用方法の検討を進める。
 - ・ 新興感染症の発生・まん延時において、感染症対応と通常の救急医療を両立できるような体制を構築する。

救急医療機関の役割等

- 第二次救急医療機関は高齢者救急をはじめ地域で発生する救急患者の初期診療と入院治療を主に担うなど、地域の救急医療機関の役割を明確化する。
 - 医療機関間で、転院搬送に必要な情報や受け入れ可能な時間帯、搬送方法等についてあらかじめ共有しておくことを通じて、高次の医療機関からの必要な転院搬送を促進する。転院搬送を行う場合には、医療機関が所有する搬送用車両等の活用を進める。



居宅・介護施設の高齢者の救急医療

- 医療関係者・介護関係者は、地域包括ケアシステムやACPに関する議論の場等において、患者の希望する医療について必要な時に確認できる方法について検討を進める。
 - 自治体や医療従事者等は、患者や家族が、人生の最終段階においてどのような医療を望むかについて日頃から話し合うことを促す。

～記入例～		救急 医療情報		
性別	丸人千尋 女性		誕生日	2000年1月1日
年齢	18歳(18歳)		年齢	18歳
姓 名	大庭 一也		年齢	18歳
登録日	2010年01月01日		登録日	2010年01月01日
住 所	福岡県福岡市中央区天神		郵便番号	810-0001
電話番号	092-123-4567		電話番号	092-123-4567
登録料	0円		登録料	0円

東京都八王子市の例

東京都八王子市の救急医療情報キットでは、『もしもの時に医師に伝えたいことがあれば、チェックしてください』との設問を設け、「できるだけ救命」「延命してほしい」「苦痛をやわらげる処置なら希望する」「その他」の回答欄を設けている

(在宅療養・救急医療連携にかかる調査セミナー事業報告書

<https://www.mhlw.go.jp/content/1080000/000549806.pdf>

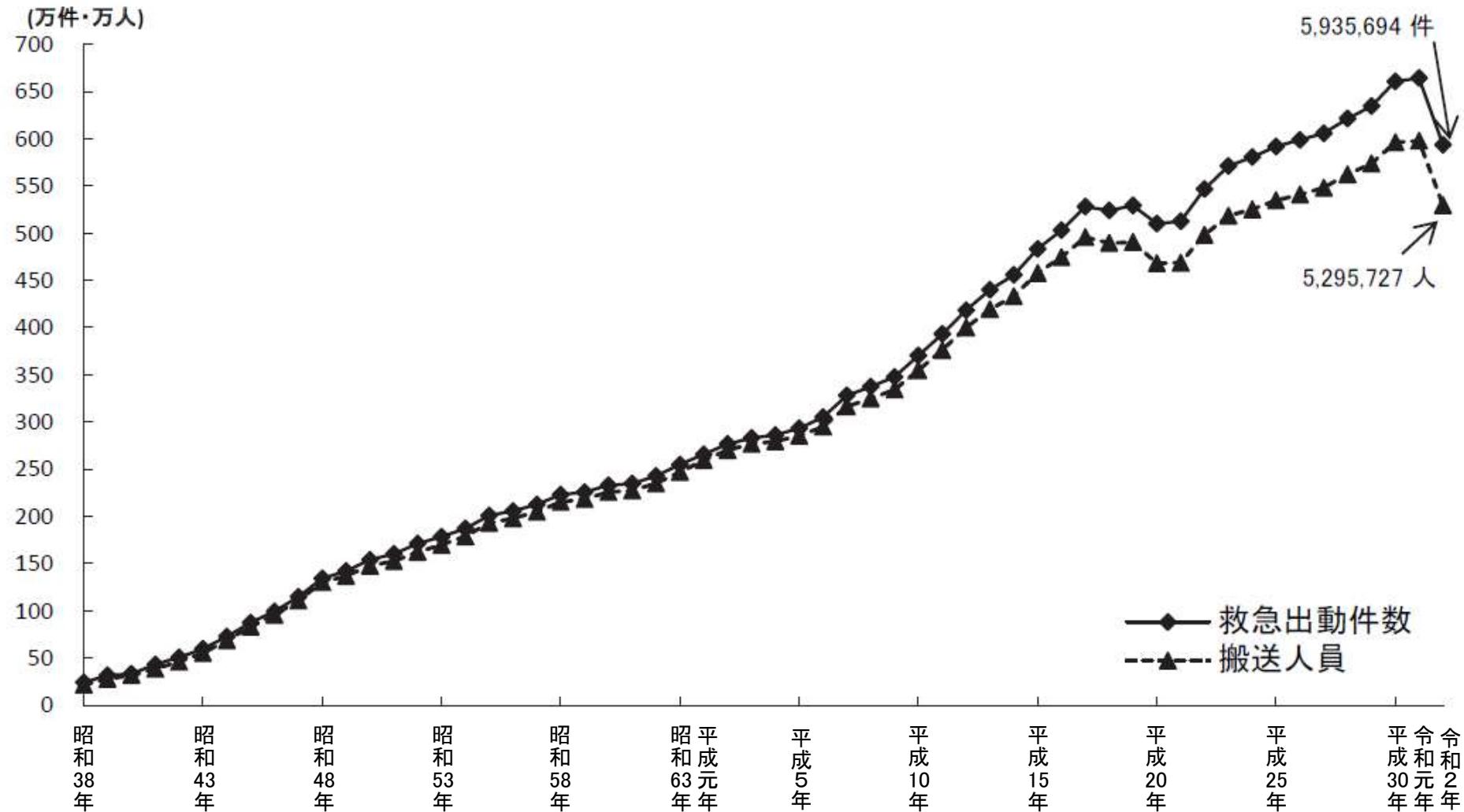
救急出動件数及び搬送人員の推移

第11回 第8次医療計画等に関する検討会

資料

1

- 救急出動件数及び搬送人員数は、令和2年は新型コロナの影響等により若干減少しているものの、年々増加傾向である。



(注) 1 平成10年以降の救急出場件数及び搬送人員についてはヘリコプター出動分を含む。

2 各年とも1月から12月までの数値である。

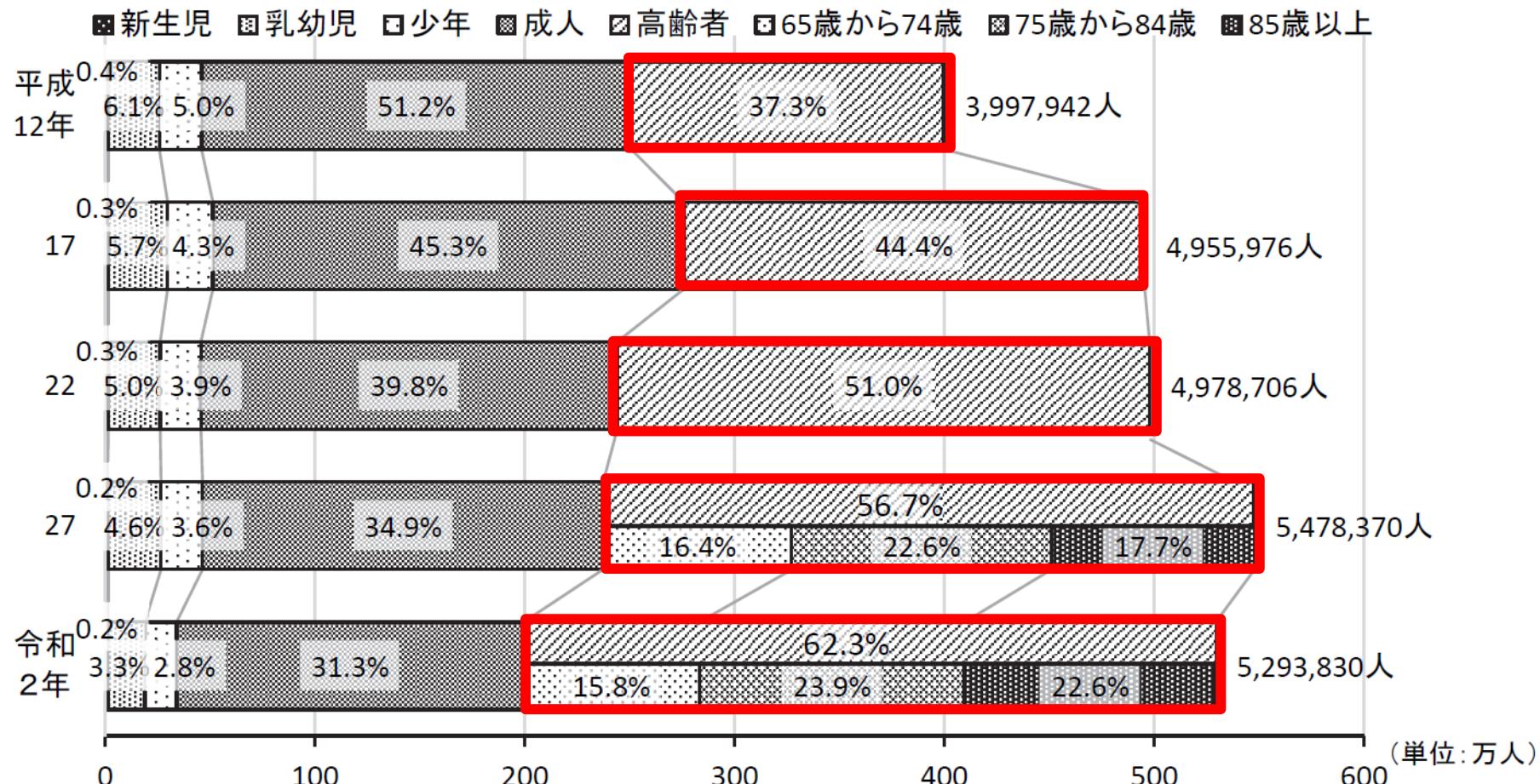
(出典)令和3年版 救急・救助の現況(総務省消防庁) 第16図より一部改変

年齢区分別搬送人員構成比率の推移

第11回 第8次医療計画等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 高齢者の搬送割合の中でも、特に75歳から84歳、85歳以上の割合が増加傾向にある。

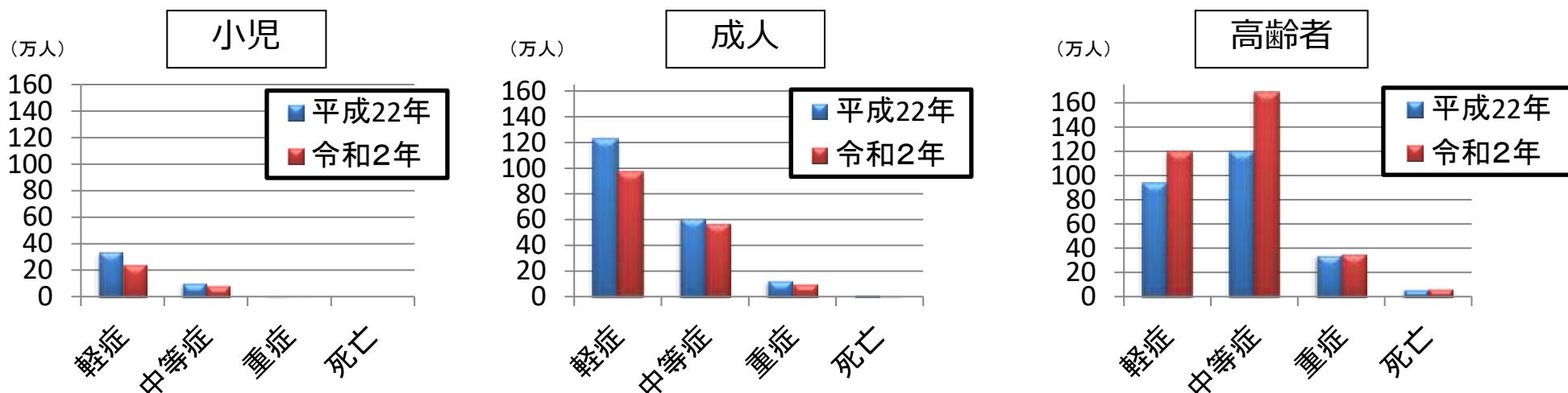


- 1 割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。
- 2 東日本大震災の影響により、平成22年は陸前高田市消防本部のデータを除いた数値で集計している。

10年前と現在の救急搬送人員の比較（年齢・重症度別）

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日
資料 1

- 高齢者的人口増加に伴い、高齢者の救急搬送人員が増加し、中でも軽症・中等症が増加している。



平成22年中

	小児	成人	高齢者
死亡	0.09万人	1.6万人	5.9万人
重症	1.1万人	12.7万人	34.0万人
中等症	10.2万人	61.2万人	119.8万人
軽症	34.1万人	122.8万人	93.9万人
総人口	2049.6万人	7807.7万人	2948.4万人

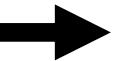
傷病程度とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、初診時における医師の診断に基づき、分類する。

死亡：初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院)：傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの

中等症(入院診療)：傷病程度が重症または軽症以外のもの

軽症(外来診療)：傷病程度が入院加療を必要としないもの

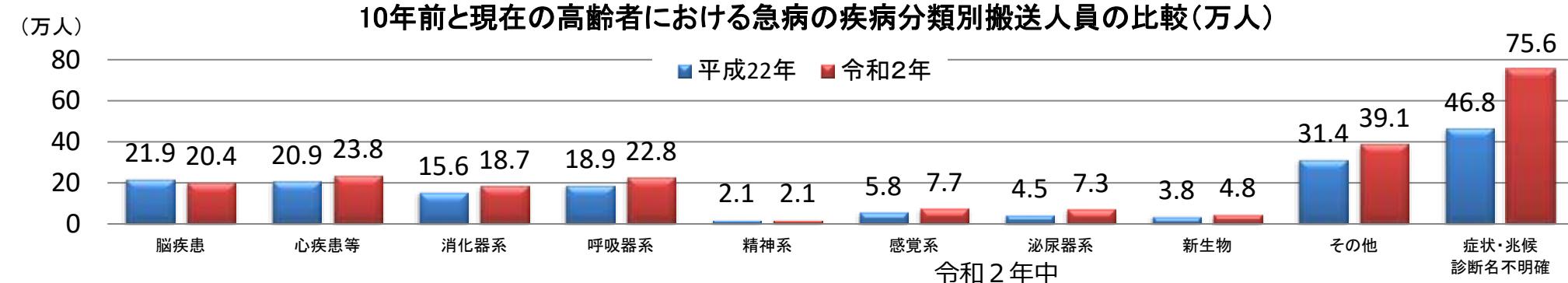


令和2年中

	小児 (18歳未満)	成人 (18歳～64歳)	高齢者 (65歳以上)
死亡	0.06万人 0.03万人減 ▲33%	1.2万人 0.4万人減 ▲25%	6.5万人 0.6万人増 10%
重症	0.7万人 0.4万人減 ▲36%	9.7万人 3.0万人減 ▲24%	35.3万人 1.3万人増 4%
中等症	8.8万人 1.4万人減 ▲14%	57.0万人 4.2万人減 ▲7%	168.5万人 48.7万人増 41%
軽傷	24.4万人 10.3万人減 ▲30%	97.4万人 25.4万人減 ▲21%	119.4万人 25.5万人増 27%
総人口	1835.9万人 213.7万人減 ▲10%	7176.0万人 631.7万人減 ▲8%	3602.7万人 654.3万人 22%

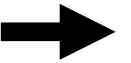
「救急・救助の現況」(総務省消防庁)のデータをもとに分析したもの

○ 急病のうち、高齢者の「脳卒中」「精神系」を除いた疾患と、成人の「症状・徵候・診断名不明確」が増加している。



平成22年中

	小児	成人	高齢者
脳疾患	0.6万人	8.2万人	21.9万人
心疾患等	0.1万人	7.0万人	20.9万人
消化器系	1.6万人	15.2万人	15.6万人
呼吸器系	2.5万人	6.3万人	18.9万人
精神系	0.5万人	9.9万人	2.1万人
感覚系	1.8万人	6.2万人	5.8万人
泌尿器系	0.1万人	5.7万人	4.5万人
新生物	0.01万人	1.4万人	3.8万人
その他	5.0万人	23.1万人	31.4万人
症状・徵候 診断名不明確	9.9万人	30.8万人	46.8万人
総人口	2049.6万人	7807.7万人	2948.4万人



	小児	成人	高齢者
脳疾患	0.3万人 (0.3万人減)	5.7万人 (2.5万人減)	20.4万人 (1.5万人減)
心疾患等	0.1万人	5.9万人 (1.1万人減)	23.8万人 (2.9万人増)
消化器系	1.0万人 (0.6万人減)	11.3万人 (3.9万人減)	18.7万人 (3.1万人増)
呼吸器系	1.5万人 (1.0万人減)	5.5万人 (0.8万人減)	22.8万人 (3.9万人増)
精神系	0.4万人 (0.1万人減)	7.2万人 (2.7万人減)	2.1万人
感覚系	1.3万人 (0.5万人減)	6.0万人 (0.2万人減)	7.7万人 (1.9万人増)
泌尿器系	0.1万人	5.8万人 (0.1万人減)	7.3万人 (2.8万人増)
新生物	0.01万人	1.2万人 (0.2万人減)	4.8万人 (1.0万人増)
その他	3.7万人 (1.3万人減)	19.5万人 (3.6万人減)	39.2万人 (7.8万人増)
症状・徵候 診断名不明確	8.7万人 (1.2万人減)	37.8万人 (7.0万人増)	75.6万人 (28.8万人増)
総人口	1835.9万人 (213.7万人減)	7176.0万人 (631.7万人減)	3602.7万人 (654.3万人増)

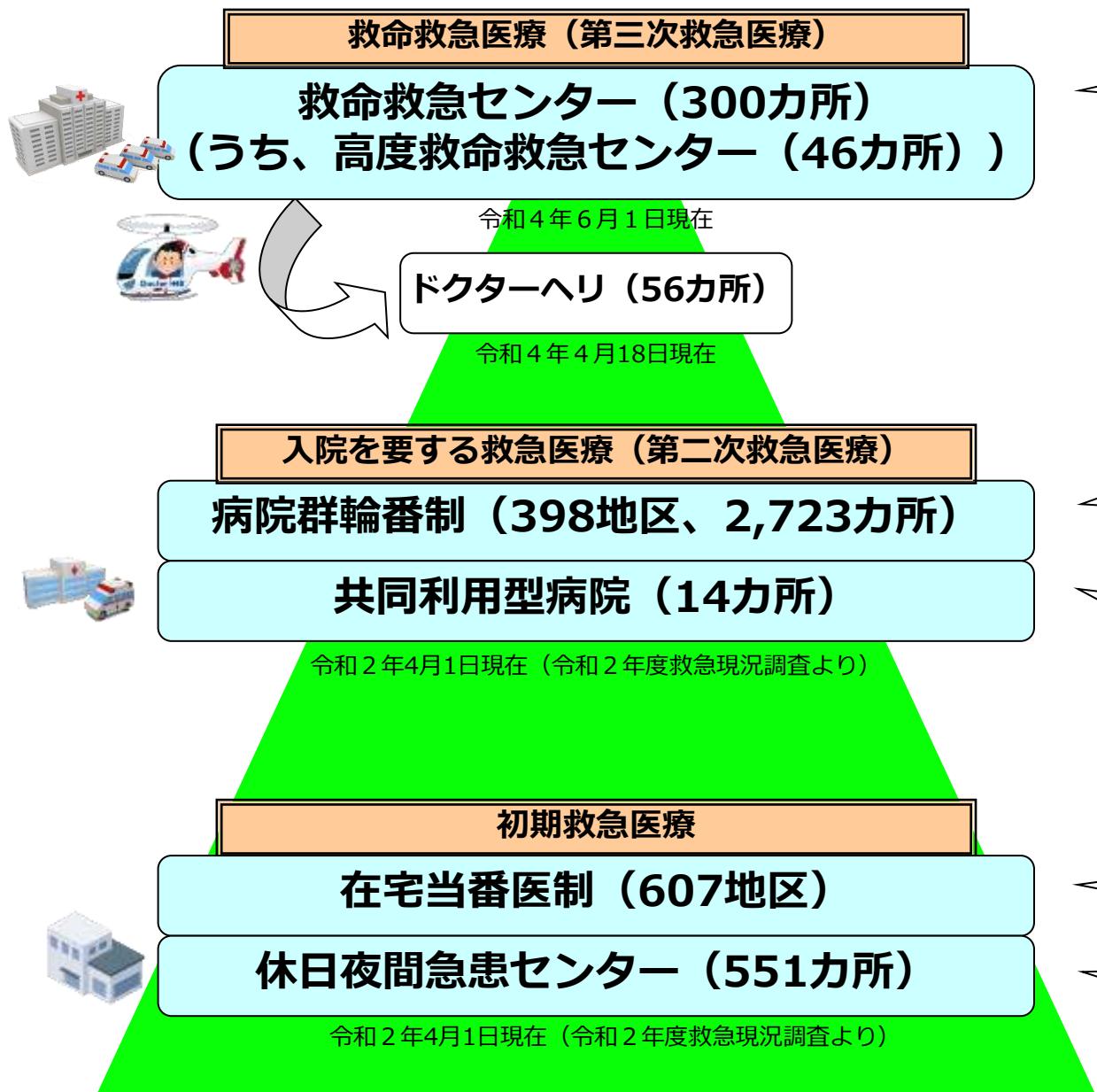
(出典)救急・救助の現況(総務省消防庁)のデータをもとに分析したもの

救急医療体制体系図

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

(疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について(令和2年4月13日付医政指発0331第3号)抜粋)
(救急医療対策事業実施要綱(平成31年4月18日付一部改正医政発0418第16号)抜粋)



○重症及び複数の診療科領域にわたる全ての重篤な救急患者を24時間体制で受け入れるもの。

高度救命救急センターは、救命救急センターに収容される患者のうち、特に広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者を受け入れるもの。

○二次医療圏単位で、圏域内の複数の病院が、当番制により、休日及び夜間において、入院治療を必要とする重症の救急患者を受け入れるもの。

○二次医療圏単位で、拠点となる病院が一部を開放し、地域の医師の協力を得て、休日及び夜間における入院治療を必要とする重症救急患者を受け入れるもの。

○郡市医師会ごとに、複数の医師が在宅当番医制により、休日及び夜間において、比較的軽症の救急患者を受け入れるもの。

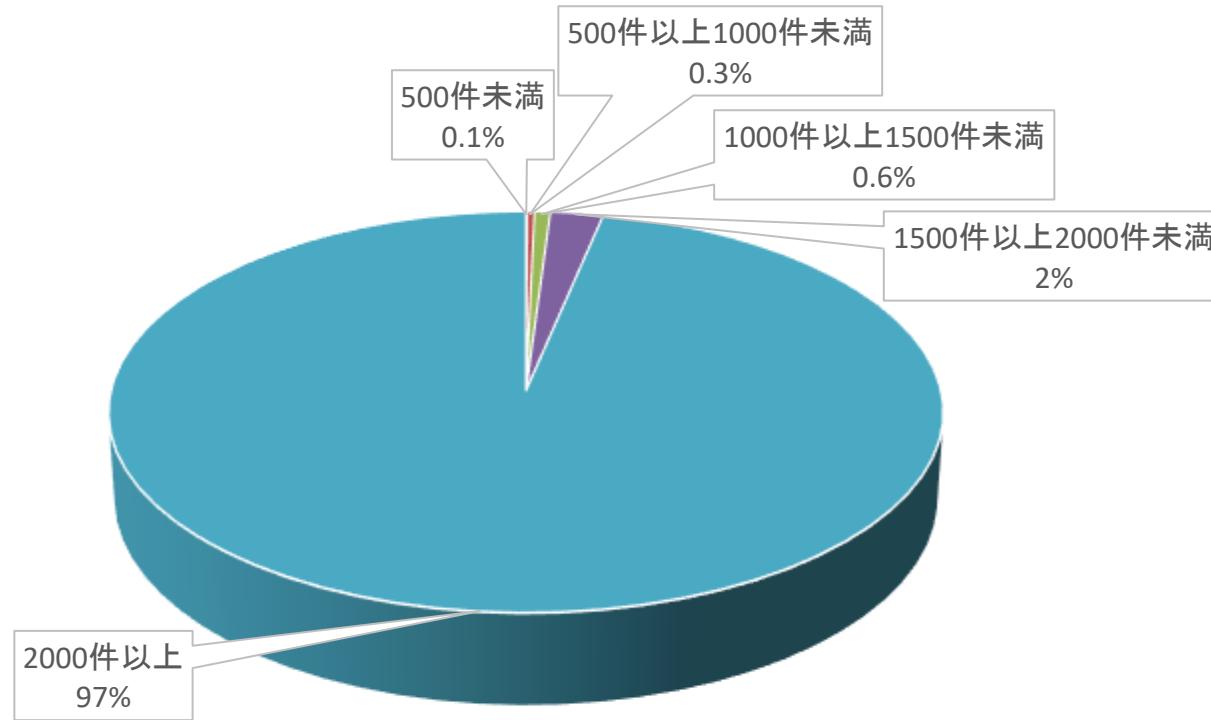
○地方自治体が整備する急患センターにて、休日及び夜間において、比較的軽症の救急患者を受け入れるもの。

救急搬送受入件数区分別の年間救急車受入件数（第三次救急医療機関）

第11回 第8次 医療計画
等に關する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 年間2,000件以上の救急車を受け入れている第三次救急医療機関が、第三次救急医療機関で受け入れている救急車全体の97%を受け入れている。



年間救急車受入件数区分	500件未満	500台以上1000台未満	1000台以上1500台未満	1500台以上2000台未満	2000台以上	合計
第三次救急医療機関数	11	6	8	18	264	307
年間救急車受入件数	806	4,352	9,697	32,381	1,381,807	1,429,043

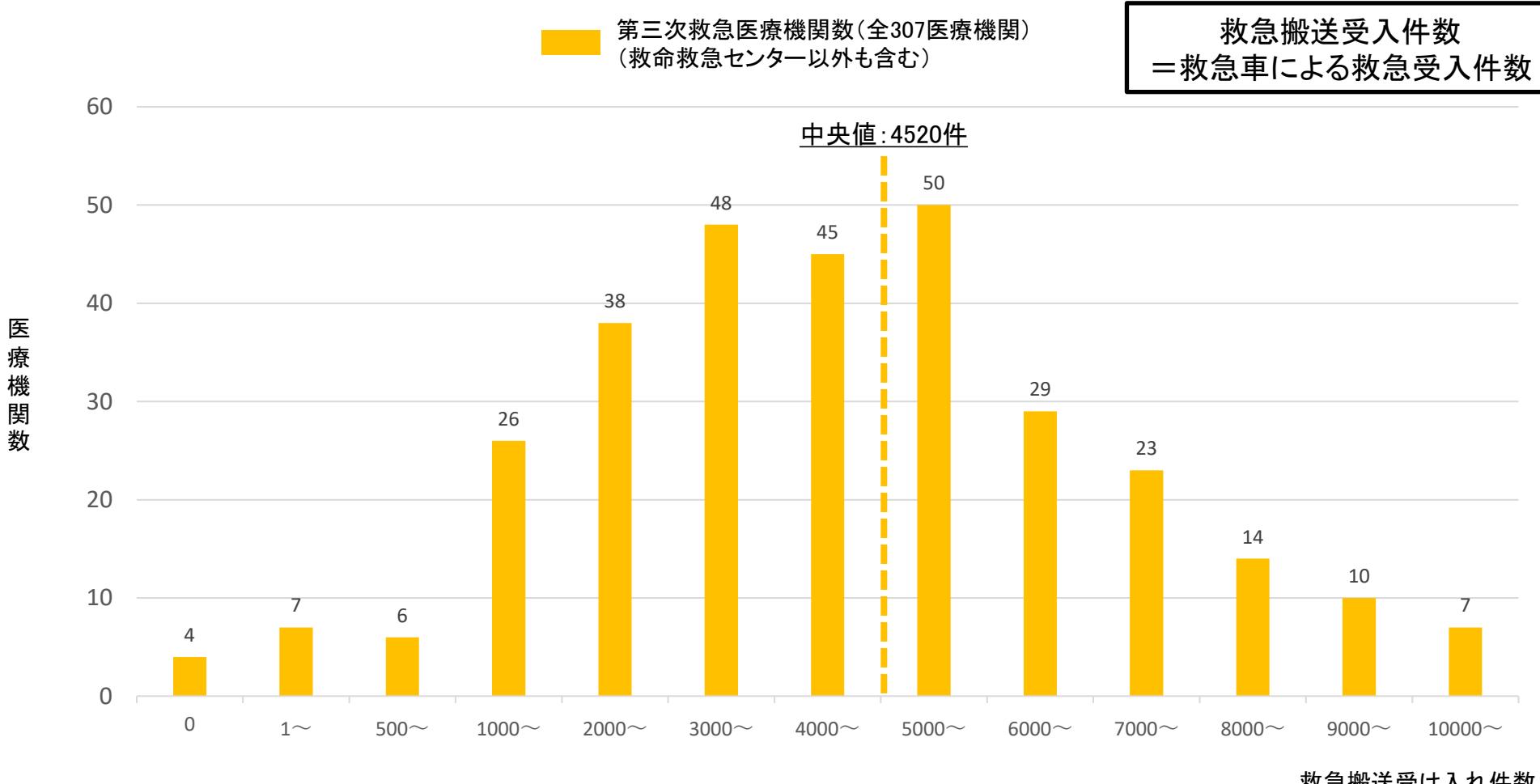
(出典)令和2年度病床機能報告

※データが欠損している医療機関は除く。誤入力の可能性もある外れ値をそのまま含む。

救急搬送受入件数の分布（第三次救急医療機関）

第11回第8次医療計画等
に関する検討会
(令和4年7月27日)資料1(一部改変)

- 第8次医療計画では、第三次救急医療機関は重篤患者に対する高度な専門的医療を総合的に実施することを基本としつつ、複数診療科の介入を要する症例や診断が難しい症例等、他の医療機関では治療の継続が困難な救急患者の診療を担うこととしている。
- 第三次救急医療機関における救急搬送受入件数の中央値は4,520件であった。
- 救急搬送受入件数が1,000件未満と報告した第三次医療機関数は17(全体の5.5%)であった。



(出典)令和2年度病床機能報告

※データが欠損している医療機関は除く。誤入力の可能性もある外れ値をそのまま含む。

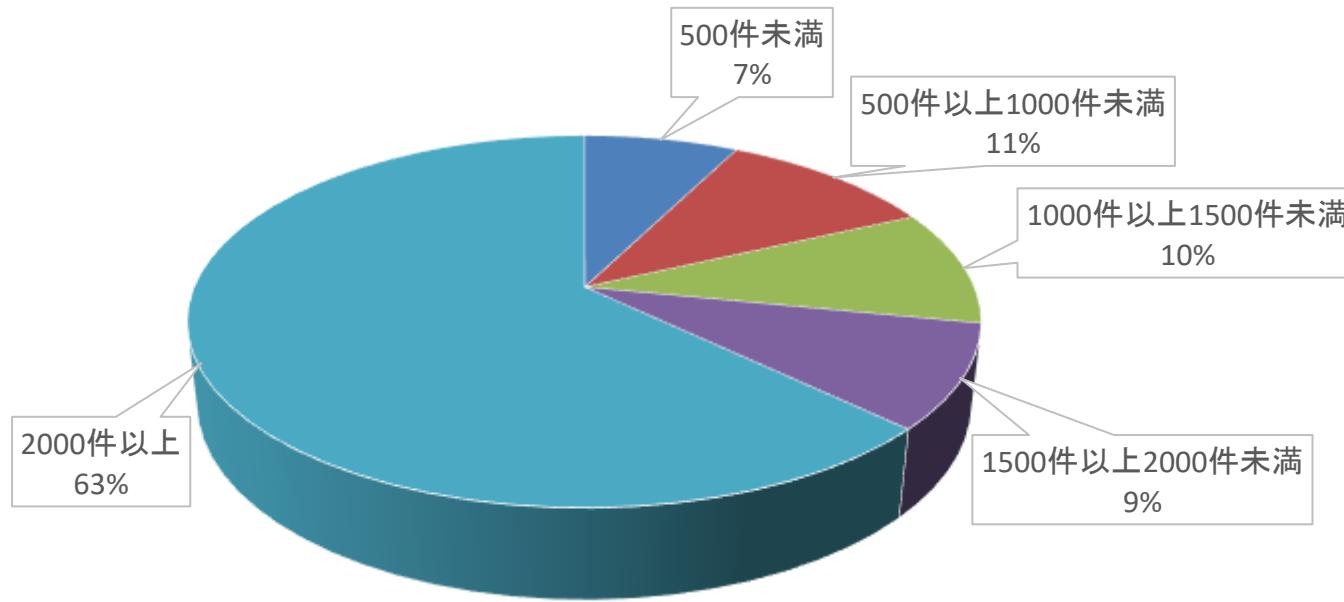
救急搬送受入件数区分別の年間救急車受入台数（第二次救急医療機関）

第11回 第8次 医療計画
等に關する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 年間2,000件以上の救急車を受け入れている第二次救急医療機関が、第二次救急医療機関で受け入れている救急車全体の63%を受け入れている。(年間1,000件未満の医療機関が全体の18%を受け入れている)

注) 第二次救急医療機関は、計画指針等において、医療計画の内容、当該病院又は診療所の所在する地域における救急業務の対象となる傷病者の発生状況等を勘案して、都道府県知事が必要と認定したもの等とされており、勘案の内容が地域により異なることに留意が必要。



年間救急車受入件数区分	500台未満	500台以上1000台未満	1000台以上1500台未満	1500台以上2000台未満	2000台以上	合計
二次救急医療機関数	1419	529	296	188	628	3060
年間救急車受入件数	271,199	382,855	362,377	326,253	2,273,414	3,616,098

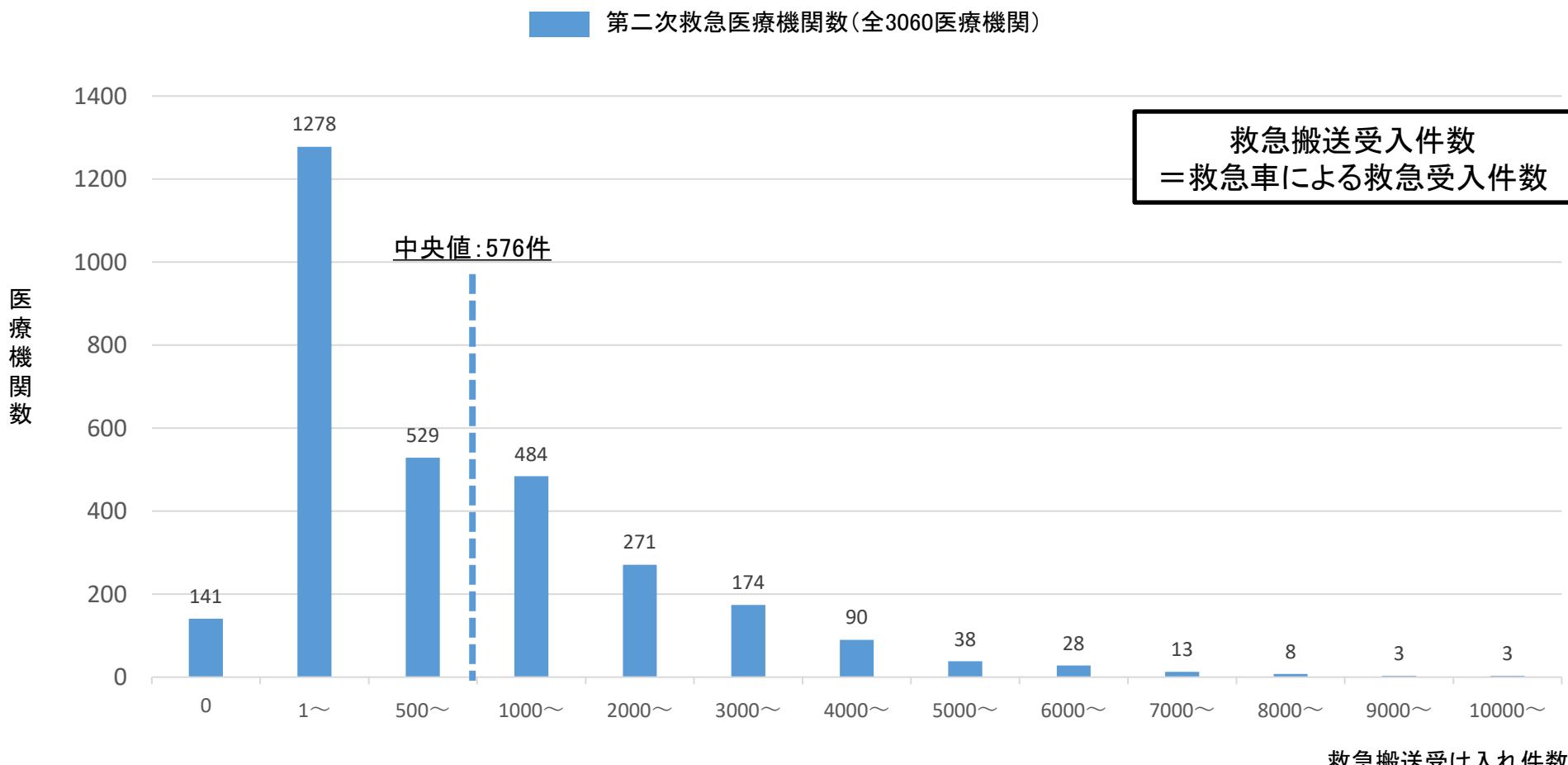
(出典)令和2年度病床機能報告

※データが欠損している医療機関は除く。誤入力の可能性もある外れ値をそのまま含む。

救急搬送受入件数の分布（第二次救急医療機関）

第11回第8次医療計画等
に関する検討会
(令和4年7月27日)資料1(一部改変)

- 第8次医療計画において、第二次救急医療機関は高齢者救急をはじめ地域で発生する救急患者の初期診療と入院診療を主に担うこととしている。
- 第二次救急医療機関における救急搬送受入件数の中央値は576件であった。
- 第二次救急医療機関全体の36%の救急搬送受け入れ件数が1,000件以上である一方で、46%は500件未満であった。



(出典)令和2年度病床機能報告

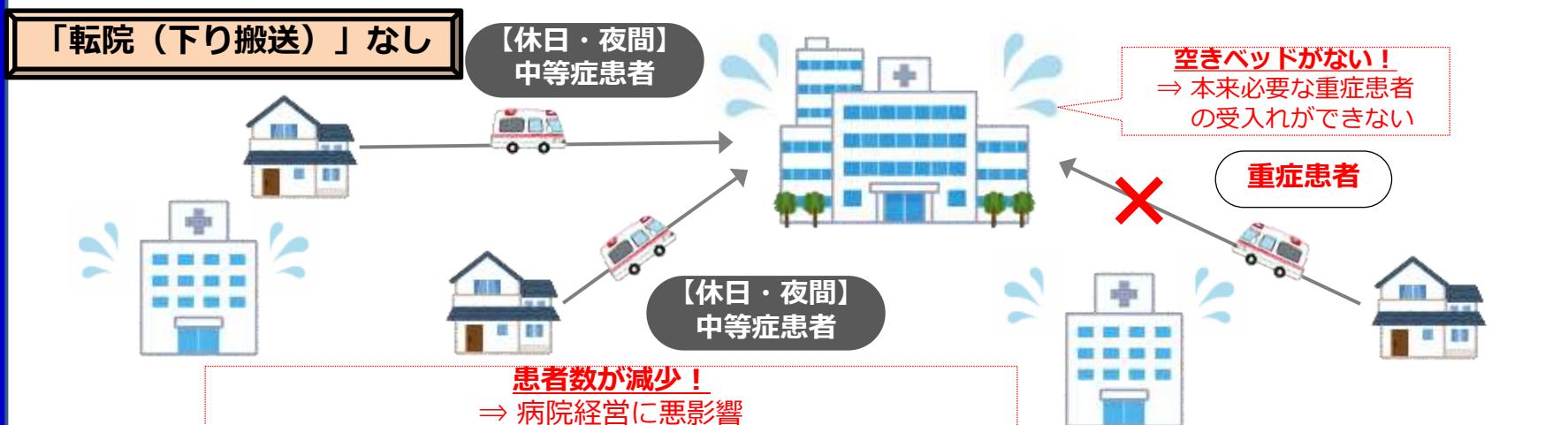
※データが欠損している医療機関は除く。誤入力の可能性もある外れ値をそのまま含む。

転院（下り搬送）による救急医療体制の役割分担（イメージ）

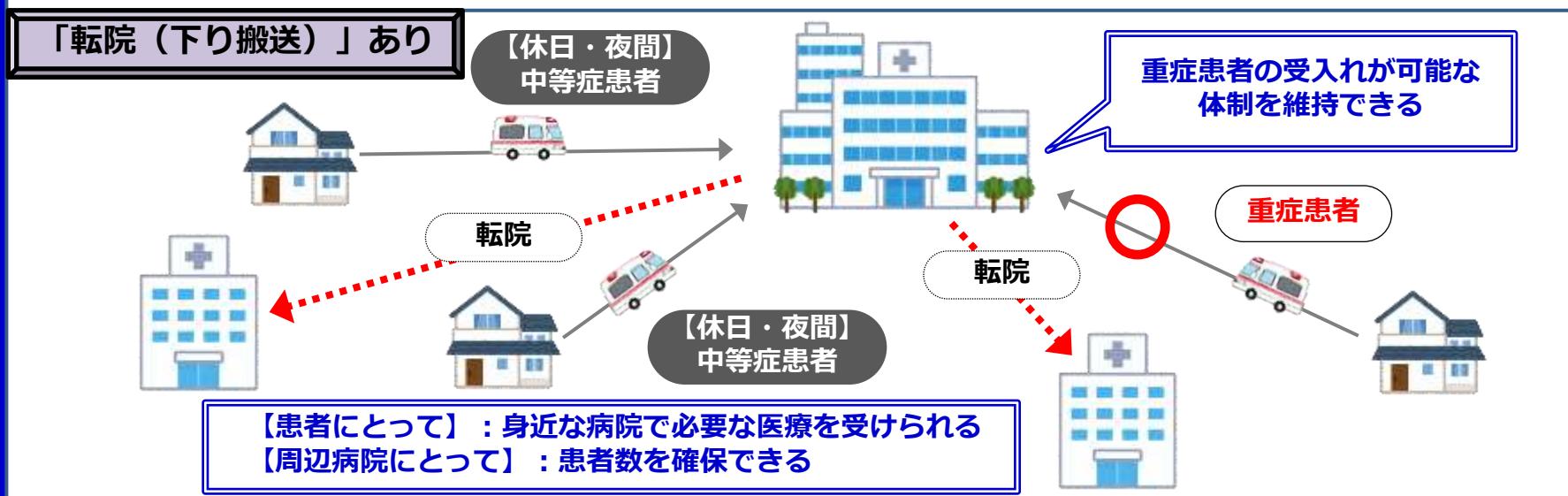
第2回地域医療構想及び医師確保計画に関するワーキンググループ（令和3年12月3日）新潟県提出資料（一部改変）

- 入院治療の機能分化及び受入体制の確保のため、高次の医療機関からの転院搬送の促進の必要性が指摘されている。

休日・夜間の救急医療体制の役割分担



転院（下り搬送）の促進



救急医療の現状と課題（イメージ）

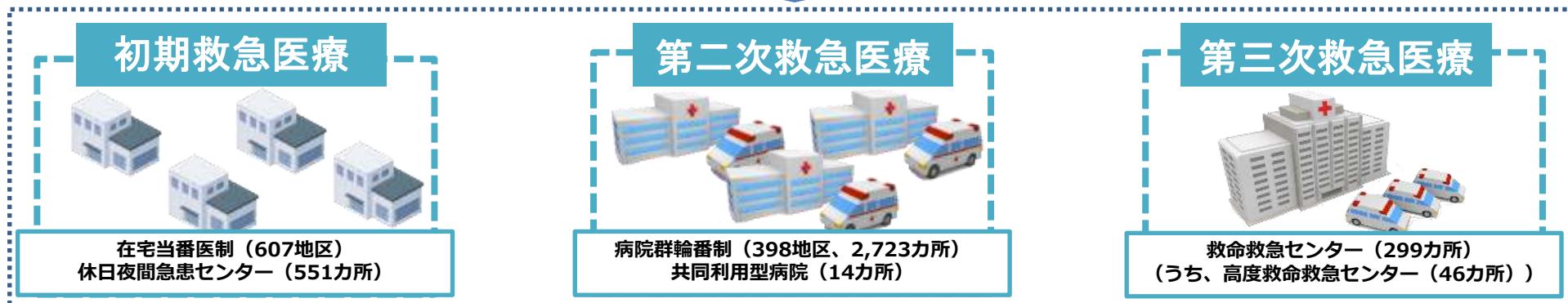
第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- ① 高齢者の増加により、高齢者の救急患者・救急搬送、特に軽症・中等症の患者が増加する。



- ② 一部受入が少ない医療機関があり、患者の増加に伴い、三次も軽症患者を診療せざるをえず、重症患者の診療に支障を来す可能性がある。

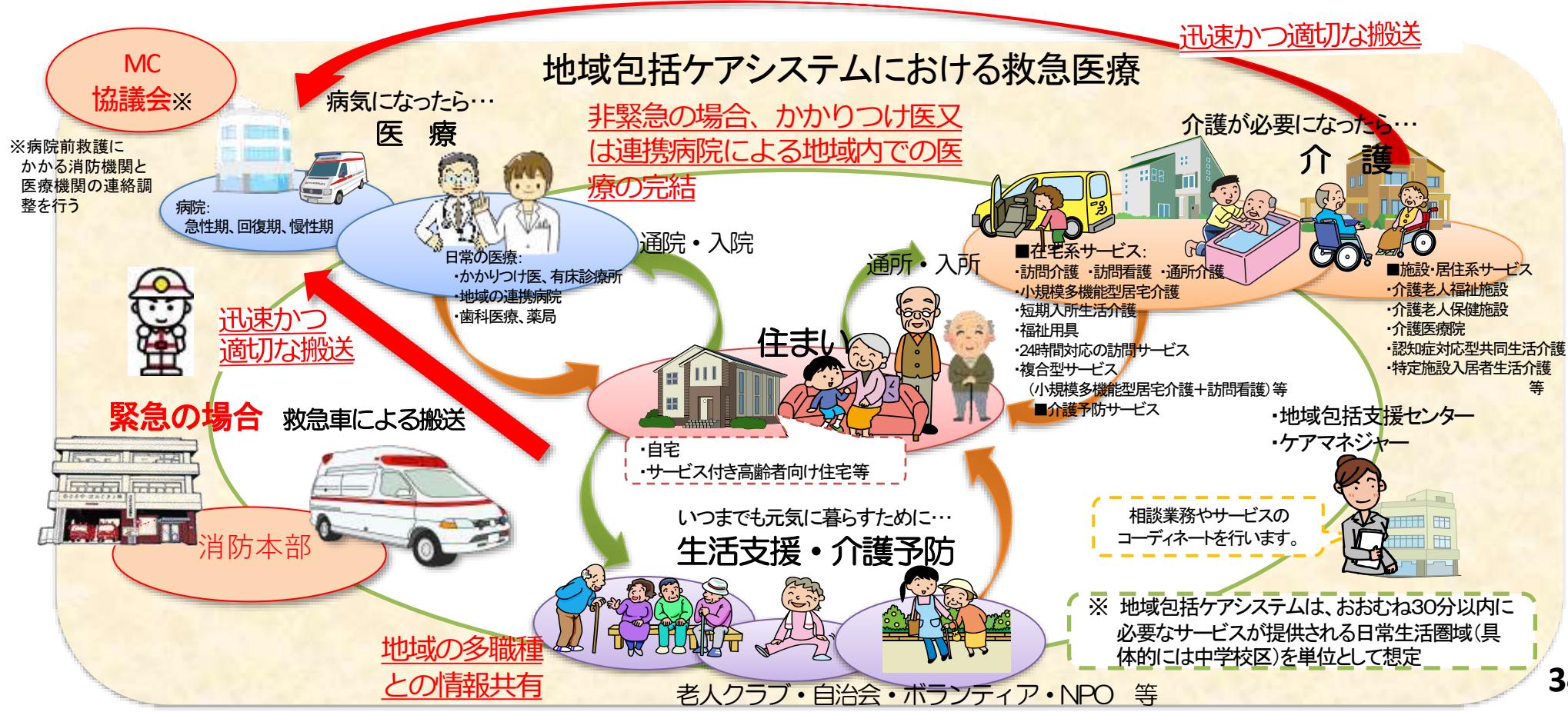


- ③ 単身の高齢者や要介護者の増加により、退院先が決まらずに下り搬送や退院が滞ることで「出口問題」が発生する。

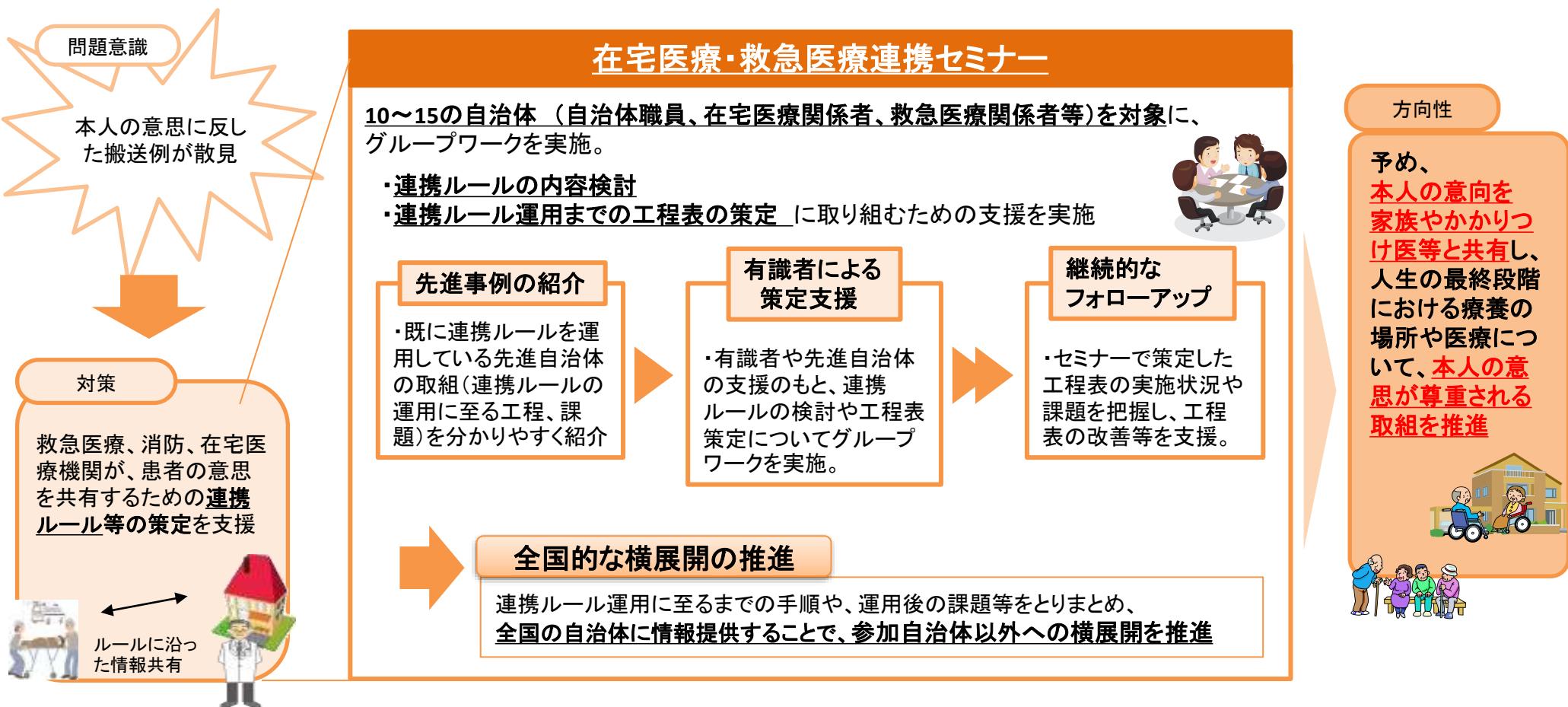
地域包括ケアシステムにおける救急医療の役割（在宅・介護施設の高齢者の支援）

平成28年9月第4回医療計画の見直し等に関する検討会資料を一部改変

- 慢性期の方は、日常的に地域包括支援センター・ケアマネジャー等、地域の保健医療福祉の関係者の支援を受けていることが多い。
- こうした関係者と消防機関が連携して情報共有に取り組むことで、救急車をどのような場合に利用すべきかに関する理解を深めてもらうとともに、医師の診療が必要な場合でもできる限り地域のかかりつけ医で完結することが望ましい。
- 介護施設等に入所している高齢者についても、できる限り提携病院を含めた地域の中で完結することが望ましい。



- 高齢者の救急搬送件数の増加等により、本人の意思に反した救急搬送の増加の可能性が指摘されている。
- これについて、一部自治体では、在宅医療関係者と救急医療関係者の協議の場を設け、救急搬送時の情報共有ルールの設定や、住民向け普及啓発に取り組んでいる。
- こうした先進事例をもとに、自治体を対象としたセミナーの実施を通じた連携ルール策定のための重点的な支援及び本取組の全国的な横展開の推進により、人生の最終段階において本人の意思が尊重される環境を整備することとしている。



東京都（東京消防庁）

【心肺蘇生を望まない傷病者への対応】

「心肺蘇生を望まない傷病者への対応について」（以下、運用の要件）

下記の運用要件を満たした場合、救急隊から在宅医/かかりつけ医等に連絡し、心肺蘇生を中断する。「在宅医/かかりつけ医等」又は「家族等」に傷病者を引き継ぐ。

（出典：東京消防庁「心肺蘇生を望まない傷病者への対応について」

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/kyuu-adv/acp.html>

#	運用要件
1	ACPが行われている成人で心肺停止状態である
2	傷病者が人生の最終段階にある
3	傷病者本人が「心肺蘇生の実施を望まない」
4	傷病者本人の意思決定に際し想定された症状と現在の症状とが合致する



【事例の紹介】静岡県静岡市

【グリーンカードシステム】在宅療養者の意思表示

「グリーンカードシステムの構築(在宅看取りのための診療所連携システム)」

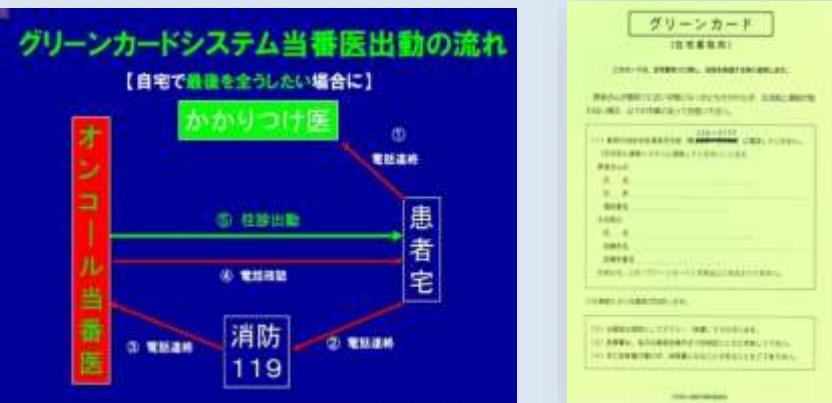
（出典：静岡市静岡医師会ホームページ<https://shizuoka-city-med.or.jp/e2net/house/>）

あらかじめ在宅主治医が記載した「在宅患者サマリーカルテ」に患者情報を記載し、グリーンカードと一緒に在宅療養者のベッドサイドに設置する

在宅療養者の看取りの状態となるも主治医と連絡がつかない場合、在宅療養者の家族はグリーンカードに記載してある手順に則り静岡市消防署に連絡を入れる

静岡市消防署は、あらかじめ静岡医師会から連絡されていた在宅往診当番医表とともに、往診依頼の連絡を入れる

連絡を受けた在宅往診当番医は当該の在宅療養者へ往診し、看取りの診察をする



（出典）令和3年度版・連携ルール策定等に関する市区町村等支援の手引き（一部改変）

救急搬送又は救急外来に係る体制等を施設基準とする主な診療報酬項目

項目名		施設基準（抜粋）等
A200	総合入院体制加算	<ul style="list-style-type: none"> ○24 時間の救急医療提供として、救命救急センター又は高度救命救急センターを設置していること。（加算 1） ○救急用の自動車及び救急隊の救急自動車並びに緊急自動車（傷病者の緊急搬送に用いるものに限る。）又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が、年間で 2000 件以上であること。（加算 2） ○24 時間の救急医療提供として、以下のいずれかを満たしていること。（加算 2 及び 3） <ul style="list-style-type: none"> ア 入院をする（第二次）救急医療体制、救命救急センター、高度救命救急センター又は総合周産期母子医療センターを設置している保険医療機関 イ アと同様に 24 時間の救急患者を受け入れている保険医療機関
A200-2	急性期充実体制加算	<ul style="list-style-type: none"> ○以下のいずれかを満たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> (イ) 救命救急センター又は高度救命救急センターを設置していること。 (ロ) 救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が、年間で 2,000 件以上、又は許可病床数 300 床未満の保険医療機関にあっては、許可病床 1 床あたり 6.0 件／年以上であること。
A205	救急医療管理加算	<ul style="list-style-type: none"> ○休日又は夜間における救急医療の確保のために診療を行っていると認められる次に掲げる保険医療機関であって、都道府県が作成する医療計画に記載されている救急医療機関であること若しくは都道府県知事又は指定都市市長の指定する精神科救急医療施設であること。 <ul style="list-style-type: none"> ア 地域医療支援病院 イ 救急病院等を定める省令に基づき認定された救急病院又は救急診療所 ウ 「救急医療対策の整備事業について」に規定された病院群輪番制病院、病院群輪番制に参加している有床診療所又は共同利用型病院
A252	地域医療体制確保加算	<ul style="list-style-type: none"> ○以下のいずれかを満たしていること。 <ul style="list-style-type: none"> ア 救急医療に係る実績として、救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が、年間で 2,000 件以上であること。 イ 救急医療に係る実績として、救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる搬送件数が、年間で 1,000 件以上であり、かつ、ハイリスク分娩等管理加算（ハイリスク分娩管理加算に限る。）若しくは総合周産期特定集中治療室管理料又は小児特定集中治療室管理料若しくは新生児特定集中治療室管理料に係る届出を行っている保険医療機関であること。
A300	救命救急入院料	<ul style="list-style-type: none"> ○救命救急センターを有していること。 <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センターの評価基準に基づく評価が一定以上であること。（救急体制充実加算） ・高度救命救急センターであること。（高度医療体制加算）
A308-3	地域包括ケア病棟入院料	<ul style="list-style-type: none"> ○一般病床において届け出る場合には、第二次救急医療機関又は救急病院等を定める省令に基づき認定された救急病院であること。（ただし、許可病床数が 200 床未満の場合は、当該保健医療機関内に救急外来を設置していること又は 24 時間の救急患者を受け入れていることを以て要件を満たす。） ○療養病床において届け出る場合には、第二次救急医療機関又は救急病院等を定める省令に基づき認定された救急病院であること若しくは在宅医療の提供体制に関する要件を満たしていること。
B001-2-6	夜間休日救急搬送医学管理料	<ul style="list-style-type: none"> ○休日又は夜間における救急医療の確保のために診療を行っていると認められる次に掲げる保険医療機関であって、都道府県が作成する医療計画に記載されている第二次救急医療機関であること又は都道府県知事の指定する精神科救急医療施設であること。 <ul style="list-style-type: none"> ア 地域医療支援病院 イ 救急病院等を定める省令（昭和 39 年厚生省令第 8 号）に基づき認定された救急病院又は救急診療所 ウ 「救急医療対策の整備事業について」に規定された病院群輪番制病院、病院群輪番制に参加している有床診療所又は共同利用型病院 ○第二次救急医療施設として必要な診療機能及び専用病床を確保するとともに、診療体制として通常の当直体制のほかに重症救急患者の受け入れに対応できる医師等を始めとする医療従事者を確保していること。
DPC/PDPS	機能評価係数Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療指數（救急医療入院の対象となる患者治療に要する資源投入量の乖離を評価） ・体制評価指數（救命救急センター等の体制や救急車で来院し入院となった患者数の実績を評価）

救急医療管理加算の概要

A205 救急医療管理加算（1日につき／入院した日から7日間に限る）

- 1 救急医療管理加算1 1,050点
2 救急医療管理加算2 420点

【算定要件】(抜粋)

- 救急医療管理加算1の対象となる患者は、ア～サいずれかの状態にあって、医師が診察等の結果、緊急に入院が必要であると認めた重症患者をいう。なお、当該加算は、入院時において当該重症患者の状態であれば算定できるものであり、当該加算の算定期間中において継続して重症患者の状態でなくても算定できる。
- 救急医療管理加算2の対象となる患者は、アからサまでに準ずる重篤な状態又はシの状態にあって、医師が診察等の結果、緊急に入院が必要であると認めた重症患者をいう。なお、当該加算は、入院時においてアからケまでに準ずる重篤な状態であれば算定できるものであり、当該加算の算定期間中において継続してアからケまでに準ずる重篤な状態でなくても算定できる。
- 救急医療管理加算の算定に当たって、以下について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
 - ◆ アからサのうち該当する状態(加算2の場合は、アからサのうち準ずる状態又はシの状態のうち該当するもの)
 - ◆ イ、ウ、オ、カ又はキを選択する場合は、それぞれの入院時の状態に係る指標
 - ◆ 当該重症な状態に対して、入院後3日以内に実施した検査、画像診断、処置又は手術のうち主要なもの
 - ◆ イの状態に該当する場合はJCS 0の状態、ウの状態に該当する場合はNYHA1又はP/F比400以上の状態及びキの状態(気道熱傷及び顔面熱傷を除く。)に該当する場合はBurn Index0の状態について、緊急入院が必要であると判断した医学的根拠

ア 吐血、喀血又は重篤な脱水で全身状態不良の状態	力 重篤な代謝障害(肝不全、腎不全、重症糖尿病等)	サ 蘇生術を必要とする重篤な状態
イ 意識障害又は昏睡	キ 広範囲熱傷	シ その他の重症な状態
ウ 呼吸不全又は心不全で重篤な状態	ク 外傷、破傷風等で重篤な状態	
エ 急性薬物中毒	ケ 緊急手術、緊急カテーテル治療・検査又はt-PA療法を必要とする状態	
オ ショック	コ 消化器疾患で緊急処置を必要とする重篤な状態	

【施設基準】(抜粋)

- (1) 休日又は夜間における救急医療の確保のために診療を行っていると認められる次に掲げる保険医療機関であって、医療法第30条の4の規定に基づき都道府県が作成する医療計画に記載されている救急医療機関であること若しくは都道府県知事又は指定都市市長の指定する精神科救急医療施設であること。
- ア 地域医療支援病院(医療法第4条第1項に規定する地域医療支援病院)
 - イ 救急病院等を定める省令に基づき認定された救急病院又は救急診療所
 - ウ 「救急医療対策の整備事業について」に規定された病院群輪番制病院、病院群輪番制に参加している有床診療所又は共同利用型病院
- (2) 第二次救急医療施設として必要な診療機能及び専用病床を確保するとともに、診療体制として通常の当直体制のほかに重症救急患者の受け入れに対応できる医師等を始めとする医療従事者を確保していること。
- (3) 夜間又は休日において入院治療を必要とする重症患者に対して救急医療を提供する日を地域の行政部門、医師会等の医療関係者及び救急搬送機関等にあらかじめ周知していること。
- (4) 施設基準に係る届出を行うこと。

救急医療管理加算の見直し

- 患者の重症度に応じた質の高い救急医療を適切に評価する観点から、以下の見直しを行う。

算定対象となる状態の見直し

- 救急医療管理加算の対象患者の状態について、状態の明確化と状態の追加をするとともに、評価の見直しを行う。

現行

【救急医療管理加算】（1日につき）（7日まで）

- | | |
|--------------|------|
| 1 救急医療管理加算 1 | 950点 |
| 2 救急医療管理加算 2 | 350点 |



改定後

【救急医療管理加算】（1日につき）（7日まで）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 救急医療管理加算 1 | 1,050点 |
| 2 救急医療管理加算 2 | 420点 |

[対象患者]

- 救急医療管理加算 1 の対象となる患者は、ア～サのいずれかの状態であって、緊急に入院が必要と認められた重症患者。
- 救急医療管理加算 2 の対象となる患者は、ア～サまでに準ずる状態又はシの状態であって、緊急に入院が必要と認められた重症患者。

- ア 吐血、喀血又は重篤な脱水で全身状態不良の状態
 イ 意識障害又は昏睡
 ウ 呼吸不全又は心不全で重篤な状態
 エ 急性薬物中毒
 オ ショック
 カ 重篤な代謝障害（肝不全、腎不全、重症糖尿病等）

- キ 広範囲熱傷、顔面熱傷又は気道熱傷
 ク 外傷、破傷風等で重篤な状態
 ケ 緊急手術、緊急カテーテル治療・検査又はt-PA療法を必要とする状態
コ 消化器疾患で緊急処置を必要とする重篤な状態
サ 蘇生術を必要とする重篤な状態
シ その他の重症な状態（加算 2のみ）

算定要件の見直し

- 救急医療管理加算の算定において、対象患者の一部の状態について、緊急入院が必要であると判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載することを要件とする。
- DPCデータの入力において、救急医療管理加算の対象患者の一部の状態の状態指標について、状態指標を記載する時点の明確化を行う。

改定後

[摘要欄記載事項]

- アからサのうち該当する状態
- イ、ウ、オ、カ又はキを選択する場合は、それぞれの入院時の状態に係る指標
- イの状態に該当する場合はJCS 0の状態、ウの状態に該当する場合はNYHA1又はP/F比400以上の状態及びキの状態（気道熱傷及び顔面熱傷を除く。）に該当する場合はBurn Index 0の状態について、緊急入院が必要であると判断した医学的根拠（救急医療管理加算 2においても、イ、ウ及びキに準ずる状態については同様の取り扱いとする。）**
- 当該重症な状態に対して、入院後3日以内に実施した検査、画像診断、処置又は手術のうち主要なもの

[DPC様式 1] ※予定・救急医療入院の患者に限る

患者の状態/状態指標	状態指標の記載時点
意識障害患者/JCS	<ul style="list-style-type: none"> 救急受診時 治療室又は病棟入室時
心疾患患者/NYHA	<ul style="list-style-type: none"> 救急受診時 治療室又は病棟入室時
呼吸不全の患者/P/F	<ul style="list-style-type: none"> 救急受診時 治療室又は病棟入室時
熱傷患者/Burn Index	治療室若しくは病棟入室時又は傷病が発生した時点

救急搬送診療料の見直し

算定要件の見直し

- 入院患者を転院搬送する際に、救急搬送診療料が算定可能な場合を明確化する。

救急搬送診療料 1,300点

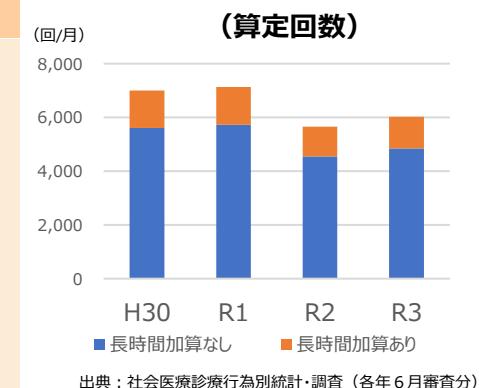
現行

- 当該保険医療機関の入院患者を他の保険医療機関に搬送した場合、救急搬送診療料は算定できない。



改定後

- 救急搬送診療料は、救急用の自動車等に同乗して診療を行った医師の所属する保険医療機関において算定する。
- 入院患者を他の保険医療機関に搬送した場合、救急搬送診療料は算定できない。ただし、以下のいずれかに該当する場合においては、入院患者についても救急搬送診療料を算定することができる。
 - ア 搬送元保険医療機関以外の保険医療機関の医師が、救急用の自動車等に同乗して診療を行った場合
 - イ 救急搬送中に人工心肺補助装置、補助循環装置又は人工呼吸器を装着し医師による集中治療を要する状態の患者について、関係学会の指針等に基づき、患者の搬送を行う場合



重症患者搬送に係る診療への評価の新設

- ECMO等を装着した重症患者に対する搬送中の専門性の高い診療の必要性を踏まえ、関係学会の指針等に基づき、重症患者搬送チームが搬送を行った場合について新たな評価を行う。

救急搬送診療料 1,300点

(新) 重症患者搬送加算

1,800点

[対象患者]

救急搬送中に人工心肺補助装置、補助循環装置又は人工呼吸器を装着し医師による集中治療を要する状態の患者。

[算定要件]

関係学会の指針等に基づき、重症患者搬送チームが搬送を行った場合に加算する。

[施設基準の概要]

- 当該保険医療機関内に、以下から構成される重症患者搬送チームが設置されていること。
 - ア 集中治療の経験を5年以上有する医師 イ 看護師 ウ 臨床工学技士
- (1) のアの医師は、重症の小児患者を搬送する場合、小児の特定集中治療の経験を5年以上有することが望ましい。
- (1) のイの看護師は、集中治療を必要とする患者の看護に従事した経験を5年以上有し、適切な研修を修了した看護師であることが望ましい。
- (1) のウの臨床工学技士は、救命救急入院料等を届け出た病棟を有する保険医療機関で5年以上の経験を有することが望ましい。
- 関係学会により認定された施設であること。
- 日本集中治療医学学会が定める指針等に基づき、重症患者搬送が適切に実施されていること。
- 重症患者搬送チームにより、重症患者搬送に関する研修を定期的に実施すること。

夜間休日救急搬送医学管理料及び救急搬送看護体制加算の概要

B001-2-6 夜間休日救急搬送医学管理料（初診料を算定する初診の日に限り算定） 600点

精神科疾患患者等受入加算 400点

救急搬送看護体制加算1 400点

救急搬送看護体制加算2 200点

【算定要件】(抜粋)

(1) 夜間休日救急搬送医学管理料については、第二次救急医療機関(都道府県が作成する医療計画において、入院をする救急医療を担う医療機関であって、第三次救急医療機関以外のものをいう。)又は都道府県知事又は指定都市市長の指定する精神科救急医療施設において、深夜、時間外(土曜日以外の日(休日を除く。)にあっては、夜間に限る。)、休日に、救急用の自動車(消防法及び消防法施行令に規定する市町村又は都道府県の救急業務を行うための救急隊の救急自動車、並びに道路交通法及び道路交通法施行令に規定する緊急自動車(傷病者の緊急搬送に用いるものに限る。)をいう。)及び救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法第2条に規定する救急医療用ヘリコプターにより搬送された患者であって初診のものについて、必要な医学管理が行われた場合に算定する。

なお、夜間及び深夜の取扱いは、往診料の場合と同様である。

(2)、(3) 略

【夜間休日救急搬送医学管理料の施設基準】

(1) 休日又は夜間における救急医療の確保のために診療を行っていると認められる次に掲げる保険医療機関であって、医療法第30条の4の規定に基づき都道府県が作成する医療計画に記載されている第二次救急医療機関であること又は都道府県知事の指定する精神科救急医療施設であること。

ア 地域医療支援病院(医療法第4条第1項に規定する地域医療支援病院)

イ 救急病院等を定める省令(昭和39年厚生省令第8号)に基づき認定された救急病院又は救急診療所

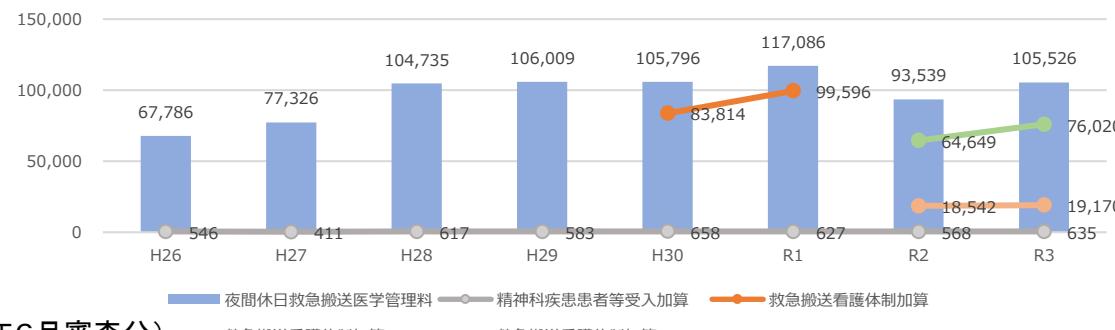
ウ 「救急医療対策の整備事業について」に規定された病院群輪番制病院、病院群輪番制に参加している有床診療所又は共同利用型病院

なお、精神科救急医療施設の運営については、平成7年10月27日健医発第1321号厚生省保健医療局長通知に従い実施されたい。

(2) 第二次救急医療施設として必要な診療機能及び専用病床を確保するとともに、診療体制として通常の当直体制のほかに重症救急患者の受入れに対応できる医師等を始めとする医療従事者を確保していること。

(3) 夜間又は休日において入院治療を必要とする重症患者に対して救急医療を提供する日を地域の行政部門、医師会等の医療関係者及び救急搬送機関等にあらかじめ周知していること。

算定回数



第8次医療計画における事業

- (1) 救急医療
- (2) 災害時における医療
- (3) へき地の医療
- (4) 周産期医療
- (5) 小児医療

※新興感染症発生・まん延時における医療については今後議論

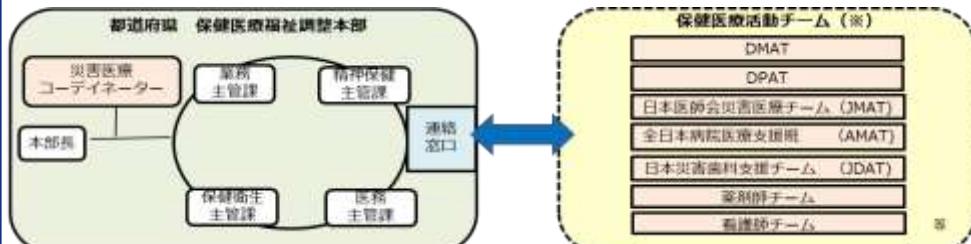
災害医療の体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

- DMAT・DPAT等の派遣や活動の円滑化や、様々な保健医療活動チームとの間での多職種連携を推進する。また、DMAT・DPATは災害時のみならず、新興感染症のまん延時における活動に対する支援を実施する。
- 災害時に拠点となる病院、拠点となる病院以外の病院が、その機能や地域における役割に応じた医療の提供を行う体制の構築を進める。
- 災害拠点病院等における豪雨災害等の被害を軽減するため、地域と連携して止水対策を含む浸水対策を進める。
- 医療コンテナの災害時における活用を進める。

多職種連携

- 保健医療福祉調整本部の下、災害医療コーディネーターや様々な保健医療活動チームと共に訓練を実施し、災害時におけるそれぞれの必要な役割の確認を推進する。



災害時に拠点となる病院、拠点となる病院以外の病院

- 都道府県は、平時より災害医療に関する関係者と共に、関係機関の役割・医療機関間の連携を強化する。
- 災害時に拠点となる病院以外の病院においては、災害時に自院にいる患者への診療を継続するために、防災対策を講じ、災害時に拠点となる病院と共に、その機能や地域における役割に応じた医療の提供に努める。

災害医療に関連する会議



<拠点となる病院>



<災害医療関係者>



<拠点となる病院以外の病院>

・関係機関の役割

・役割に応じた医療機関間の連携

止水対策を含む浸水対策

- 浸水想定区域や津波災害警戒区域に所在する医療機関は、風水害が生じた際の被災を軽減するため、浸水対策を推進する。
- BCPの策定は、地域全体での連携・協力が必要であるため、地域防災計画等のマニュアルとの整合性をとり、地域の防災状況や連携を考慮し、実効性の高いBCPの策定を推進する。



(止水板の設置)



(電気設備の移設)

医療コンテナの災害時の活用

- 災害訓練や実災害時において、また、イベント時の事故等への備えにおいて、医療コンテナを活用し有用性を検証する。
- 都道府県や医療機関は、災害時の医療提供体制を維持するために医療コンテナ等を活用し、例えば、仮設診療所の設置や被災した病院施設の補完等を行うことを推進する。



<自衛隊 野外手術システム>



<日本赤十字社 dERU>

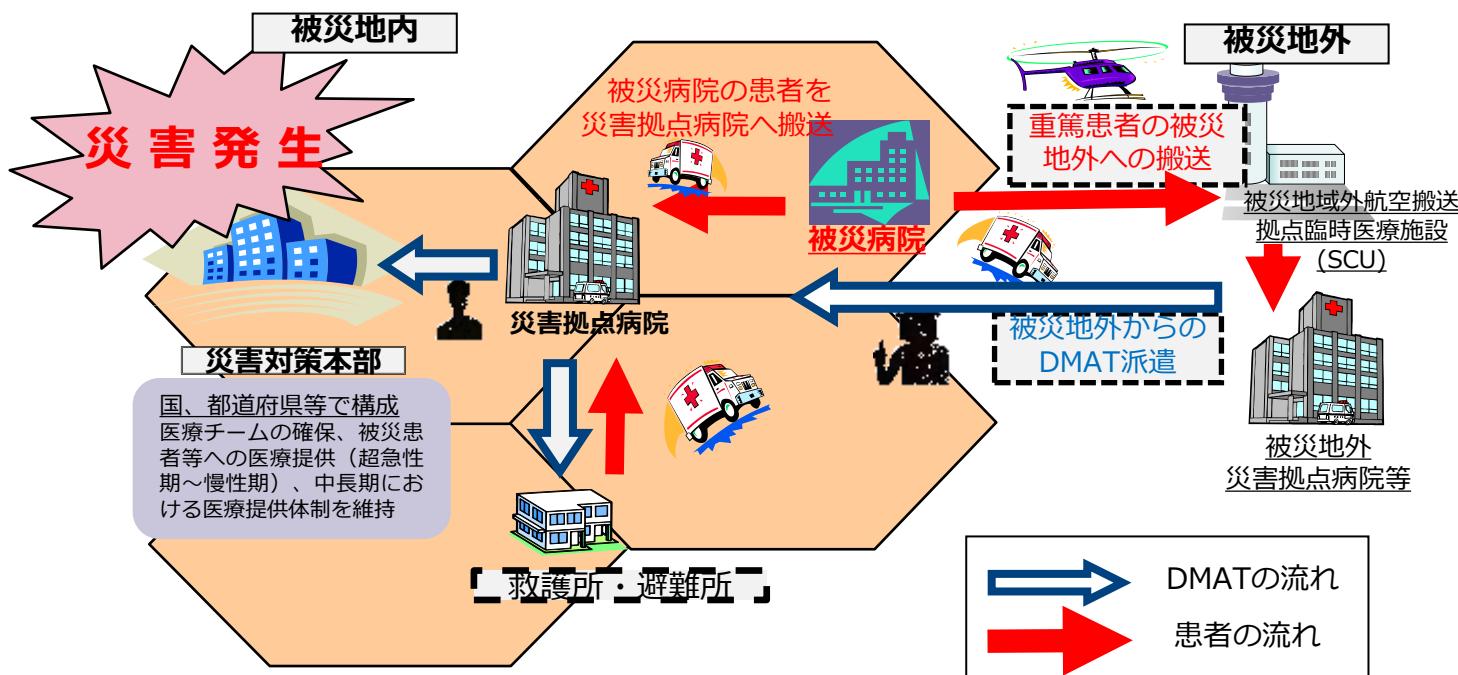


災害派遣医療チーム(DMAT)

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- DMATとは、大地震等の災害時や新興感染症等のまん延時に、地域において必要な医療提供体制を支援し、傷病者の生命を守ることを目的とした厚生労働省が認めた専門的な研修・訓練を受けた医療チーム。
- 災害時の対応を想定し、平成17年3月から養成を開始（国立病院機構に委託）。新型コロナ対応を踏まえ、令和4年2月に日本DMAT活動要領を改正し、新興感染症等のまん延時における対応も活動内容に追加。
- DMAT1隊は医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名を基本として構成。
- DMATは、都道府県の派遣要請に基づき活動。
- 15,862名が研修修了済（令和4年4月時点）。約2,000チームがDMAT指定医療機関に登録済（令和4年4月時点）。



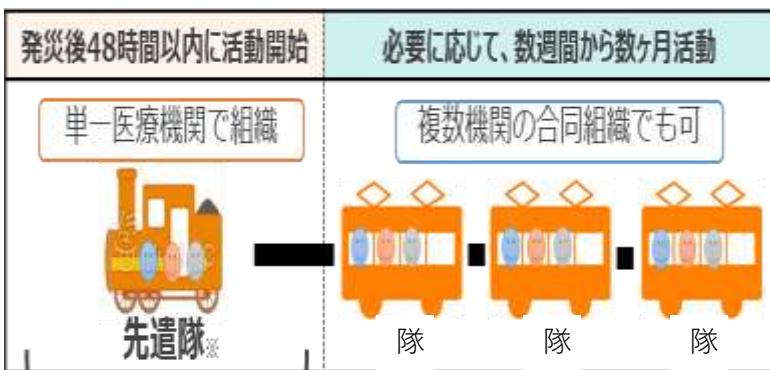
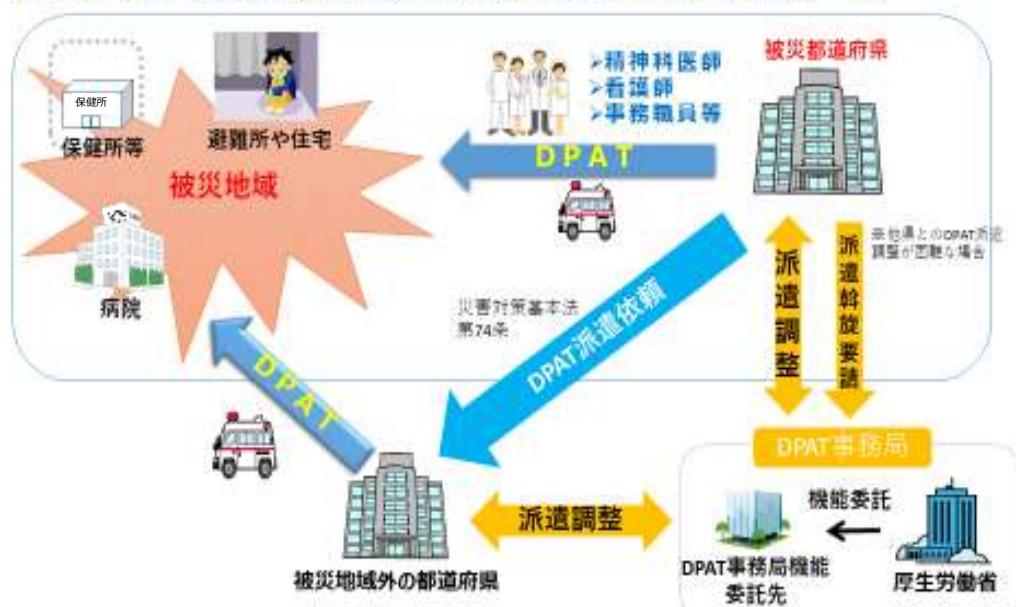
災害派遣精神医療チーム（DPAT）

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- DPATとは、大地震等の災害時に、地域において必要な精神保健医療ニーズに対応することを目的とした厚生労働省が認めた専門的な研修・訓練を受けた精神医療チーム。
- 災害時の対応を想定し、平成25年4月から養成を開始。
- DPAT 1隊は、精神科医師、看護師、業務調整員を含めた数名で構成。
- DPATは、都道府県の派遣要請に基づき活動。
- DPATのうち、特に、発災から概ね48時間以内に、被災した都道府県において、本部機能の立ち上げや急性期の精神科医療ニーズへの対応等を行う隊を「DPAT先遣隊」として位置付けている。
- DPAT先遣隊は、810名が研修終了済（令和4年4月時点）。約255隊が指定機関に登録済（令和4年4月時点）

自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の際、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う専門的なチーム



＜主な機能＞
本部機能の立ち上げ
ニーズアセスメント
急性期の精神科医療ニーズへの対応
DPATは、
精神科医 看護師 業務調整員
含めた数名で構成

※都道府県等が先遣隊機関として事務局へ登録

災害拠点病院の指定状況

第11回 第8次医療計画
等に關する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 平成8年5月10日付け厚生省健康政策局長通知に基づき、災害時における医療提供体制の中心的な役割を担う災害拠点病院の整備を開始した。
- 災害拠点病院には基幹災害拠点病院と地域災害拠点病院がある。
 ※基幹災害拠点病院：原則として都道府県に1箇所設置
 ※地域災害拠点病院：原則として二次医療圏に1箇所設置
- 令和4年4月1日までに765病院が指定されている。
 ※基幹災害拠点病院：64病院
 ※地域災害拠点病院：701病院

都道府県	基幹	地域
北海道	1	33
青森県	2	8
岩手県	2	9
宮城県	1	15
秋田県	1	12
山形県	1	6
福島県	1	10
茨城県	2	16
栃木県	1	12
群馬県	1	16
埼玉県	3	19
千葉県	4	22
東京都	2	81
神奈川県	—	33
新潟県	2	12
富山県	2	6

都道府県	基幹	地域
石川県	1	10
福井県	1	8
山梨県	1	9
長野県	1	12
岐阜県	2	10
静岡県	1	22
愛知県	2	34
三重県	1	16
滋賀県	1	9
京都府	1	12
大阪府	1	18
兵庫県	2	16
奈良県	1	6
和歌山县	1	9
鳥取県	1	3
島根県	1	9

都道府県	基幹	地域
岡山県	1	10
広島県	1	18
山口県	1	14
徳島県	1	10
香川県	1	9
愛媛県	1	7
高知県	1	11
福岡県	1	30
佐賀県	2	6
長崎県	2	12
熊本県	1	14
大分県	2	12
宮崎県	2	10
鹿児島県	1	13
沖縄県	1	12
合計	64	701

第8次医療計画における事業

- (1) 救急医療
- (2) 災害時における医療
- (3) へき地の医療
- (4) 周産期医療
- (5) 小児医療

※新興感染症発生・まん延時における医療については今後議論

へき地の医療体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

- ・ へき地における医師の確保については、引き続きへき地の医療計画と医師確保計画を連動して進める。
- ・ へき地における医療人材の効率的な活用や有事対応の観点から、国は自治体におけるオンライン診療を含む遠隔医療の活用について支援を行う。
- ・ へき地医療拠点病院の主要3事業（へき地への巡回診療、医師派遣、代診医派遣）の実績向上に向けて、巡回診療・代診医派遣について、人員不足等地域の実情に応じてオンライン診療の活用が可能であることを示し、へき地の医療の確保を図るための取り組みを着実に進める。

へき地で勤務する医師の確保

- ・ へき地医療支援機構は、医師確保計画とへき地の医療計画を連携させるために、地域枠医師等の派遣を計画する地域医療支援センターと引き続き緊密な連携や一体化を進めることとする。



へき地医療拠点病院の事業

【遠隔医療の活用】

- ・ 都道府県においてオンライン診療を含む遠隔医療を活用したへき地医療の支援を行うよう、へき地の医療体制構築に係る指針で示すとともに、遠隔医療に関する補助金による支援や、好事例の紹介等による技術的支援を行う。

【主要3事業の評価】

- ・ オンライン診療を活用して行った巡回診療・代診医派遣についても、主要3事業の実績に含めることを明確化する。但し、全ての巡回診療等をオンライン診療に切り替えるものではなく、人員不足等地域の実情に応じて、オンライン診療で代用できるものとする。

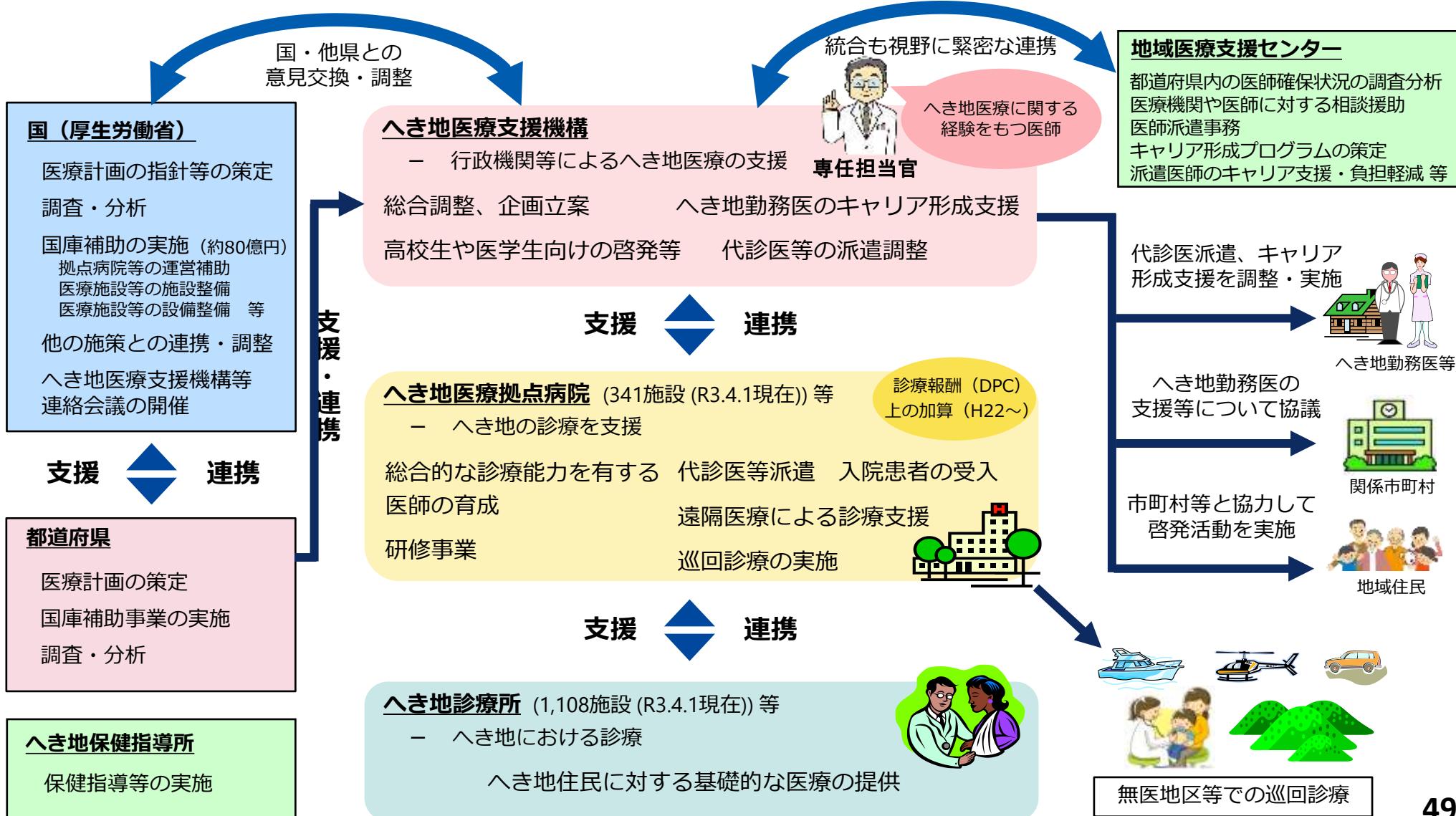
実施施設数	主要3事業 (年間合計12回以上実施)	必須事業 (主要3事業または遠隔医療を年間1回以上実施)	(参考)			
			巡回診療 (年12回以上)	医師派遣 (年12回以上)	代診医派遣 (年12回以上)	遠隔医療 (年1回以上)
221(65.8%)	302(89.9%)	75(22.3%)	121(36.0%)	51(15.2%)	115(34.2%)	
115(34.2%)	34(10.1%)	261(77.7%)	215(64.0%)	285(84.8%)	221(65.8%)	
計			336 ^{※1}			

※1 令和3年度現況調査によるへき地医療拠点病院の数から、令和3年4月1日に指定されたへき地医療拠点病院を除いた数。 48

へき地における医療の体系図

令和4年7月27日第11回
第8次医療計画等資料
に関する検討会

- へき地医療支援機構を中心に、行政、へき地で勤務する医師、へき地医療に協力する施設・機関、そしてへき地の住民がそれぞれ連携・協力し、かつ他の都道府県の先進事例にも学びながら、効果的・効率的に持続可能性のあるへき地への医療提供体制の構築を行う。



へき地医療拠点病院の主要3事業及び必須事業の実績

令和4年7月27日第11回
第8次医療計画等
に関する検討会資料1一部改

- へき地医療拠点病院が特に取り組むこととされている事業であるへき地診療所等への医師派遣、代診医派遣、巡回診療を合わせて「主要3事業」と呼ぶ。
- また、主要3事業と、情報通信技術（ICT）を活用した遠隔医療を合わせて「必須事業」と呼ぶ。
- 令和2年度に主要3事業の取組を年12回以上実施したへき地医療拠点病院は、全体の65.8%。

うち、オンライン診療を実施している
医療機関は15病院(4.5%)

へき地医療拠点病院の主要3事業及び必須事業の実施状況(令和2年度)

	主要3事業 (年間合計12回以上実施)	必須事業 (主要3事業または遠隔医療 を年間1回以上実施)	(参考)			
			巡回診療 (年12回以上)	医師派遣 (年12回以上)	代診医派遣 (年12回以上)	遠隔医療 (年1回以上)
実施数	221(65.8%)	302(89.9%)	75(22.3%)	121(36.0%)	51(15.2%)	115(34.2%)
未実施数	115(34.2%)	34(10.1%)	261(77.7%)	215(64.0%)	285(84.8%)	221(65.8%)
計					336※1	

(参考)平成29年度実績

	主要3事業 (年間合計12回以上実施)	必須事業 (主要3事業または遠隔医療 を年間1回以上実施)	(参考)			
			巡回診療 (年12回以上)	医師派遣 (年12回以上)	代診医派遣 (年12回以上)	遠隔医療 (年1回以上)
実施数	206(65.2%)	266(84.2%)	82(25.9%)	107(33.9%)	47(14.9%)	94(29.7%)
未実施数	110(34.8%)	50(15.8%)	234(74.1%)	209(66.1%)	269(85.1%)	222(70.3%)
計					316※2	

※1 令和3年度現況調査によるへき地医療拠点病院の数から、令和3年4月1日に指定されたへき地医療拠点病院を除いた数。

※2 平成30年度現況調査によるへき地医療拠点病院の数から、平成30年4月1日に指定されたへき地医療拠点病院を除いた数。

オンライン診療を実施しているへき地医療機関ではD to P with Nの様式が主流である。調査回答の中で、移動コストの短縮をはじめとして巡回診療や医師・専門医派遣への有用性が示唆された。



A施設; D to P or D to P with N

診療所までの移動時間や、診療までの待ち時間が短縮された。
患者負担や介助者負担が軽減され、大変役立つ仕組みであるとの声がある。

B施設: D to P with N

(コロナで)巡回診療ができなくなり、オンライン診療で代替した。
これから使用することが増えるだろう。

D to Dに対するニーズも潜在している。

※ 現況調査でもへき地医療拠点病院やへき地診療所での実践が少数ながらうかがえる。

離島・へき地におけるオンライン診療には「D to P with N」が有効

【研究班の実証ケース】 岩国市立柱島診療所（常勤医なし）

- ・同医療圏のへき地医療拠点病院から月2回、医師が派遣される。島民は診療日を増やしてほしいと要望。
- ・令和2年から実証開始。本土から看護師のみ離島にわたり、オンライン診療を支援し、診療日を増やす。

へき地医療拠点病院
岩国医療センター（500床）



医師派遣として定期的に
柱島に行っている医師

【実証内容】

- ①診療日を増やす
(天候不良時も)
→定期受診・処方
- ②予測される症状
→心不全、がん
- ③予測外の症状
→風邪、外傷

クラウド型電子カルテ



オンライン診療中は、
診療所の所属（兼務）

柱島診療所や自宅



看護師が
オンライン診療を支援

- ・オンライン診療「D to P with N」は、患者の同意のもと、看護師がそばにいる状態での診療。医師は診療の補助行為を看護師に指示することで、薬剤の処方に留まらない治療行為などが看護師を介して可能。また、実施可能な診療、診療の補助行為は、診療計画に基づき予測された範囲内で診療の補助行為、点滴や注射が行われるのが望ましいが、予測されていない新しい症状等が出現した場合において、追加的な検査（血液検査や尿検査等）を指示することは可能（オンライン診療の適切な実施に関する指針）。
- ・離島等の診療所においては、一定の条件のもと看護師が当該薬剤を患者に渡すことができる（令和4年3月23日厚労省事務連絡）。

【オンライン診療において「with N（看護師）」のメリット】

- ① 医師が現地にいなくても、通常のオンライン診療に比べて、質の高い診療（検査、処方、点滴等）を届けることができる。
- ② デバイス操作が困難、難聴、認知症などの高齢者にも対応できる。
- ③ 急患対応時の看護師の精神的な不安を軽減。特に緊急オンライン代診には看護師は必須。

課題

- ・デバイスの操作など、オンライン診療支援に必要なスキルの習得。普段からの医師とのコミュニケーション。
- ・看護師によるオンライン診療支援には多大な人的コストやスキルが必要。

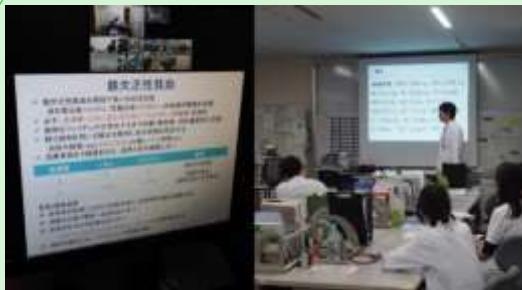
全県的な遠隔医療支援システムを用いたへき地医療支援の事例 (和歌山県の事例)

第11回第8次医療計画等
に関する検討会
(令和4年7月27日)参考資料3(一部改変)

診療

へき地を含む全県的地域の病院や診療所を受診した患者さんを、システムを通じて和歌山県立医大の専門医が現地担当医とともに診療を行う。

研修



和歌山県立医大の教員が行う専門的な講義を、システムを通じて地域の病院や診療所の医師も聴衆できる。

遠隔医療支援 システム



会議



若手医師同士の勉強会、和歌山県立医大や県内医療機関でのカンファに、地域の病院や診療所から参加することが可能である。

医療情報を扱うことのできる専用回線を用いたテレビ会議システム。自治医科大学卒業生、和歌山県立医大地域枠など若手医師が派遣されうる和歌山県内計23か所の公的病院、診療所に導入されている。

第8次医療計画における事業

- (1) 救急医療
- (2) 災害時における医療
- (3) へき地の医療
- (4) 周産期医療
- (5) 小児医療

※新興感染症発生・まん延時における医療については今後議論

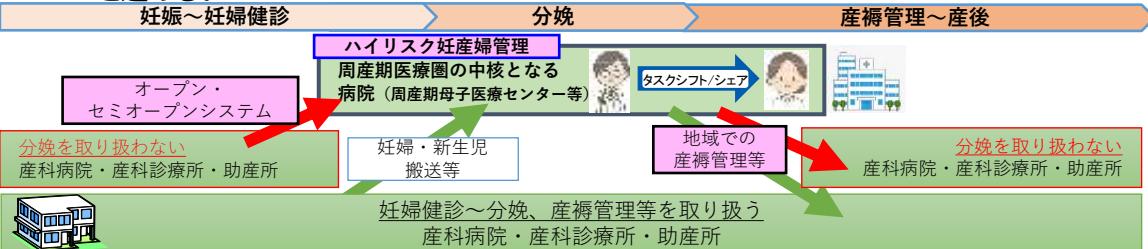
周産期の医療体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

- 周産期医療の質の向上と安全性の確保のため、周産期医療に携わる医師の勤務環境の改善を進めつつ、必要に応じて周産期医療圏の柔軟な設定を行い、医療機関・機能の集約化・重点化を進める。
- 保健・福祉分野の支援や小児医療との連携を含む周産期に関わる幅広い課題の検討に専門人材等も参画し、周産期医療に関する協議会を活用する。
- ハイリスク妊産婦への対応や、医療的ケア児の在宅ケアへの移行支援など、周産期医療体制の整備を進める。
- 新興感染症の発生・まん延時に備えた周産期医療体制を整備する。

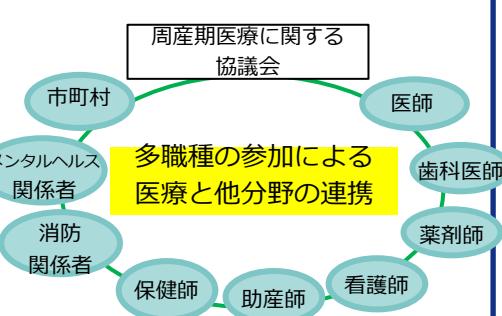
周産期医療の集約化・重点化

- 基幹施設を中心とした医療機関・機能の集約化・重点化を進める。ハイリスクでない分娩は、その他の産科医療機関で取り扱うことや、分娩を取り扱わない医療機関において妊婦健診や産前・産後のケアや、オープンシステム・セミオープンシステム等を実施することを検討するとともに、産科医師から助産師へのタスクシフト／シェア等を進める。



周産期医療に関する協議会

- 医師の他、助産師等看護職を含むことを基本とし、妊婦のメンタルヘルスケアに携わる人材や消防関係者、さらに、地域の実情に応じて、歯科医師、薬剤師、保健師等必要な職種その他の関係者の参画を検討する。
- 社会的ハイリスク妊産婦への対応として、周産期医療に関する協議会等を通じて、市町村が行う保健・福祉等の支援等の情報共有を図り、支援につなげる。



ハイリスク妊産婦への対応

- NICUや専門医などの機能や人材の集約化・重点化などを通じて、総合周産期母子医療センターを中心として、周産期医療に精通した医療従事者育成を含めて、母体又は児のリスクが高い妊娠に対応する体制を構築する。
- 集約化・重点化により分娩施設までのアクセスが悪化した地域に居住する妊産婦に対して、地域の実情に応じて対策を検討する。

在宅ケアへの移行支援

- 周産期医療関連施設は、NICU長期入院児等が自宅に退院する前に、当該施設の一般病棟や地域の医療施設への移動等の段階を経ることにより、医療的ケア児の生活の場における療養・療育への円滑な移行を支援する。

産科区域の特定

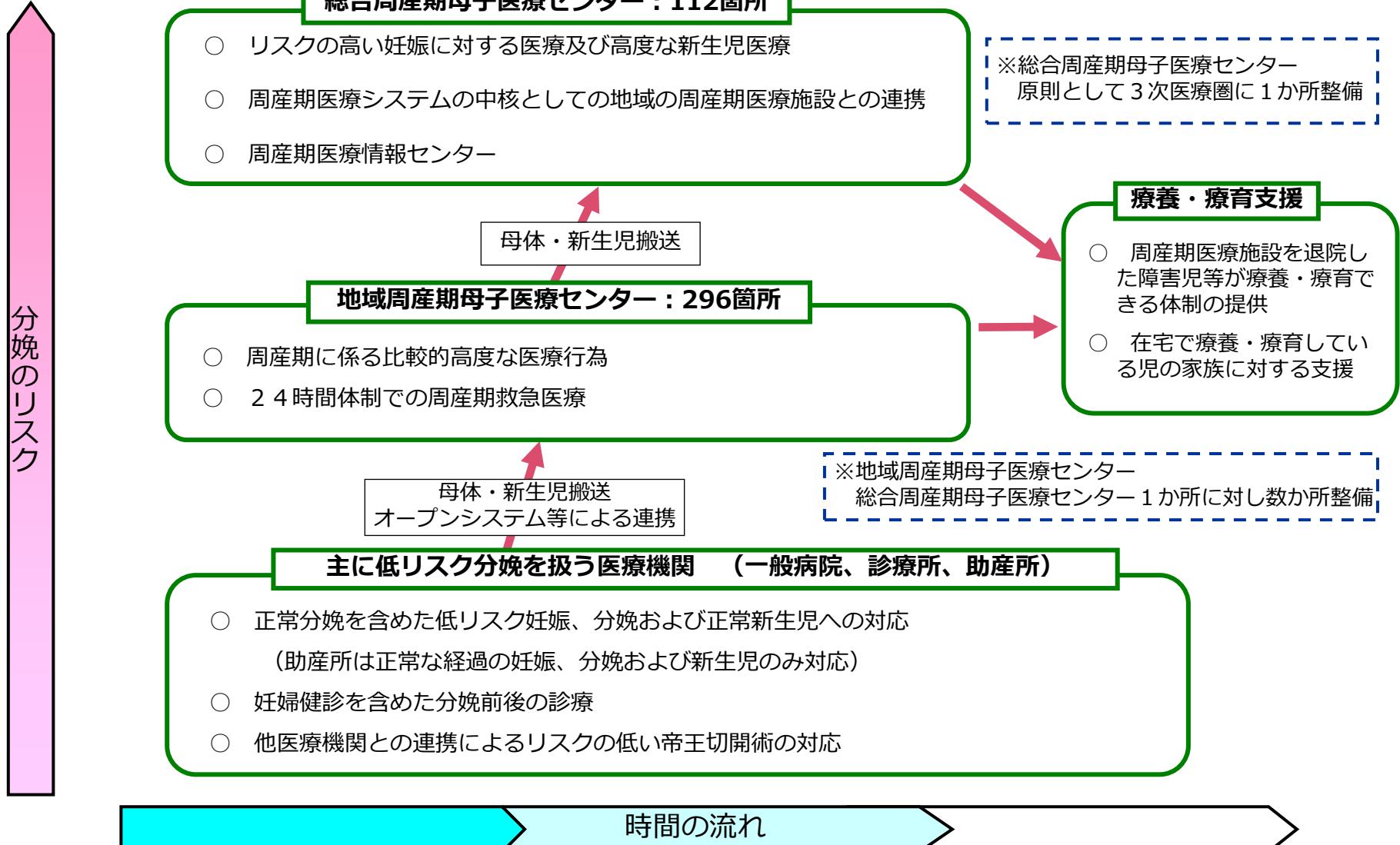
- 分娩を取り扱う医療機関は、母子の心身の安定・安全の確保等を図る観点から、産科区域の特定などの対応を講ずることが望ましいなか、当該医療機関の実情を踏まえた適切な対応を推進する。

周産期医療体制

第11回 第8次医療計画
にに関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターは、平成29年度までに全都道府県に配置されている。

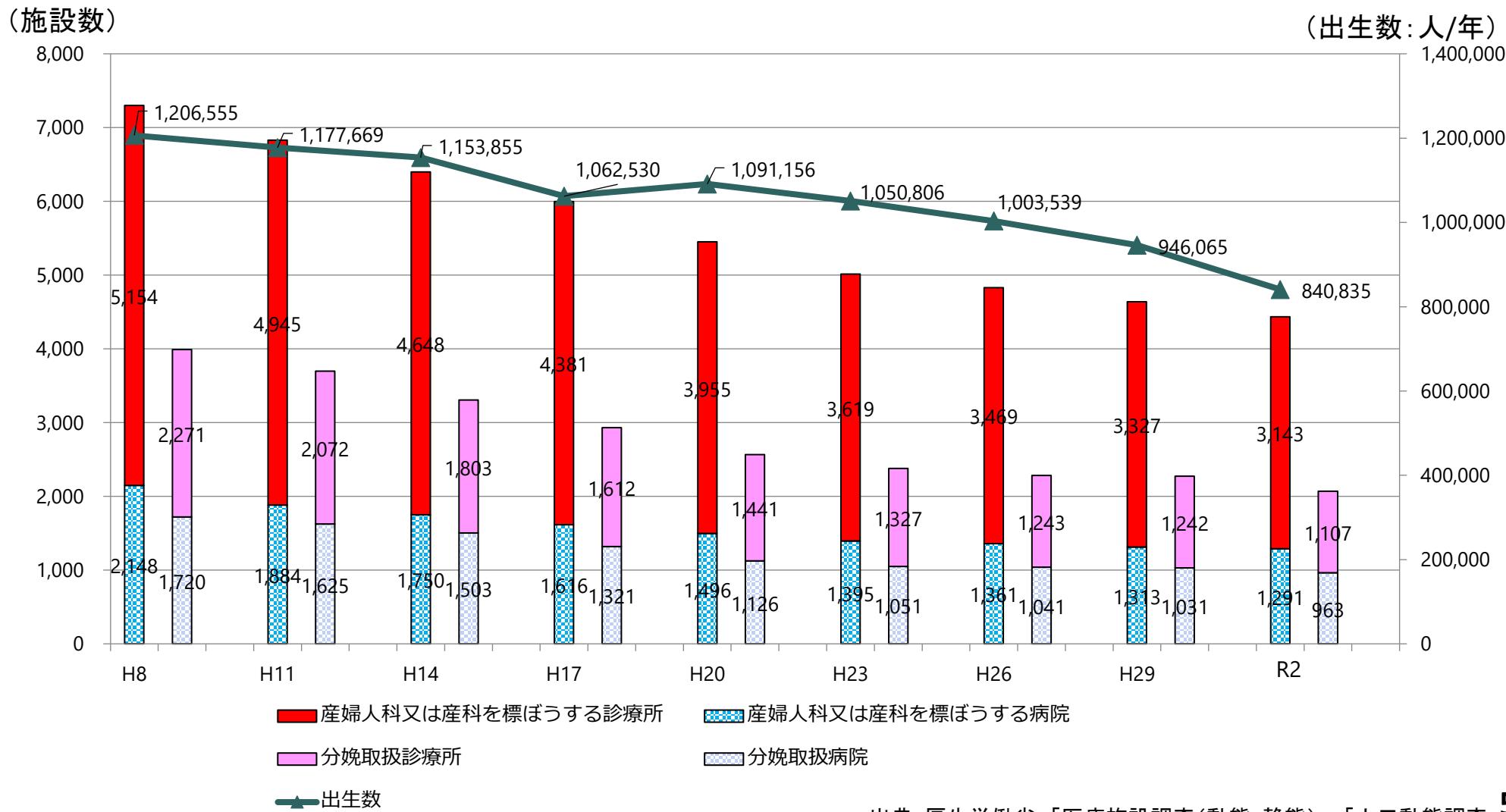


産婦人科を標榜する医療機関数と分娩取扱実績医療機関数の推移

第11回 第8次医療計画
に
關する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 産婦人科又は産科を標榜していても、実際に分娩を取り扱うとは限らない。
- 出生数は減少しており、併せて分娩を取り扱う医療機関も減少している。
- 分娩を取り扱っていない施設の割合は、病院において25%、診療所において65%と、診療所の方が高い。



周産期医療の集約化・重点化に向けた取り組み (タスク・シフト/シェア)

第11回 第8次 医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

背景と目的

- 妊産婦の妊娠・出産・育児に対する多様なニーズ
- 医師不足・分娩施設の減少への対応
- 働き方改革(医師の時間外労働の上限規制)

妊婦の多様なニーズに応え、地域における安全・安心・快適なお産の場を確保するとともに、産科病院・産科診療所において助産師を積極的に活用し、正常産を助産師が担うことで産科医師の負担を軽減する。「助産師の専門性の積極的な活用」により、タスク・シフト/シェアを推進する。

役割分担

平成19年12月28日付け医政局長通知「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」

- 医師で無くても対応可能な業務を医師が行っていることが病院勤務医の厳しい勤務環境の一因。
このため、医師でなくとも対応可能な業務例を下記のとおり整理。

▶助産師

- ① 正常分娩における助産師の活用
- ② 妊産婦健診や相談における助産師の活用
- ③ 病院内で医師・助産師が連携する仕組みの導入（**院内助産所・助産師外来**）

医療チーム

平成22年3月23日「チーム医療の推進に関する検討会」報告書

▶助産師

- 周産期医療の場面において、過重労働等による産科医不足が指摘される一方で、助産師は、正常分娩であれば自ら責任を持って助産を行うことができることから、産科医との連携・協力・役割分担を進めつつ、その専門性をさらに活用することが期待される。

タスク・シフト/シェア

令和3年9月30日付け医政局長通知

「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」

- 医師の時間外労働の上限規制が適用される令和6年4月に向けて、医師の労働時間の短縮を進めるため、検討会での議論等を踏まえ、まずは、現行制度の下で実施可能な範囲において、医療機関において医師から他の医療関係職種へのタスク・シフト/シェアを推進するよう、その留意点等について通知を発出。
- 医療機関全体でタスク・シフト/シェアの取組の機運が向上するよう、管理者及び医療従事者全体の意識改革・啓発に取り組むことが求められるとともに、医療安全を確保しつつ、タスク・シフト/シェアを受ける側の医療関係職種の知識・技能が担保されるよう、教育・研修の実施や人材確保等に取り組む必要。
- 特に、産科医療機関においては、産科医師の負担軽減を目的とした、院内助産や助産師外来の開設・運営などによる「助産師の専門性の積極的な活用」を図ることが必要。

- ▶助産師 ①院内助産所 ②助産師外来



院内助産・助産師外来について

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

資料
1

院内助産

緊急時の対応が可能な医療機関において、助産師が妊娠婦とその家族の意向を尊重しながら、妊娠から産褥1ヶ月頃まで、正常・異常の判断を行い、助産ケアを提供する体制をいう。

助産師外来

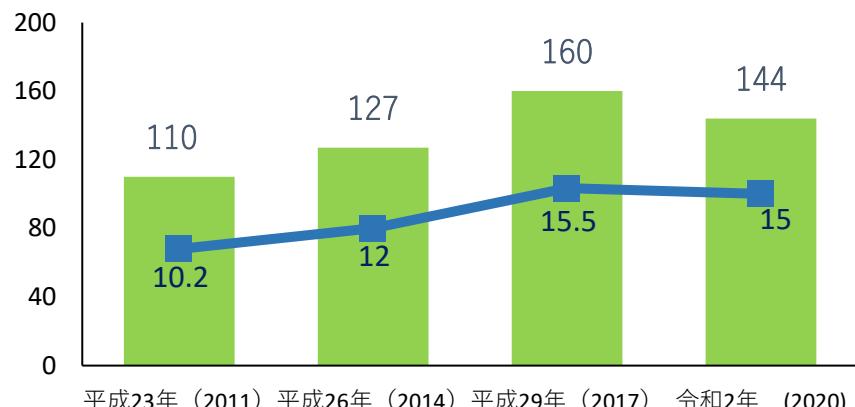
緊急時の対応可能な医療機関において、助産師が産科医師と役割分担をし、妊娠婦とその家族の意向を尊重しながら、健康診査や保健指導を行うことをいう。

平成29年 厚生労働省看護職員確保対策特別事業 院内助産・助産師外来ガイドライン2018 日本看護協会

- 今後、働き方改革推進の中で、役割分担を進め、産科医師・助産師がともに、それぞれの専門性を発揮した連携・協働を可能とする。
- 妊産婦の妊娠・出産・育児に対する多様なニーズに応え、安全・安心・快適なお産の場を確保し、助産師の活躍を推進する

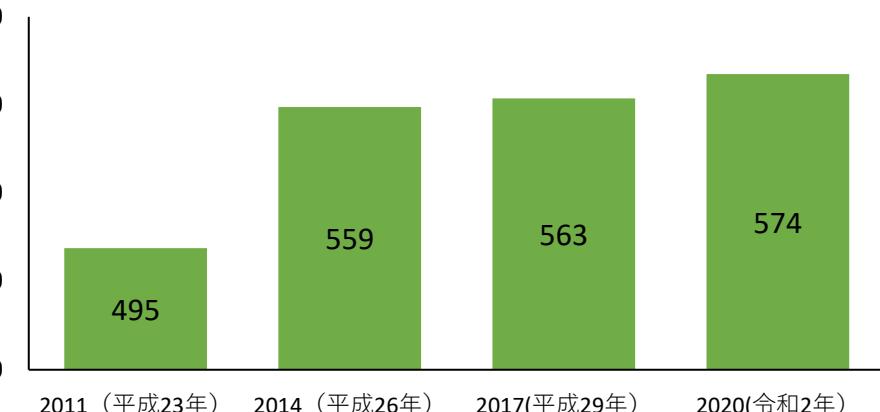
(施設数)

院内助産実施医療機関数



(%) (施設数)

助産師外来開設医療機関数



■ 院内助産あり ■ 分娩取り扱い病院数に対する割合

厚生労働省 医療施設調査

- 地域医療構想による集約化・重点化と医師の偏在対策が急務。
- 分娩を取り扱わないものの妊婦健診や産前・産褥管理を実施する医療施設は、オープンシステム・セミオープンシステムを活用し分娩取り扱い医療機関との情報共有・連携を図ることとしてはどうか。
- 分娩を取り扱わない施設で産褥管理を推進することは、産科施設の集約化・重点化にも資するのではないか。
- オープン・セミオープンシステム、院内助産システム、助産師外来の導入など医師の業務負担軽減に資する事業を積極的に推進してはどうか。

周産期医療の集約化・重点化に向けた取り組み (オープンシステム・セミオープンシステム)

第11回 第8次 医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日
資料1

- オープンシステム・セミオープンシステムでは、分娩を取り扱わない医療機関と分娩取扱医療機関が役割分担することで、地域の周産期医療体制を構築している。
- 令和2年度には、全国で157の周産期母子医療センター等の産科医療機関がオープンシステム・セミオープンシステムを利用して妊産婦への対応を行っている。

<背景>

- ・ 医師不足・分娩施設の重点化・集約化への対応
- ・ 周産期母子医療センターの負担軽減
- ・ 妊産婦の妊娠・出産・育児に対する多様なニーズ

<目的>

妊婦の多様なニーズに応え、地域における安全・安心・快適なお産の場を確保する。

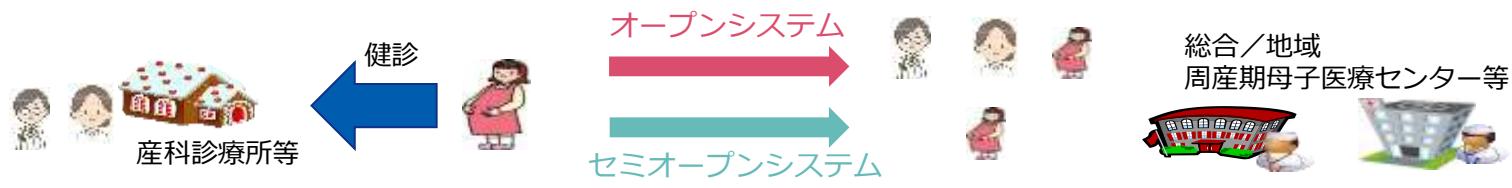
- ・ 地域の産科診療所を積極的に活用する。
- ・ 産科医師の負担を軽減する。
- ・ 健診施設が夜間休日で休みであっても、緊急時は24時間対応の分娩予定医療機関で対応する。
- ・ 妊婦健診は地域で行い、分娩は他の医療機関で行う。

【オープンシステム】

地元で健診を担当した医師・助産師が分娩時に連絡を受け、連携病院（周産期母子医療センター等）に出向き、出産に対応する。

【セミオープンシステム】

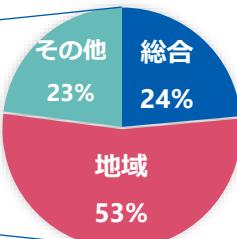
健診は地元で行い、分娩は連携病院で行う。出産には連携病院の医師、助産師が対応する。



(参考) オープンシステム・セミオープンシステムの基幹施設の数

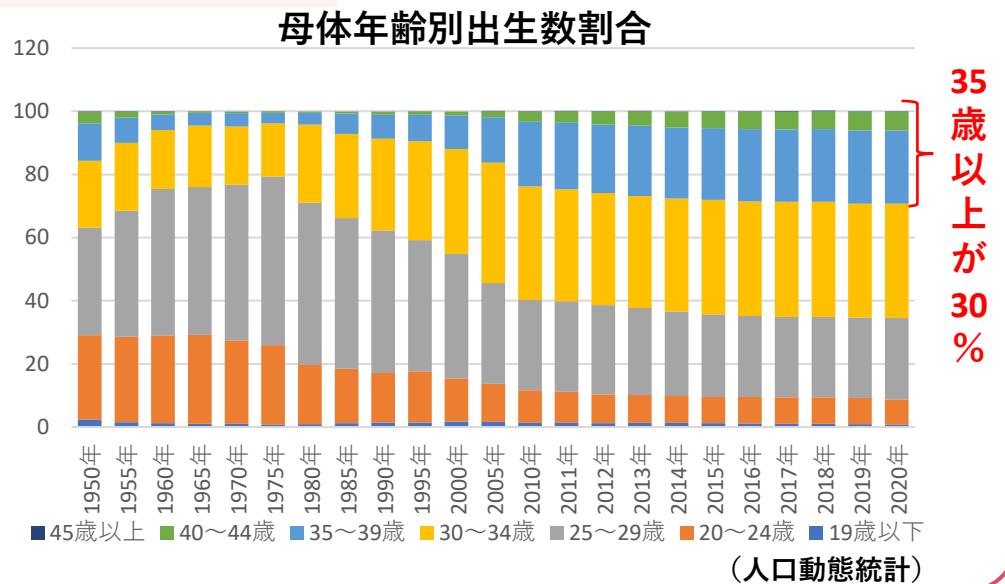


施設の内訳

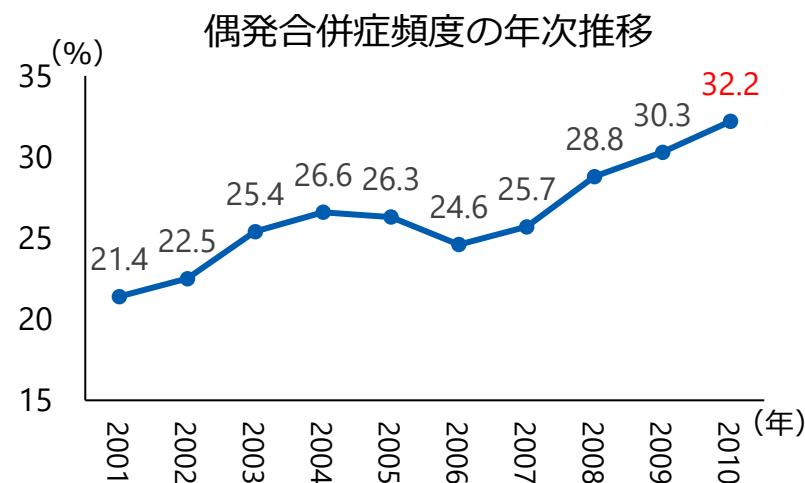


ハイリスク妊産婦の増加

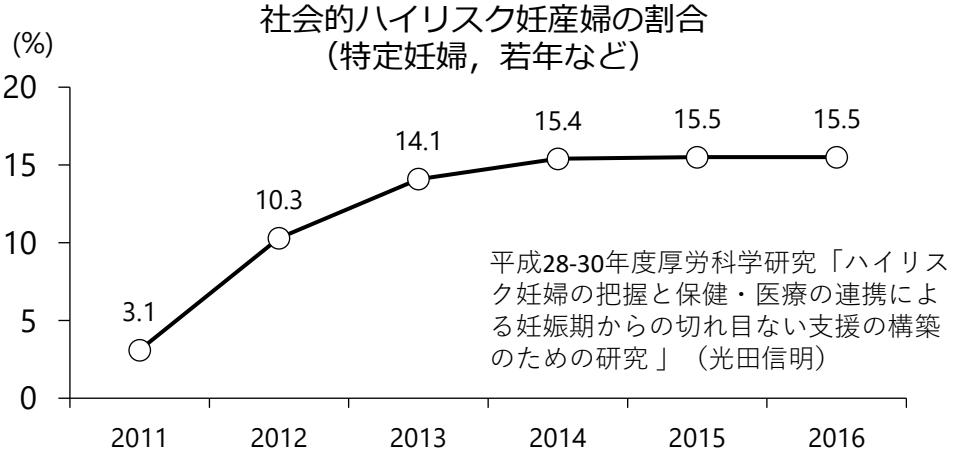
①高齢出産の増加



②妊娠における偶発合併症の増加



③社会的ハイリスク妊産婦※の増加



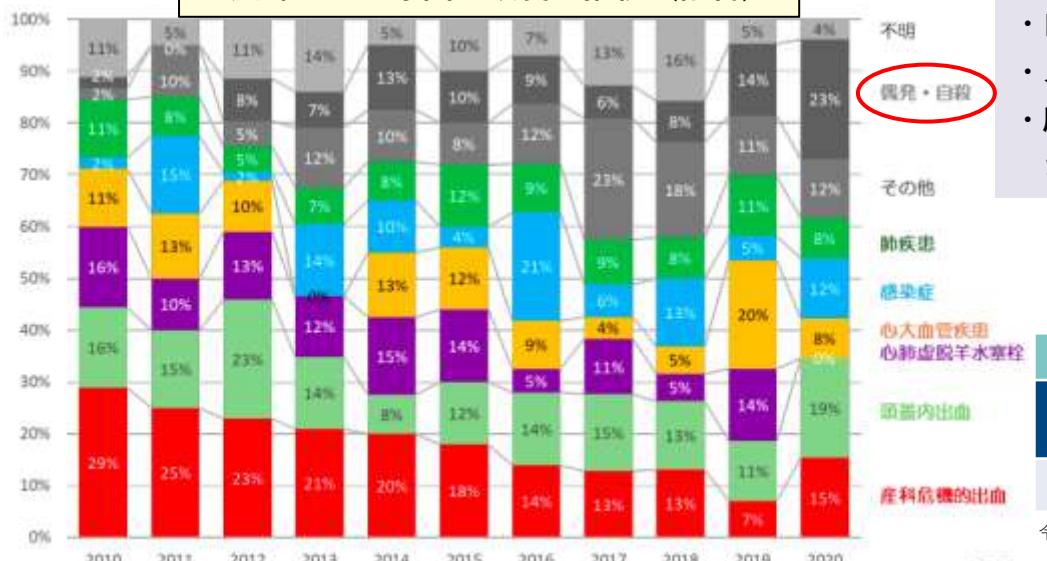
- 妊婦の高齢化（35歳以上が30%）に伴い、合併症の頻度が増加し3人に1人が何らかのリスクを持つため、ハイリスクな妊産婦、新生児に対応する体制の充実が必要ではないか。
- 社会的なハイリスク妊産婦が増加していることから、これらの妊産婦に対応する体制の強化が必要ではないか。

※社会的ハイリスク妊産婦とは、特定妊婦等の妊娠中から家庭環境におけるハイリスク要因を有する妊婦のこと。具体的には不安定な就労等収入基盤が安定しないことや、家族構成が複雑であること等。

メンタルヘルスケアの重要性

④メンタルヘルスケアの重要性増加

妊娠婦死亡の原因別頻度の推移（割合）



日本産婦人科医会 妊産婦死亡症例検討評価委員会令和3年9月「母体安全への提言2020」

施設ごとの分娩数とメンタルヘルス介入必要割合

回答施設数	分娩数	要介入数	頻度 (%)
病院	338	20385	1108 5.4
診療所	735	18510	443 2.4
合計	1073	38895	1551 4.0

平成28-30年度厚労科学研究「ハイリスク妊婦の把握と保健・医療の連携による妊娠期からの切れ目ない支援の構築のための研究」（光田信明）
要介入数：回答した各施設により、精神疾患の既往、抑うつ等症状の有無等を元に介入必要と判断されたもの。

- ・妊娠婦死亡は、2010年には産科的危機的出血によるものが3割程度を占めていたが、近年は10%程度まで減少している。
- ・自殺によるものの割合が増加している。
- ・メンタルヘルス介入が必要な妊娠婦は4%程度。（全数換算で3万人程度）
- ・周産期母子医療センターにおいても、常時妊娠婦の精神疾患に対応できる医療機関は4割以下である。

自施設内で合併症に対し24時間対応可能である
周産期母子医療センターの割合（%）

脳血管疾患	心血管疾患	外傷	精神疾患
脳血管手術	脳血管内治療	心臓カテーテル検査・治療	心臓血管手術
75.6	73.1	79.9	64.8

令和3年度周産期医療体制調査

精神疾患は常時自施設内で対応できる施設が少ない

流産、死産等を経験した女性やその家族に対しての相談窓口の設置

都道府県：100%、市町村：85.9%

令和3年子ども・子育て支援推進調査研究事業「子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する調査研究」

流産、死産後の
メンタルケアは重要

- 妊産婦の死亡原因として自殺が増加傾向であることから、周産期母子医療センターにおいては、当該施設が精神科を有さない場合は連携して対応する協力医療施設を定め、精神疾患を合併する妊娠婦についても対応可能な体制を整えることが必要ではないか。
- 流産、死産等を経験した女性等への支援について、地域で共有し、医療機関への周知を行う等により適切に提供できるようにするべきではないか。

病棟における産科区域の必要性

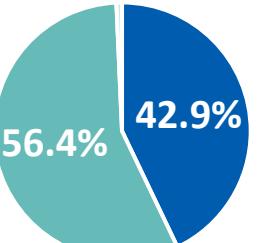
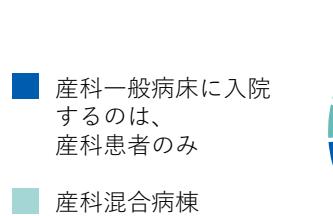
第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日

参考資料
4

- 分娩数の減少・高齢者の増加により、限られた入院ベッド等の医療資源を有効に活用するためには、妊産婦に限定又は産科患者に限定した病棟運営は難しい。
- 周産期母子医療センターにおいても、47%が産科混合病棟である。
- 「分娩を取り扱う医療機関について、母子への感染防止及び母子の心身の安定・安全の確保を図る観点から、産科区域の特定等の対応を講ずることが望ましい中、医療機関の実情を踏まえた適切な体制の整備を推進する」（成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針（令和3年2月9日閣議決定））

産科混合病棟の現状

総合周産期母子医療センター 地域周産期母子医療センター



出典：周産期医療体制調査（令和2年度績）

ユニットマネジメントとは

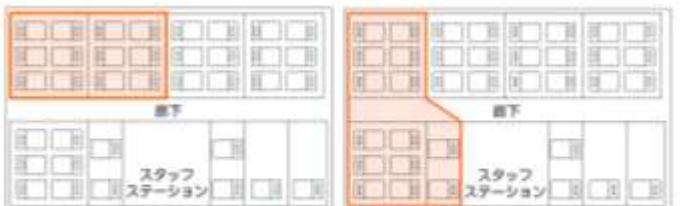
産科混合病棟において病床の区域特定(ユニット化・区域管理)をすることで、母子にとって安全で安心な環境を整備すること

ユニット化

ひとつづきになっている病棟の一部を産科専用の「ユニット」として使用。

区域管理（ゾーニング）

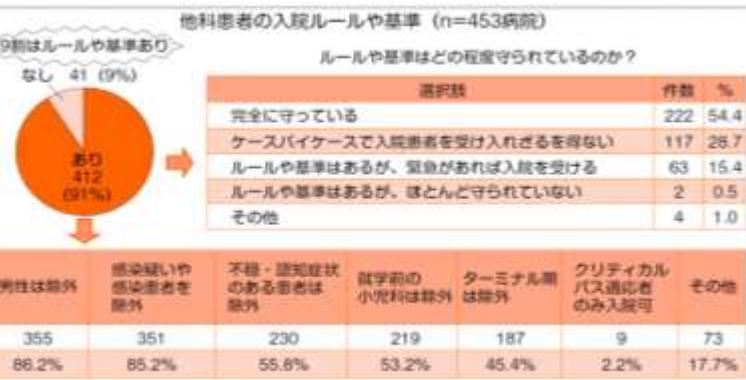
廊下を含むひと固まりの領域を産科だけのための区域とし、その区域を「ユニット」として使用。



日本看護協会 産科混合病棟ユニットマネジメント導入の手引きより引用

- 分娩を取り扱う医療機関は、より安心・安全な周産期医療確保を図る観点から、産科区域の特定などの対応を講ずることが望ましいとしてはどうか。

産科混合病棟においては、約9割では、他科患者の入院ルールや基準を定めているが、状況によりルールや基準が守られないことがある。



日本看護協会 産科混合病棟ユニットマネジメント導入の手引きより引用

ユニットマネジメントのメリット

- 担当する病室により、助産業務と看護業務を整理することで、助産師が妊産婦ケアに集中できる環境となる。
- 妊産婦の入院が少ない場合には、産科ユニット所属の助産師は他病室患者の看護ケアの支援が行える。
- 妊産婦が他科患者に気兼ねせず、安心して入院生活を送ることができる。

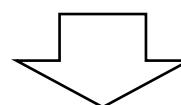
ハイリスク妊産婦連携指導料の見直し

- 精神療法が実施されていない患者について、メンタルスクリーニング検査等により多職種による診療や療養上の指導が必要と認められる場合があることを踏まえ、ハイリスク妊産婦連携指導料の対象患者を見直す。

ハイリスク妊産婦連携指導料1 1,000点
(産科又は産婦人科)

現行

[対象患者]
入院中の患者以外の患者であって、精神疾患を有する妊婦又は出産後2月以内であるもの。



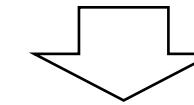
改定後

[対象患者]
入院中の患者以外の患者であって、精神疾患を有する又は精神疾患が疑われるものとして精神科若しくは心療内科を担当する医師への紹介が必要であると判断された妊婦又は出産後2月以内であるもの。

ハイリスク妊産婦連携指導料2 750点
(精神科又は心療内科)

現行

[対象患者]
入院中の患者以外の患者であって、精神疾患を有する妊婦又は出産後2月以内であるもの。



改定後

[対象患者]
入院中の患者以外の患者であって、精神疾患を有する又は精神疾患が疑われるものとして産科若しくは産婦人科を担当する医師から紹介された妊婦又は出産後6月以内であるもの。

合併症等により、リスクの高い妊婦に対する分娩管理の評価

ハイリスク分娩管理加算(1日につき) 3,200点

- 合併症を有する妊産婦に対する入院中のハイリスク分娩管理を評価。
- 分娩を伴う入院中にハイリスク分娩管理を行った場合に、1入院に限り8日を限度として加算する。

※ 1入院の期間中に、ハイリスク妊娠管理加算とハイリスク分娩管理加算を併せ、1入院当たり28日を限度として算定できる

※ ハイリスク分娩管理加算を算定する日と同一日に行うハイリスク妊娠管理に係る費用は、ハイリスク分娩管理加算に含まれ、別に算定できない。

【算定要件】

○対象患者(保険診療の対象となる合併症を有している次に掲げる疾患等の妊産婦。妊産婦には産褥婦を含む。)

ア 妊娠22週から32週未満の早産の患者	コ 心疾患の患者
イ 40歳以上の初産婦である患者	サ 糖尿病の患者
ウ 分娩前のBMIが35以上の初産婦である患者	シ 特発性血小板減少性紫斑病の患者
エ 妊娠高血圧症候群重症の患者	ス 白血病の患者
オ 常位胎盤早期剥離の患者	セ 血友病の患者
カ 前置胎盤(妊娠28週以降で出血等の症状を伴う場合に限る。)の患者	ソ 出血傾向のある状態の患者
キ 双胎間輸血症候群の患者	タ HIV陽性の患者
ク 多胎妊娠の患者	チ 当該妊娠中に帝王切開術以外の開腹手術(腹腔鏡による手術を含む。)を行った患者又は行う予定のある患者
ケ 子宮内胎児発育遅延の患者	ツ 精神疾患の患者(当該保険医療機関において精神療法を実施している者又は他の保険医療機関において精神療法を実施している者であって当該保険医療機関に対して診療情報が文書により提供されているものに限る。)

※ コ～ソについては、治療中の患者に限る。

※ 急性期一般入院料、地域一般入院料、特定機能病院入院基本料(一般病棟、精神病棟)、専門病院入院基本料、有床診療所入院基本料、特定一般病棟入院料を現に算定している患者について、ハイリスク分娩管理を行った場合に算定する。

【施設基準】

- (1) 当該保険医療機関内に、専ら産婦人科又は産科に従事する常勤の医師が、**3名以上配置**されていること。
- (2) 当該保険医療機関内に、常勤の助産師が**3名以上**配置されていること。
- (3) 1年間の分娩件数が120件以上であり、配置医師数及び配置助産師数を当該保険医療機関の見やすい場所に掲示していること。
- (4) 公益財団法人日本医療機能評価機構が定める産科医療補償制度標準補償約款と同一の産科医療補償約款に基づく補償を実施していること。

総合入院体制加算の概要

- 十分な人員配置及び設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制及び医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制等を評価。

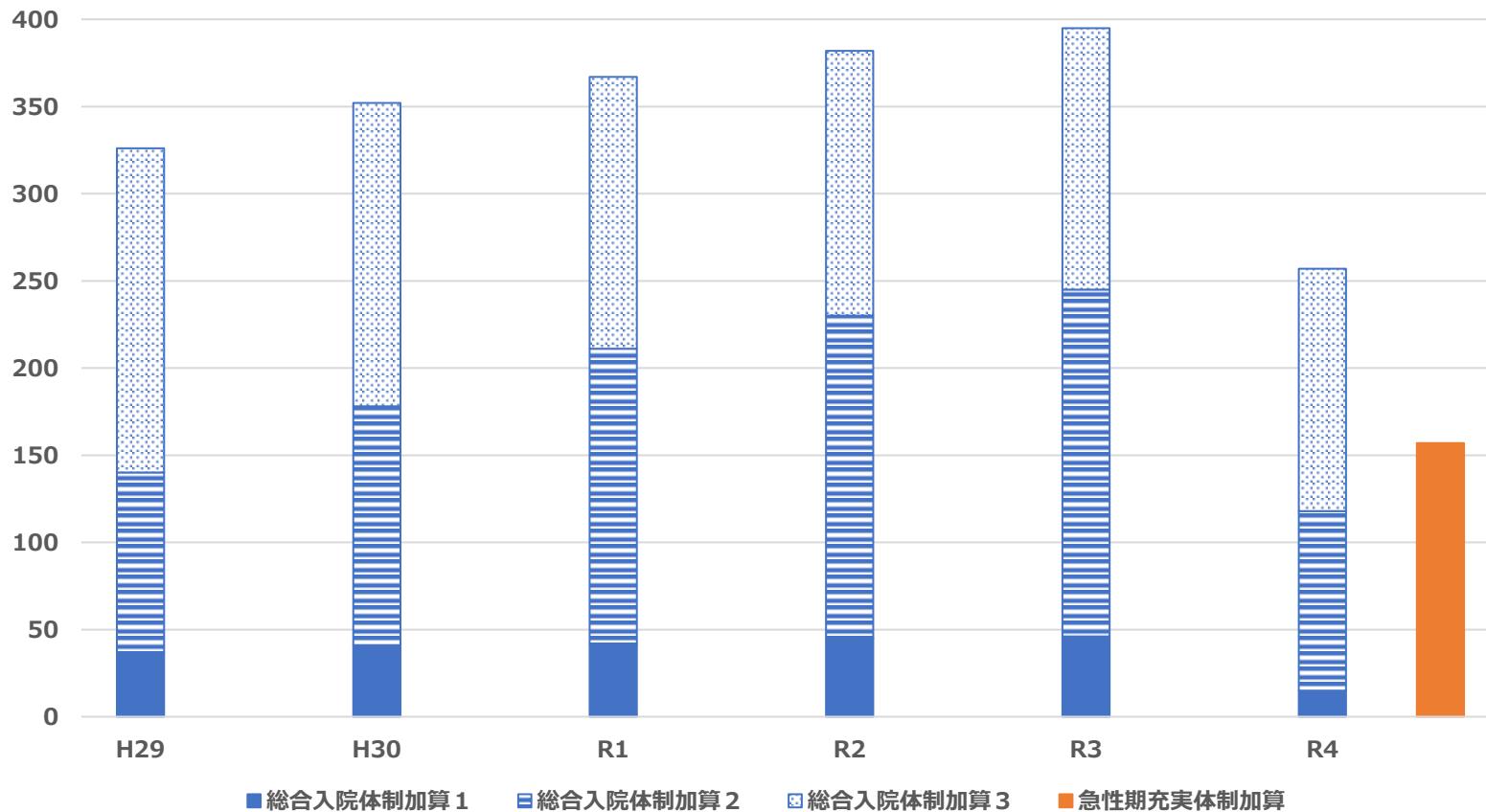
(1日につき／14日以内)	総合入院体制加算1 240点	総合入院体制加算2 180点	総合入院体制加算3 120点
共通の施設基準	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟入院基本料を算定する病棟を有する医療機関である。 内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科及び産科又は産婦人科を標榜(※)しそれらに係る入院医療を提供している。 (※地域医療構想調整会議で合意を得た場合に限り、小児科、産科又は産婦人科の標榜及び当該診療科に係る入院医療の提供を行っていなくても良い。) 外来を縮小する体制を有すること。(右記) 次のいずれにも該当する。 <ul style="list-style-type: none"> ア 療養病棟入院基本料又は地域包括ケア病棟入院料の届出を行っていない。 イ 同一建物内に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院又は介護療養型医療施設を設置していない。 ・ 病院の医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制を整備していること。 <p style="text-align: center;">(共通要件) 全身麻酔による手術件数が年800件以上</p>	<p style="text-align: center;">ア 次のいずれにも該当すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初診に係る選定療養の届出をしており、実費を徴収している 診療情報提供料Ⅰの注8の加算を算定する退院患者数、軽帰が治癒あり通院の必要のない患者数及び初回外来時に次回以降の通院の必要がないと判断された患者数が、直近1か月間の総退院患者数のうち、4割以上である。 <p style="text-align: center;">イ <u>紹介受診重点医療機関</u>である。</p>	
実績要件		<p>ア 人工心肺を用いた手術<u>及び人工心肺を使用しない冠動脈、大動脈バイパス移植術</u>：40件/年以上</p> <p>イ 惡性腫瘍手術：400件/年以上 ウ 腹腔鏡下手術：100件/年以上</p> <p>工 放射線治療（体外照射法）：4,000件/年以上 オ 化学療法：1,000件/年以上 力 分娩件数：100件/年以上</p>	
救急自動車等による搬送件数	上記の全てを満たす —	上記のうち少なくとも4つ以上を満たす 年間2,000件以上	上記のうち少なくとも2つ以上を満たす —
精神科要件	精神患者の入院受入体制 がある	<p style="text-align: center;">(共通要件) 精神科につき24時間対応できる体制があること</p> <p>以下のいずれも満たす</p> <p>イ 精神科リエゾンチーム加算又は認知症ケア加算1の届出</p> <p>ロ 精神疾患診療体制加算2又は救急搬送患者の入院3日以内の入院精神療法若しくは救命救急入院料の注2の加算の算定件数が年間20件以上</p>	<p>以下のいずれかを満たす</p> <p>イ 精神科リエゾンチーム加算又は認知症ケア加算1の届出</p> <p>ロ 精神疾患診療体制加算2又は救急搬送患者の入院3日以内の入院精神療法若しくは救命救急入院料の注2の加算の算定件数が年間20件以上</p>
日本医療機能評価機構等が行う 医療機能評価	○	○	—
救急医療体制	救命救急センター又は 高度救命救急センター の設置	2次救急医療機関又は 救命救急センター等の設置	2次救急医療機関又は 救命救急センター等の設置
一般病棟用重症度、医療・看護必 要度の該当患者割合 (A2点以上又はC1点以上)		<p>必要度Ⅰ：<u>3割3分以上</u></p> <p>必要度Ⅱ：<u>3割以上</u></p>	<p>必要度Ⅰ：<u>3割以上</u></p> <p>必要度Ⅱ：<u>2割7分以上</u></p>

下線太字は令和4年改定事項

総合入院体制加算及び急性期充実体制加算の届出状況

- 近年の総合入院体制加算及び急性期充実体制加算の届出医療機関数は以下のとおり。

各年における届出医療機関数



第8次医療計画における事業

- (1) 救急医療
- (2) 災害時における医療
- (3) へき地の医療
- (4) 周産期医療
- (5) 小児医療

※新興感染症発生・まん延時における医療については今後議論

小児医療の体制（第8次医療計画の見直しのポイント）

概要

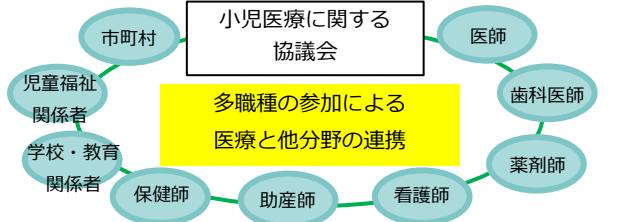
- ・ 小児患者が救急も含めて医療を確保できるよう医療圏を設定するとともに、小児科診療所による地域における役割・機能を推進する。
- ・ 保健・福祉分野の支援や周産期医療との連携を含む、小児に関わる幅広い課題の検討に専門人材等も参画し、小児医療に関する協議会を活用する。
- ・ 医療的ケア児を含め、地域の子どもの健やかな成育が推進できるよう、支援体制を確保する。
- ・ 保護者への支援のため、子ども医療電話相談事業（#8000）を推進する。
- ・ 新興感染症の発生・まん延時に備えた小児医療体制を整備する。

医療へのアクセス確保

- ・ 集約化・重点化によりアクセスが悪化する地域に居住する小児等に対する医療の確保のため、オンライン診療について検討する。その際には、対面診療を適切に組み合わせて行うことが求められることに留意する。

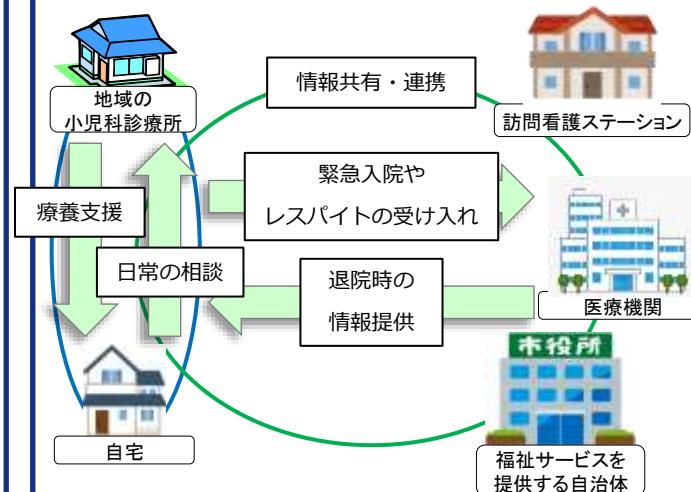
小児医療に関する協議会

- ・ 医師、看護師のほか、地域の実情に応じて、助産師、児童福祉関係者や学校・教育関係者、歯科医師、薬剤師、保健師等必要な職種の参画を検討する。
- ・ 小児科診療所は、地域における医療と保健、福祉、教育との橋渡しの役割・機能を担つており、小児医療に関する協議会の活用などを通じ、その役割・機能を推進する。



医療的ケア児への支援

- ・ 医療的ケア児が入院する医療機関は、児の入院後、現在の病状及び今後予想される状態等について家族等と話し合いを開始し、転院・退院後の療養生活を担う医療機関や訪問看護ステーション等との連絡や調整、福祉サービスの導入に係る支援を行う体制、緊急入院に対応出来る体制、レスパイトの受け入れ体制等を整備する。



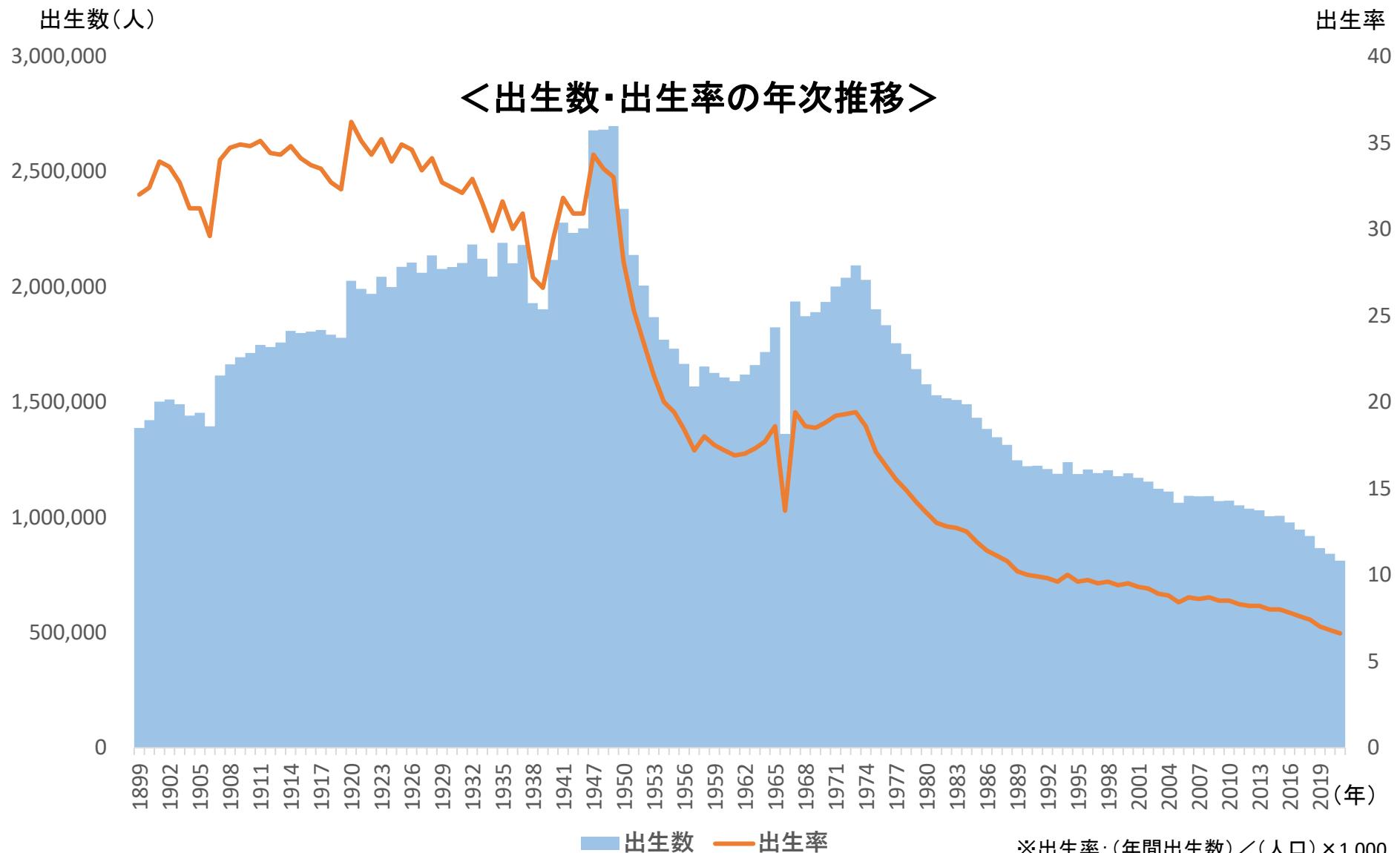
#8000の推進

- ・ #8000について、応答率等を確認し、回線数を増やす等の改善の必要性を適宜検討する。
- ・ #8000対応者研修事業を活用し、相談者への対応の質の向上を図る。



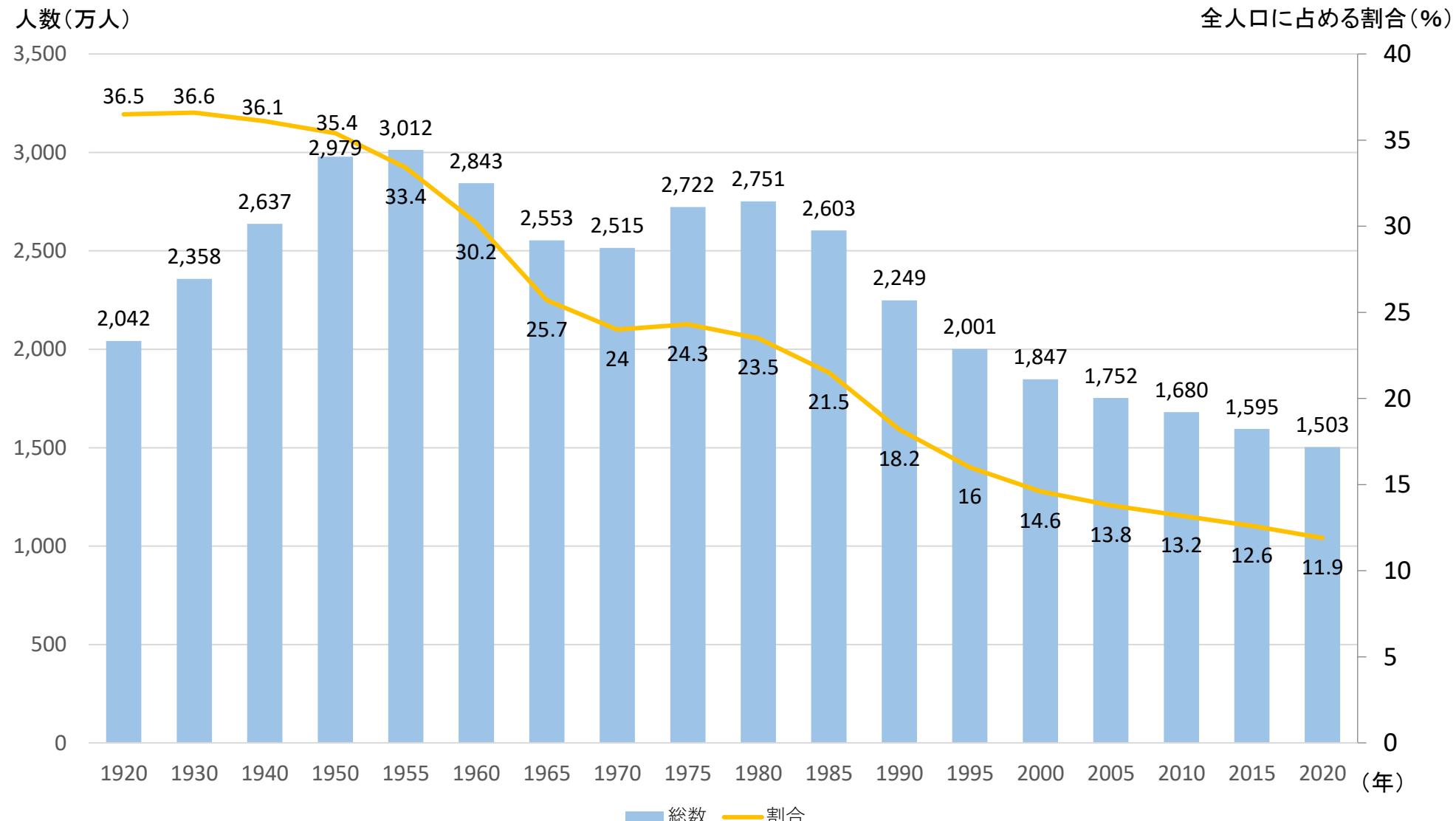
出生数・出生率の推移

- 日本における出生数・出生率は減少傾向にある。



15歳未満人口の推移

○ 15歳未満人口は近年減少傾向であり、全人口に占める割合も減少している。

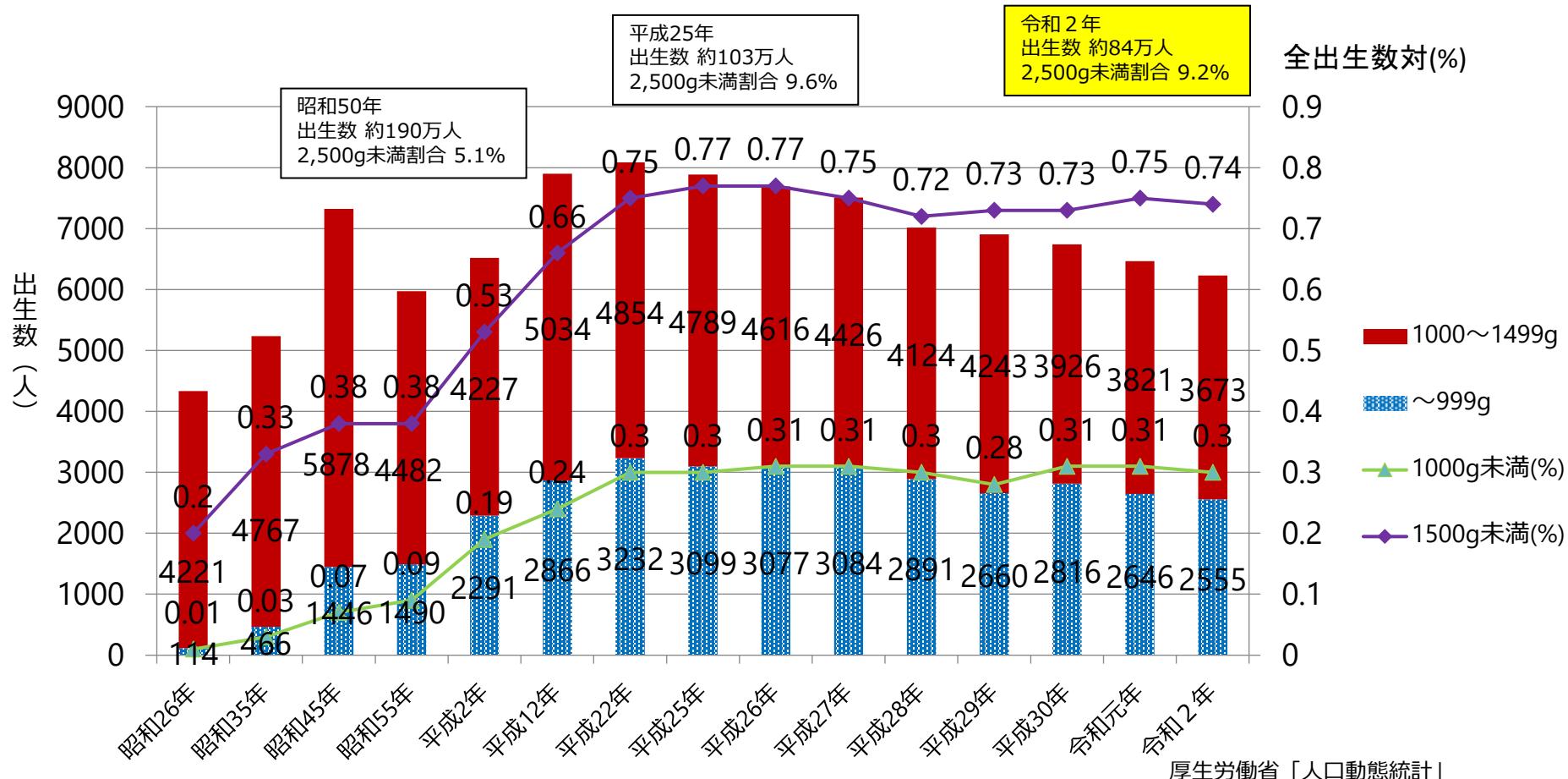


出生時体重別出生数及び出生割合の推移

第11回 第8次医療計画
等に關する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 昭和50年から平成25年までの約40年で、出生数は減少しているが極低出生体重児(1000g～1499g)、超低出生体重児(1000g未満)の割合が増加傾向。
- 極低出生体重児、超低出生体重児の割合は、近年は横ばい傾向。

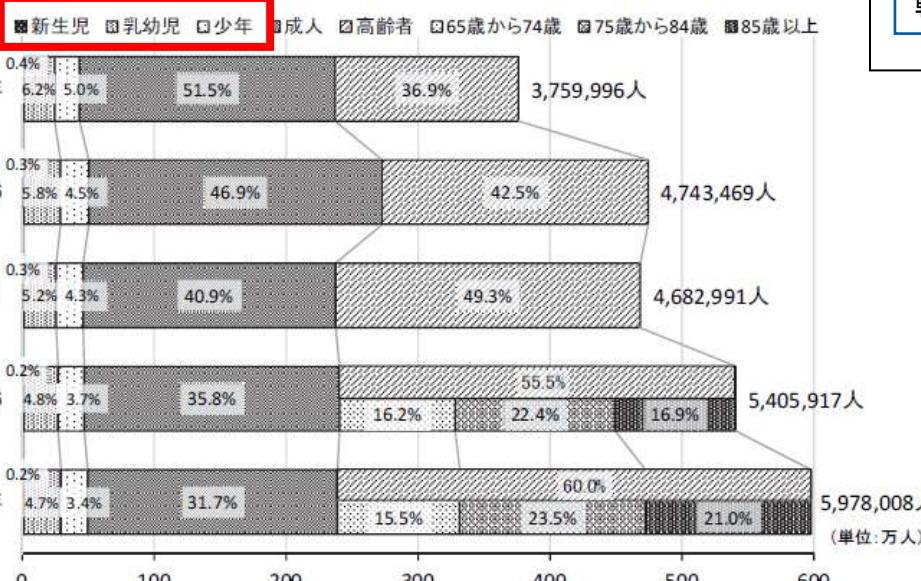


年齢区分別搬送人員構成比率の推移

第11回 第8次医療計画
等に関する検討会
令和4年7月27日 資料1

- 高齢者の搬送割合は年々増加傾向にあるが、小児は増加傾向はない。
- 新生児の搬送人員では、中等症の割合が高いが、乳幼児・少年の多くは軽症である。

第30図 年齢区分別の搬送人員と5年ごとの構成比の推移



(注) 端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。

※ 傷病程度は、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、初診時における医師の診断に基づき、分類する。

死亡: 初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院): 傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの

中等症(入院診療): 傷病程度が重症または軽症以外のもの

軽症(外来診療): 傷病程度が入院加療を必要としないもの

第38表 傷病程度別の年齢区分別の搬送人員(令和元年 単位:人)

年齢区分 程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死 亡	70 (0.5)	363 (0.1)	280 (0.1)	11,870 (0.6)	64,114 (1.8)	76,697 (1.3)
重 症 (長期入院)	1,726 (13.3)	4,259 (1.5)	3,896 (1.9)	104,567 (5.5)	371,716 (10.4)	486,164 (8.1)
中等症 (入院診療)	9,673 (74.8)	64,675 (23.0)	49,078 (24.2)	628,965 (33.2)	1,791,154 (49.9)	2,543,545 (42.5)
軽 症 (外来診療)	1,427 (11.0)	211,319 (75.3)	149,506 (73.7)	1,146,232 (60.6)	1,360,543 (37.9)	2,869,027 (48.0)
そ の 他	42 (0.3)	112 (0.0)	70 (0.0)	823 (0.0)	1,528 (0.0)	2,575 (0.0)
合 计	12,938 (100)	280,728 (100)	202,830 (100)	1,892,457 (100)	3,589,055 (100)	5,978,008 (100)

(注) 1 ()内は、構成比(単位: %)を示す。

2 端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。

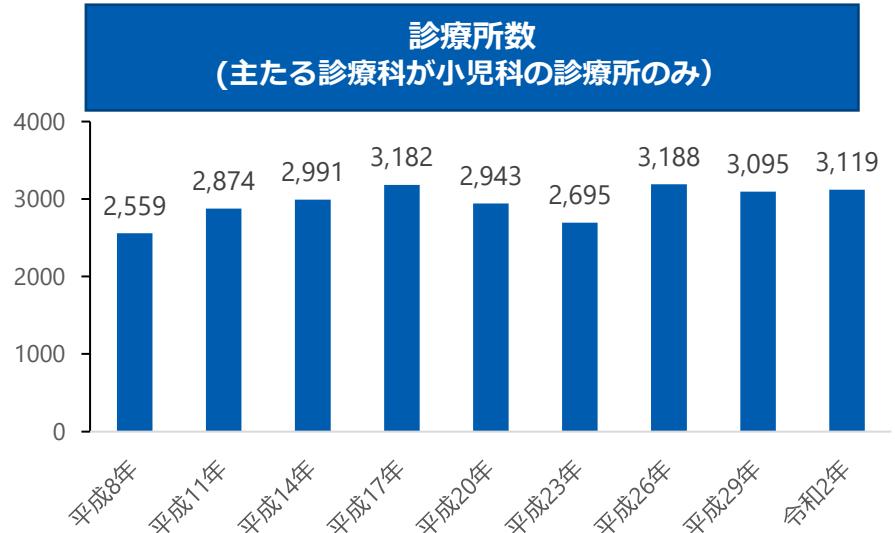
(令和2年版 救急・救助の現況)

小児科標榜医療機関数、小児科医数の推移

第11回 第8次 医療計画
等に開する検討会
令和4年7月27日

資料
1

- 小児科を標榜している病院数は減少している。
- 小児科を主として標榜する診療所の数は横ばいである。
- 病院、診療所に勤務する小児科医師数は増加傾向にある。特に病院小児科については集約化が進んできていると考えられる。

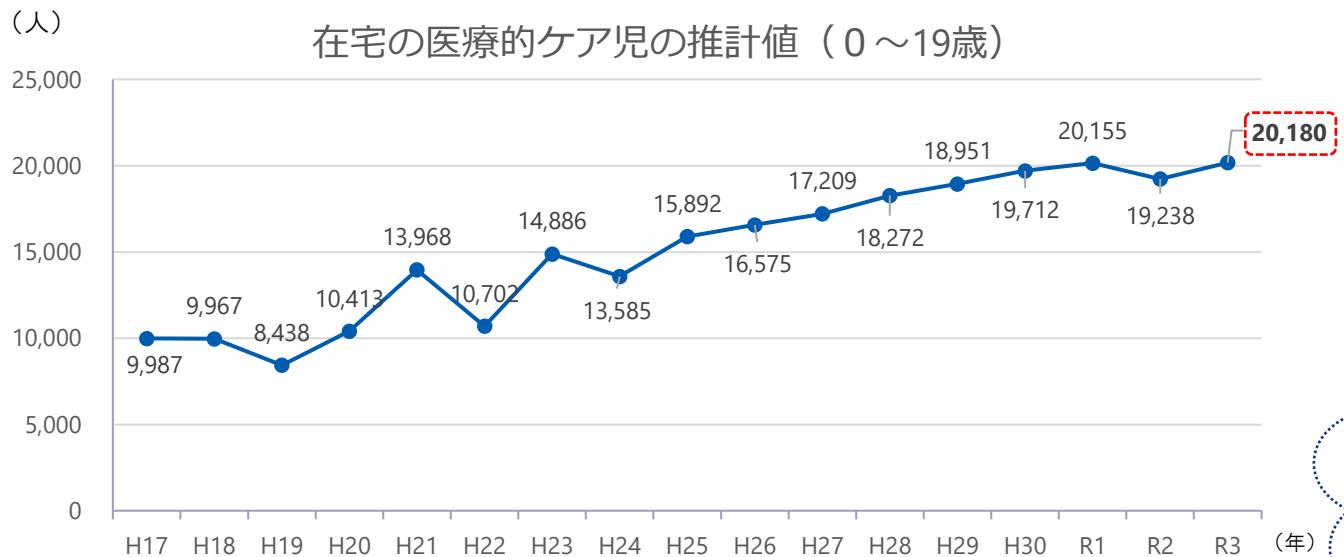


勤務施設	小児科が主たる診療科である医師数		
	H14	R2	増減
総数	14,481	17,997	+3,516
病院	8,429	11,088	+2,659
診療所	6,052	6,909	+857

出典) 医療施設数: 医療施設(静態・動態)調査
医師数: 医師・歯科医師・薬剤師統計

医療的ケア児について

- 医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU（新生児特定集中治療室）等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。
- 全国の医療的ケア児（在宅）は、約2万人（推計）である。



出典：厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業「医療的ケア児に対する実態調査と医療・福祉・保健・教育等の連携に関する研究（田村班）」
及び当該研究事業の協力のもと、社会医療診療行為別統計（各年6月審査分）により厚生労働省障害児・発達障害者支援室で作成）



他の医療行為とは、
気管切開の管理、
鼻咽頭工アウェイの管理、酸素療法、
ネブライザーの管理、経管栄養、
中心静脈カテーテルの管理、
皮下注射、血糖測定、
継続的な透析、導尿 等

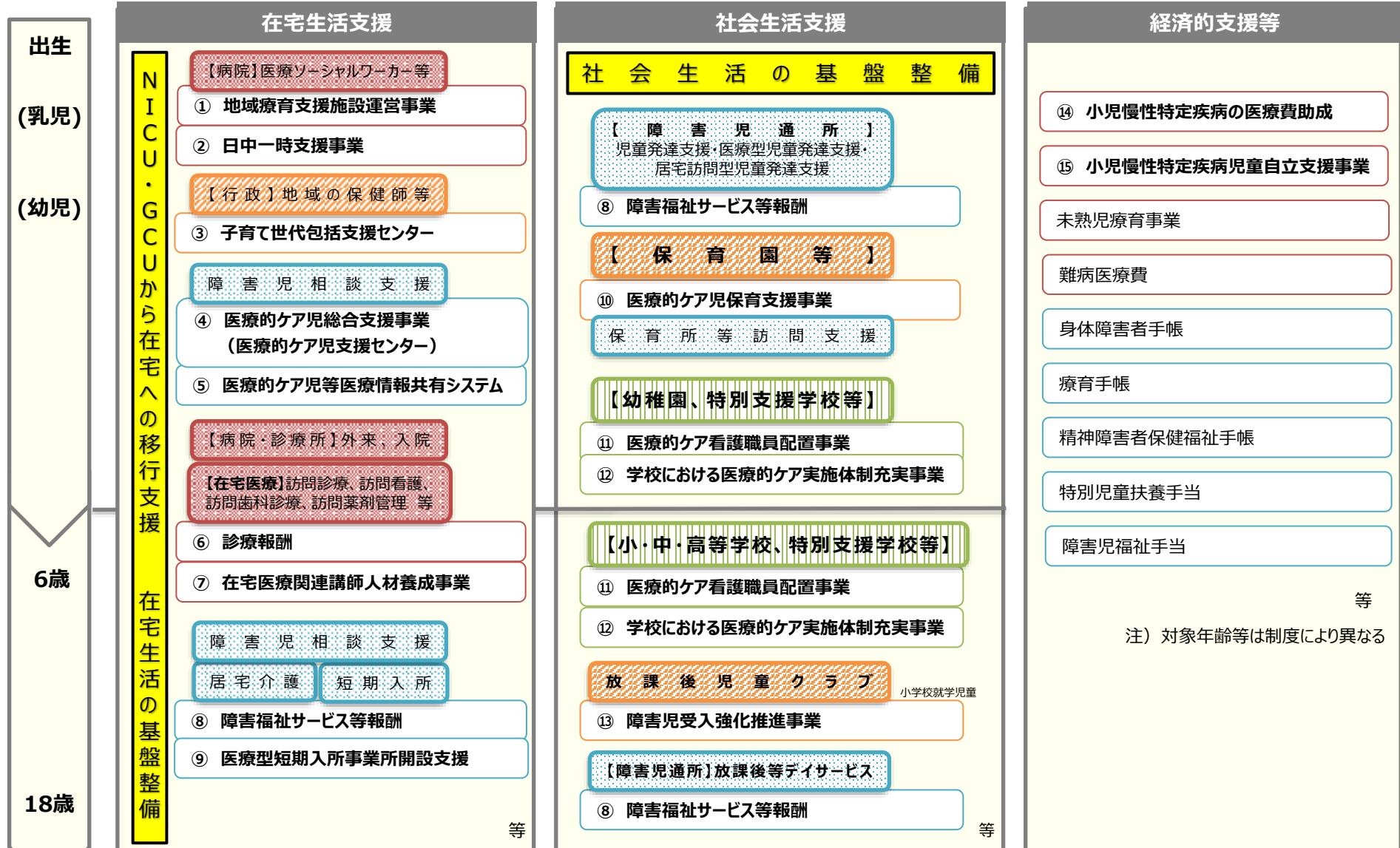
医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（令和3年6月18日公布・同年9月18日施行）

- 第二条 この法律において「医療的ケア」とは、人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為をいう。
- 2 この法律において「医療的ケア児」とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である児童（18歳未満の者及び18歳以上の者であつて高等学校等（学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部をいう。）に在籍するものをいう。）をいう。



在宅の医療的ケア児とその家族の支援に向けた主な取組

在宅における医療的ケア児とその家族を支えるため、NICU・GCUから在宅へ円滑に移行するための支援や地域における生活の基盤整備等の在宅生活支援、医療的ケア児を受け入れる障害児通所、保育園、学校等の基盤整備といった社会生活支援、経済的支援等の取組が実施されている。



医療



母子保健、保育、子育て

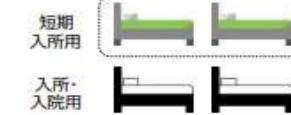


障害福祉



教育

障害福祉サービスにおける「医療型短期入所サービス」

		併設型	空床利用型
対象者		<p><重症心身障害児者等></p> <ul style="list-style-type: none"> 区分6に該当し、気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸管理を行っている者 区分5以上に該当し、進行性筋萎縮症に罹患している者又は重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している者 等 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児者等に該当しない場合であって、区分1以上に該当し、厚生労働大臣が定める基準に適合すると認められた遷延性意識障害者等又はこれに準ずる者（難病を含む） 区分1以上に該当し、筋萎縮性側索硬化症等の運動ニューロン疾患の分類に属する疾患有する者 	
サービス内容		病院等に短期間の入所をさせ、入浴、排せつ及び食事の介護その他の必要な支援	
実施主体		病院、有床診療所、介護老人保健施設、介護医療院、無床診療所（日中の受入のみ）※法人格のない病院、診療所も可	
ショートステイ用の居室の設定		<p>あり</p> <p>入所・入院用のベッドのうち、ショートステイ用のベッドを常時確保する</p> 	<p>なし</p> <p>空いている入所・入院用ベッドを、ショートステイで使用する</p> 
人員基準	従業者	本体施設の利用者及び短期入所の利用者数の合計数を当該施設の利用者数とみなした上で、 <u>本体施設として必要とされる数以上</u>	
	管理者	管理者は原則として、専ら医療型短期入所事業所の管理業務に従事する（支障がないときは、他の職務との兼務が可能）	
設備基準		本体施設の設備を利用することにより、短期入所の効果的な運営が図られ、本体施設と短期入所のサービス提供に支障がない場合は、 <u>本体施設の設備をショートステイで利用できる</u>	空床を利用する <u>本体施設で必要とされる設備を有すること</u> で <u>問題ない</u>
報酬単価	基本報酬	<p>・<u>医療型短期入所サービス費(Ⅰ)～(Ⅲ)(宿泊を伴う場合)</u> 1,747単位～3,010単位 区分6の気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸管理を行っている者、重症心身障害児・者等に対し支援を行う場合</p> <p>・<u>医療型特定短期入所サービス費(Ⅰ)～(Ⅲ)(宿泊を伴わない場合)、(Ⅳ)～(Ⅵ)(宿泊のみの場合)</u> 1,266単位～2,835単位 医療型短期入所サービス費と同様の対象者に対し支援を行う場合</p>	
	主な加算	<p><緊急短期入所受入加算> 270単位 緊急時の受け入れを行った場合</p> <p><特別重度支援加算> 120単位～610単位 医療ニーズの高い障害児・者に対する計画的な医療的管理や療養上必要な措置を行った場合</p>	

医療型短期入所サービス利用中の者に対し、診療報酬で算定可能な処置等

- 経皮的動脈血酸素飽和度測定、(2) 終夜経皮的動脈血酸素飽和度測定、(3) 中心静脈注射、(4) 植込み型カテーテルによる中心静脈注射、(5) 鼻マスク式補助換気法、(6) 体外式陰圧人工呼吸器治療、(7) 人工呼吸、(8) 膀胱洗浄、(9) 後部尿道洗浄、(10) 留置カテーテル設置、(11) 導尿、(12) 介達牽引、(13) 矯正固定、(14) 変形機械矯正術、(15) 消炎鎮痛等処置、(16) 腰部又は胸部固定帯固定、(17) 低出力リーザー照射、(18) 鼻腔栄養

小児入院医療管理料の概要①

	小児入院医療管理料 1	小児入院医療管理料 2	小児入院医療管理料 3	小児入院医療管理料 4 (病床単位)	小児入院医療管理料 5
点数	4,750点	4,224点	3,803点	3,171点	2,206点
算定対象	入院中の15歳未満の患者（児童福祉法（昭和22年法第164号）第6条の2第2項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である場合は、20歳未満の患者）を対象とする。				
平均在院日数	当該病棟で21日以内			当該病棟を含めた一般病棟で28日以内	
医師の配置（※）	小児科常勤医師20名以上	小児科常勤医師9名以上	小児科常勤医師5名以上	小児科常勤医師3名以上	小児科常勤医師1名以上
看護配置	看護師 7対1以上 (夜勤時間帯についても9対1以上)	看護師 7対1以上	看護師 7対1以上	看護職員 10対1以上 (7割以上が看護師)	看護職員 15対1以上 (4割以上が看護師)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 6歳未満の入院を伴う手術件数が年間200件以上。 特定集中治療室管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料又は新生児集中治療室管理料の届出を行っていること。 年間の小児緊急入院患者数が800件以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 入院を要する小児救急医療の提供を24時間365日行っていること。 		<ul style="list-style-type: none"> 当該病棟において、専ら小児を入院させる病床が10床以上であること。 	

※ 小児科の常勤の医師とは、小児科又は小児外科を専任する常勤の医師のことをいう。

※ 週3日以上常態として勤務しており、かつ、所定労働時間が週22時間以上の勤務を行っている小児科又は小児外科の非常勤医師を2人以上組み合わせることにより、当該保険医療機関における常勤医師の勤務時間帯と同じ時間帯にこれらの非常勤医師が配置されている場合には、これらの非常勤医師の実労働時間を常勤換算し常勤医師数に算入することができる。ただし、小児入院医療管理料1を算定する病棟において、常勤換算し常勤医師数に算入することができるのは、常勤の医師のうち10名までに限る。

小児入院医療管理料の概要②

小児の療養生活や成長発達等に着目した評価

➤ 注2 加算 100点（1日につき）

[施設基準]

- ① 当該病棟に小児入院患者を専ら対象とする保育士が1名以上常勤していること。
- ② 内法による測定で30平方メートルのプレイルームがあること。プレイルームについては、当該病棟内（小児入院医療管理料5においては、主として小児が入院する病棟）にあることが望ましい。
- ③ プレイルーム内には、入院中の小児の成長発達に合わせた遊具、玩具、書籍等があること。

➤ 注4 重症児受入体制加算 200点（1日につき）

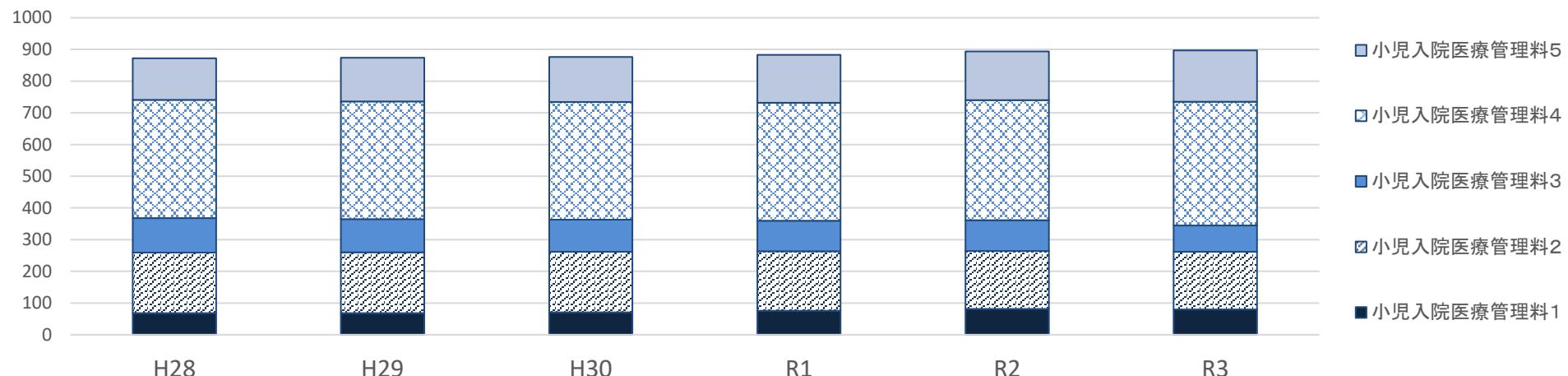
[施設基準]

- ① 小児入院医療管理料3, 4又は5を届け出ている保険医療機関であること。
- ② 当該病棟に小児入院患者を専ら対象とする保育士が1名以上常勤していること。
- ③ 内法による測定で30平方メートルのプレイルームがあること。プレイルームについては、当該病棟内（小児入院医療管理料5においては、主として小児が入院する病棟）にあることが望ましい。
- ④ プレイルーム内には、入院中の小児の成長発達に合わせた遊具、玩具、書籍等があること。
- ⑤ 当該病棟において、他の保険医療機関から転院してきた患者（転院前の保険医療機関において新生児特定集中治療室管理料又は総合周産期特定集中治療室管理料の「2」新生児集中治療室管理料を算定した患者に限る。）が直近1年間に5名以上であること。
- ⑥ 当該病棟において、15歳未満の超重症児又は準超重症児（医療型短期入所サービス費又は医療型特定短期入所サービス費を算定する短期入所の者を含む。）が直近1年間に10名以上入院していること。なお、入院期間が通算される入院については、合わせて1名として計上すること。

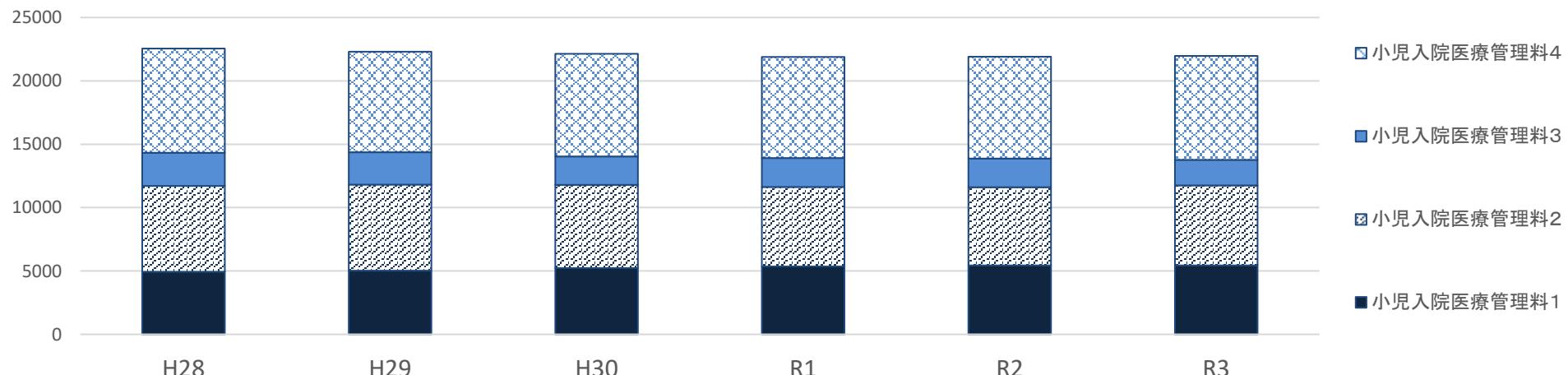
小児入院医療管理料の届出医療機関数・病床数の推移

- 小児入院医療管理料の届出医療機関数と病床数はともにほぼ横ばいで推移している。

■小児入院医療管理料の届出医療機関数の推移



■小児入院医療管理料の届出病床数の推移



時間外における小児患者の緊急入院の受入体制の評価の新設

- 一部の医療機関では時間外の小児の緊急入院を多く受け入れている実態を踏まえ、充実した時間外受入体制を整備している場合について、新たな評価を行う。

小児入院医療管理料 1

(新) 時間外受入体制強化加算 1 300点（入院初日）

小児入院医療管理料 2

(新) 時間外受入体制強化加算 2 180点（入院初日）

[対象患者]

小児入院医療管理料 1 又は 2 を現に算定している患者。

[算定要件]

当該病棟に入院している患者について、入院初日に算定する。

[施設基準]

(1) 時間外受入体制強化加算 1 の施設基準

- ① 小児入院医療管理料 1 を算定する病棟であること。
- ② 当該保険医療機関において、15歳未満の時間外における緊急入院患者数が、**年間で1,000件以上**であること。
- ③ 次に掲げる夜間における看護業務の負担軽減に資する業務管理等に関する項目のうち、**3項目以上**を満たしていること。

ア 11時間以上の勤務間隔の確保	オ 夜勤帯のニーズに対応した柔軟な勤務体制の工夫
イ 正循環の交代周期の確保	カ 夜間を含めた各部署の業務量を把握・調整するシステムの構築
ウ 夜勤の連続回数が2連続（2回）まで	キ 夜間院内保育所の設置
エ 夜勤後の曆日の休日確保	ク I C T、I o T等の活用による業務負担軽減

(2) 時間外受入体制強化加算 2 の施設基準

- ① 小児入院医療管理料 2 を算定する病棟であること。
- ② 当該保険医療機関において、15歳未満の時間外における緊急入院患者数が、**年間で600件以上**であること。
- ③ (1)の③を満たしていること。

医療的ケア児等に対する専門的な薬学管理の評価

- 小児慢性特定疾病の児童等又は医療的ケア児に対する専門的な薬学管理の必要性を踏まえ、医療機関と薬局の連携を更に推進する観点から、小児入院医療管理料を算定する病棟における退院時の当該患者等に対する服薬指導及び薬局に対する情報提供をした場合の評価を新設する。

小児入院医療管理料 1～5

(新) 退院時薬剤情報管理指導連携加算 150点 (退院時 1回)

[対象患者]

- ・ 小児入院医療管理料を算定する病棟に入院している
 - ・ **小児慢性特定疾病医療支援の対象である患者**
 - ・ **医療的ケア児である患者**

[算定要件]

- ・ 当該保険医療機関の**医師又は医師の指示に基づき薬剤師**が、小児慢性特定疾病の児童等又は医療的ケア児の**退院時**に、当該患者又はその家族等に対し退院後の薬剤の服用等に関する**必要な指導**を行い、当該患者又はその家族等の同意を得て、患者又はその家族等が選択する**保険薬局**に対して**当該患者の調剤に関して必要な情報等を文書により提供**した場合に、退院の日に1回に限り算定する。保険薬局への情報提供に当たっては、以下の事項を記載した情報提供文書を作成し、作成した文書の写しを診療録等に添付すること。
 - ア 患者の**状態に応じた調剤方法**
 - イ 服用状況に合わせた**剤形変更に関する情報**
 - ウ **服用上の工夫**
 - エ 入院前の**処方薬の変更又は中止に関する情報**や変更又は中止後の**患者の状態等に関する情報**
- ・ 情報文書の交付方法は、患者又はその家族等の選択する保険薬局に直接送付することに代えて、患者又はその家族等に交付し、患者又はその家族等が保険薬局に持参することでも差し支えない。
- ・ 患者1人につき複数の保険薬局に対し情報提供を行った場合においても、1回のみの算定とする。また、死亡退院の場合は算定できない。

医療的ケア児等に関する関係機関の連携

診療情報提供料（I）の見直し

- 診療情報提供料（I）注2における情報提供先に、児童相談所を追加する。
- 診療情報提供料（I）注7における情報提供先に、保育所や高等学校等を追加する。
- 小児慢性特定疾患やアレルギー疾患有する児童が安心して安全に学校等に通うことができるよう、診療情報提供料（I）注7における対象患者に、小児慢性特定疾病支援及びアレルギー疾患有する患者を追加する。

現行

【診療情報提供料（I）】

「注2」に掲げる「市町村又は介護保険法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者、同法第58条第1項に規定する指定介護予防支援事業者、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第51条の17第1項第1号に規定する指定特定相談支援事業者、児童福祉法第24条の26第1項第1号に規定する指定障害児相談支援事業者等」とは、当該患者の居住地を管轄する市町村（特別区を含む。以下同じ。）、保健所若しくは精神保健福祉センター、指定居宅介護支援事業者、指定介護予防支援事業者若しくは地域包括支援センター又は指定特定相談支援事業者若しくは指定障害児相談支援事業者をいう（以下「指定居宅介護支援事業者等」という。）。（以下、略）

【診療情報提供料（I）】

注7 保険医療機関が、児童福祉法第56条の6第2項に規定する障害児である患者について、診療に基づき当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者が通学する学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の学校医等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者が学校生活を送るに当たり必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。

【情報提供先】

- ・小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部、中学部

【対象患者】

- ・児童福祉法第56条の6第2項に規定する障害児である患者

改定後

【診療情報提供料（I）】

「注2」に掲げる「市町村又は介護保険法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者、同法第58条第1項に規定する指定介護予防支援事業者、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第51条の17第1項第1号に規定する指定特定相談支援事業者、児童福祉法第24条の26第1項第1号に規定する指定障害児相談支援事業者等」とは、当該患者の居住地を管轄する市町村（特別区を含む。以下同じ。）、保健所若しくは精神保健福祉センター、**児童相談所**、指定居宅介護支援事業者、指定介護予防支援事業者若しくは地域包括支援センター又は指定特定相談支援事業者若しくは指定障害児相談支援事業者をいう（以下「指定居宅介護支援事業者等」という。）。（以下、略）

【診療情報提供料（I）】

注7 保険医療機関が、**児童福祉法第6条の2第3項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である患者**、同法第56条の6第2項に規定する障害児である患者又は**アナフィラキシーの既往歴のある患者若しくは食物アレルギー患者**について、診療に基づき当該患者又はその家族等の同意を得て、当該患者が**通園又は通学する同法第39条第1項に規定する保育所**又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する**学校（大学を除く。）等**の学校医等に対して、診療状況を示す文書を添えて、当該患者が学校生活を送るに当たり必要な情報を提供した場合に、患者1人につき月1回に限り算定する。

【情報提供先の追加】

- ・**保育所、認定こども園等、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程、後期課程※、高等学校※、特別支援学校の幼稚部、小学部、中学部、高等部等※、高等専門学校※、専修学校※**（※18歳に達する日以後最初の3月31日以前の患者）

【対象患者の追加】

- ・児童福祉法第56条の6第2項に規定する障害児である患者
- ・**児童福祉法第6条の2第3項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である患者**
- ・**アナフィラキシーの既往歴のある患者若しくは食物アレルギー患者※**
- ・**※生活管理指導表のアナフィラキシーありに該当する患者若しくは食物アレルギーあり（除去根拠のうち、食物経口負荷試験陽性又は明らかな症状の既往及びIgE抗体等検査陽性に該当する患者に限る）に該当する患者**

小児特定集中治療室管理料（P I C U）の概要

- 平成24年度の診療報酬改定において、小児救急医療の充実を図る観点から、小児専門の特定集中治療室（PICU）に対する評価が新設された。

A301-4 小児特定集中治療室管理料（1日につき）

7日以内の期間 16,317点

8日以上の期間 14,211点

別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長などに届け出た保険医療機関において、15歳未満の小児（児童福祉法第6条の2第2項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である場合は、20歳未満の者）に対し、必要があつて小児特定集中治療室管理が行われた場合に、14日（急性血液浄化（腹膜透析を除く）を必要とする状態、心臓手術ハイリスク群、左心低形成症候群、急性呼吸窮迫症候群又は心筋炎・心筋症のいずれかに該当する小児にあっては21日、体外式心肺補助（ECMO）を必要とする状態の小児にあっては35日、手術を必要とする先天性心疾患有する新生児にあっては55日）を限度として算定する。

● 算定対象

15歳未満の小児（児童福祉法第6条の2第2項に規定する小児慢性特定疾病医療支援の対象である場合は、20歳未満の者）であつて、次に掲げる状態にあり、医師が特定集中治療室管理が必要であると認めたもの。

ア 意識障害又は昏睡
イ 急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪
ウ 急性心不全（心筋梗塞を含む）
エ 急性薬物中毒
オ ショック

カ 重篤な代謝障害（肝不全、腎不全、重症糖尿病等）
キ 広範囲熱傷
ク 大手術後
ケ 救急蘇生後
コ その他外傷、破傷風等で重篤な状態

〈施設基準〉

- 小児入院医療管理料1の届出を行っている医療機関であること。
- 専任の医師が常時、小児特定集中治療室内に勤務していること。当該専任の医師に、小児の特定集中治療の経験を5年以上有する医師を2名以上含むこと。
- 1床あたり15平方メートル以上であること。
- 当該治療室内に、手術室と同程度の空気清浄度を有する個室及び陰圧個室を設置することが望ましい
- 当該管理を行うために必要な次に掲げる装置及び危惧を特定集中治療室内に備えていること。ただし、ウからカまでについては、当該保険医療機関内に備え、必要な際に迅速に使用でき、緊急の事態に十分対応出来る場合においてはこの限りではない。（ア 救急蘇生装置（気管内挿管セット、人工呼吸装置等）、イ 除細動器、ウ ペースメーカー、エ 心電図、オ ポータブルX線撮影装置、カ 呼吸循環監視装置、キ 体外補助循環装置 ク 血液浄化療法に必要）

○ 次のいずれかの基準を満たしていること

- ア 当該治療室において、他の保険医療機関から転院してきた急性期治療中の患者（転院時に他の保険医療機関でA300救命救急入院料、A301特定集中治療室管理料を算定するものに限る）が直近1年間に20名以上あること。
- イ 当該治療室において、他の保険医療機関から転院してきた患者（転院時に他の保険医療機関又は当該保険医療機関でC004救急搬送診療料を算定したものに限る）が直近1年間に50名以上（そのうち、当該治療室に入室後24時間以内に人工呼吸（5時間以上（手術時の麻酔や検査のために実施した時間を除く）のものに限る）を実施した患者（当該治療室に入室後又は当該他の保険医療機関で開始されたものに限られ、日常的に人工呼吸を実施している患者は含まない）が30名以上）であること。
- ウ 当該治療室において、人工心肺を用いた先天性心疾患手術の周術期に必要な管理を実施した患者が直近1年間に80名以上であること。

新生児特定集中治療室（N I C U）の概要

- 新生児特定集中治療室については、A302とA303において診療報酬上の評価を行っている。

	A303 総合周産期特定集中治療室管理料2 10,539 点(1日につき)	A302 新生児特定集中治療室管理料1 10,539点(1日につき)	A302 新生児特定集中治療室管理料2 8,434 点(1日につき)
算定対象	次に掲げる状態にあって、医師が新生児特定集中治療室管理が必要であると認めた者 ア 高度の先天奇形、イ 低体温、ウ 重症黄疸、エ 未熟児、オ 意識障害又は昏睡、カ 急性呼吸不全又は慢性呼吸不全の急性増悪、キ 急性心不全(心筋梗塞を含む)、ク 急性薬物中毒、ケ ショック、コ 重篤な代謝障害、サ 大手術後、シ 救急蘇生後、ス その他外傷、破傷風等で重篤な状態		
算定上限 日数	21日 ただし、以下の場合を除く 出生時体重が1500g以上で厚生労働大臣が定める疾患を主病として入院している新生児:(35日) 出生時体重1000～1499g:(60日) 出生時体重1000g未満:(90日) 出生時体重が500g以上750g未満であって慢性肺疾患の新生児:(105日) 出生時体重500g未満であって慢性肺疾患の新生児:(110日)		
医師の配置	<input type="radio"/> 専任の医師が常時、治療室内に勤務 <input type="radio"/> 専任の医師が常時、医療機関内に勤務 <input type="radio"/> 緊急時は別の医師が速やかに診療に参加		
看護師の配置	<input type="radio"/> 助産師又は看護師の数は常時3対1以上		
構造設備等	<input type="radio"/> 1床あたり7平方メートル以上 <input type="radio"/> 当該治療室内に、手術室と同程度の空気清浄度を有する個室及び陰圧個室を設置することが望ましい <input type="radio"/> 救急蘇生装置等の装置及び器具を常備、 <input type="radio"/> 自家発電装置を有し、電解質定量検査及び血液ガス分析を含む必要な検査が常時可能		
その他	<input type="radio"/> 出生体重1,000g未満の新生児の新規入院患者数:直近1年間で4件以上 <input type="radio"/> 開胸手術、開頭手術、開腹手術、胸腔鏡下手術又は腹腔鏡下手術:年間6件以上実施		<input type="radio"/> 出生体重2,500g未満の新生児の新規入院患者数:直近1年間で30件以上
	<input type="radio"/> 総合周産期母子医療センター又は地域周産期母子医療センターであること <input type="radio"/> 当該治療室に病床が6床以上設置されていること	—	

(参考)

DPC/PDPSにおける5疾病 6 事業等に係る評価等

機能評価係数Ⅱの評価内容①

指標	評価内容
保険診療指数	<p>【適切なDPCデータの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「部位不明・詳細不明コード」の使用割合が10%以上の場合、0.05点減算する。 DPCデータの様式間の記載矛盾のあるデータの件数が全体の1%以上の場合、0.05点減算する。 様式1の親様式・子様式間（データ属性等（郵便番号、性別、生年月日等）、様式1とEFファイル間（入院日数入院料の算定回数の矛盾）、様式4とEFファイル（医科保険情報と先進医療等情報の矛盾）、DファイルとEFファイル（記入されている入院料等の矛盾） 未コード化傷病名である傷病名の割合が2%以上の場合、0.05点減算する。（様式1で評価） <p>【病院情報の公表】 自院のホームページで公表した場合に0.05点加算する。</p> <p>（【保険診療の質的改善に向けた取組み】：令和6年度からの評価を検討）</p>
地域医療指数	<p>体制評価指数：5疾病5事業等における急性期入院医療を評価</p> <p>定量評価指数：〔当該医療機関の所属地域における担当患者数〕／〔当該医療機関の所属地域における発生患者数〕</p> <p>1) 小児（15歳未満）と2) それ以外（15歳以上）についてそれぞれ同配分で評価。</p> <p>DPC標準病院群は2次医療圏、大学病院本院群及びDPC特定病院は3次医療圏のDPC対象病院に入院した患者を対象とする。</p>
効率性指数	<p>〔全DPC/PDPS対象病院の平均在院日数〕／〔当該医療機関の患者構成が、全DPC/PDPS対象病院と同じと仮定した場合の平均在院日数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p>

機能評価係数Ⅱの評価内容②

指数	評価内容
複雑性指数	<p>〔当該医療機関の包括範囲出来高点数（一入院当たり）を、診断群分類ごとに全病院の平均包括範囲出来高点数に置換えた点数〕／〔全病院の平均一入院あたり包括点数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p>
カバー率指数	<p>〔当該医療機関で一定症例数以上算定している診断群分類数〕／〔全診断群分類数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ すべて（包括評価の対象・対象外の両方を含む）の支払い分類を計算対象とする。</p>
救急医療指数	<p>1症例あたり〔以下の患者について、入院後二日間までの包括範囲出来高点数と診断群分類点数表の点数との差額の総和〕</p> <p>※救急医療管理加算2に相当する患者の指數値は1/2</p> <p>【A205救急医療管理加算の施設基準のある施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療入院かつ以下のいずれかを入院初日から算定している患者 ・A205救急医療管理加算、A301-3脳卒中ケアユニット入院医療管理料、A300救命救急入院料、A301-4小児特定集中治療室管理料、A301特定集中治療室管理料、A302新生児特定集中治療室管理料、A301-2ハイケアユニット入院医療管理料、A303総合周産期特定集中治療室管理料 <p>【「A205救急医療管理加算」の施設基準のない施設】：救急医療入院の患者</p>

機能評価係数Ⅱの評価内容③（地域医療係数）

評価項目	DPC標準病院群	大学病院本院群	DPC特定病院群
がん	<p>退院患者の〔「B005-6がん治療連携計画策定料」を算定した患者数〕／〔医療資源病名が悪性腫瘍に関連する病名である患者数〕 (0.5P)</p> <p>「がん診療連携拠点病院の指定」、「小児がん拠点病院の指定」、「地域がん診療病院」、「特定領域がん診療連携拠点病院」（いずれかで0.5P）</p>	<p>「都道府県がん診療連携拠点の指定」又は「小児がん拠点病院」の指定 (0.5P)</p> <p>「地域がん診療連携拠点病院の指定」 (0.25P)</p>	
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> ・t-PA療法の実施(0.25P) ・A205-2超急性期脳卒中加算の算定実績又は血管内治療の実施実績を評価(0.5P) ・A205-2超急性期脳卒中加算の算定実績及び血管内治療の実施実績を評価 (1P) <p>(血管内治療の実施：入院2日目までにK178-31,K178-32,K178-4のいずれかが算定されている症例の診療実績)</p> <p>※ いずれか最大値で評価。</p>		
心血管疾患	<p>医療資源を最も投入した傷病名が「急性心筋梗塞」であり、予定外の入院であって手術に係る時間外対応加算（特例を含む）・休日加算・深夜加算が算定され、入院2日目までに経皮的冠動脈形成術等（K546、K547、K548、K549、K550、K550-2、K551、K552、K552-2）のいずれかが算定されている症例の診療実績により評価(0.5P)</p> <p>入院中に大動脈解離に対する手術（K5601,K5602,K5603,K5604,K5605,K560-21,K560-22,K560-23,K56121のいずれかが算定されている症例）の診療実績（25%tile値以上の医療機関を0.5P、その他は0P）</p>		
精神疾患	A230-3精神科身体合併症管理加算の算定実績(0.5P)、A311-3精神科救急・合併症入院料の1件以上の算定実績(1P)		
へき地	<ul style="list-style-type: none"> ・「へき地医療拠点病院の指定<u>かつ巡回診療、医師派遣、代診医派遣を合算で年12回以上実施していること</u>」又は社会医療法人認可におけるへき地医療の要件を満たしていることを評価（いずれかで1P） ・「<u>へき地医療拠点病院の指定（巡回診療、医師派遣、代診医派遣を合算で年12回以上実施している場合を除く）</u>」を評価 (0.5P) 		

機能評価係数Ⅱの評価内容④（地域医療係数）

評価項目	DPC標準病院群	大学病院本院群	DPC特定病院群
災害	・災害拠点病院の指定（0.5P）、DMATの指定（0.25P）、EMISへの参加（0.25P）、 <u>BCPの策定（災害拠点病院に指定されている場合を除く）（0.25P）</u>		
周産期	「総合周産期母子医療センターの指定」、「地域周産期母子医療センターの指定」を評価（いずれかで1P）	・「総合周産期母子医療センターの指定」を重点的に評価（1P） ・「地域周産期母子医療センターの指定」は0.5P	
救急	二次救急医療機関であって病院群輪番制への参加施設、共同利用型の施設又は救命救急センターを評価(0.1P)	救命救急センター（0.5P） 二次救急医療機関であって病院群輪番制への参加施設、共同利用型の施設（0.1P）	
	上記体制を前提とし、救急車で来院し、入院となった患者数（最大0.9P）	上記体制を前提とし、救急車で来院し、入院となった患者数（救急医療入院に限る）（最大0.5P）	
感染症	・新型インフルエンザ患者入院医療機関に該当（0.25P） <u>・新型コロナウイルス感染症に係る病床確保を行っていること（0.25P）</u> <u>※ 上記のいずれも満たした場合（0.75P）</u> ・GMISへの参加（日次調査への年間の参加割合を線形で評価）（最大0.25P）		
その他	右記のいずれか1項目を満たした場合（0.1P）	治験等の実施 ・過去3カ年において、主導的に実施した医師主導治験が8件以上、又は主導的に実施した医師主導治験が4件以上かつ主導的に実施した臨床研究実績が40件以上（1P） ・20例以上の治験（※）の実施、10例以上の先進医療の実施または10例以上の患者申出療養の実施（0.5P）（※）協力施設としての治験の実施を含む。	

機能評価係数Ⅱの見直し（地域医療係数）

- 各領域の整合性の観点から、領域ごとに複数ある項目（がん、脳卒中、災害）は1項目に整理する。
- 指数値の上限値はDPC標準病院群は6点、大学病院本院群・DPC特定病院群は8点とする。
- 医療計画の見直しの方向性に沿って、各領域で診療実績に応じた評価となるよう見直す。

領域	概要
がん	がんの地域連携実績及びがん診療連携拠点病院等の体制を評価
脳卒中	脳卒中の急性期の診療実績を評価
心血管疾患	緊急時の心筋梗塞のPCIや外科治療の実績及び急性大動脈解離に対する手術実績を評価
精神疾患	精神科入院医療の診療実績を評価
災害	災害時における医療への体制を評価
周産期	周産期医療への体制を評価
へき地	へき地の医療への体制を評価
救急	救急車等受け入れ実績及び救急医療の体制を評価
その他	その他重要な分野への貢献を評価

【地域医療係数・体制評価指数の指標設定】

- 実績を有する（0以外）のデータの25%tile値を上限として、それ以下のものは上限値に対する割合を指数化する。
- 脳卒中、急性大動脈解離の実績については、実績を有するデータの25%tile値を満たす場合に実績あり、満たさない場合は指数値はゼロとなる。

平成21年8月27日
第33回医療保険部会資料

診療報酬と補助金の関係について(抜粋)

(1) 診療報酬について

○ 診療報酬は、以下のような特徴を有している。

- ①「個々の患者に対する診療行為に着目して支払われる。」
- ②全体としては必要な費用が賄えるように設定しているものの、個別の診療報酬点数は、「必ずしも厳密な原価計算を行い設定しているものではなく」、費用を負担する側と診療を担当する側との協議を踏まえつつ、その時々の医療課題に適切に対応していく観点から設定している。
- ③「保険料や窓口負担に影響を与える」ものであり、被保険者間の公平を図る観点から、「全国一律の点数設定が原則」である。

○ また、診療報酬は、「医療機関に対して支払われる」ものであり、その「使途は各医療機関の裁量」に任せられている。

(2) 補助金について

○一方、補助金とは「特定の事業の促進を期するため、国又は地方公共団体が公共団体・私的団体・個人に交付する金銭給付」であり、個々の患者に対する診療行為に着目して支払われるものではなく、政策目的に照らして、地域において必要な医療提供体制の構築を促す観点から、奨励的な予算補助事業(施設・設備整備費、運営費、人材確保等)を実施している。

ただし、補助金には、基本的に、国の負担分のほか、都道府県の負担分や事業主(病院等)の負担分が存在する。

○ なお、補助金については、診療報酬とは異なり、対象経費を特定して支給するものである。

課題と論点

(救急医療について)

- 第8次医療計画においては、増加する高齢者の救急や、特に配慮を要する救急患者を受け入れるために、地域における救急医療機関の役割を明確化し、初期救急医療機関は、主に独歩で来院する自覚症状が軽い患者への夜間及び休日における外来診療を担い、第二次救急医療機関は高齢者救急をはじめ地域で発生する救急患者の初期診療と入院治療を主に担い、第三次救急医療機関は重篤患者に対する高度な専門的医療を総合的に実施することを基本としつつ、他の医療機関では治療の継続が困難な救急患者の診療を担うこととなった。
- 救急搬送のうち高齢者が占める割合が62.3%に達しており、軽症、中等症の患者の患者、疾病分類別で「症状・兆候診断名不明確」や「その他」に分類される患者が特に増加している。(小児や成人は軽症、中等症の救急搬送件数は減少傾向。)
- 第三次救急医療機関及び第二次救急医療機関においては、救急搬送の受入件数について医療機関間の偏りが大きい。
- 特に軽症あるいは中等症の単身や要介護高齢者が第三次救急医療機関に入院し、退院調整が滞るなどの「出口問題」の存在及び入院した高齢者のADL低下の懸念などが指摘されている。
- これまで診療報酬では、救急医療管理加算や地域医療体制確保加算等により救急搬送の受入を評価し、また令和4年度診療報酬改定では、地域包括ケア病棟を有する医療機関において救急医療の体制を要件化する等の対応を行っている。

(災害医療について)

- DMATは、大地震等の災害時に地域において必要な医療提供体制を支援し傷病者の生命を守ることを目的とした、専門的な研修・訓練を受けた医療チームであり、現在約2,000チームが登録されている。新型コロナウイルス対応を踏まえて、令和4年2月には、活動要領を改正し、新興感染症等のまん延時における対応も活動内容に追加された。
- 災害時における医療提供体制の中心的な役割を担う災害拠点病院として、64の基幹災害拠点病院及び701の地域災害拠点病院が指定されている。(令和4年4月時点)
- 災害拠点病院について、診療報酬においては、補助金との関係も踏まえつつ、DPCの機能評価係数Ⅱで評価されている。

課題と論点

(へき地医療について)

- 医療計画においては、へき地における医療人材の効率的な活用や有事対応の観点から、国は自治体におけるオンライン診療を含む遠隔医療の活用について支援を行うとともに、へき地医療拠点病院の主要3事業(へき地への巡回診療、医師派遣、代診医派遣)の実績向上に向けて、巡回診療・代診医派遣について地域の実情に応じてオンライン診療の活用が可能であることを示す等へき地の医療の確保に向けた取り組みを進めることとされている。また、医師少数区域などにおける医師確保の取組みについても医療計画の項目として含まれている。
- 令和4年度の診療報酬改定では、これまでのオンライン診療料が、初診及び再診における情報通信機器を用いた診療として位置づけられた。へき地のオンライン診療は、D to P with Nの様式が有効とされており、D to P with Nの“N”として訪問看護が提供されたときは、医師のオンライン診療と訪問看護の費用をそれぞれ算定可能となっている。

(周産期医療について)

- 医療計画においては、基幹施設を中心とした医療機関・機能の集約化・重点化を進めるとともに、NICUや専門医などの機能や人材の集約化・重点化などを通じて、総合周産期母子医療センターを中心として、母体又は児のリスクが高い妊娠に対応する体制を構築することとされている。また、集約化・重点化により分娩施設までのアクセスが悪化した地域に居住する妊産婦に対して、地域の実情に応じて対策を検討することとされている。
- 社会的ハイリスク妊産婦やメンタルヘルス介入を必要とする妊産婦を含めたハイリスク妊産婦の増加への対応の必要性が指摘されている。診療報酬ではこれまで、ハイリスク妊娠管理加算、ハイリスク分娩管理加算やハイリスク妊産婦連携指導料に加え、複数の診療科等による総合的な入院医療体制について総合入院体制加算により評価を行っている。

(小児医療について)

- 少子化とともに小児医療の集約化が進む中、医療計画においては、小児診療所による地域の医療・保健・福祉等との橋渡しの機能を推進するとともに、集約化された地域においてオンライン診療も活用し医療へのアクセスを確保することとされている。また、医療的ケア児が増加する中、対応する医療機関は訪問看護ステーション等との連携や緊急入院・レスパイト受入等の体制を整備することとされている。
- 診療報酬ではこれまで、小児入院医療管理料等により小児救急医療の体制を評価するとともに、診療情報提供料等による医療的ケア児への対応における関係機関との連携に対する評価等を行っている。



課題と論点

【論点】

(救急医療について)

- 増加する高齢者の救急搬送等も踏まえ、適切な急性期入院医療の提供及び機能分化の観点から、転院搬送を含め、救急医療に係る評価の在り方についてどのように考えるか。

(災害医療について)

- 地域において災害時に必要な医療提供に一定程度役割を果たす医療機関に係る評価の在り方について、どのように考えるか。

(べき地医療について)

- 今後も地方において人口減少が見込まれる中、べき地における遠隔医療及びオンライン診療の推進について、どのように考えるか。

(周産期医療について)

- 周産期医療について医療機関・機能の集約化・重点化を進める観点や、ハイリスク妊産婦及び精神医療が必要な妊産婦への対応等の観点から、周産期医療や精神科を含めた総合的な診療体制に係る評価の在り方についてどのように考えるか。

(小児医療について)

- 少子化が進行する中、医療的ケア児を含む小児患者に対して救急やレスパイトも含めた必要な医療を確保できるようにする観点から、小児医療に係る評価の在り方についてどのように考えるか。